MAZDA DEMIO

“Zoom-Zoom”・・・

それは英語で「ブー、ブー」という車の走行音をあらわす、子供言葉です。
誰でも、子供の頃は、動くことに対するあこがれがありました。
車のエンジン音が響くと、ドキドキする感じ。
カラダがビュンビュン流れる時の、快感。
めまいがするようなうれしさ。

きっと、みんな知っていたはずです。
でも、大人になると、ちょっと忘れていたりする。
それを、マツダは忘れません。
それが、私たちの“Zoom-Zoom”の意味。

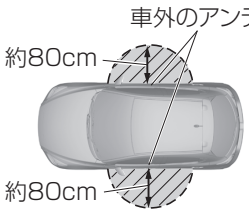
小さい時に知っていた、
ウズウズするような走る喜びを忘れていない皆様のために、
素晴らしいクルマを作り続けます、という
私たちの新しいブランド・パーソナリティのコア・エッセンスです。

アドバンストキー

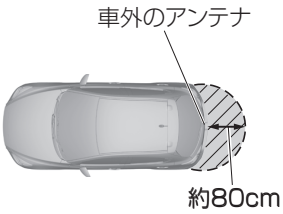
●アドバンストキーの作動範囲（ドア、リヤゲートの施錠/解錠）

の範囲で操作ができます。

ドア、リヤゲートの施錠/解錠



リヤゲートの解錠



●ドア、リヤゲートの施錠/解錠

アドバンストキーを携帯し、リクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リヤゲートが施錠/解錠します。

	施錠時	解錠時
非常点滅灯/チャイム	1回作動	2回作動

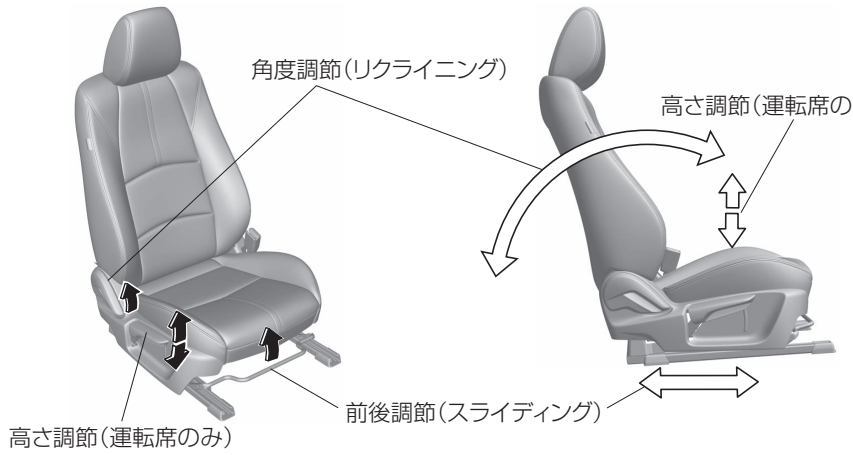
●リヤゲートを開けるとき

アドバンストキーを携帯し、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを持ち上げます。

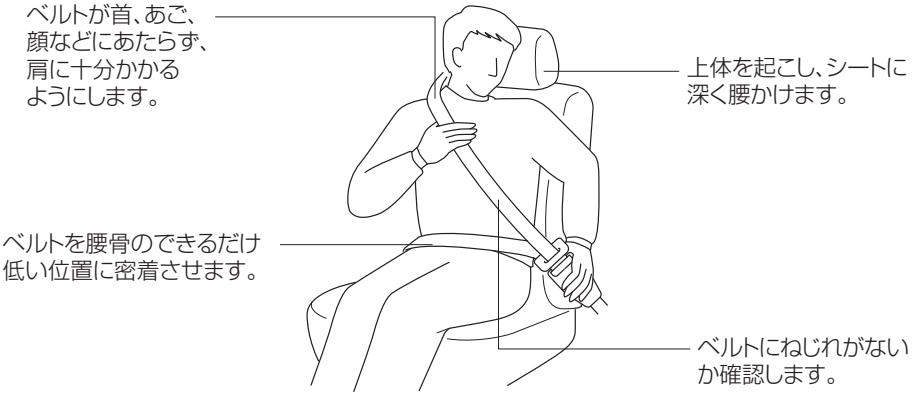
詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

シート、シートベルト、ハンドル、ミラーの調節

● フロントシート



● シートベルト

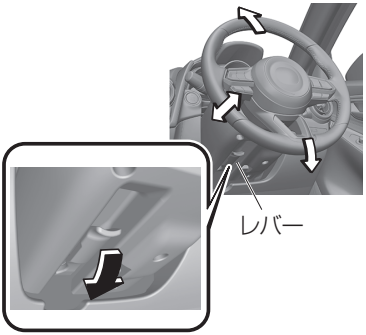


詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

運転する前に

●ハンドル

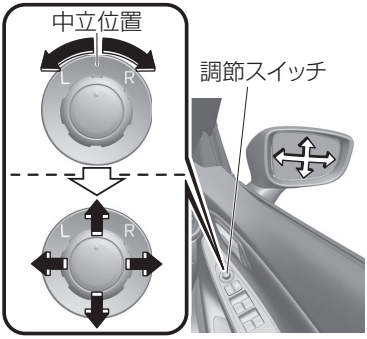
レバーを下げて、ハンドルを適切な位置に調節し、調節後は、レバーを押し上げて固定します。

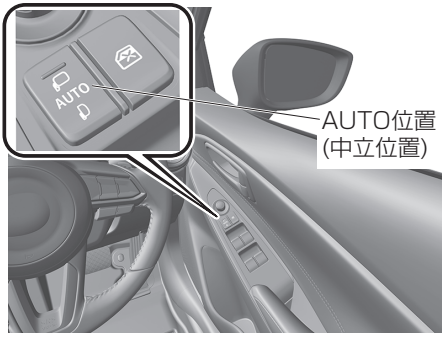


●ドアミラー

1. 調節スイッチを運転席側 (R) または助手席側 (L) にまわします。

2. 調節スイッチを操作して、角度を調節します。





自動格納機構

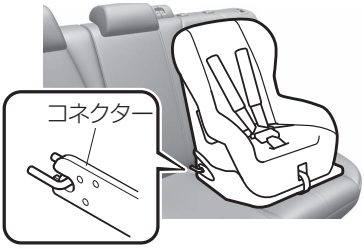
電源ポジションがOFFまたはACCのときに作動します。
自動格納ドアミラースイッチをAUTOの位置 (中立位置) にすると、ドアの施錠/解錠に連動して自動でドアミラーが格納/展開します。
また、電源ポジションをONまたはエンジンを始動させるとドアミラーが自動で展開します。

詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

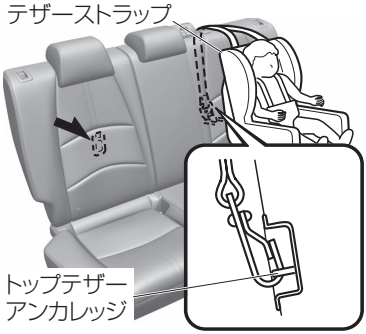
- リヤシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使用してください。選択の目安表は本文を参照してください。

1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
2. フロントおよびリヤシートが確実に固定されていることを確認します。
3. シートクッションにある縦の切れ目を広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。



4. ヘッドレストを取りはずします。
5. チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。

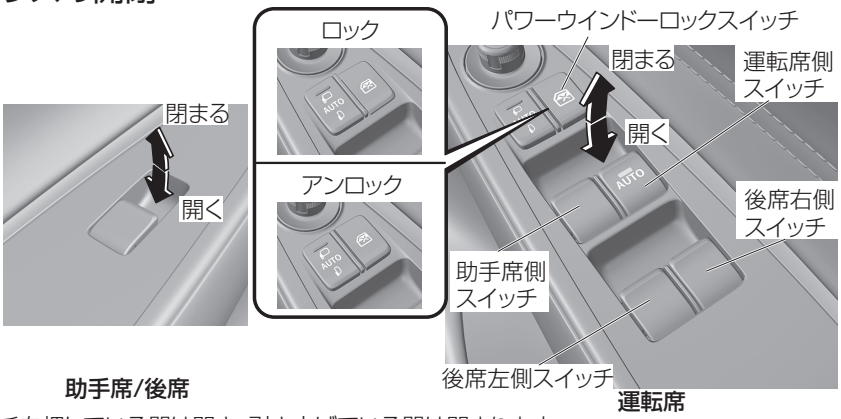
6. チャイルドシートのテザーストラップをイラストのように通して、トップテザーアンカレッジにかけます。



7. テザーストラップがたるまないように調節します。
8. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

窓ガラスの開閉

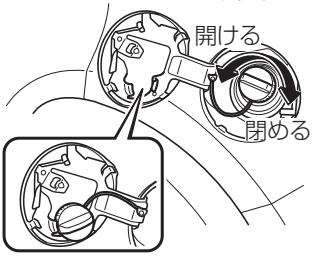


スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。
助手席、後席の窓ガラスは、運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。

給油するとき

使用燃料	SKYACTIV-G 1.3		無鉛レギュラーガソリン
	SKYACTIV-G 1.5		無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン
	SKYACTIV-D 1.5		低硫黄軽油
タンク容量（参考値）	SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5		44L
	SKYACTIV-D 1.5	マニュアルトランスミッション	35L
		オートマチックトランスミッション	44L

1. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引くと、フューエルリッドが開きます。



2. 取りはずしたキャップは、フューエルリッドの内側にかけます。
キャップを閉めるときは、カチッと1回音がするまで締め付けてください。

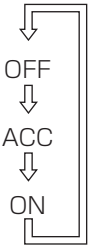
詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

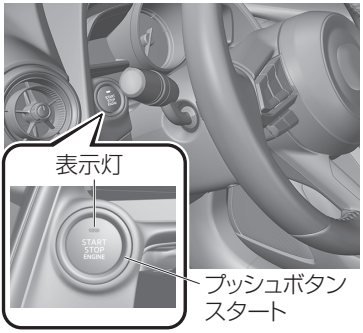
エンジンの始動と停止

● 電源ポジション（エンジンスイッチ）

マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏まない状態で、プッシュボタンスタートを押すごとにOFF、ACC、ONの順に電源ポジションが切り替わります。ONからもう一度、プッシュボタンスタートを押すとOFFへもどります。

電源ポジションの切り替わり





● エンジンをかけるとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. キーを携帯していることを確認します。
4. 以下のペダルを踏みながら、プッシュボタンスタートを押してエンジンを始動させます。
   マニュアル車:ブレーキペダル、クラッチペダル
   オートマチック車:ブレーキペダル

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

i-stop (アイ・ストップ)

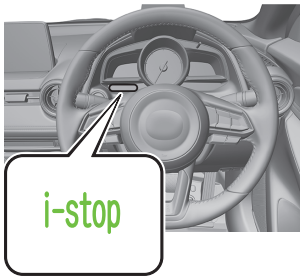
●i-stopとは

i-stopは、燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、信号待ちや渋滞などで車両を停止させたとき、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

●アイドリングストップ・再始動

知識

・次の条件のときに、i-stop 表示灯 (緑) が点灯します。
　・走行中にアイドリングストップする条件を満たしたとき
　・アイドリングストップ中のとき



・エンジンが再始動すると、i-stop 表示灯 (緑) が消灯します。

マニュアル車

1. ブレーキペダル、次にクラッチペダルを踏み込んで、車両を停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップします。
3. (SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)
   クラッチペダルを踏み込む、またはクラッチペダルをもどし始めると自動でエンジンが再始動します。

知識

ブレーキペダルの踏力によって、エンジンが再始動するタイミングが異なります。

(SKYACTIV-D 1.5)
クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動します。

オートマチック車

1. 走行状態 (Rレンジ、Mレンジの2速固定モード時以外) からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。
2. D/M (2速固定モードではない) レンジでブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーがNまたはPレンジでは、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーをD/M (2速固定モードではない) またはRレンジへ操作すると再始動します。(安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行ってください。)

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●i-stop表示灯/i-stop警告灯

i-stop表示灯 (緑)

i-stop

走行中にアイドリングストップする条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。
エンジンが再始動すると消灯します。

i-stop警告灯 (橙)

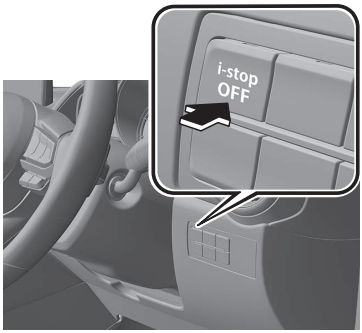
i-stop

電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
i-stop OFFスイッチを押してシステムを解除すると点灯します。

●i-stop警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。

●i-stop OFFスイッチ



i-stopの解除
- スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
- メーター内のi-stop警告灯 (橙) が点灯します。

i-stopの作動
- スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
- メーター内のi-stop警告灯 (橙) が消灯します。

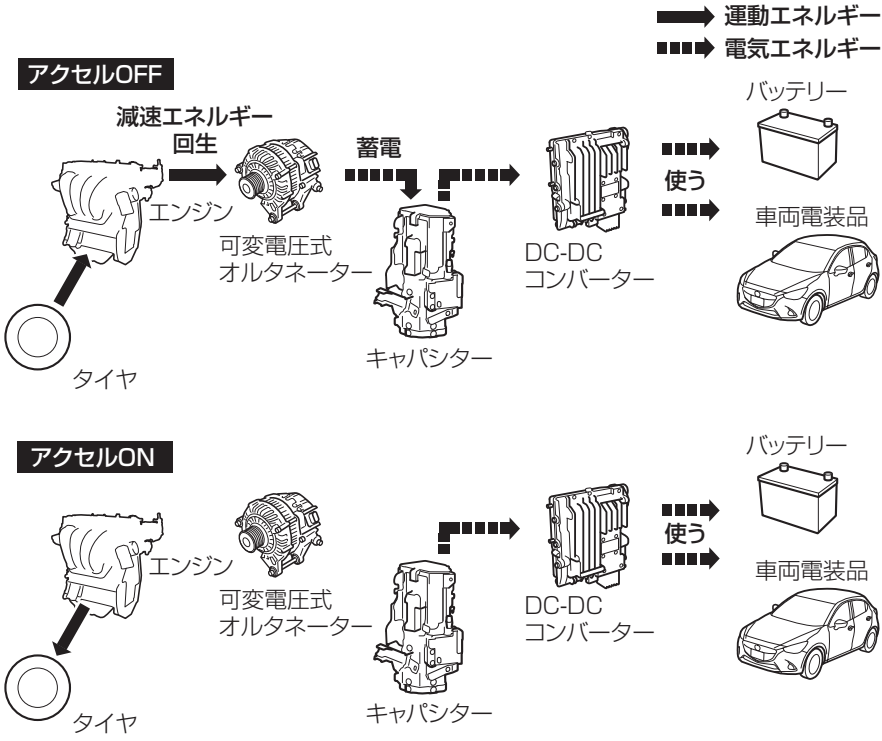
詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

i-ELOOP

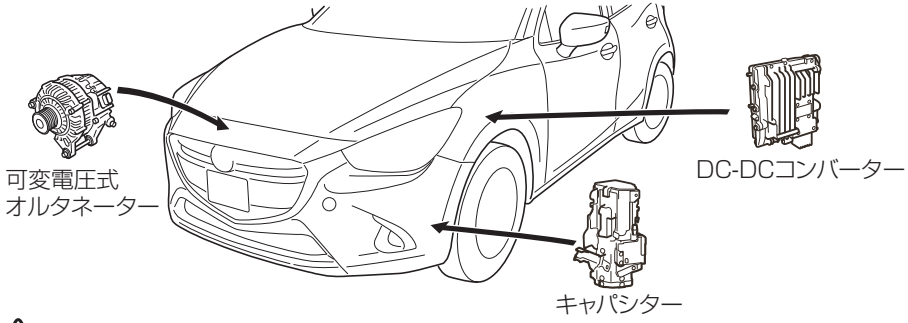
● i-ELOOPとは

i-ELOOPとは、減速エネルギー回生システムです。ブレーキ操作やエンジンブレーキで減速する際に発生する運動エネルギーを発電機により電気エネルギーに変換し、変換された電気エネルギーを蓄電器（キャパシターおよびバッテリー）に蓄えます。蓄電された電気エネルギーは、バッテリー充電やエアコン、ヘッドライトなどの車両電装品の電源として活用しています。

- 運動エネルギーを電気エネルギーに変換する発電機には、車両状態に応じて効率的に発電できる可変電圧式オルタネーターを採用しています。
- 発電された大量の電気エネルギーを瞬時に蓄え、すばやく取り出すことのできるキャパシターを採用しています。
- 蓄電された電気エネルギーを車両電装品で使用可能な電圧に降圧するDC-DCコンバーターを採用しています。



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。



⚠ 注意

禁止

次のものには高電流が流れているため触れないでください。
- **可変電圧式オルタネーター**
- **DC-DCコンバーター**
- **キャパシター**

● i-ELOOP表示灯 (緑)/エネルギー回生状況表示

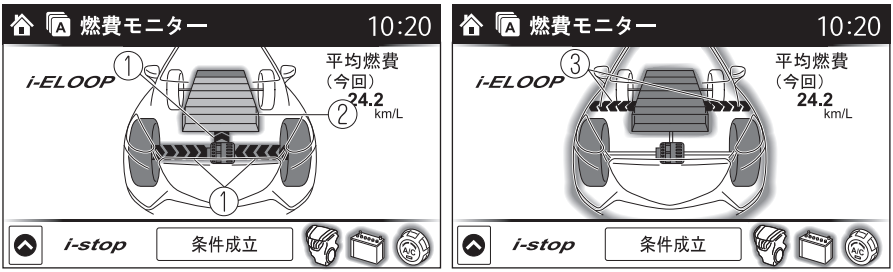
i-ELOOPのエネルギー回生状況や車両状態を、i-ELOOP表示灯またはエネルギー回生状況表示により、運転者にお知らせします。

i-ELOOP表示灯 (センターディスプレイ非装備車)

i-ELOOP エネルギー回生中に点灯します。

エネルギー回生状況表示 (センターディスプレイ装備車)

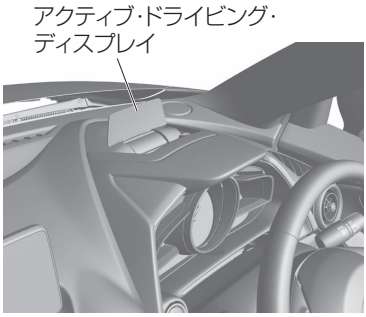
i-ELOOPのエネルギー回生状況を燃費モニターのi-stop、i-ELOOP状態表示に表示します。



① 減速エネルギーを利用して発電した電気の量と、発電した電気が蓄電器に流れている状態を表示します。表示は発電量が増えると太くなります。
② 蓄電器に蓄えている電気の量を表示します。
③ 蓄電器に蓄えられた電気を電装品に供給している状態を表示します。(車全体が同時に発光します。)

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



⚠ 警告

ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF)

ディーゼルパティキュレートフィルター（DPF）はディーゼルエンジンの排気ガスに含まれる粒子状物質のほとんどを捕集し除去するもので、排出ガス処理能力を向上させています。

DPFに堆積した粒子状物質が自動で除去されるとき、エンジンオイルに燃料が混ざり、油量が増えることがあります。油量がレベルゲージの×の位置を超えている場合はオイル交換をしてください。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

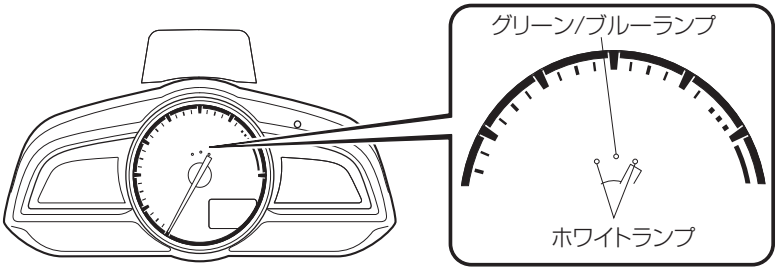
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

●i-DMとは

「i-DM」はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得/向上をサポートします。

●インテリジェント・ドライブ・マスター・ランプ

走行中の運転操作（アクセル、ブレーキ、ハンドル）の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況を知らせます。(コーチング機能)



運転操作の状況は、次のように表示されます。

ランプの種類	内容
グリーンランプ	やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。
ブルーランプ	しなやかな運転を示します。特に以下の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 走行タイプ1 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 走行タイプ2 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。
ホワイトランプ	体が揺れる運転を示します。やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまりよくない運転です。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

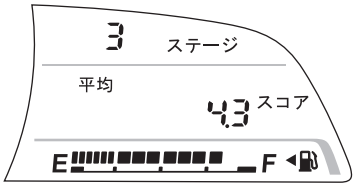
運転するときに

●i-DM表示

運転の評価をスコア（点数）で表示します。スコアに応じてステージが決まります。
ステージは1stステージから3rdステージまであり、ステージが上がるとスコアの診断が厳しくなります。運転技量が上がり、現在のステージでアベレージスコアを高く保てるようになると、次のステージへ上がります。逆に、低いアベレージスコアが続くとステージが下がります。

マツダコネクト非装備車

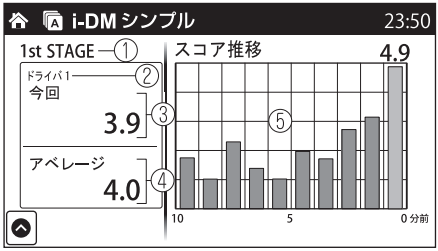
運転終了後、電源ポジションをONからOFFにしたとき、現在のステージ、今回のスコア（現在の評価値）とアベレージスコア（過去10回のスコアの平均値）を表示します。



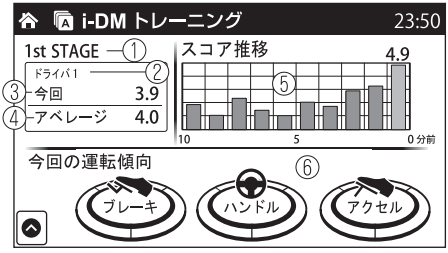
マツダコネクト装備車

インテリジェント・ドライブ・マスター（i-DM）の情報をセンターディスプレイに表示します。
表示にはシンプルモードとトレーニングモードの2種類あります。

（シンプルモード）



（トレーニングモード）



① 現在のステージを表示します。
② ドライバ名を表示します。
③ 今回のスコアを表示します。
④ アベレージスコアを表示します。
⑤ スコアの推移を棒グラフで表示します。各グラフは1分間のスコアを示し、過去10分間の記録を表示します。最新のグラフは右側にハイライト表示されます。信号待ちや一定速走行など運転操作が無かった場合はゼロのグラフが表示されます。
⑥ 今回の運転操作傾向を表示します。ブレーキ、ハンドル、アクセルの操作それぞれを表示します。白のゲージは、やや急な運転の多さを示し、青のゲージは、しなやかな運転の多さを示します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

警告灯/表示灯

	ブレーキ警告灯
	充電警告灯
	オイル警告灯
	高水温警告灯
	電動パワーステアリング警告灯
	マスター警告灯
	ABS警告灯
	エンジン警告灯
	i-stop警告灯
	i-ELOOP警告灯
	オートマチックトランスミッション警告灯
	車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯
	4WD警告灯
	エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯
	KEY警告灯
	アダプティブ･LED･ヘッドライト(ALH)警告灯
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 警告灯
	LEDヘッドランプ警告灯
	燃料残量警告灯
	シートベルト警告灯
	ウォッシャー液残量警告灯
	半ドア警告灯
	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告灯

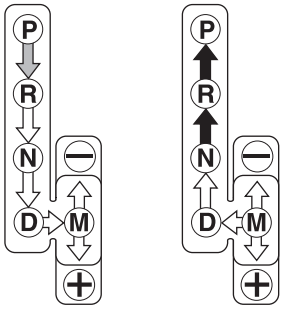
	KEY表示灯
	セキュリティ表示灯
	予熱表示灯
	DPF表示灯
	レンチ表示灯
	低水温表示灯
	i-stop表示灯
	i-ELOOP表示灯
	セレクトレバー位置表示
	車幅灯表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯
	方向指示/非常点滅表示灯
	フロントフォグランプ表示灯
	リヤフォグランプ表示灯
	TCS/DSC作動表示灯
	DSC OFF表示灯
	セレクトモードインジケーター
	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)表示灯
	車線逸脱警報システム (LDWS) OFF表示灯
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF表示灯
	ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 表示
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示灯
	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 表示灯
	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) OFF表示灯
	クルーズメイン表示灯
	クルーズコントロール表示灯

メーター内にマスター警告灯が点灯したとき、センターディスプレイ装備車は、センターディスプレイで点灯理由を確認できます。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

オートマチックトランスミッション

● セレクトレバーの操作



レバー操作	
⇨	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
⇨	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

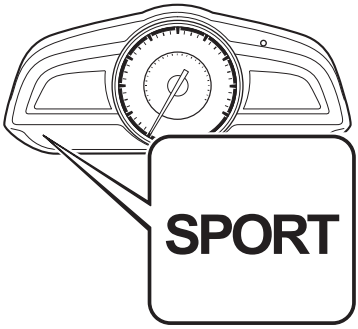
ドライブセレクション

ドライブセレクションとは、車両の走行モードを切り替えることができるシステムです。
高速道路での合流や追い越し加速時など、高い車両応答性が求められるときにご使用ください。

ドライブセレクションスイッチを **SPORT** 側（前方）に押すと、スポーツモードになります。
ドライブセレクションスイッチを ▬▬ 側（手前）に引くと、スポーツモードが解除されます。

● セレクトモードインジケーターライト

スポーツモードを選択しているときに、メーター内のセレクトモードインジケーターライトが点灯します。



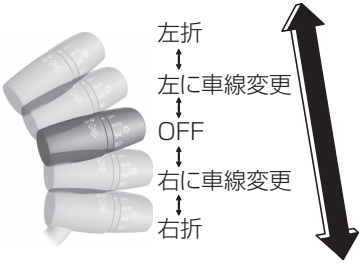
詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

スイッチの使いかた

● ヘッドランプ/方向指示器

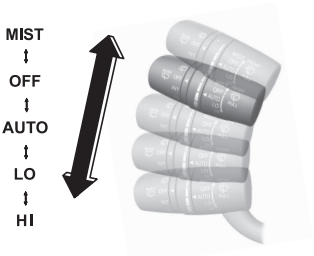
ヘッドランプ

方向指示器

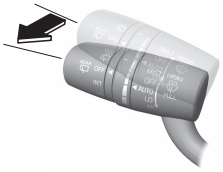


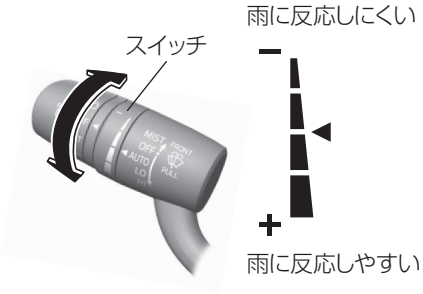
● ワイパー/ウォッシャー

フロントワイパー



フロントウォッシャー





レバーを **AUTO** の位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

i-ACTIVSENSE (アイ・アクティブセンス)

● i-ACTIVSENSEとは

i-ACTIVSENSEとは、フォワードセンシングカメラ (FSC) やレーザーセンサーなどを利用したマツダの先進安全・運転支援システムの総称です。これらのシステムは、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。
これらのシステムはあくまで、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

アクティブセーフティ技術とは

アクティブセーフティ技術とは、安全・安心な運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。

認知支援システム

夜間視界
・アダプティブ・LED・ヘッドライト(ALH)

左右側面・後側方認知
・車線逸脱警報システム (LDWS)
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)

車間認知
・車間認知支援システム (DRSS)

運転者疲労検知
・ドライバー・アテンション・アラート (DAA)

駐車場発進時後方認知
・リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)

運転支援システム

車間距離
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

プリクラッシュセーフティ技術とは

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故が避けづらい状況での衝突回避、避けられず衝突した際の被害低減を図る技術です。

低速度域衝突被害軽減

前進時
・スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F)
・AT誤発進抑制制御 [前進時]

後退時
・スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)
・AT誤発進抑制制御 [後退時]

中・高速度域衝突被害軽減

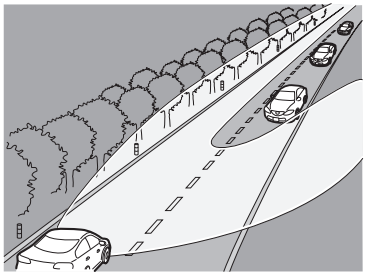
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) は、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を次のように制御し、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

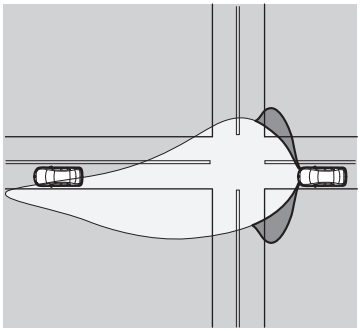


ヘッドランプ上向き (ハイビーム) の配光を前方車の部分だけ減光して照射します。
車速約40 km/h以上で作動します。車速が約30 km/h未満になると、下向き (ロービーム) に切り替わります。

知識

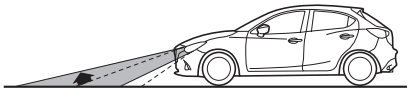
ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ワイド配光ロービーム



車速約40 km/h未満で走行中に、下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大して照射します。

ハイウェイモード



高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。

運転するときに

作動させるとき

電源ポジションがONの状態でランプスイッチがAUTOの位置のときにヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると作動します。

⚠ 注意

システムを過信せず、常に周囲の状況に注意を払い、必要に応じて、上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えるなど、安全運転に心がけてください。
その他詳細は本文に記載しています。

知識

次のような状況では、アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) が正常に作動しない場合があります。
- ・周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- ・周囲に反射板や標識などの反射物があるとき
- ・雨、雪、霧などで視界が悪いとき
- ・カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき

その他、詳細は本文に記載しています。

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 表示灯 (緑)

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) が作動しているとき、メータ内のアダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) が点灯します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) は、レーダーセンサー (フロント) が前方車を検知することで、ドライバーがアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、約30 km/h～100 km/hの設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) は高速道路、加速/減速の繰返しが少ない自動車専用道路などで使用してください。

⚠警告

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を過信しない。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) は、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界があります。
また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながる可能性が有ります。周囲の安全を確認し、前後を走行する車両との車間距離を十分確保して下さい。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しない。
･急カーブ、交通量の多い道路、頻繁に加減速を繰り返す道路
･高速道路のインターチェンジ、サービスエリアの進入時
･凍結路や積雪路など滑りやすい路面
･長い下り坂

知識

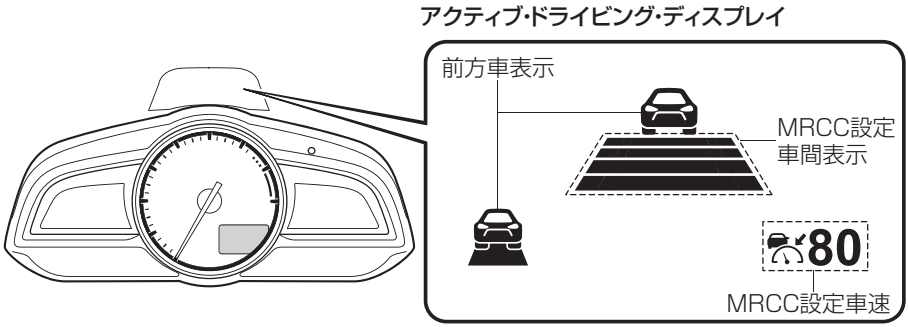
次のようなときは、マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) が一時的に解除され、メーター内のディスプレイにキャンセル表示が表示され、同時にMRCC表示灯(緑)が消灯します。
･OFF/CANスイッチを1回押したとき
･ブレーキペダルを踏んだとき
･パーキングブレーキがかかったとき
･**(オートマチック車)**
セレクトレバーがP、NまたはRレンジになったとき
･**(マニュアル車)**
チェンジレバーがRになったとき
･車速が25 km/h以下になったとき
･DSC、スマート･ブレーキ･サポート (SBS) 、スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) のいずれかが作動したとき
･システム異常が発見されたとき
雨･霧･雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたときもマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) が解除される場合があります。
その他、詳細は本文に記載しています。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

運転するときに

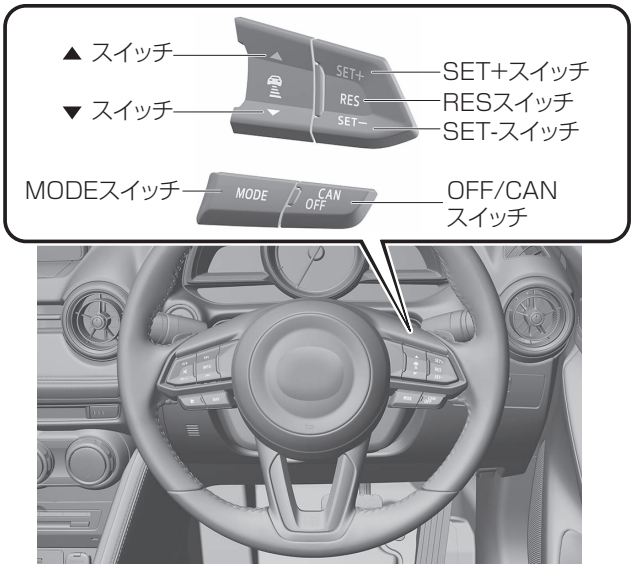
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) ディスプレイ表示

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール（MRCC）の設定状況および作動状況をアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。



設定するとき

MODEスイッチを押すと速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になり、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール（MRCC）ディスプレイ表示がアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

速度を設定するとき

1. アクセルペダルの操作で設定したい速度に調節します。
2. SET + またはSET − スイッチを押すと定速走行をはじめます。アクティブ·ドライビング·ディスプレイに設定速度が表示され、マツダ·レーダー·クルーズ·コントロール（MRCC）作動状態表示が白色から緑色に、車間表示の白線表示が白色の塗りつぶし表示に変わります。同時にマツダ·レーダー·クルーズ·コントロール (MRCC) 表示灯 (緑) が点灯し、チャイムが1回鳴ります。

走行状態	定速走行時	追従走行時
ディスプレイ表示	80	80

追従走行時の車間距離を設定するとき

▼ スイッチを押すことにより車間距離を短く設定します。▲ スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。車間距離は長、中、短、極短の4段階で設定できます。

車間距離の目安 (約80 km/h走行時)	長 (約50 m)	中 (約40 m)	短 (約30 m)	極短 (約25 m)
ディスプレイ表示				

設定速度を変更するとき

スイッチで加速/減速するとき

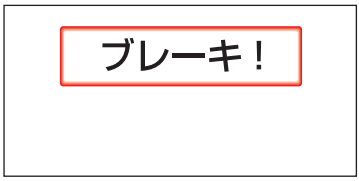
SET+スイッチまたはSET−スイッチを押したまま、設定車速を変更すると10 km/hずつ調整することができます。
またSET+スイッチまたはSET−スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度を5 km/hずつ調節することができます。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、SET+スイッチまたはSET−スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

接近警報

追従走行時に前方車が急制動を行ったときなど前方車に接近したときは、警報音が鳴り、アクティブ·ドライビング·ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●スマート･シティ･ブレーキ･サポート [前進時] (SCBS F)/ スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) とは

スマート･シティ･ブレーキ･サポート [前進時] (SCBS F)

スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) は車速が約4 km/h～約30 km/hで走行中に前方車をレーザーセンサーが検知し、前方車との衝突を回避できないと判断したときに、ブレーキ制御 (SCBSブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。また自車と前方車との相対速度が約20 km/hより低いときは、衝突を回避できる場合があります。なお、約4 km/h～約30 km/hでシステム作動範囲に入っているときに、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。(ブレーキアシスト (SCBS ブレーキアシスト))

スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)

スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) は車速が約2 km/h～約8 km/h で後退中に後方の障害物を超音波センサーが検知し、衝突を回避できないと判断したときに、ブレーキ制御 (SCBSブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。

⚠警告

システムを過信しない。
- ･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) は、前方車 (4輪車両) に対して作動するシステムです。2輪車や歩行者に対しては作動保障しません。
- ･スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) は、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

サスペンションを改造しない。

車高や車の傾きが変わると前方車や障害物を正しく検知できないため、スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) が正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な事故につながるおそれがあります。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

知識

●スマート･シティ･ブレーキ･サポート [前進時] (SCBS F)
スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) は次の条件のとき作動します。
･エンジンがかかっているとき
･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
･車速が約4 km/h～約30 km/hのとき
･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) を停止していないとき
･DSCが故障状態でないとき

●スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)
スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) は、次の条件のとき作動します。
･エンジンがかかっているとき
･チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) をRの位置にしているとき
･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
･車速が約2 km/h～約8 km/hのとき
･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) を停止していないとき
･DSC が故障状態でないとき

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●AT誤発進抑制制御 [前進時]/AT誤発進抑制制御 [後退時] とは

AT誤発進抑制制御は、車両が徐行中 (約10 km/h以下) や停車時、前方または後方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。
システム作動中は、AT誤発進抑制制御表示で作動中をお知らせすると同時に警報音で運転者に警告します。

知識

●(AT誤発進抑制制御 [前進時])

次のような障害物はAT誤発進抑制制御が作動しない場合があります。
·障害物の高さが低いとき (低い壁、低いガードレール、トレーラーなどの後部)
·障害物が小さい、細いのいずれかのとき
·障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
·荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両、キャリアカーなど、特殊な形状をした車両
その他詳細は本文に記載しています。

●(AT誤発進抑制制御 [後退時])

AT誤発進抑制制御 [後退時] は、超音波センサー (リヤ) が発信した超音波が、後方の障害物に反射し、超音波センサー (リヤ) に戻ってきた超音波を受信することで、後方の障害物を検知し、作動しています。
そのため、次のようなときは、超音波センサー (リヤ) が障害物を検知できず、AT誤発進抑制制御 [後退時] が作動しない場合があります。
·障害物が車両や壁のように大きくないとき
·標識のポールなど、障害物が細いとき
·垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
·障害物が凹凸のある形状をしているとき
·障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
·障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
·超音波センサー(リヤ)付近に何か付着したりしているとき
·衝突などで、超音波センサー (リヤ) の方向がずれたとき
その他詳細は本文に記載しています。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは

車速が15 km/h以上でレーダーセンサー (フロント) が前方車へ衝突する可能性があると判断したときに、アクティブ･ドライビング･ディスプレイへの警告表示、および警報音により衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、ブレーキを自動制御することで、衝突時の被害を軽減します。

⚠ 警告

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) を過信しない。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) は衝突時の被害を軽減するシステムであり、対象物、天候状況、道路状況等によっては対象物の検知に限界があります。
周囲の安全を確認し、前後を走行する車両との車間距離を十分確保して下さい。

知識

次のような時は、スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動しないときがあります。
- ･前方車と部分的な接触の可能性があるとき
- ･前方車と同程度の速度で走行しているとき
- ･ブレーキペダル、ハンドル、セレクトレバー、方向指示器を操作しているとき

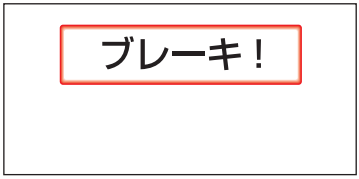
その他、詳細は本文に記載しています。

システム作動対象は4輪車両ですが、次のような検知対象物は、レーダーセンサー (フロント) が前方車と判断し、スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動する場合があります。
- ･カーブ入り口に路側物があるとき (ガードレール、雪壁等も含む)
- ･コーナーを曲がるときやカーブですれ違うときに対向車両があるとき
- ･狭い鉄橋、低いゲートやトンネル、狭いゲート、地下駐車場の入口を通過するとき
- ･路面上に金属物、段差または突起物があるとき
- ･バイク、自転車などの2輪車、歩行者、立ち木など

その他、詳細は本文に記載しています。

衝突警報

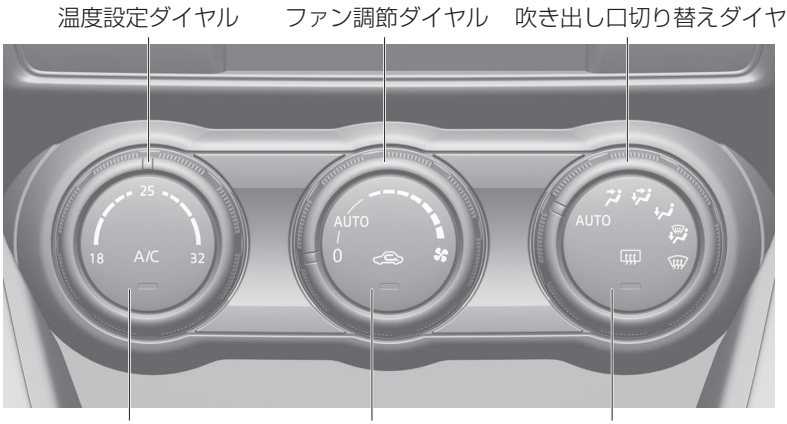
前方車と衝突する可能性がある場合、警報音が鳴り続け、アクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

快適装備の使いかた

フルオートエアコン

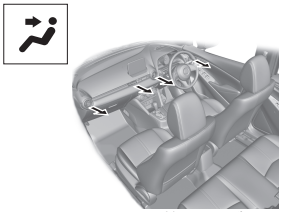


●通常の使いかた

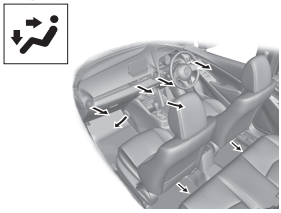
1. 吹き出し口切り替えダイヤルをAUTOの位置にします。設定温度にあわせて吹き出し口の切り替えを自動で行います。
2. 内外気切り替えスイッチを外気導入（表示灯消灯）にします。
3. ファン調節ダイヤルをAUTOの位置にします。設定温度にあわせて、吹き出し風量が自動制御されます。
4. エアコンスイッチを押してエアコンを作動（表示灯点灯）させます。
5. 温度設定ダイヤルをまわして希望の温度に調節します。
6. 作動を停止したいときは、ファン調節ダイヤルを0の位置にします。

●吹き出し口の選択

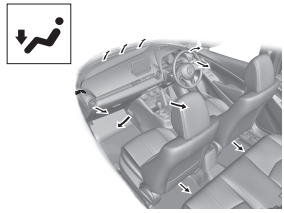
上半身に送風するとき



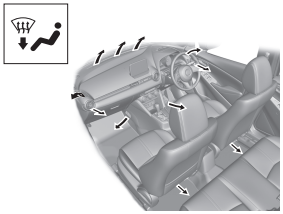
上半身、足元に送風するとき



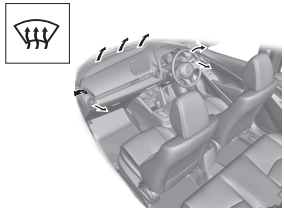
主に足元に送風するとき



足元への送風とガラスの曇りを取るとき



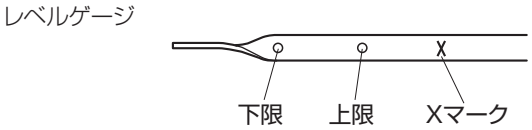
ガラスの曇りを取るとき



詳しくは第3章「快適装備の使いかた」をお読みください。

エンジンオイルの点検、補充 (SKYACTIV-D 1.5)

エンジンオイルがレベルゲージの×の位置を超えている場合はオイル交換をしてください。
エンジンオイルの量を点検するときは、オイルレベルゲージをひねらずまっすぐに抜いてください。
また、オイルレベルゲージを差すときは、必ずオイルレベルゲージの×マークを車両前方に向けてひねらずまっすぐ差し込んでください。

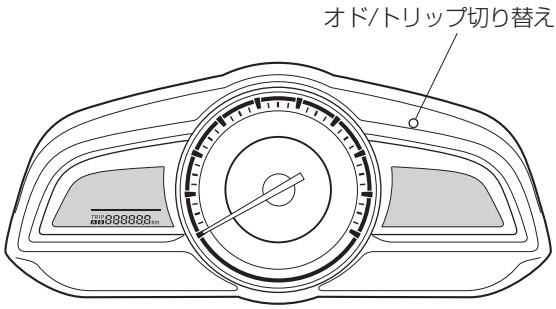


オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なうか、次の手順で記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯またはオイル警告灯が点灯することがあります。

知識

記憶値の初期化 (オイルデータリセット) は次の手順でも行なうことができます。

1. 電源ポジションをOFFにします。
2. オド/トリップ切り替えボタンを押したまま、電源ポジションをONにし、マスター警告灯 ⚠/⚠ が点滅するまで、オド/トリップ切り替えボタンを約5秒間押し続けます。



3.マスター警告灯 ⚠/⚠ が数秒間点滅したら、初期化は完了です。

お手入れのしかた

日常点検

日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

● エンジンルームをのぞいて

・エンジンオイルの量
・冷却水の量
・ウォッシャー液の量
・ブレーキ液の量
・バッテリー液の量

● 全体を見まわして

・ウォッシャー液の噴射状態
・ワイパーの払拭状態
・灯火装置および方向指示灯の点灯、または点滅具合、汚れ、損傷
・タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常摩耗、溝の深さなど

● 運転席にすわって

・ブレーキペダルの踏みしろ (踏み込んだときの床板とのすき間)
・ブレーキの効き
・パーキングブレーキの引きしろ
・エンジンのかかり具合、異音
・エンジンの低速および加速の状態

ランプ類、電気装置が作動しない

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

詳しくは第4章「お手入れのしかた」または、
別冊のメンテナンスノート「日常点検整備のしかた」をお読みください。

MEMO

MEMO

目次

イラスト目次　2ページ

詳細目次　8ページ

1 運転する前に　15ページ

運転する前に必要な操作と取り扱い

2 運転するときに　91ページ

運転するときに必要な操作と取り扱い

3 快適装備の使いかた　291ページ

ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

4 お手入れのしかた　473ページ

手入れの方法、真冬の取り扱いなど

5 トラブルが起きたら　521ページ

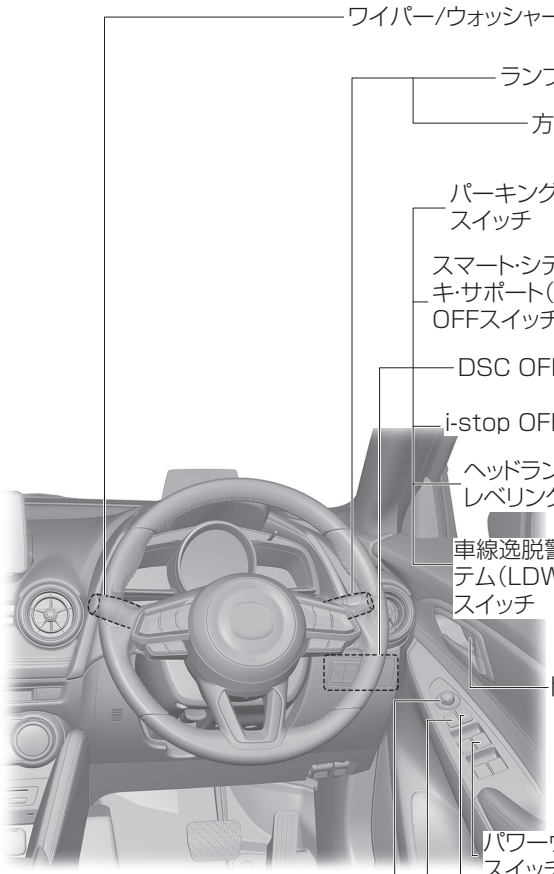
車が故障したとき、事故にあったときの処置

車両スペック　570ページ

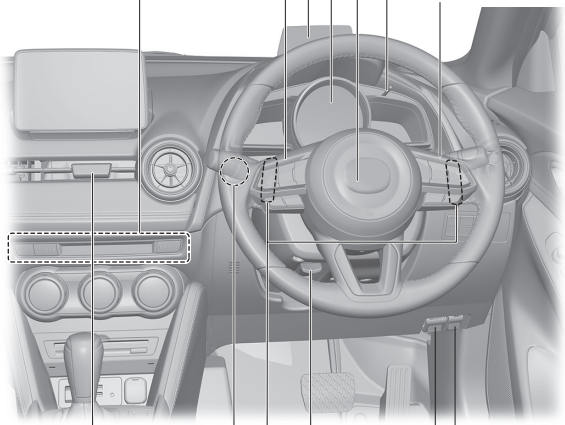
さくいん　592ページ

イラスト目次

ハンドルまわり



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。



シートヒータースイッチ P. 41

オーディオリモートコントロールスイッチ P. 310、P. 361

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ P. 139

メーター P. 130

ホーン P. 190

パネルライトコントロールスイッチ P. 138

クルーズコントロールスイッチ P. 228、P. 270

フューエルリッドオープナー P. 73

ボンネットオープナー P. 478

ハンドル調節レバー P. 48

ステアリングシフトスイッチ P. 161

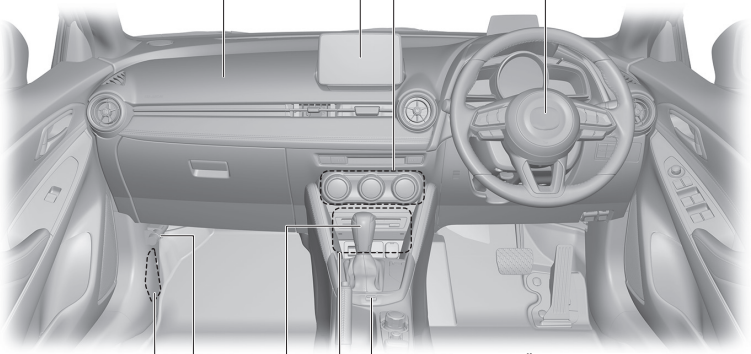
プッシュボタンスタート P. 102

非常点滅灯スイッチ P. 181

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

イラスト目次

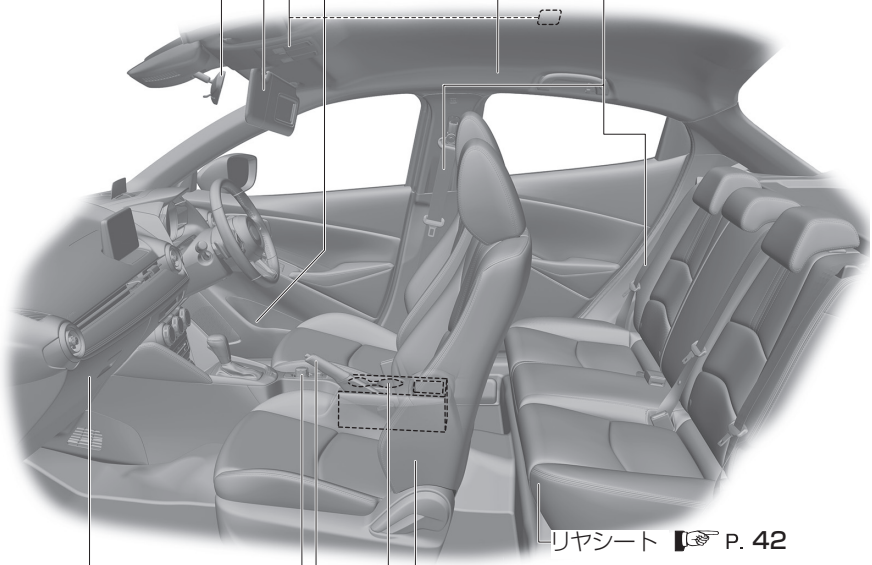
運転席まわり



助手席エアバッグ ☞ P. 77
オーディオ ☞ P. 316、P. 371
エアコン ☞ P. 292
リヤウインドーデフォッガースイッチ ☞ P. 189
運転席エアバッグ ☞ P. 77
ドライブセレクションスイッチ ☞ P. 170
DVD/CDプレーヤー ☞ P. 384、P. 391
電源ソケット ☞ P. 468
USB端子 ☞ P. 323、P. 402
AUX端子 ☞ P. 327、P. 424
チェンジレバー/セレクトレバー ☞ P. 156、P. 158
発炎筒 ☞ P. 525
室内ヒューズボックス ☞ P. 495

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

室内



ルームミラー P. 51
サンバイザー P. 465
バニティミラー P. 465
ルームランプ P. 466
ボトルホルダー P. 470
カーテンエアバッグ P. 78
シートベルト P. 53
リヤシート P. 42
フロントシート P. 40
カップホルダー P. 469
パーキングブレーキ P. 172
コマンダースイッチ P. 357
グローブボックス P. 471

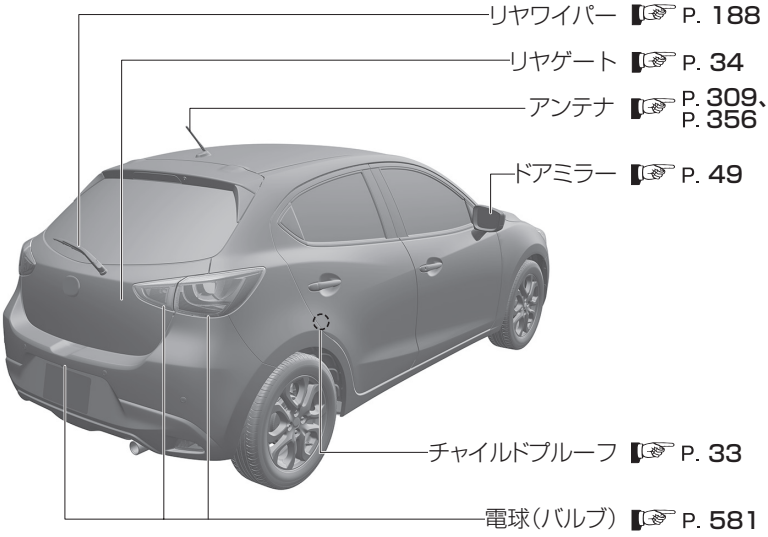
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

イラスト目次

フロント外観

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

リヤ外観



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

詳細目次

1 運転する前に

安全なドライブのために 16
お出かけ前に 16
お子さまを乗せるとき 18
安全装備について 18

キー 19
キーについて 19

ドア 26
ドアの開閉 26

リヤゲート 34
リヤゲートの開閉 34

トノカバー 38
トノカバーの使いかた 38

シート 39
正しい運転姿勢 39
フロントシートの調節 40
リヤシートの操作 42
ヘッドレストの使いかた 45

ハンドル 48
ハンドルの調節 48

ドアミラー 49
ドアミラーの操作 49

ルームミラー 51
ルームミラーの操作 51

シートベルト 52
シートベルトの種類 52
シートベルトの正しい着用のしかた 53
3 点式シートベルト 57

お子さまの安全 60
お子さま専用シートについて 60
チャイルドシートを固定するとき ... 65

ウインドー 68
窓ガラスの開閉 68

燃料補給口 71
給油するとき 71

盗難防止システム 75
イモビライザーシステム 75

SRS エアバッグシステム 77
SRS エアバッグシステムについて 77
エアバッグの種類 77
エアバッグの注意点 79

安全に運転をしていただくために 90
積雪、寒冷時の取り扱い 90

2 運転するときに

安全なドライブのために 94
運転するとき 94
運転装置について 96
こんなことにも注意 96
駐停車するとき 100
お子さまを乗せるとき 101

エンジンの始動と停止 102
電源ポジション（エンジンスイッチ）..... 102
エンジンの始動 104
エンジンの停止 112
i-stop について 113

i-ELOOP について 123
i-ELOOP とは 123

燃費モニター 126
燃費モニター 126

メーター、警告灯、表示灯の見方 130
メーター 130
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 139
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 142
警告灯、表示灯 148

トランスミッションの使いかた 156
マニュアルトランスミッション ... 156
オートマチックトランスミッション 158

ドライブセレクションについて 170
ドライブセレクションとは（オートマチック車）..... 170

ブレーキ 172
ブレーキの操作 172

i-ACTIV AWD 173
i-ACTIV AWD について 173

スイッチの使いかた 174
ランプスイッチ 174
方向指示器 180
非常点滅灯スイッチ 181
フロントフォグランプスイッチ ... 182
リヤフォグランプスイッチ 183
ワイパー / ウォッシャースイッチ 184
ヘッドランプウォッシャースイッチ 188
リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチ 189
ホーン 190

ABS について 191
ABS とは 191

ヒルローンチアシスト (HLA) について 192
ヒルローンチアシスト (HLA) とは 192

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について 193
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは 193

詳細目次

トラクションコントロールシステム (TCS) について 194

TCS とは 194

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について 195

DSC とは 195

i-ACTIVSENSE について 198

i-ACTIVSENSE とは 198
アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) とは 201
車線逸脱警報システム (LDWS) とは 204
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは 210
車間認知支援システム (DRSS) とは 215
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは 218
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは 220
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは 224
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F) とは 236
AT 誤発進抑制制御とは (オートマチック車) 242
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは 245
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは (オートマチック車) 251
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは 254
フォワードセンシングカメラ (FSC) について 257
レーザーセンサー (フロント) について 261
レーダーセンサー (リア) について 263
レーダーセンサー (フロント) について 265
超音波センサー (リヤ) について 268

クルーズコントロールについて 269
クルーズコントロールとは.....269
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について 275
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは (SKYACTIV-D 1.5).....275
駐車支援システムについて 276
駐車支援システムとは 276
メンテナンスモニター 285
メンテナンスモニター 285
様々な状況での運転のときは 287
悪天候での運転.....287
環境保護のために 289
経済的な運転.....289

3 快適装備の使いかた

空調 292
エアコンの上手な使いかた.....292
吹き出し口.....294
マニュアルエアコン 296
フルオートエアコン 298
オーディオ 302
オーディオをご使用の前に.....302
アンテナ.....309
オーディオの操作方法 310
オーディオソースの使いかた.....316
マツダコネクト 334
マツダコネクトでできること.....334
マツダコネクト 4 つの操作方法...336
マツダコネクトをご使用の前に...338
アンテナ.....356
マツダコネクトの操作方法.....357
マツダコネクトの設定 366
オーディオソースの使いかた.....371
Bluetooth® をご使用の前に.....427
Bluetooth® ハンズフリー 440
トラブルシューティング.....460
室内装備 465
サンバイザー.....465
室内照明.....465
電源ソケット.....468
カップホルダー.....469
ボトルホルダー.....470
収納 470

詳細目次

4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 474
必ずまもる……474
お車に触れるときは注意する……475

点検、整備 476
点検整備について……476
定期点検……477
日常点検の前に……478
日常点検……480
その他の手入れ……490

ヒューズ切れ、電球切れのとき 491
ヒューズの受け持つ装置……491
ランプ類、電気装置が作動しないとき……495

電池交換 506
電池を交換するときは……506

車の手入れ 509
外装の手入れ……509
内装の手入れ……513

季節の準備 517
冬にそなえて……517
夏にそなえて……519

環境保護のために 520
廃棄物を処理するときは……520

5 トラブルが起きたら

故障したとき 522
路上で動けなくなったとき……522
スタックしたとき……523
踏切内で動けなくなったとき……524

緊急用具の取り扱い 525
発炎筒……525
工具、ジャッキの格納場所……526
ジャッキの取り扱い……527

パンクしたとき 531
タイヤパンク応急修理キット……531

バッテリーがあがったとき 540
バッテリーあがりについて……540

エンジンが始動しないとき 544
燃料切れしたときは(SKYACTIV-D 1.5)……544

オーバーヒートしたとき 545
オーバーヒートについて……545

キーが作動しないとき 547
キー一時停止機能……547

けん引について 548
けん引してもらうとき……548
固定用フックについて……551

万一事故が起きたとき　552

警告灯 / 表示灯　553

警告灯が点灯、点滅したときは ... 553
センターディスプレイにメッセージが表示されたときは ... 562

警報チャイム　564

チャイムがなったときは ... 564

リヤゲート　567

リヤゲートが開けられなくなったとき ... 567

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ　569

アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき ... 569

MEMO

1 運転する前に

安全なドライブのために 16
お出かけ前に 16
お子さまを乗せるとき 18
安全装備について 18

キー 19
キーについて 19

ドア 26
ドアの開閉 26

リヤゲート 34
リヤゲートの開閉 34

トノカバー 38
トノカバーの使いかた 38

シート 39
正しい運転姿勢 39
フロントシートの調節 40
リヤシートの操作 42
ヘッドレストの使いかた 45

ハンドル 48
ハンドルの調節 48

ドアミラー 49
ドアミラーの操作 49

ルームミラー 51
ルームミラーの操作 51

シートベルト 52
シートベルトの種類 52
シートベルトの正しい着用のしかた 53
3 点式シートベルト 57

お子さまの安全 60
お子さま専用シートについて 60
チャイルドシートを固定するとき 65

ウインドー 68
窓ガラスの開閉 68

燃料補給口 71
給油するとき 71

盗難防止システム 75
イモビライザーシステム 75

SRS エアバッグシステム 77
SRS エアバッグシステムについて 77
エアバッグの種類 77
エアバッグの注意点 79

安全に運転をしていただくために 90
積雪、寒冷時の取り扱い 90

お出かけ前に

日常点検は必ず実施する

476ページの「点検整備について」をよくお読みください。

日常点検としてバッテリー液の量を定期的に点検する

489ページの「バッテリーの点検」をよくお読みください。

日常点検としてタイヤを定期的に点検する

484ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

71ページの「給油するとき」をよくお読みください。

燃料補給時の注意

71ページの「給油するとき」、74ページの「フューエルキャップの開閉」をよくお読みください。

荷物を積むときは固定する

42ページの「荷室を作るとき」、34ページの「リヤゲートの開閉」をよくお読みください。

可燃物、危険物は積まない

燃料の入った容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

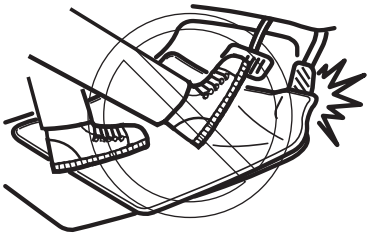
運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると、ペダルを正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

収納スペース使用時の注意

フタのついていない収納スペースに物を入れるときは、収納のしかたに注意してください。収納の状態により、急加速時に内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットは車に合ったものを使用する



フロアマットは純正品を使用することをおすすめします。
フロアマットは車に合ったものを使用し、大きすぎるフロアマットを使用しないでください。

フロアマットを車に敷くときは次の点を守ってください。

- フロアマットは重ねて使用しない。
- フロアカーペットの上のフックでしっかり固定して使用する。

守られていないと、フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

キーは運転者が携帯する

23ページの「アドバンストキーレスエントリー＆プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード/仕様別装備 」、26ページの「ドアの開閉」をよくお読みください。

正しい運転姿勢に調節する

39ページの「正しい運転姿勢」をよくお読みください。

シートベルトは全員着用する

53ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」をよくお読みください。

外気取り入れ口をふさがない

292ページの「エアコンを使用する前に」をよくお読みください。

お子さまを乗せるとき

お子さまはリヤシートに乗せる

60ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

お子さまにもシートベルトを着用させる

53ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」、79ページの「エアバッグの注意点」をよくお読みください。

チャイルドシートは正しく取り付ける

60ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

ドア、窓ガラスの開閉やシートなどの調節は大人が操作する

26ページの「ドアの開閉」、33ページの「チャイルドプルーフの使いかた」をよくお読みください。

窓から手や顔を出させない

68ページの「窓ガラスの開閉」をよくお読みください。

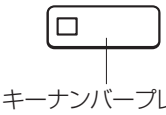
安全装備について

SRS エアバッグシステムの注意

77ページの「SRS エアバッグシステム」をよくお読みください。

キーについて

キーナンバープレート



お客様以外の方にキーナンバーを知られないために、キーナンバープレートにキーナンバーを打刻しています。

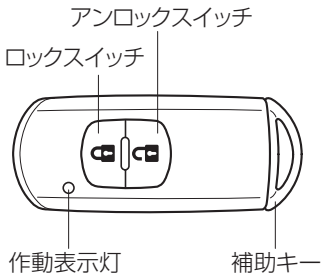
知識

- **保管するときは**
  キーナンバープレートは車両以外の安全な場所に、大切に保管しておいてください。
- **紛失したときは**
  万一、キーを紛失したときは、マツダ販売店でキーナンバーをもとにキーを作ることができます。マツダ販売店にご相談ください。

キー

知識

- キーは必ず運転者が携帯してください。
- キーを紛失したときのために、スペアのキーを保管しておいてください。



キーを携帯することにより、キーを取り出すことなく次の操作ができます。

- エンジンを始動 / 停止する。

(アドバンストキーレス機能装備車)

- ドア、リヤゲートを施錠 / 解錠する。
- リヤゲートを開ける。

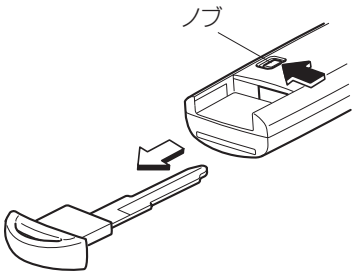
またリモートコントロールの操作にも使用します。
キーは 2 本あります。

キー

補助キー

キーに内蔵されています。
ドア、リヤゲートの施錠 / 解錠に使用します。

補助キーの取りはずしかた



ノブを押したまま、補助キーを引き出します。

キーの注意点

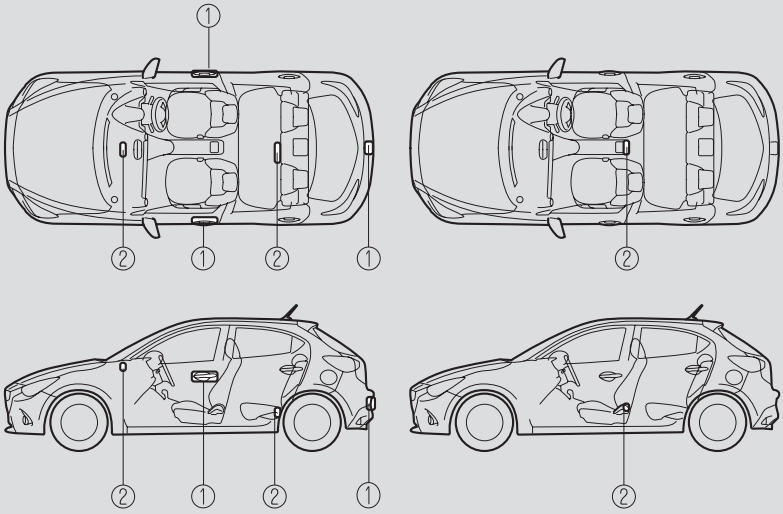
⚠警告

禁止

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内・車外のアンテナから約 22cm 以内に医療用機器を近づけない。

電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

（アドバンストキーレス機能装備車）（アドバンストキーレス機能非装備車）



①車外のアンテナ　②車内のアンテナ

必ず守る

以下以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

- **植込み型心臓ペースメーカー**
- **植込み型除細動器**

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

キー

⚠警告

必ず守る

プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。

ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。 また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠注意

必ず守る

キーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはキーが正常に作動しないことがあります。

- **携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき**
- **金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき**
- **パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき**
- **純正品以外の電子機器を取り付けたとき**
- **近くに電波を発する設備があるとき**

禁 止

キーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。

必ず守る

キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **分解しないでください。**
- **重い物を上に置かないでください。**
- **直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**
- **磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。**

禁 止

航空機内ではキーを操作しないでください。
キーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、キーのスイッチが容易に押されないように注意してください。

知識

- **電池の寿命について**
  電池の寿命は、約 1 年程度です。メーターに KEY 表示灯（緑）が点滅した場合は、新しい電池と交換してください。
  電池の消耗度合いによっては KEY 警告灯 / 表示灯が点灯や点滅しない場合もありますので、1 年を目安に電池の交換をおすすめします。

- **キーの紛失について**
  キーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。
- **キーを追加するときは**
  別売りのキーを購入される場合、お手持ちのキーとあわせて、同じ車両で 6 個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード / 仕様別装備

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムはキーを取り出すことなく、ドア、リヤゲートの施錠 / 解錠、エンジンの始動 / 停止をすることができます。また、リモートコントロール機能により、キーのスイッチを押して、ドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。
→ 27ページ「キーによる施錠 / 解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)」

キー

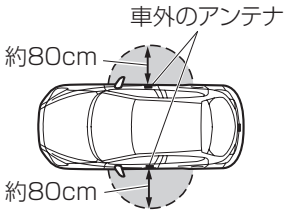
機能の作動範囲

キーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

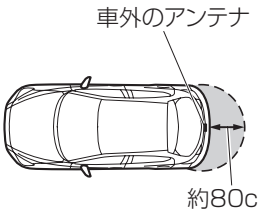
知識

- 次の場合、キーの作動範囲がせまくなったり、作動しない場合があります。
  - 電池が消耗しているとき
    電池交換の目安は 23ページをお読みください。
  - 強い電波、ノイズのある場所
  - 窓ガラスやドアハンドル、リヤゲートに近づきすぎた場合
- 次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
- 次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - 携帯電話などの通信機器の近く
- 荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
  車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

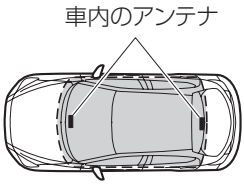
ドア、リヤゲートの施錠/解錠



リヤゲートの解錠



エンジンの始動



作動範囲

キーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード/仕様別装備

キーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムはキーを取り出すことなく、エンジンの始動 / 停止をすることができます。また、リモートコントロール機能により、キーのスイッチを押して、ドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。
→ 30ページ「キーによる施錠 / 解錠 (アドバンストキーレス機能非装備車)」

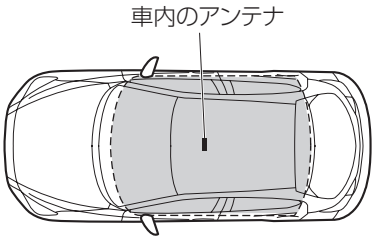
機能の作動範囲

キーを携帯し、作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

知識

- 次の場合、キーの作動範囲がせまくなったり、作動しない場合があります。
  - 電池が消耗しているとき
    電池交換の目安は 23ページをお読みください。
  - 強い電波、ノイズのある場所
- 次のような場所にキーを置くとエンジンの始動ができない場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
- 荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
  車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

エンジンの始動



ドアの開閉

⚠警告

必ず守る **ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認する。**
半ドアのまま走行すると、走行中に不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **お子さまにドアの開閉をさせない。**
手、足、首などをはさみ重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **半ドア警告灯が点灯したまま走行しない。**
走行中に、ドア、リヤゲートが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

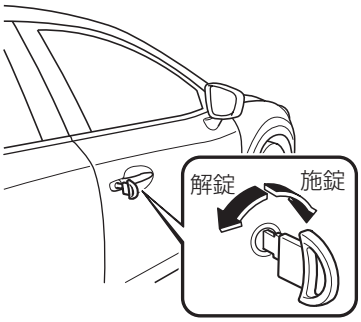
⚠注意

必ず守る **ドアを開閉するときは、強風や傾斜地等周囲の状況を確認して開閉してください。指をはさんだり、ドアが通行人に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

知識

- **車から離れるときは**
  必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。
- 次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - 携帯電話などの通信機器の近く

補助キーによる施錠 / 解錠



運転席ドアに、補助キーを差し込み、まわすとすべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。

キーによる施錠 / 解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)

知識

施錠 / 解錠するときに鳴るチャイムを鳴らないように設定を変更することができます。また、音量を変更することができます。

→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

変更する場合は次の手順で行なってください。

1. 電源ポジションを OFF にして、すべてのドア、リヤゲートを閉めます。
2. 運転席ドアを開けます。
3. 運転席ドアを開けてから、30 秒以内にキーのロックスイッチを 5 秒以上長押しします。すべてのドア、リヤゲートが解錠され、現在設定されている音量でチャイムが鳴ります。(現在の設定がチャイムを鳴らないように設定している場合は鳴りません。)
   キーのロックスイッチを押すごとに設定が切り替わり、設定される音量でチャイムが鳴ります。(チャイムを鳴らないように設定した場合は鳴りません。)
4. 次のいずれかを行なって設定の変更を終了します。
   - 電源ポジションを ACC か ON にする。
   - 運転席ドアを閉める。
   - リヤゲートを開ける。
   - 10 秒間キーの操作をしない。
   - キーのロックスイッチ以外のスイッチを押す。
   - リクエストスイッチを押す。

リクエストスイッチ

キーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リヤゲートが施錠 / 解錠します。

知識

施錠について

いずれかのドアまたはリヤゲートが開いていると施錠できません。

施錠するとき

リクエストスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。

解錠するとき

リクエストスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

知識

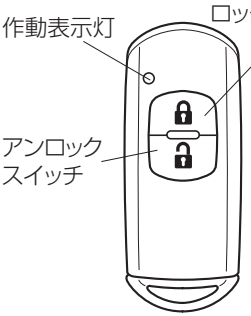
- リクエストスイッチで施錠した後は、ドア、リヤゲートが確実に施錠されたことを確認してください。
  リヤゲートについては電磁式リヤゲートオープナーを押さずにリヤゲートを動かし、閉まっていることを確認してください。
- リクエストスイッチを押さずに、自動的に施錠するように設定を変えることができます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
  オートロック機能
  キーを携帯してすべてのドア、リヤゲートを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると約 3 秒後に自動的にすべてのドア、リヤゲートを施錠します。(作動範囲から出ない場合でも約 30 秒後に自動的に施錠します。) ただし、次のようなときは施錠されません。
  - 車内に別のキーがあるとき。
  - ドア、リヤゲートが完全に閉まる前に作動範囲を出たとき。
- リクエストスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
  - いずれかのドアまたはリヤゲートを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。
- リクエストスイッチを押してからドアが解錠されるまでに数秒かかることがあります。

リモートコントロール機能

リモートコントロール機能を使用すると、すべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。
スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- 次の場合はリモートコントロール機能は作動しません。
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているとき
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。



施錠するとき
ロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。

解錠するとき
アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

知識

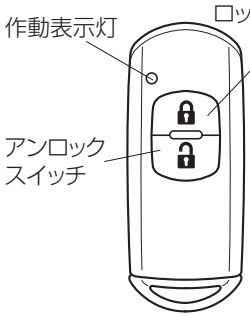
- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
  - いずれかのドアまたはリヤゲートを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。

キーによる施錠 / 解錠 (アドバンストキーレス機能非装備車)

リモートコントロール機能を使用すると、すべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。
スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- 次の場合はリモートコントロール機能は作動しません。
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているとき
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。

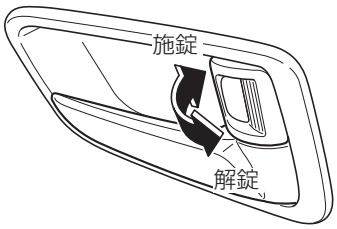


- 施錠するとき
  ロックスイッチを押します。
  非常点滅灯が 1 回作動します。
- 解錠するとき
  アンロックスイッチを押します。
  非常点滅灯が 2 回作動します。

知識

- **作動のお知らせについて**
  - スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
  - ロックスイッチまたはアンロックスイッチを連続して押すと、非常点滅灯が不規則に点滅することがあります。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
  - いずれかのドアまたはリヤゲートを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。

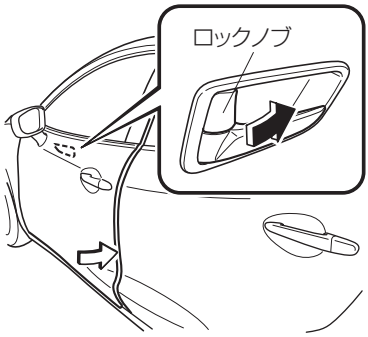
ロックノブによる施錠 / 解錠



運転席ドアのロックノブを操作します。すべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。

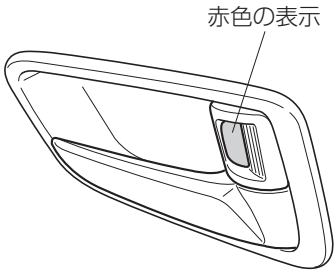
車外から操作するとき

助手席ドア、後席ドアは車内のロックノブを施錠側にし、ドアを閉めるだけで施錠できます。



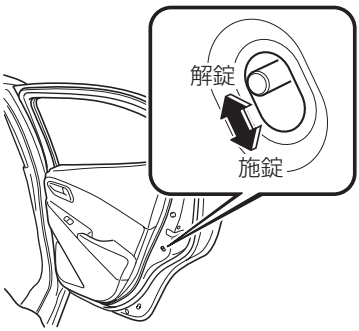
知識

- 運転席ドアはキーの閉じ込みを防止するために、ロックノブを施錠側にすると解錠側にはね返るためこの方法では施錠できません。
- キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
- ロックノブを解錠しているときは赤色の表示が見えます。



チャイルドプルーフの使いかた

お子さまをリヤシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。



チャイルドプルーフレバーを施錠側にして閉めたリヤドアは、車内のロックノブの位置に関係なく車内からは開けることができません。
お子さまの安全のため、両側のリヤドアのチャイルドプルーフレバーを施錠側にしてください。
ドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にし、車外のドアハンドルを引いてください。

リヤゲートの開閉

⚠警告

荷室内に人を乗せない。

急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

リヤゲートは必ず閉めてから走行する。

開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。

走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

⚠注意

必ず守る **リヤゲートを開ける前に、リヤゲートの雪や氷などの付着物を取り除いてください。リヤゲートを開けたときに、雪や氷などの重みでリヤゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **強風時にリヤゲートを開閉するときは、注意して開閉してください。リヤゲートが風にあおられると、急に閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **リヤゲートを開けるときは全開にして、リヤゲートが止まることを確認してください。リヤゲートを途中で止めると、振動や突風などでリヤゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。**

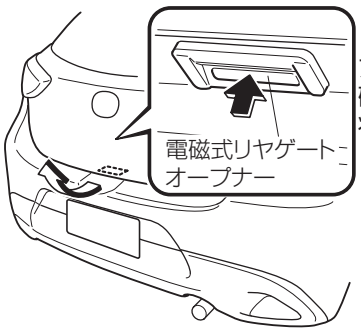
必ず守る **荷室の荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。**

禁止 **リヤゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リヤゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。**

禁止 **リヤゲートのダンパーステーを改造または交換しないでください。衝突等で変形または破損した場合や、異常を感じた場合はマツダ販売店へご相談ください。**

リヤゲート

リヤゲートを開けるとき

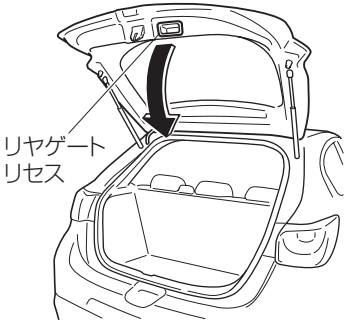


ドアを解錠し、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを持ち上げます。
アドバンストキーレス機能装備車はキーを携帯して電磁式リヤゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリヤゲートを開けることができます。

知識

- **（アドバンストキーレス機能装備車）**
  - ドア、リヤゲートが施錠されている状態から、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを開けるときは、すぐに解錠されないことがあります。
  - ドアが施錠されている状態で、車内にキーを入れたままリヤゲートを閉めると、リヤゲートは閉まりますが、施錠されません。電磁式リヤゲートオープナーを押すことにより、リヤゲートを開けることができます。ただし、この操作をしてもリヤゲートを開けることができないときは、リヤゲートを押さえつけるようにして完全に閉めてから電磁式リヤゲートオープナーを押して開けてください。
- 電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けずに一定の時間が経過するとリヤゲートが少し浮いた状態のままリヤゲートを開けることができなくなります。
  - **リヤゲートを開ける場合**
    もう一度、電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けてください。
  - **リヤゲートを閉める場合**
    一度、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを開け、1 秒以上待ってから閉めてください。
- バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リヤゲートの解錠ができず開けられなくなったときは、応急処置を行なうとリヤゲートを開けることができます。
  → 567ページ「リヤゲートが開けられなくなったとき」

リヤゲートを閉めるとき



リヤゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。リヤゲートリセスを使用すると便利です。
リヤゲートを閉めたあとは、電磁式リヤゲートオープナーを押さずにリヤゲートを動かし、半ドアでないことを確認してください。

⚠警告

必ず守る

リヤゲートを閉めたあとは、確実にロックされていることを確認する。

走行中にリヤゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

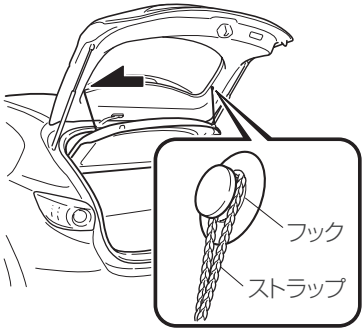
リヤゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

トノカバーの使いかた グレード/仕様別装備

⚠注意

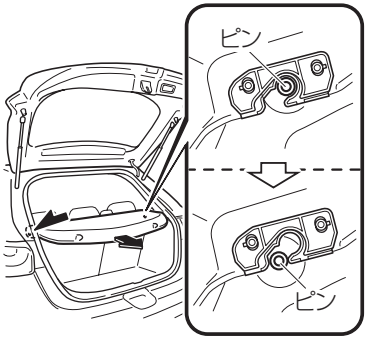
必ず守る **トノカバーの上に重い荷物を置くなどして、無理な力をかけないでください（最大荷重約 5kg）。無理な力がかかると、トノカバーが変形または、損傷するおそれがあります。また、リヤゲートが下がり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **トノカバーが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま使用すると、走行中不意にトノカバーがはずれて、けがをするおそれがあります。**



ストラップをリヤゲートのフックにかけておくと、リヤゲートと同時に開閉します。

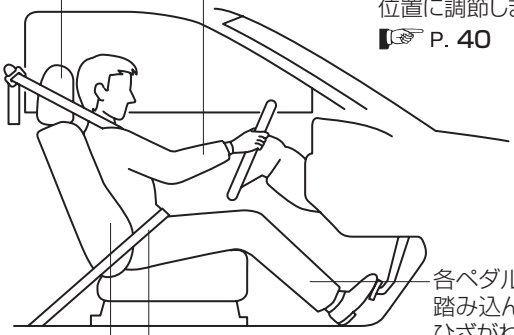
トノカバーを取り外すとき



1. フックからストラップをはずします。
2. トノカバーの後ろ側を持ち上げて後方へ引っ張り、ピンからはずします。
3. トノカバーの前側を持ち上げ、トノカバーをはずします。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節してください。



ヘッドレストの中央が耳の高さにくる位置に調節します。
☞ P. 45

ひじがわずかに曲がり、ハンドル操作が楽にできる位置に調節します。
☞ P. 40

各ペダルを踏み込んだときに、ひざがわずかに曲がる位置に調節します。
☞ P. 40

シートに深く腰かけたときに、背もたれと背中が離れない位置に調節します。
☞ P. 40

シートベルトが正しく着用できる位置に調節します。
☞ P. 40

⚠警告

シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。

必ず守る

走行中に行なうと、運転姿勢が不安定になったり、前方不注意になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートが損傷した場合は必ずマツダ販売店で点検を受ける。

必ず守る

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシート内部のエアバッグシステムの部品が本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。衝突後やシートクッションが破れたり、ウレタンまで達するほどの損傷の場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

禁 止

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート

⚠警告

禁止

背もたれは必要以上に倒さない。

急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

シートを操作する際は、操作する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

フロントシートの調節

⚠警告

必ず守る

操作後は確実にロックされていることを確認する。

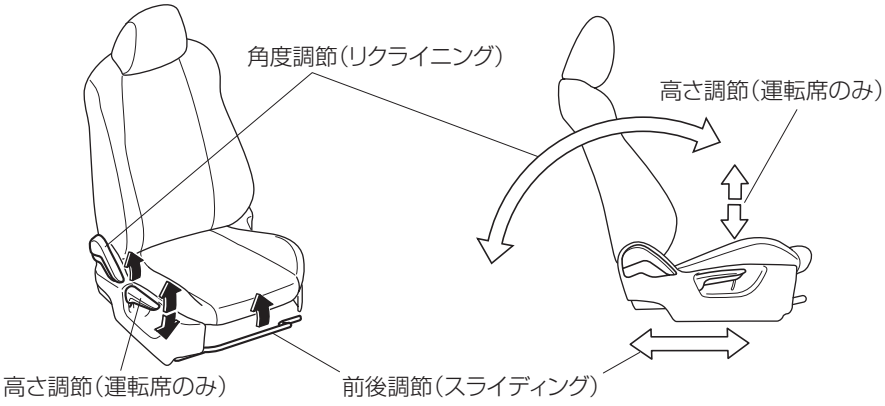
走行中シートが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

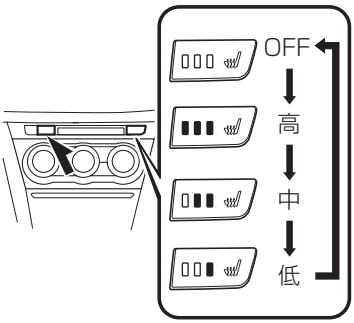
シートを前後に動かすときや、後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、シートが急に動き、けがをするおそれがあります。

フロントシートの使いかた



シートヒーターの使いかた グレード/仕様別装備

シートを温めることができます。



電源ポジションが ON のとき、スイッチを押すと作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
スイッチを押すごとに、図のように作動状態が切り替わります。

⚠注意

必ず守る **次のような方がご使用になる場合は、熱すぎたり、低温やけどを起こしたりするおそれがありますので、十分注意してください。**

- **乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方**
- **皮膚の弱い方**
- **疲労の激しい方**
- **深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方**

禁止 **毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどをするおそれがあります。**

禁止 **仮眠するときは使用しないでください。低温やけどをするおそれがあります。**

禁止 **突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピンなどでシートクッションをつきささないでください。シートが異常加熱し、低温やけどをするおそれがあります。**

禁止 **シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。**

知識

エンジン回転中に使用してください。エンジンを止めたままで、シートヒーターを長時間使用するとバッテリーがあがるおそれがあります。

リヤシートの操作

⚠注意

禁止 **シートの操作をするときは、シートの動く部品周辺やサイドトリムなどに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。**

荷室を作るとき

リヤシートの背もたれを倒すと荷室として広げることができます。

⚠警告

禁止 **倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて走行しない。**

シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定する。**

固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **荷物を運ぶときは、シート背もたれの高さを越えないようにする。**

後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

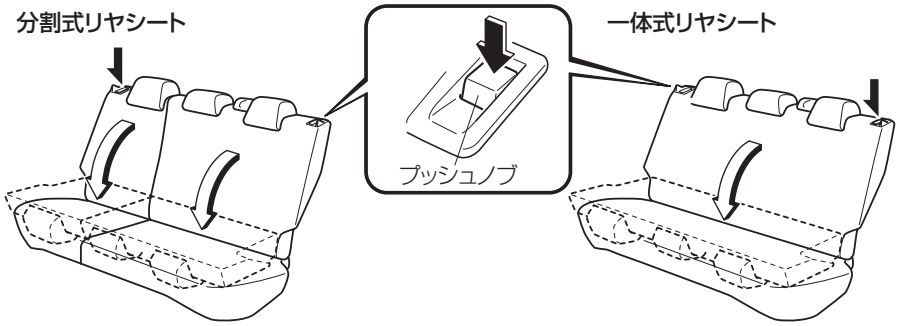
背もたれを折りたたむとき

⚠注意

必ず守る **背もたれを折りたたむ前にフロントシートの位置を確認してください。 フロントシートの位置によっては、リヤシートの背もたれがフロントシートに当たって、フロントシートやシートバックポケットが損傷、破損したり、背もたれを折りたたむことができなくなったりする場合があります。また、必要に応じてリヤシート左右席のヘッドレストは、取りはずしてください。**

必ず守る **背もたれを前に倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、プッシュノブを押す指などにけがをするおそれがあります。**

1. ヘッドレストを一番下の位置に下げます。
2. プッシュノブを押して背もたれを前に倒します。



3. リヤシートのシートベルトをベルトクリップにかけます。

もとにもどすとき

⚠警告

必ず守る

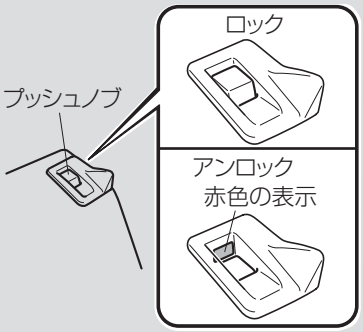
背もたれをもとにもどすときは、3 点式シートベルトがベルトクリップにかかっていることを確認する。

ベルトクリップにかけずに背もたれをもとにもどすと、シートベルト表皮を傷つけるおそれがあり、万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

背もたれをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認する。

プッシュノブ後部に赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



1. ベルトクリップにシートベルトがかかっていることを確認します。
2. 背もたれを起こし、後ろに押しつけロックさせます。

3. シートベルトがリヤシートに引っかかっていないか、ねじれていないかを確認して、シートベルトをベルトクリップからはずします。

ヘッドレストの使いかた

すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

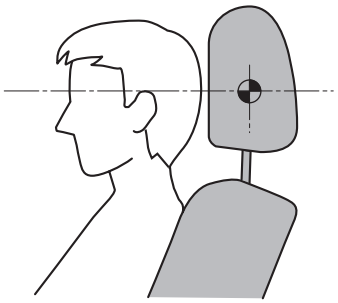
ヘッドレストを調節するとき

⚠警告

禁止

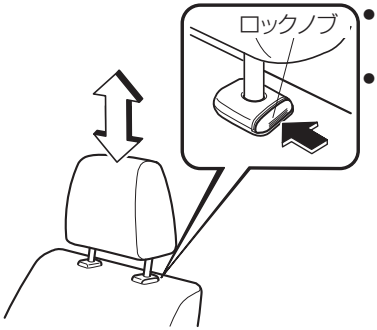
高さを調節しないままで走行しない。

高さを調節しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、リヤシート（全席）のヘッドレストは引き上げた状態で使用してください。



ヘッドレストの中央が、耳の上部と同じ高さになるように調節してください。

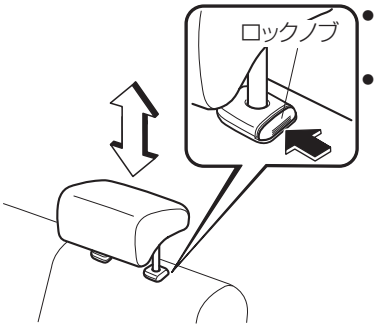
フロントシート



- 高くするとき
  そのまま引き上げます。
- 低くするとき
  ロックノブを押したまま下げます。

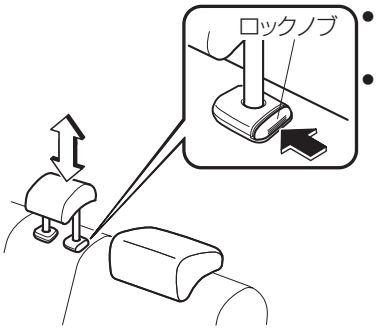
シート

リヤシート左右席



- 使用するとき
  ロック位置まで引き上げます。
- 格納するとき
  ロックノブを押したまま下げます。

リヤシート中央席



- 使用するとき
  ロック位置まで引き上げます。
- 格納するとき
  ロックノブを押したまま下げます。

ヘッドレストを脱着するとき

- ヘッドレストを取りはずすとき
  ロックノブを押しながら引き上げます。
- ヘッドレストを取り付けるとき
  ロックノブを押しながら差し込みます。

⚠警告

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。

取りはずした状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認するため、持ち上げる。

ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、効果を発揮できず、思わぬけがをするおそれがあります。

⚠注意

ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きをまちがえて取り付けると、衝突時などにヘッドレストがはずれ、けがをするおそれがあります。

フロントシート・リヤシートそれぞれのヘッドレストは、各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。

ハンドルの調節

⚠警告

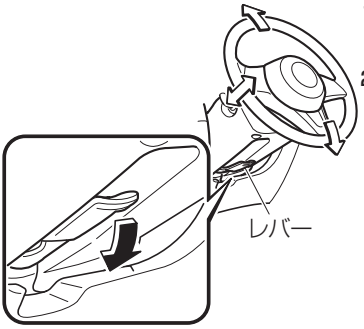
必ず守る **調節は必ず車両を停止した状態で行なう。**

走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。**

走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドル操作が適切にできる位置に調節することができます。



1. レバーを下げて、ハンドルを適切な位置に調節します。
2. 調節後は、レバーを押し上げて固定します。

知識

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。レバーが上がりにくい場合はハンドルを前後に少し動かしてレバーを押し上げてください。

ドアミラーの操作

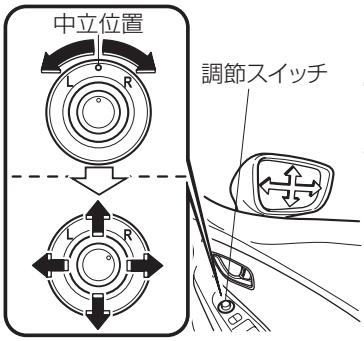
⚠警告

必ず守る **調節は走行前に行なう。**

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラーの角度調節

電源ポジションが ACC または ON のとき調節ができます。



1. 調節スイッチを運転席側 **R**または助手席側 **L**のどちらか調節したいミラー側にまわします。
2. 調節スイッチを操作して、後方が十分確認できるように調節します。
3. ミラーの調節後は、調節スイッチを中立位置にもどします。

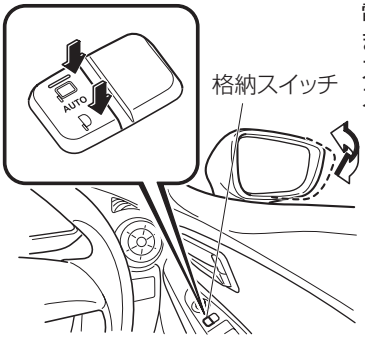
ドアミラーを格納するとき

⚠注意

禁止 **ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。**

必ず守る **電動格納ミラーはスイッチで操作してください。手動で操作すると、ミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。**

ドアミラー



電源ポジションが ACC または ON のときに格納できます。
スイッチの下側 ρを押すと格納されます。
スイッチの上側 ρを押すともとにもどります。

自動格納機構 グレード/仕様別装備

電源ポジションが OFF または ACC のときに作動します。
自動格納ドアミラースイッチを AUTO の位置（中立位置）にすると、ドアの施錠 / 解錠に連動して自動でドアミラーが格納 / 展開します。
また、電源ポジションを ON またはエンジンを始動させるとドアミラーが自動で展開します。

知識

寒冷時はドアミラーが自動で格納 / 展開しないことがあります。

自動で格納 / 展開しない場合は、氷や雪を取り除き自動格納ドアミラースイッチの上側または下側を押してドアミラーを格納 / 展開して下さい。

キー OFF 後作動機構

ドアミラーは、電源ポジションを ON から OFF にした後でも、約 40 秒間は角度調節や格納することができます。

ルームミラーの操作

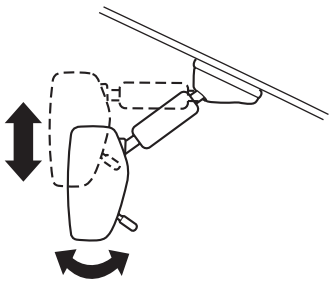
⚠警告

必ず守る

調節は走行前に行なう。

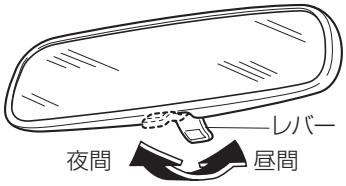
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ルームミラーの角度 / 高さ調節



ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように調節します。

後続車のヘッドランプがまぶしいとき



通常はレバーを押した状態にします。
夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いて切り替えます。

シートベルト

シートベルトの種類

シート	シートベルトの機構
フロントシート	プリテンショナー & ロードリミッター機構付 ELR3 点式シートベルト
リヤシート左右席	ロードリミッター機構付 ELR3 点式シートベルト
リヤシート中央席	ELR3 点式シートベルト

⚠警告

必ず守る

シートベルトは正しく着用する。

正しく着用していないと、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- **プリテンショナー機構について**
  - 車両前方または側方 *1から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。

    *1 サイド / カーテンエアバッグ装備車のみ
  - プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- **事故などにあったときは**

  プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

ELR (緊急時固定) 機構

3 点式シートベルトには ELR (緊急時固定) 機構が装備されています。
シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー機構

フロントシートベルトには、プリテンショナー機構が装備されています。
車両前方または側方[*1]から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

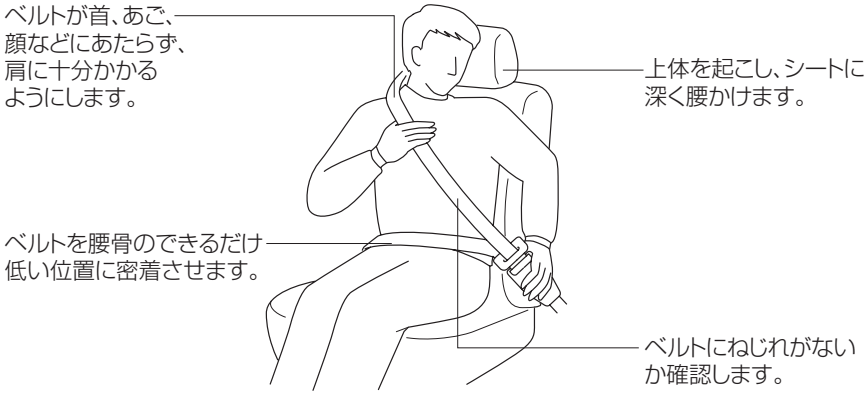
*1 サイド / カーテンエアバッグ装備車のみ

ロードリミッター機構

ロードリミッターは、車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。
シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

シートベルトの正しい着用のしかた

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



シートベルト

⚠警告

着用について

シートベルトは全員が着用する。

着用しないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトは正しく着用する。

急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されないため車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せる際は、必ずお子さま専用シートを使用する。

シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。

1 つのシートベルトを同時に 2 人以上で使用しない。

2 人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの改造や交換をしない。また、クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。

万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

ベルトがねじれた状態で使用しない。

ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。

ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれは必要以上に倒さない。

急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

必ず守る

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。

シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。

ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。

禁止

シートベルトのバックルの中に異物を入れない。

異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

必ず守る

お子さまはできるだけリヤシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させる。

お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

必ず守る

シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。

ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

禁 止

シートベルトを分解しない。

分解すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

事故などにあったときは、衝撃でシートベルト本来の機能が損なわれているおそれがあるので、必ずマツダ販売店で点検を受ける。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

プリテンショナー機構付ベルトが装備された車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。

プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

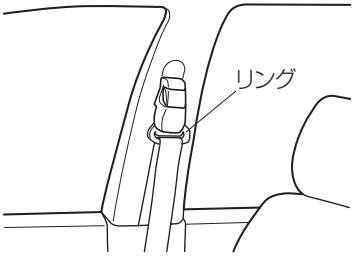
禁 止

プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしない。

正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。**



3点式シートベルト

シートベルト着用忘れチャイム

運転席 / 助手席シートベルトを着用していないまま、車速が約 20km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。（鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。）
シートベルトを着用すると鳴り止みます。

シートベルトを着用するとき

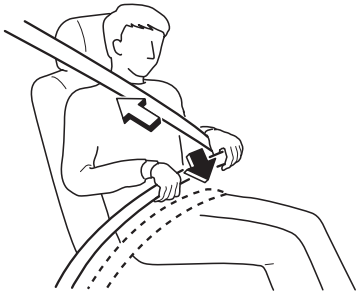
1. プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。
2. ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

知識

ベルトがロックして引き出せないときは

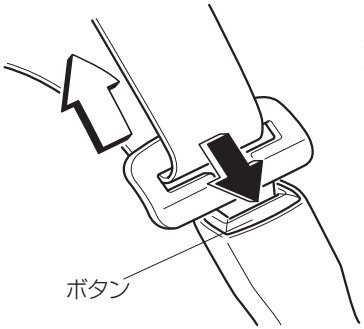
一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

3. ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。



4. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。

シートベルトをはずすとき

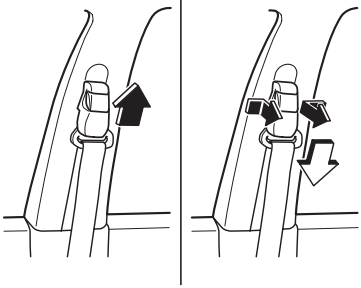


はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。

シートベルトの高さ調節

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターがついています。
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。

高くするとき　低くするとき



1. 高くするときは、そのまま上に動かします。
   低くするときはボタンを引いたまま下げます。
2. 調節したあとは、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

お子さま専用シートについて

シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リヤシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リヤシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

⚠警告

必ず守る

お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。

お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。

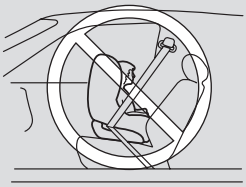
正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

必ず守る

助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。

エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



警告ラベル

知識

ISO は International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略です。

お子さま専用シートの種類

UNECE 44 法規に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 種類に分類されます。

知識

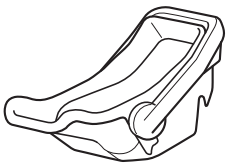
- UNECE は United Nations Economic Commission for Europe（国連欧州経済委員会）の略です。
- UNECE 44 法規は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

グループ	体重
0	10kg まで
0 +	13kg まで
I	9 ～ 18kg

グループ	体重
II	15 ～ 25kg
III	22 ～ 36kg

本書では、3 種類のお子さま専用シートについて説明します。
取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
UNECE 44法規の
グループ0、0+に相当



チャイルドシート
UNECE 44法規の
グループIに相当

ジュニアシート
UNECE 44法規の
グループII、IIIに相当

*1 ブースターシートを使用するときは、必ず取り付ける
シートのヘッドレストを取り付けてください。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

⚠警告

必ず守る

お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。

誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 (ISOFIX 対応タイプ)

リヤシートにお子さま専用シートを取り付けるときは、フロントシートとお子さま専用シートがあたらないようにフロントシートの位置を調節してください。
→ 40ページ「フロントシートの調節」

質量グループ	サイズ等級	器具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート (外席)
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
		(1)	X
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
		(1)	X
0 + (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
		(1)	X
I (9 ～ 18kg まで)	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
		(1)	X
II (15 ～ 25kg まで)		(1)	X

質量グループ	サイズ等級	器具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート (外席)
III (22 ～ 36kg まで)		(1)	X

上表の記号について :
(1) サイズ等級識別表示 (A ～ G) のないお子さま専用シートについては、お子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。
IUF =この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。
IL = 「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
X =お子さま専用シートを取り付けることはできません。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 (シートベルト固定タイプ)

リヤシートにお子さま専用シートを取り付けるときは、フロントシートとお子さま専用シートがあたらないようにフロントシートの位置を調節してください。
→ 40ページ「フロントシートの調節」

質量グループ	着座位置 (または他の場所)		
	助手席	リヤシート (外席)	リヤシート (中央席)
0 (10kg まで)	X	U	X
0 + (13kg まで)	X	U	X
I (9 ～ 18kg まで)	UF	U	X
II (15 ～ 25kg まで)	UF	U	X
III (22 ～ 36kg まで)	UF	U	X

上表の記号について :
U =この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
UF =この質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
X =お子さま専用シートを取り付けることはできません。

チャイルドシートを固定するとき

シートベルトを使用するとき

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。
また、取り付けるシートのヘッドレストを取りはずしてください。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、取り付けるシートのヘッドレストを取り付けてください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ & トップテザーアンカレッジ

リヤシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
この固定ロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート (チャイルドシート固定ロアアンカレッジ) のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠警告

必ず守る

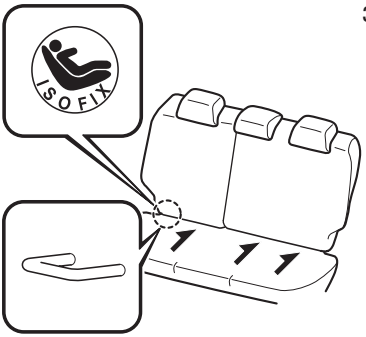
チャイルドシートを取り付けるときは、固定ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみこんでいないことなどを確認する。

異物やシートベルトなどをはさみこむとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

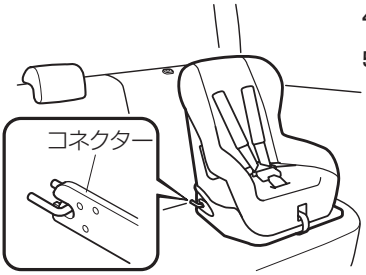
📖知識

チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

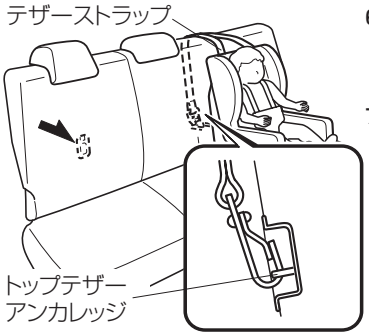
1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
   → 40ページ「フロントシートの調節」
   フロントシートが確実に固定されていることを確認します。
2. リヤシートが確実に固定されていることを確認します。



3. シートクッションにある縦の切れ目を広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。



4. ヘッドレストを取りはずします。
5. チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。



6. チャイルドシートのテザーストラップをイラストのように通して、トップテザーアンカレッジにかけます。
7. テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

8. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

⚠警告

禁止

トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。

チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

窓ガラスの開閉

電源ポジションが ON のとき、パワーウインドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。

⚠警告

必ず守る **窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。**

特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **お子さまにパワーウインドースイッチの操作をさせない。**

万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。**

お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **窓から手や顔を出させない。**

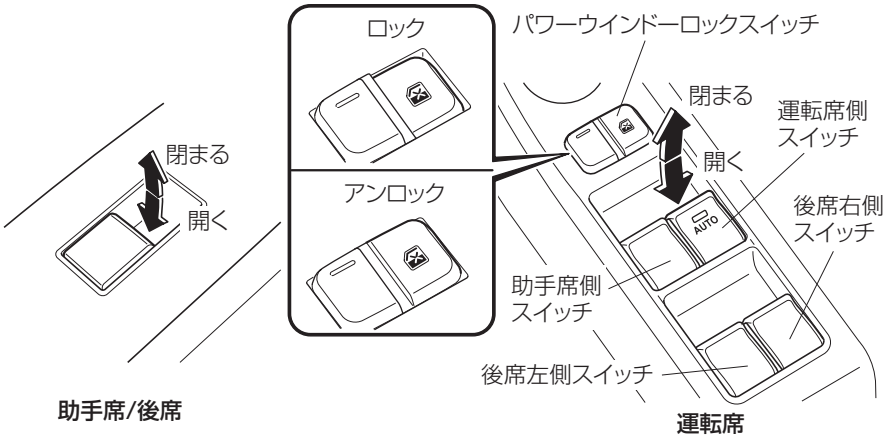
走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

全開 / 全閉したあともスイッチを操作し続けると、窓ガラスを開閉できなくなることがあります。

窓ガラスの開閉ができないときはしばらく待って、再度操作してください。

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。
助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。



便利な装備について

自動開閉機構

運転席に装備しています。
スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

知識

自動で全開 / 全閉できないときは

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき、または全開 / 全閉したあとも、スイッチを操作し続けたときは、自動で全開 / 全閉できなくなります。

次の操作で復帰させてください。

1. 電源ポジションを ON にします。
2. スイッチを押して窓ガラスを全開にします。
3. スイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続けます。

キー OFF 後作動機構

運転席に装備しています。
電源ポジションを ACC または OFF にしたあとでも、約 40 秒間は開閉することができます。

安全装備について

はさみ込み防止機構

運転席に装備しています。
閉めるときに、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが閉まるのを停止し、自動的に途中まで開きます。はさみ込み防止機構は次のようなときに作動します。

- 電源ポジションが ON で窓ガラスを自動で閉めているとき。
- 電源ポジションを OFF または ACC にしてから約 40 秒の間に窓ガラスを閉めているとき。

⚠注意

必ず守る

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- **窓ガラスが閉まりきる直前**
- **スイッチを引き続けたままの状態**

知識

- 走行条件や環境により、窓ガラスに異物をはさんだときと同じ衝撃または荷重が加わると、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- 万一、はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けてください。

給油するとき

⚠警告

必ず守る **燃料補給時には必ずエンジンを止める。また、燃料補給口にはタバコなどの火気を近づけない。**

火災につながるおそれがあります。

必ず守る **燃料を補給するときは、必ず次の点を守る。**

身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- **燃料補給作業は必ず一人で行ない、補給口に他の人を近づけないでください。**
- **静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。**
- **静電気の放電を防ぐため、フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なってください。**
- **再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。**

必ず守る **給油ノズルは確実に燃料補給口へ差し込む。**

給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

必ず守る **給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しない。**

オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。

必ず守る **気化した燃料を吸い込まないよう注意する。**

人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

燃料補給口

⚠注意

(SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない。
→570ページ「燃料」
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、灯油、高濃度アルコール含有燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。

- **エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。**
- **エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。**
- **ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。**

(SKYACTIV-D 1.5)

指定燃料以外の燃料を補給したり、燃料添加剤や水抜き剤を使用しない。
→570ページ「燃料」
ガソリンや灯油、混合率が 5% を超えるバイオディーゼル燃料、高濃度アルコール含有燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。

- **エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。**
- **エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。**
- **ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。**

燃料を補給するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。

燃料補給作業中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗装はがれの原因となります。

燃料を補給する際には、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

知識

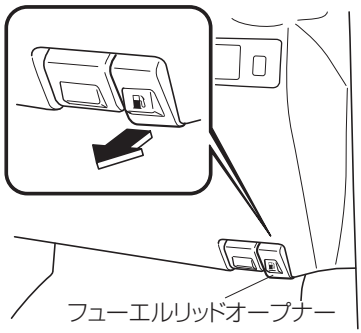
(SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)

バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。

バイオ燃料混合ガソリンは、日本工業規格（JIS）や「揮発油等の品質の確保に関する法律」が定めたガソリンの規格に合致しており、製品として使用に問題ないことが確認されています。バイオ燃料混合ガソリンの商品名としては「バイオ・ガソリン」、および「いい！スリー」の２つがあり、いずれの製品も使用できます（商品マーク参照）。

燃料補給口は車の左側後方にあります。燃料計が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

フューエルリッドの開閉



運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引くと開きます。
閉めるときはフューエルリッドが確実にロックするまでフューエルリッドを押しつけます。

フューエルキャップの開閉

⚠警告

必ず守る

フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずす。

急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

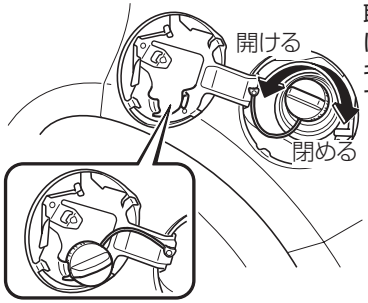
フューエルキャップは確実に閉める。

キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

⚠注意

禁 止

純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。



取りはずしたキャップはフューエルリッドの内側にかけます。
キャップを閉めるときは、カチッと 1 回音がするまで締め付けてください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムはキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。
万一、キーが電池切れや故障の場合は、電池切れ時のエンジン始動手順を行なうとイモビライザーシステムが解除され、エンジンを始動できます。

⚠注意

必ず守る

キーの故障を防ぐために次のことを守る。

- **システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。**
- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**

システムの作動

電源ポジションを ON から ACC または OFF にするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。

システムの解除

登録されたキーで電源ポジションを ON にするとシステムが解除され、エンジンを始動できます。そのときセキュリティ表示灯は約 3 秒間点灯した後消灯します。

エンジンが始動しないときは

次のような場合、エンジンの始動ができない場合があります。

- キーを (車内でも) 感知しにくい場所に置いている。
- 携帯電話、テレビ、ラジオ、トランシーバーなどからの電波でシステムが影響を受けている。

処置方法

一度、電源ポジションを OFF にもどし、キーを別の場所に置いて、再度エンジンを始動してください。
→ 23ページ「アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード/仕様別装備 」
→ 25ページ「キーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード/仕様別装備 」
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯 / 点滅したままなど)、一度電源ポジションを OFF にもどし、しばらく待って再度エンジン始動してください。
3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

運転中にセキュリティ表示灯が点灯 / 点滅した場合は

エンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できないことがあります。

知識

イモビライザーシステムを修理するときは

コードを再登録するために、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。

キーを追加するときは

- キーを紛失したときのために、スペアのキーを保管しておいてください。
- キーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でキーを追加することはできません。

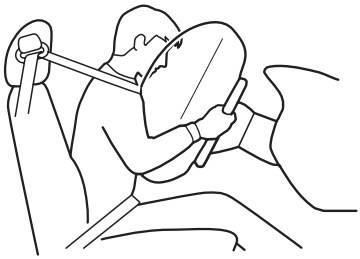
キーを紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。登録されていないキーではエンジンを始動することができません。

SRS エアバッグシステムについて

SRS とは Supplemental Restraint System（サプルメンタルレストレイントシステム）の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションが ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

エアバッグの種類

運転席エアバッグ

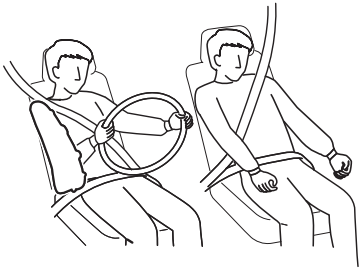


運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。

助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。

サイドエアバッグ グレード/仕様別装備



サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。

カーテンエアバッグ グレード/仕様別装備

カーテンエアバッグはフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグの注意点

⚠警告

お車に乗る前に

必ず守る

運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用する。

SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

禁 止

ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしない。

エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

禁 止

シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。

エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

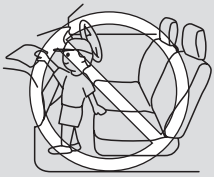
⚠警告

お子さまを乗せるときは

必ず守る

お子さまはできるだけリヤシートに座らせ必ずシートベルトを着用させる。

シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

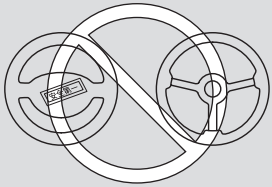


こんなことにも注意

禁 止

ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。

万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

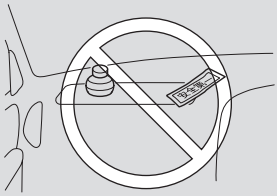


⚠警告

禁止

インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置かない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。

エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止

車両前部にグリルガードなどを装着しない。

SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

サスペンションの改造をしない。

車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしない。

正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

メンテナンスや廃車について

事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。

必ず守る

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店に相談する。

必ず守る

これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **車両前部または側部の修理**
- **フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の修理**
- **オーディオなど用品の取りはずし、取り付け**

車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。

必ず守る

不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

サイドエアバッグについて

禁止

フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。

フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リヤシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

フロントシートにシートカバーを使用しない。

シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。

サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

フロントシートの下に荷物などを置かない。

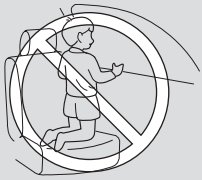
フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

カーテンエアバッグについて

必ず守る

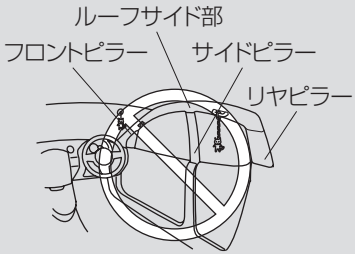
ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。
カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁 止

フロント窓ガラス、リヤ窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。

カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁 止

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。**

禁止 **ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドおよびカーテンエアバッグが作動するおそれがあります。**

知識

エアバッグの作動について

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物（カス）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

エアバッグの作動条件について

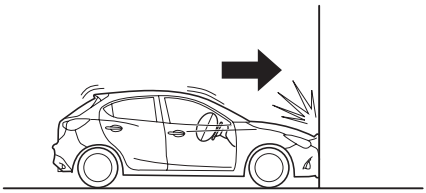
運転席 / 助手席エアバッグは正面衝突において、サイド / カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。
したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動するとき

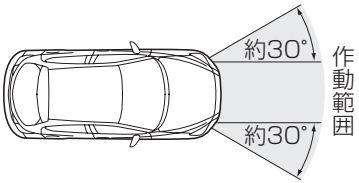
運転席 / 助手席エアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

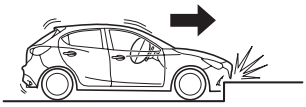


正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき



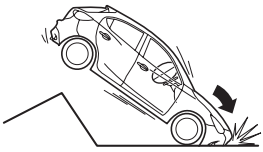
次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

中央分離帯や縁石などに衝突したとき



深い穴や溝に落ちたとき

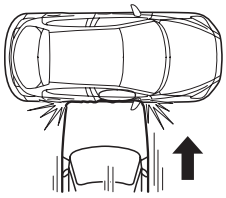
ジャンプなどで地面にぶつかったとき



サイド / カーテンエアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に衝突されたとき

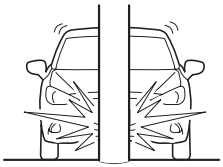


エアバッグが作動しにくいとき

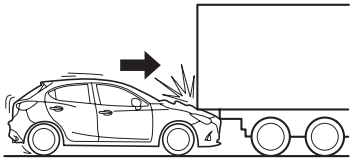
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席 / 助手席エアバッグ

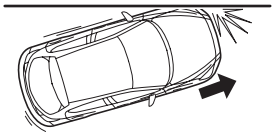
立木や電柱に衝突したとき



トラックの下などに潜り込んだとき

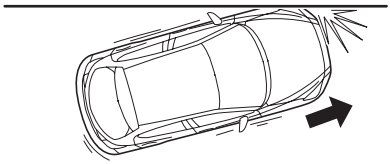


斜め前方に衝突したとき

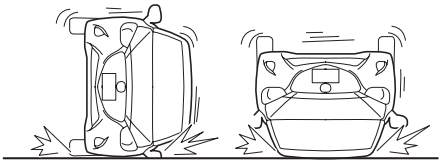


サイド / カーテンエアバッグ

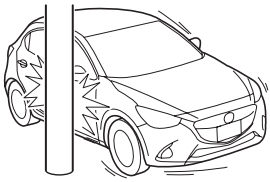
斜め前方に衝突したとき



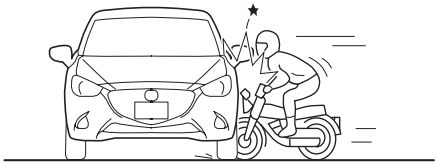
横転や転覆したとき



車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



2輪車が側面に衝突したとき

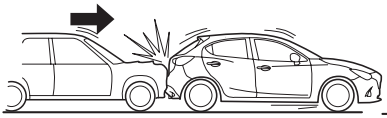


エアバッグが作動しないとき

次のようなときには作動しません。

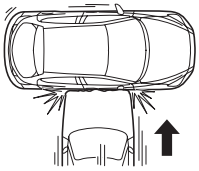
運転席 / 助手席エアバッグ

後ろ方向から衝突されたとき



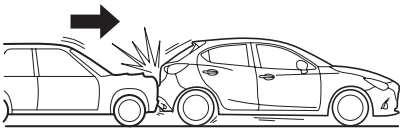
横転や転覆したとき

横方向から衝突されたとき

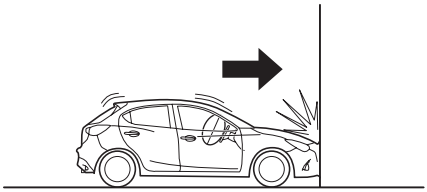


サイド / カーテンエアバッグ

後ろ方向から衝突されたとき



正面衝突したとき



EDR（イベントデータレコーダー）について

本車両は、SRS エアバッグ制御のためのコンピュータを搭載しています。
そのコンピュータは、SRS エアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、次のデータを記録・蓄積する EDR を装備しています。

記録するデータ

EDR は下記のような情報を記録します。

- 車速
- 運転席乗員のシートベルト装着有無
- 助手席乗員のシートベルト装着有無
- エアバッグ作動に関する情報（加速度波形等）
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識

EDR は会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダの委託先は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

積雪、寒冷時の取り扱い

お車に乗る前に

ルーフに雪が積もっているときは

- 走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
  走行前に取り除いてください。
- ルーフの雪を取り除くときは、アンテナに注意して取り除いてください。アンテナを損傷するおそれがあります。

ガラスに雪や霜がついているときは

- 視界を確保するため、雪や霜を取り除いてください。
- プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。
  プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
  無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。
  無理に動かそうとすると故障の原因になります。

お車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

2 運転するときに

安全なドライブのために 94

運転するとき 94
運転装置について 96
こんなことにも注意 96
駐停車するとき 100
お子さまを乗せるとき 101

エンジンの始動と停止 102

電源ポジション（エンジンスイッチ） 102
エンジンの始動 104
エンジンの停止 112
i-stop について 113

i-ELOOP について 123

i-ELOOP とは 123

燃費モニター 126

燃費モニター 126

メーター、警告灯、表示灯の見方 130

メーター 130
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 139
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 142
警告灯、表示灯 148

トランスミッションの使いかた 156

マニュアルトランスミッション 156
オートマチックトランスミッション 158

ドライブセレクションについて 170

ドライブセレクションとは（オートマチック車） 170

ブレーキ 172

ブレーキの操作 172

i-ACTIV AWD 173

i-ACTIV AWD について 173

スイッチの使いかた 174

ランプスイッチ 174
方向指示器 180
非常点滅灯スイッチ 181
フロントフォグランプスイッチ 182
リヤフォグランプスイッチ 183
ワイパー / ウォッシャースイッチ ... 184
ヘッドランプウォッシャースイッチ 188
リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチ 189
ホーン 190

ABS について 191

ABS とは 191

ヒルローンチアシスト (HLA) について 192

ヒルローンチアシスト (HLA) とは 192

2 運転するときに

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について 193

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは 193

トラクションコントロールシステム (TCS) について 194

TCS とは 194

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について 195

DSC とは 195

i-ACTIVSENSE について 198

i-ACTIVSENSE とは 198
アダプティブ ･LED･ ヘッドライト (ALH) とは 201
車線逸脱警報システム (LDWS) とは 204
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは 210
車間認知支援システム (DRSS) とは 215
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは 218
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは 220
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは 224
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F) とは 236
AT 誤発進抑制制御とは (オートマチック車) 242
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは 245
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは (オートマチック車) 251
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは 254
フォワードセンシングカメラ (FSC) について 257
レーザーセンサー (フロント) について 261
レーダーセンサー (リア) について 263
レーダーセンサー (フロント) について 265
超音波センサー (リヤ) について ... 268

2 運転するときに

クルーズコントロールについて 269

クルーズコントロールとは..... 269

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について 275

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは (SKYACTIV-D 1.5)..... 275

駐車支援システムについて 276

駐車支援システムとは 276

メンテナンスモニター 285

メンテナンスモニター 285

様々な状況での運転のときは 287

悪天候での運転..... 287

環境保護のために 289

経済的な運転..... 289

運転するとき

走行中はエンジンを止めない

走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避けてください。スリップするおそれがあります。また、走行中にチェンジレバーをニュートラル位置に入れたままにしないでください。エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよく効きます。

オートマチック車は走行中にセレクトレバーを N にいれない

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態（ハイドロプレーニング現象）になるおそれがあります。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストをするだけではなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響を及ぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で

- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

警告灯が点灯 / 点滅したら車を止める

走行中に警告灯が点灯 / 点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置を行なってください。警告灯の点灯 / 点滅を無視して運転を続けるとエンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パンクやバースト (破裂) してもあわてない

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

スタックした状態から脱出するときは注意する

523ページの「スタックしたとき」をよくお読みください。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じるとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

運転装置について

オートマチック車を運転するとき

166ページの「オートマチック車を運転するときに」、158ページの「オートマチック車の特性」、104ページの「エンジンをかける前に」をよくお読みください。

4WD 車の特性

173ページの「i-ACTIV AWD について」、173ページの「走行するときは」をよくお読みください。

タイヤについて

484ページの「タイヤの点検」、474ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、518ページの「タイヤチェーンの取り付け」をよくお読みください。

けん引してもらうとき

548ページの「けん引してもらうとき」をよくお読みください。

こんなことにも注意

発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

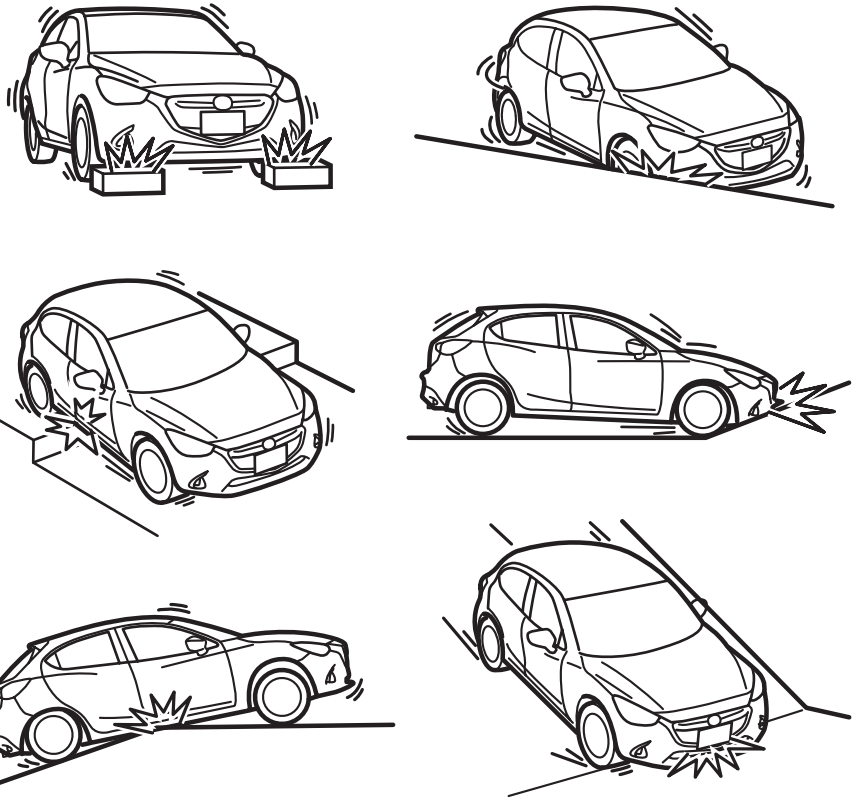
運転中は携帯電話を使用しない

運転しながらハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凸凹やわだちのある道路の走行



違法改造はしない

474ページの「違法改造はしない」をよくお読みください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

474ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、484ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

484ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

474ページの「部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する」をよくお読みください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

474ページの「ナンバープレートは正しい位置に取り付ける」をよくお読みください。

アクセサリーを取り付けない

フロントガラスや窓ガラス、また、その周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、アクセサリーの吸盤が凸レンズの働きをして、火災につながるおそれがあります。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

545ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

476ページの「点検整備について」をよくお読みください。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない

545ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

バッテリーの取り扱いに気をつける

540ページの「バッテリーあがりについて」をよくお読みください。

航空機内ではキーを操作しない

19ページの「キー」をよくお読みください。

一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色 / 無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい / 吐き気 / 頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死に至ることがあります。万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気を取り入れてください。そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

ターボ車の特性

ターボ装置は、エンジンに多量の空気を過給することにより大きな出力を得る装置で、非常に精密に作られています。
またその潤滑や冷却は、エンジンオイルによって行われています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次の点を守ってください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは必ず指定された期間で交換してください。
- エンジン始動直後の空ふかし、急加速は行なわないでください。
- ターボ装置の冷却のため、高速走行や登坂走行の直後は、エンジンを停止する前にアイドリング運転を行なってください。ただし、i-stop が作動したときはアイドリング運転は不要です。

運転状況	アイドリング時間
高速走行	約 1 分
特殊な連続走行または急な登坂走行	約 2 分

駐停車するとき

燃えやすい物のそばに車を止めない

車を止める時には、次の点を守ってください。

- そばに枯れ草など、燃えやすいものがない場所に止めてください。走行したあとは排気管が高温になっているため、火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながるおそれがあります。

仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー / セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

長時間停車するときは空調を外気導入にする

エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へ入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

坂道駐車はパーキングブレーキをしっかりかける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをしっかりかけ、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P に入れてください。
急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車の移動はエンジンをかける

車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

お子さまを乗せるとき

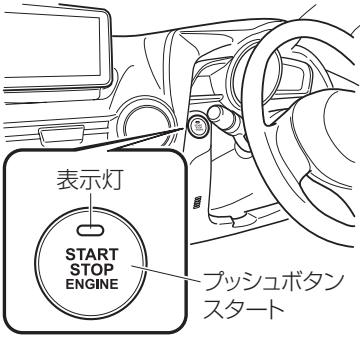
車から離れるときはお子さまも一緒につれていく

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

電源ポジション (エンジンスイッチ)

各位置の働き



マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏まない状態で、プッシュボタンスタートを押すごとに OFF、ACC、ON の順に電源ポジションが切り替わります。ON からもう一度、プッシュボタンスタートを押すと OFF へもどります。

電源ポジション	働き
OFF	プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、消灯します。
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどの電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。
ON	全ての電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。 (エンジン回転中は、プッシュボタンスタートの表示灯は消灯します。)

知識

- **ハンドルがロックされているときは**
  プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点滅します。ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。
- **(SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)**
  プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションを ON のまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。電源ポジションを ACC（オートマチック車は、セレクトレバーが P の位置になっていること）で放置した場合は、約 25 分間で電源ポジションが OFF になります。
- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだ状態で、プッシュボタンスタートを押すとエンジンが始動します。電源ポジションの切り替えを行なう場合は、ペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してください。

エンジンの始動と停止

エンジンの始動

エンジンをかける前に

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。

→ 39ページ「正しい運転姿勢」

クラッチスタートシステムについて（マニュアル車）

クラッチスタートシステムとは、クラッチペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してもエンジンを始動させない装置で、車が動き出すのを防止します。
エンジンを始動するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。

知識

エンストで動けなくなったとき

ギヤを入れたままプッシュボタンスタートを押し続けても車は動きません。

→ 524ページ「エンストで動けなくなったとき」

エンジンをかけるとき

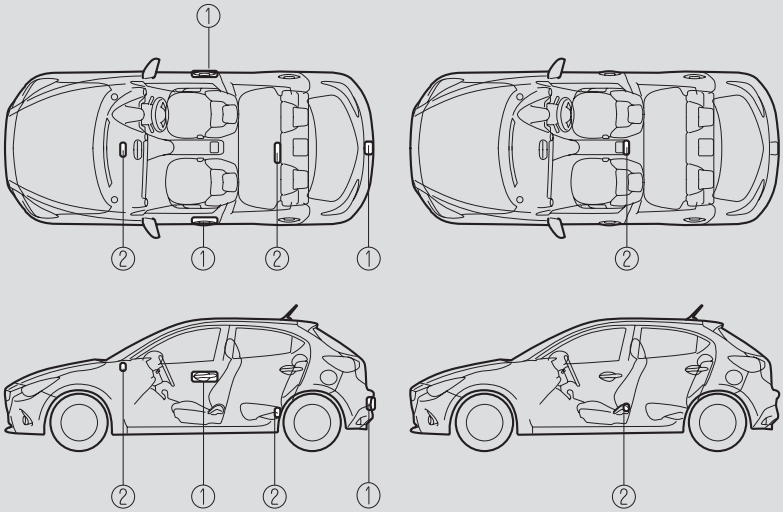
⚠警告

禁止

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内・車外のアンテナから約 22cm 以内に医療用機器を近づけない。

電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

（アドバンストキーレス機能装備車）（アドバンストキーレス機能非装備車）



①車外のアンテナ　②車内のアンテナ

必ず守る

以下以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

- **植込み型心臓ペースメーカー**
- **植込み型除細動器**

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠警告

必ず守る

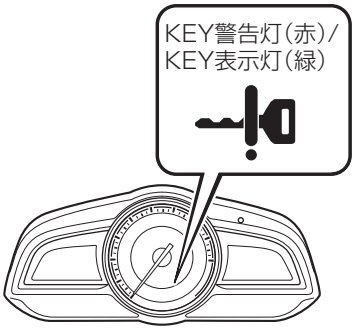
プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。

ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。 また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

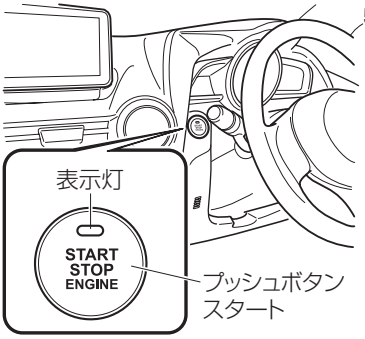
知識

- キーは必ず運転者が携帯してください。
- 電源ポジションの状態 (OFF、ACC、ON) に関係なく、エンジンを始動できます。

1. キーを携帯していることを確認します。
2. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。
3. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。



4. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）とKEY表示灯（緑）が点灯するのを確認します。
   プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点滅するときは、キーの電池切れなどが考えられます。
   → 110ページ「キーが電池切れしたときのエンジン始動」



5. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点灯している状態でプッシュボタンスタートを押します。

⚠注意

必ず守る

プッシュボタンスタートの表示灯（橙）が点滅するときは、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

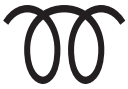
エンジンの始動と停止

知識

- 次のようなときは、KEY 警告灯（赤）が点滅し、エンジンをかけることができません。
  - キーの電池切れ
  - キーが作動範囲内にない
  - キーを車内でも感知しにくい場所に置いている
    → 23ページ「アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
    → 25ページ「キーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
  - キーに類似した他社のキーが作動範囲内にある
- プッシュボタンスタートの表示灯（橙）が点滅しているときは、通常の操作ではエンジンを始動できない場合があります。マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、エンジンが完全に始動するまでプッシュボタンスタートを押し続けてください。
- エンジン始動後、プッシュボタンスタートの表示灯（橙）は消灯し、電源ポジションは ON 状態になっています。
- 冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。
- 冷間始動後は、排気ガスの浄化を促進するためにエンジン回転が高くなり、うなっている音が聞こえることがありますが、部品機能の異常ではありません。
- **(SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)**
  プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

知識

- **(SKYACTIV-D 1.5)**
  - 外気温が－ 10° C より低いときは、エンジン保護のためエンジンが始動してから約 3 分間、最高回転数が制限される場合があります。
  - エンジン始動時は、プッシュボタンスタートを押したあと、メーター内の予熱表示灯が消灯して、エンジンがかかるまでマニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放さないでください。
  - エンジンがかかる前にマニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放した場合は、再度マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏み込みプッシュボタンスタートを押してエンジンを始動してください。
  - 予熱表示灯が消灯するまで、スターターは回りません。
  - 予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い予熱表示灯が点灯する場合があります。



- **(マニュアル車)**
  エンスト時、エンジンが完全停止したあと約 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。
  ただし次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。
  - 運転席のドアが開いているとき
  - 運転席のシートベルトが装着されていないとき
  - エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
  - エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

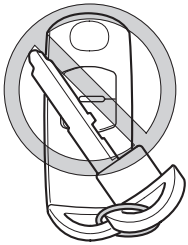
キーが電池切れしたときのエンジン始動

⚠注意

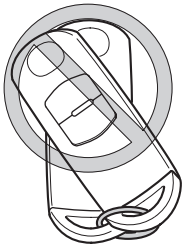
キーの使用について

次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- **キーに他のキーの金属部や金属製のものが接している**



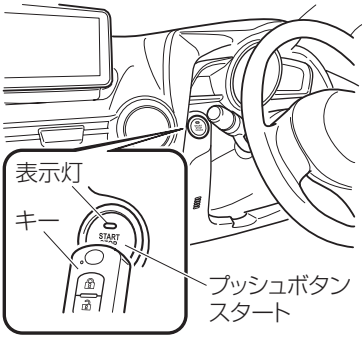
- **キーにスペアのキーや他の車両の盗難防止システムキー（信号発信機内蔵のもの）が重なっている、または近くにある**



- **キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある**

キーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、次の手順でエンジンを始動することができます。

1. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
3. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点滅するのを確認します。



4. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点滅中に、キーの裏面でプッシュボタンスタートに触れます。

5. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点灯に変わったら、プッシュボタンスタートを押します。

知識

- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンが始動しないようになっています。
- プッシュボタンスタート機能に異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯（橙）が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
- キーの裏面でプッシュボタンスタートに触れるときは、ロックスイッチ側を上にして、ボタンに触れてください。プッシュボタンスタートに触れたときにボタンを押してしまうとエンジンが始動することがあります。
- プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点灯しない場合は、最初から操作を行なってください。それでも点灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。
- 電源ポジションの切り替えを行なう場合は、プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点灯に変わったあと、マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放してからプッシュボタンスタートを押してください。電源ポジションが ACC、ON、OFF の順に切り替わります。なお、電源ポジションが OFF になると、それ以降は電源ポジションの切り替えができませんので、エンジンを始動する場合は最初から操作を行なってください。

エンジンの停止

1. マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にします。
2. プッシュボタンスタートを押します。エンジンが停止し、電源ポジションが OFF になります。

⚠注意

禁止 **緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。**

必ず守る **車から離れるときは、電源ポジションが OFF になっていることを確認してください。**

知識

- **キーの電池容量について**
  電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたとき、キーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、KEY 表示灯 (緑) が点滅します。新しい電池と交換してください。
  → 506ページ「キー」
- **電源ポジションについて**
  オートマチック車はセレクトレバーが P 以外の位置のときに、プッシュボタンスタートを押してエンジンを停止させると、電源ポジションは ACC になります。
- **電源ポジションを OFF にせずに車から離れると**
  KEY 警告灯 (赤) が点滅し、警告チャイムが鳴ります。
  → 564ページ「チャイムがなったときは」

(SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)

- **エンジンルームの冷却について**
  エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションを ON から OFF にしても、エアコンの ON/OFF にかかわらずクーリングファンが数分間回転することがあります。

緊急エンジン停止

車両が停止していなくてもプッシュボタンスタートを押し続ける、または素早く何度も押すとエンジンが停止します。電源ポジションは ACC になります。

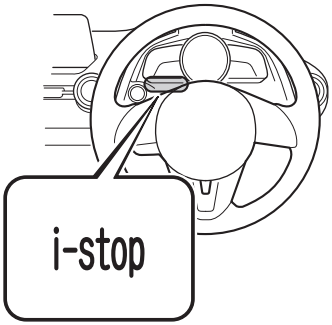
i-stop について

i-stop（アイ・ストップ）は、燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、信号待ちや渋滞などで車両を停止させたとき、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

アイドリングストップ・再始動

知識

- 次の条件のときに、i-stop 表示灯（緑）が点灯します。
  - 走行中にアイドリングストップする条件を満たしたとき
  - アイドリングストップ中のとき



- エンジンが再始動すると、i-stop 表示灯（緑）が消灯します。

マニュアル車

1. ブレーキペダル、次にクラッチペダルを踏み込んで、車両を停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。
   クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップします。
3. **(SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)**
   クラッチペダルを踏み込む、またはクラッチペダルをもどし始めると自動でエンジンが再始動します。

知識

ブレーキペダルの踏力によって、エンジンが再始動するタイミングが異なります。

(SKYACTIV-D 1.5)
クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動します。

オートマチック車

1. 走行状態（R レンジ、M レンジの 2 速固定モード時以外）からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。
2. D/M（2 速固定モードではない）レンジでブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーが N または P レンジでは、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M（2 速固定モードではない）または R レンジへ操作すると再始動します。（安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。）

作動条件

作動するとき

次の条件のとき i-stop 表示灯（緑）が点灯して、アイドリングストップします。

- **(SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)**
  エンジン暖機後
- **(SKYACTIV-D 1.5)**
  - エンジン冷間以外
  - 定期的に自動で実施される燃料噴射量学習が行われていないとき
- エンジンを始動し、一度走行したあと
- ボンネットを閉めて、エンジンを始動したとき
- バッテリーの状態が良好のとき
- すべてのドア、リヤゲート、ボンネットが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルが の位置で作動していないとき
- **（フルオートエアコン）**
  - エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房（A/C ON）以外の位置になっているとき
  - 車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
- i-stop 警告灯（橙）が点灯 / 点滅していないとき
- キーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能が正常なとき
- ブレーキ負圧が十分に高いとき
- ハンドルを操作していないとき
- **（マニュアル車）**
  - 車速が 3km/h 以下のとき
  - チェンジレバーがニュートラルの位置のとき
  - クラッチペダルを踏んでいないとき

- **(オートマチック車)**
  - 車両が停車しているとき
  - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのとき
  - オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
  - オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
  - ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力をかけているとアイドリングストップしない場合があります。アイドリングストップさせたいときは、ハンドルにかけている力をゆるめてください。)
  - ブレーキペダルを踏んで停車させたとき
  - 急制動ではないとき

作動しないとき

次の条件のとき、アイドリングストップしません。

- 走行せずにアイドリングを続けていているとき
- エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルが の位置で作動しているとき
- **(フルオートエアコン)**
  - エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房 (A/C ON) の位置のとき
  - 車内の温度とエアコンの設定温度が大きく外れているとき
- 外気温が非常に低い、または高いとき
- 気圧が低いとき (標高が高いところを走行しているとき)
- **(オートマチック車)**
  - 急な坂道で停車したとき
  - 停車時のハンドルが直進状態でないとき
- **(SKYACTIV-D 1.5)**
  - ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM (Particulate Matter: 粒子状物質) の除去が行われているとき
  - 燃料噴射量学習が行われているとき (停車前の車速約 10 km/h 以下で i-stop 表示灯 (緑) が消灯し、停車時に燃料噴射量学習が行なわれます。)

知識

アイドリングストップするまでに時間がかかるとき

- 車両を長時間使用しなかったときなどでバッテリーが放電したとき
- 外気温が高いとき、または低いとき
- バッテリー交換等によりバッテリー端子をはずしたあと
- **(SKYACTIV-D 1.5)**
  ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM の除去が行われたあと

エンジンが再始動しないとき

アイドリングストップ中に次の操作を行うと安全確保のため自動でエンジンは再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーがニュートラル以外の位置で、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

エンジンの停止時間が短くなる、または次のアイドリングストップが可能になるまでの時間が長くなるとき

- 外気温が高いとき、または、低いとき
- バッテリーの放電が進んだとき
- 車両電装品の消費電力が多いとき

知識

アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動するとき

次のようなときは自動でエンジンを再始動します。

- i-stop OFF スイッチをチャイムが鳴るまで押し続けたとき
- エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを の位置で作動させたとき
- **(フルオートエアコン)**
  - エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房 (A/C ON) の位置にしたとき
  - 車内の温度がエアコンの温度設定から大きく外れたとき
- 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
- アイドリングストップしてから 2 分経過したとき
- バッテリーの放電が進んだとき
- **(マニュアル車)**
  - チェンジレバーがニュートラルの位置で、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
- **(オートマチック車)**
  - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで、アクセルペダルを踏んだとき
  - セレクトレバーを R レンジにしたとき
  - セレクトレバーを N または P レンジから D/M (2 速固定モードではない) レンジにしたとき
  - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのまま、ハンドル操作をしたとき
  - セレクトレバーが M レンジで、2 速固定モードにしたとき
  - セレクトレバーが N または P レンジで、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作したとき (オートマチック車)

- アイドリングストップ中にセレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) レンジから N または P レンジへ操作するとブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。(安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行ってください。)
- アイドリングストップ中にセレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) レンジから N または P レンジへ操作し、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき、自動でエンジンが再始動します。

知識

バッテリー端子をはずしたとき

バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要がありますので、マツダ販売店にご相談ください。

i-stop 警告灯（橙）/i-stop 表示灯（緑）

i-stop は、安心かつ快適にご使用いただくために、運転者の操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、i-stop 警告灯（橙）/i-stop 表示灯（緑）によりさまざまな注意を運転者にお知らせします。

知識

マツダコネクト装備車は、i-stop の作動状況を燃費モニターの作動状況表示に表示します。

→ 127ページ「i-stop/i-ELOOP 状態表示」

i-stop 警告灯（橙）

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- i-stop OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯します。
- アイドリングストップ中に次の操作を行なうと i-stop 警告灯（橙）が点灯します。この場合、安全確保のため自動でエンジンは再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。
  - ボンネットを開けたとき
  - **（マニュアル車）**
    - チェンジレバーがニュートラル以外の位置で、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
  - **（オートマチック車）**
    - セレクトレバーが D/M（2 速固定モードではない）レンジで、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

知識

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき
- エンジンがかかっている状態で、i-stop OFF スイッチを操作しても点灯し続けるとき

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop 表示灯（緑）

点灯するとき

- アイドリングストップ中に点灯し、エンジンが再始動すると消灯します。
- 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと点灯します。

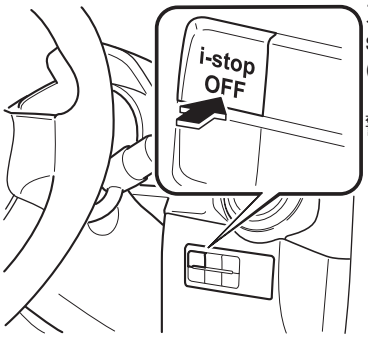
点滅するとき

- **（マニュアル車）**
  - アイドリングストップ中、チェンジレバーをニュートラル以外の位置にしたとき点滅し、アイドリングストップ中であることをお知らせします。
    (SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)
    クラッチペダルを踏み込む、またはクラッチペダルをもどし始めると自動でエンジンが再始動し消灯します。
    (SKYACTIV-D 1.5)
    クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動し消灯します。
- **（オートマチック車）**
  - ブレーキペダルを強く踏まずに停車させたとき点滅します。ブレーキペダルの踏力が不足している可能性があります。少しブレーキペダルを踏み足してください。

i-stop 警告チャイム

- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。
- アイドリングストップ中に次の操作を行なうとチャイムが鳴ります。この場合、安全確保のため自動でエンジンは再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。
  - **（マニュアル車）**
    チェンジレバーがニュートラル以外の位置で運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
  - **（オートマチック車）**
    セレクトレバーが D/M（2 速固定モードではない）レンジで運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

i-stop OFF スイッチ



スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけると、i-stop の作動が解除され、メーター内の i-stop 警告灯（橙）が点灯します。もう一度チャイムが鳴るまで押しつづけると i-stop が作動可能な状態になり、i-stop 警告灯（橙）が消灯します。

知識

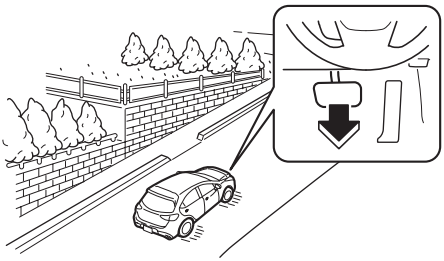
i-stop を解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

発進補助装置について（オートマチック車）

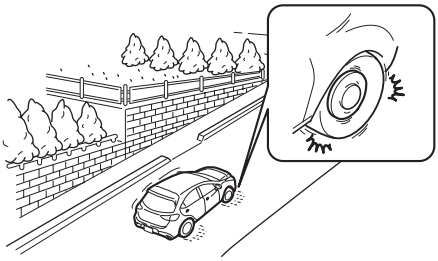
i-stop 装備車には発進補助機能が装備されています。これは次のような状態でブレーキペダルから足を放したときに、坂道などで車両が動き出すことを防ぐ機能です。

- アイドリングストップ中（車両の後退防止）
- 再始動時（急なクリープ現象発生による車両の飛び出し防止）
  ブレーキペダルを放してエンジンが再始動したときに、ブレーキまたはオートマチックトランスミッションの制御により車両が急に動き出すことを防止しています。

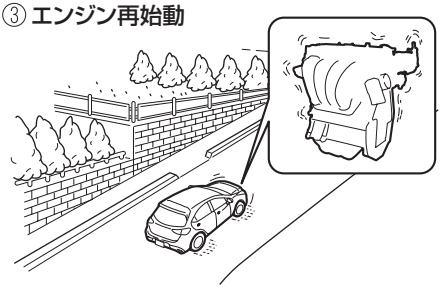
① ブレーキペダルから足を放す



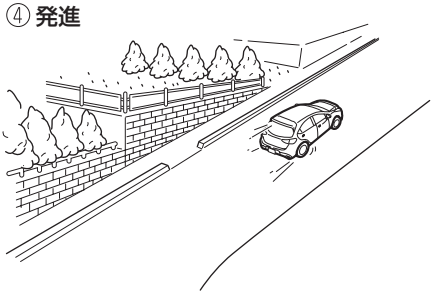
② 車を保持



③ エンジン再始動



④ 発進



⚠警告

必ず守る

システムを過信しない

発進補助機能はあくまでアイドリングストップ状態から車両を発進させる際に、ブレーキから足を放したあと最長 4 秒間作動する補助装置です。システムを過信して操作すると意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあるため非常に危険です。発進時は周囲の安全を確認してセレクトレバーやブレーキペダル、アクセルペダルを適切に操作してください。道路の勾配や積載、けん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

必ず守る

発進時はセレクトレバーを N レンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放す

アイドリングストップ中にセレクトレバーを N レンジに操作し、ブレーキペダルから足を放したときは、ブレーキ力が徐々に解除されます。発進時はセレクトレバーを N レンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放してください。セレクトレバーが N レンジの状態では、発進補助機能が解除されたあとに車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

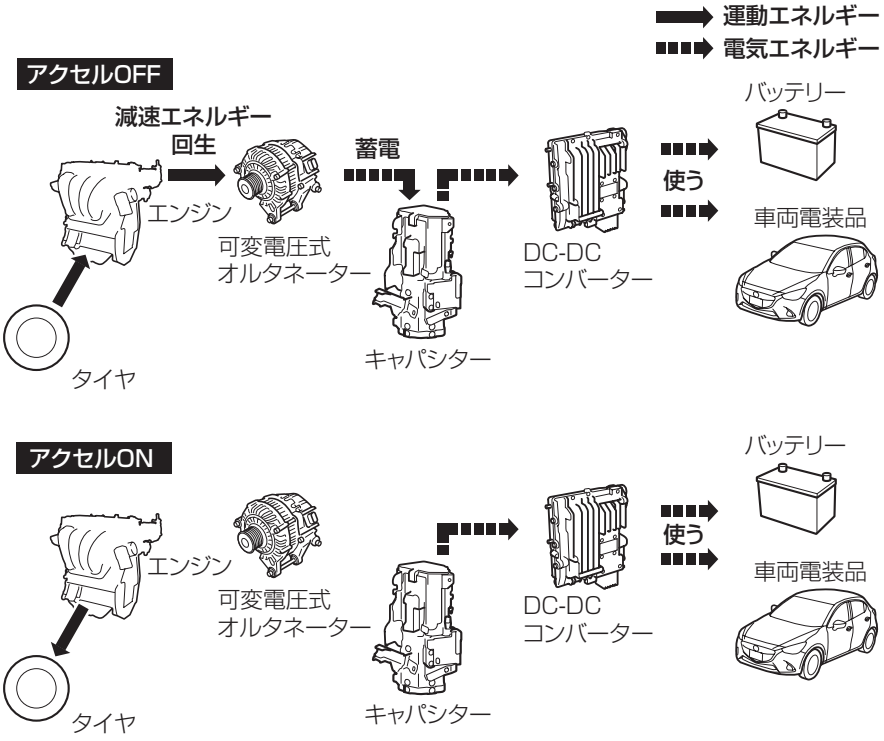
知識

- 急な坂道で停車したときは、アイドリングストップしないため発進補助機能は作動しません。
- 発進補助機能の作動により、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

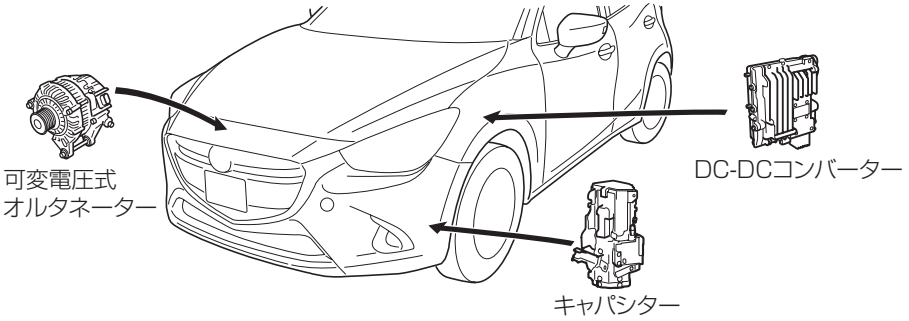
i-ELOOP とは グレード/仕様別装備

i-ELOOP とは、減速エネルギー回生システムです。ブレーキ操作やエンジンブレーキで減速する際に発生する運動エネルギーを発電機により電気エネルギーに変換し、変換された電気エネルギーを蓄電器（キャパシターおよびバッテリー）に蓄えます。蓄電された電気エネルギーは、バッテリー充電やエアコン、ヘッドランプなどの車両電装品の電源として活用しています。

- 運動エネルギーを電気エネルギーに変換する発電機には、車両状態に応じて効率的に発電できる可変電圧式オルタネーターを採用しています。
- 発電された大量の電気エネルギーを瞬時に蓄え、すばやく取り出すことのできるキャパシターを採用しています。
- 蓄電された電気エネルギーを車両電装品で使用可能な電圧に降圧する DC-DC コンバーターを採用しています。



i-ELOOP について



⚠注意

禁止

次のものには高電流が流れているため触れないでください。

- **可変電圧式オルタネーター**
- **DC-DC コンバーター**
- **キャパシター**

知識

- エアコンやヘッドランプなどの車両電装品の使用状況によっては燃費に差が生じることがあります。
- キャパシターを廃棄する場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。
  詳しくは次の URL を参照ください。
  http://www.mazda.com/csr/environment/recycling

i-ELOOP 表示灯 (緑)/ エネルギー回生状況表示

i-ELOOP のエネルギー回生状況や車両状態を、i-ELOOP 表示灯またはエネルギー回生状況表示により、運転者にお知らせします。

i-ELOOP 表示灯 (センターディスプレイ非装備車)

エネルギー回生中に点灯します。

エネルギー回生状況表示 (センターディスプレイ装備車)

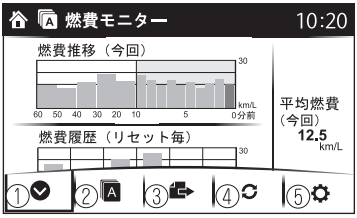
i-ELOOP のエネルギー回生状況を燃費モニターの i-stop、i-ELOOP 状態表示に表示します。

→ 127ページ「i-stop、i-ELOOP 状態表示」

燃費モニター グレード/仕様別装備

センターディスプレイ内の各アイコンを操作することにより i-stop/i-ELOOP 状態表示、燃費情報、i-stop 効果を切り替え表示します。また、運転終了後、エンディング表示が ON のときは、今回の運転のエネルギー効率実績などを表示します。

1. ホーム画面の Aアイコンを選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 燃費モニターを選択します。
3. コマンダースイッチを操作、または画面にタッチしてメニューを表示します。
4. メニュー内のアイコンを選択します。各アイコンは次の様に機能します。



①メニュー表示を閉じます。
②アプリケーション画面にもどります。
③燃費モニターの表示を、i-stop/i-ELOOP 状態表示、i-stop 効果表示、燃費情報の順に切り替えます。
④燃費データをリセットします。
⑤次のセッティング画面を表示します。

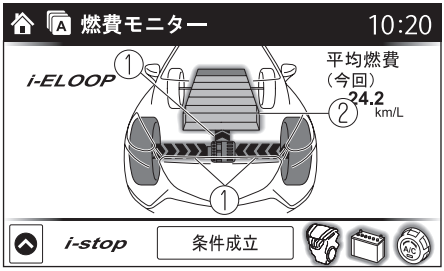
- エンディング表示の ON/OFF 切り替え
- 燃費データのリセットをトリップメーター (TRIP A) と同期させる機能の ON/OFF 切り替え

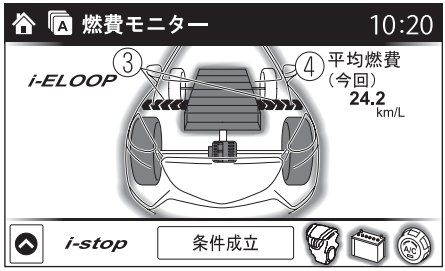
知識

電源ポジションを ON から OFF にしたときの燃費モニター画面が、次回電源ポジション ON したとき、最初の燃費モニター画面になります。

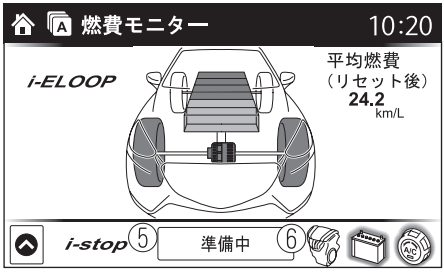
i-stop、i-ELOOP 状態表示

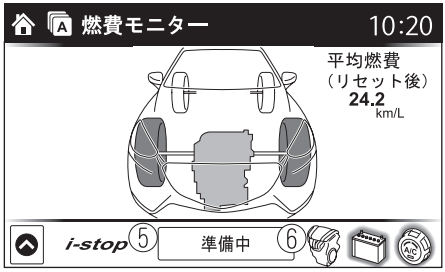
i-stop の作動状況、および i-ELOOP のエネルギー回生状況を表示します。





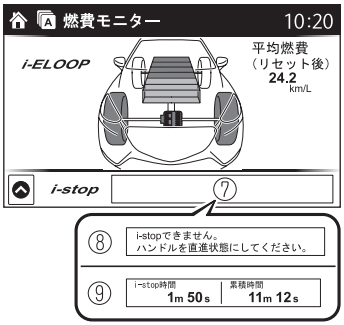
①減速エネルギーを利用して発電した電気の量と、発電した電気が蓄電器に流れている状態を表示します。表示は発電量が増えると太くなります。
②蓄電器に蓄えている電気の量を表示します。
③蓄電器に蓄えられた電気を電装品に供給している状態を表示します。(車全体が同時に発光します。)
④平均燃費を表示します。

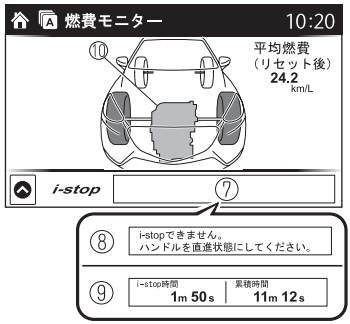




燃費モニター

⑤アイドリングストップが可能かどうかの準備状況を表示します。
⑥アイドリングストップ準備状況をアイコン（エンジン、バッテリーおよびエアコン）の色で表示します。準備ができたアイコンは発光します。発光していないアイコンは準備ができていないことを知らせます。

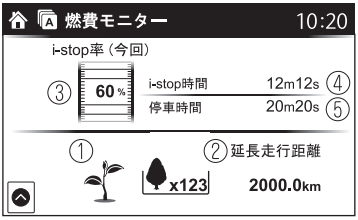




⑦車両停止時のアイドリングストップ状況を表示します。
⑧アイドリングストップしていないとき、アイドリングストップするために必要な運転者の操作を表示します。
⑨アイドリングストップ中、現在のアイドリングストップ時間と累積のアイドリングストップ時間を表示します。
⑩アイドリングストップの作動状況をエンジン部分の色で表示します。アイドリングストップ中は青色、アイドリングストップしていないときは灰色で表示します。

i-stop 効果表示

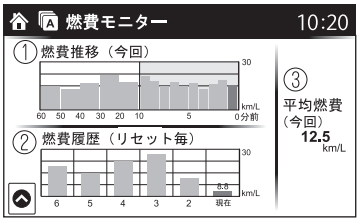
エネルギー効率実績を表示します。



①システムの効果により削減された二酸化炭素（CO_2）排出量に応じてリーフ（葉）が成長します。成長したリーフは累計され、本数を表示します。
②アイドリングストップで延ばすことが出来た全走行距離を表示します。
③全停車時間のうち、アイドリングストップの割合を表示します。
④アイドリングストップした時間を表示します。
⑤全停車時間を表示します。

燃費情報

燃費に関する情報を表示します。



①過去 60 分間の燃費を表示します。

- 過去 1 ～ 10 分間は、1 分間毎の燃費を表示します。
- 過去 10 ～ 60 分間は、10 分間毎の燃費を表示します。

②過去 5 回分のリセット時の平均燃費とリセット後（現在）の平均燃費を表示します。

③走行開始後の平均燃費を 1 分間毎に算出して表示します。

知識

- 燃費データは、次の操作を行なうとリセットされます。
  - メニュー画面からリセットスイッチを押す。
  - 燃費モニターとトリップメーターを同期させる機能が ON のとき、トリップメーターで TRIP A をリセットする。
  - トリップコンピューターに表示される平均燃費情報を消去する。
- 燃費データリセット後、平均燃費算出中は“———”が表示されます。
- 燃費データは、メニュー画面からリセットスイッチを押すとリセットできます。また、燃費モニターとトリップメーターを同期させる機能が ON のときは、燃費モニターの燃費データをリセットする、またはトリップメーターの TRIP A をリセットすると、燃費データと TRIP A が同時にリセットされます。

エンディング表示

燃費モニターのエンディング表示が ON の場合は、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、エネルギー効率実績を表示します。

知識

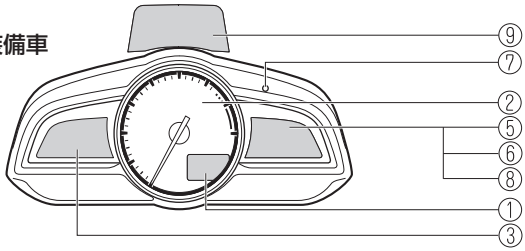
燃費モニターと i-DM のエンディング表示を両方 ON にしているときは、両方のエンディングが表示されます。

メーター

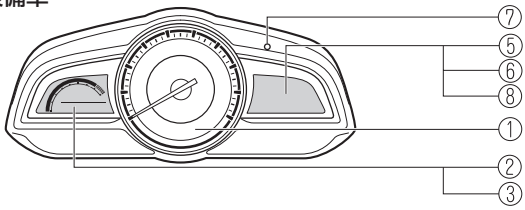
メーターはグレードや仕様により異なります。

メーター

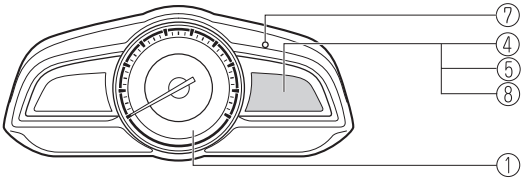
アナログタコメーター装備車



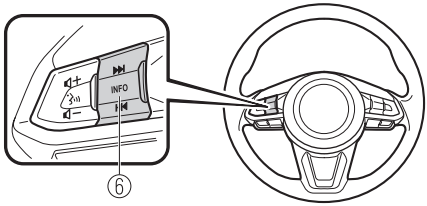
デジタルタコメーター装備車



タコメーター非装備車



ステアリングスイッチ☆



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

(1) スピードメーター 131
(2) タコメーター 131
(3) オドメーター / トリップメーター (タコメーター装備車) 132
(4) オドメーター / トリップメーター / トリップコンピューター (タコメーター非装備車) 133
(5) 燃料計 137
(6) トリップコンピューター (タコメーター装備車) 135
(7) パネルライトコントロールスイッチ 138
(8) 外気温表示 139

(9) アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 139

スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

知識

(アナログタコメーター非装備車)

電源ポジションを OFF にしてしばらくすると、指針が振れることがありますが異常ではありません。

タコメーター グレード/仕様別装備

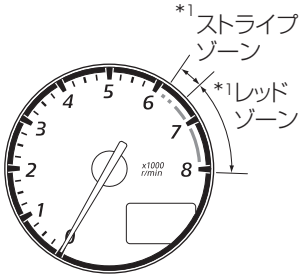
1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

注意

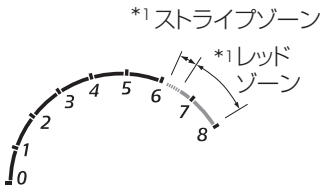
必ず守る

指針がレッドゾーン (許容回転数以上を示す) に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。

アナログタコメーター装備車



デジタルタコメーター装備車



*1 仕様により範囲が異なります。

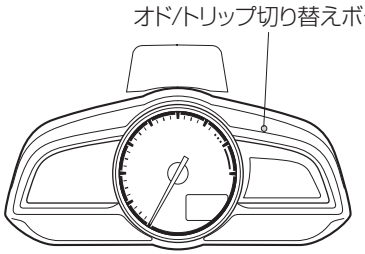
知識

ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

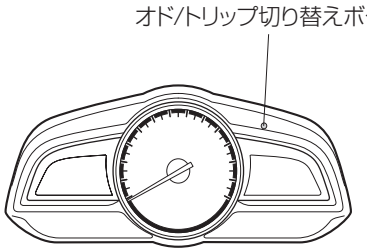
オドメーター / トリップメーター (タコメーター装備車)

オドメーター / トリップメーターが表示されているとき、オド / トリップ切り替えボタンを押すごとに、オドメーターとトリップメーターの表示が切り替わります。

アナログタコメーター装備車



デジタルタコメーター装備車



オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

トリップメーター

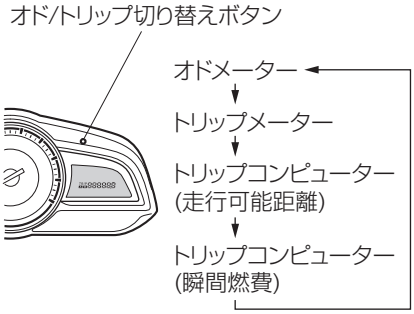
一定区間の走行距離を km 単位で示します。
右側の数字は 100m 単位です。
2 種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。
たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。
トリップメーターを“0.0”にもどすときは、それぞれのモードのときオド / トリップ切り替えボタンを 1 秒以上押し続けます。

知識

- 電源ポジションが ACC または OFF のとき、オドメーター / トリップメーターは表示されませんが、次のようなときは、トリップメーター切り替えボタンが機能します (ボタンを操作するとトリップメーターは切り替え / リセットされます)。
  - 電源ポジションを ON から ACC または OFF にした後の約 10 分間。
  - ドアを閉めた状態から開けた状態にした後の約 10 分間。
- 次のようなときは、トリップメーターの表示が“0.0”にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が 9999.9km を超えたとき。
  - **(マツダコネクト装備車)**
    燃費モニターとトリップメーターを同期させる機能が ON のときは、燃費モニターで燃費データのリセットを行なう、またはトリップメーターで TRIP A をリセットすると、燃費データと TRIP A が同時にリセットされます。
    → 126ページ「燃費モニター グレード/仕様別装備 」

オドメーター / トリップメーター / トリップコンピューター (タコメーター非装備車)

電源ポジションが ON のとき、次の情報を表示します。
オド / トリップ切り替えボタンを押すごとに、表示を切り替えます。



トリップコンピューターに異常があるときは、マツダ販売店にご相談ください。

オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

メーター、警告灯、表示灯の見方

トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します。
右側の数字は 100m 単位です。2 種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。
たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。
トリップメーターを“0.0”にもどすときは、それぞれのモードのときオド / トリップ切り替えボタンを 1 秒以上押し続けます。

知識

- 電源ポジションが ACC または OFF のとき、オドメーター / トリップメーターは表示されませんが、次のようなときは、トリップメーター切り替えボタンが機能します (ボタンを操作するとトリップメーターは切り替え / リセットされます)。
  - 電源ポジションを ON から ACC または OFF にした後の約 10 分間。
  - ドアを閉めた状態から開けた状態にした後の約 10 分間。
- 次のようなときは、トリップメーターの表示が“0.0”にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が 9999.9km を超えたとき。
  - **(センターディスプレイ装備車)**
    燃費モニターとトリップメーターを同期させる機能が ON のときは、燃費モニターで燃費データのリセットを行なう、またはトリップメーターで TRIP A をリセットすると、燃費データと TRIP A が同時にリセットされます。
    → 126ページ「燃費モニター グレード/仕様別装備 」

トリップコンピューター (走行可能距離表示)

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

知識

- 表示される数値は、周囲の状況、走行条件などにより、正しい数値を表示しないことがあります。
- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の指針が“E”に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。
  燃料残量警告灯が点灯すると、燃料計の目盛りが 1/4 以上になるまで燃料を加えないと走行可能距離表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。

トリップコンピューター (瞬間燃費表示)

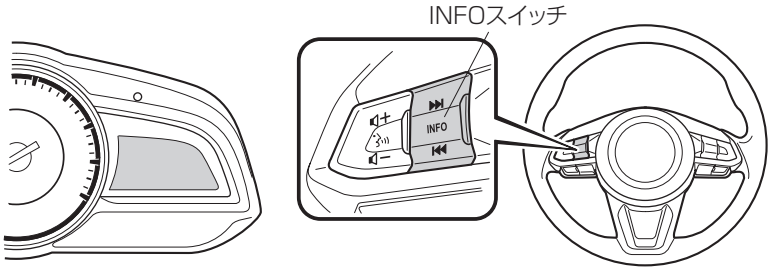
瞬間燃費

走行しはじめてから、約 2 秒毎の瞬間燃費表示を消費燃料から算出して表示します。

知識

- 表示される数値は、周囲の状況、走行条件などにより、正しい数値を表示しないことがあります。
- 車速が約 5 km/h 以下になると - - - km/L を表示します。

トリップコンピューター (タコメーター装備車)



電源ポジションが ON のとき、次の情報を表示します。

- 走行可能距離表示
- 平均燃費表示
- 瞬間燃費表示
- 平均車速表示

知識

- 表示される数値は、周囲の状況、走行条件などにより、正しい数値を表示しないことがあります。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれると、過去の累積データは消去されます。

トリップコンピューターに異常があるときは、マツダ販売店にご相談ください。

メーター、警告灯、表示灯の見方

走行可能距離表示

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

知識

- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の残量目盛りが“E”に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。
  燃料残量警告灯が点灯すると、燃料計の目盛りが 1/4 以上になるまで燃料を加えないと走行可能距離表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。
- お車を購入されたときやバッテリー端子をはずした後など過去の燃費情報がないときは、実際に走行できる距離と異なる数値を表示することがあります。

平均燃費表示

お車を購入されたとき、または、過去のデータを消去したときは、データを消去したときからの累積走行距離と累積消費燃料から、約 1 分間毎に平均燃費を算出して表示します。

知識

表示されている過去のデータを消去するには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押す、または、トリップメーターの TRIP A を“0.0”にもどします。データを消去すると、燃費を再算出して表示する前に 1 分間 - - - km/L を表示します。

瞬間燃費表示

走行しはじめてから、約 2 秒毎の瞬間燃費を消費燃料から算出して表示します。

知識

車速が約 5 km/h 以下になると - - - km/L を表示します。

平均車速表示

平均車速

お車を購入されたとき、または、過去のデータを消去したときは、データを消去したときからの累積走行距離と走行時間から、約 10 秒間毎に平均車速を算出して表示します。

知識

表示されている過去のデータを消去するには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押します。
データを消去すると、車速を再算出して表示する前に 1 分間 - - - km/h を表示します。

燃料計

Full

電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。
燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点灯します。
早めに燃料を補給してください。
→ 560ページ「処置する」
目盛りが“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
→ 71ページ「燃料補給口」

1/4

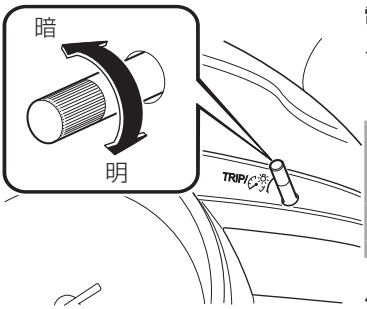
Empty

知識

- 燃料補給後は、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- 1/4 以下の表示は、残量がより詳細に分かるように、目盛りを細かくしています。
- ◀の矢印は燃料補給口が助手席側にあることを示します。

(SKYACTIV-D 1.5)
燃料が少なくなり、エンジン不調やエンストする場合は速やかに安全な場所へ車を移動させ、燃料を少なくとも 10L 補給してください。

パネルライトコントロールスイッチ



電源ポジションが ON で、車幅灯が点灯しているとき、メーターは減光されます。

知識

車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

→ 174ページ「ヘッドランプの点灯 / 消灯」

パネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

- 左にまわすと暗くなり、最も暗い位置で音が鳴ります。
- 右にまわすと明るくなります。

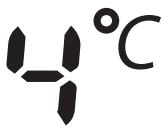
減光解除機能

電源ポジションが ON で、メーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチを右に音が鳴るまでまわすと、減光を解除できます。周囲が明るく減光状態ではメーターが見えにくい場合は減光を解除してください。

知識

- 減光を解除しているときは、車幅灯が点灯しても、メーターは減光されません。
- **(マツダコネクト装備車)**
  減光を解除しているとき、センターディスプレイは常に昼画面になります。
  → 366ページ「マツダコネクトの設定」

外気温表示



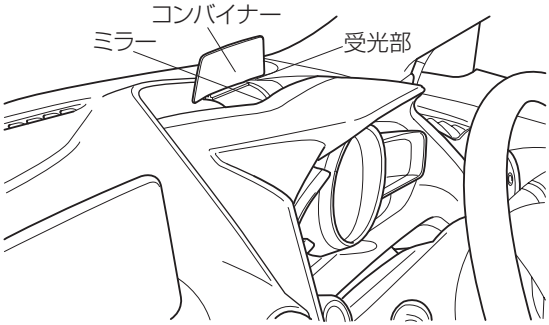
電源ポジションが ON のとき表示します。

知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ グレード/仕様別装備



警告

必ず守る

ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

メーター、警告灯、表示灯の見方

⚠注意

禁止 **コンバイナーの角度調節・開閉は手で行わないでください。コンバイナーに指紋がつき見えにくくなったり、無理な力で操作することで作動部が破損し、故障の原因になります。**

禁止 **アクティブ・ドライビング・ディスプレイ付近に物を置かないでください。アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動できない、またはアクティブ・ドライビング・ディスプレイの作動のさまたげになり、故障の原因になります。**

禁止 **アクティブ・ドライビング・ディスプレイ付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体がアクティブ・ドライビング・ディスプレイにかかると装置の故障の原因となります。**

禁止 **表示の妨げとなりますので、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの上にものを置いたり、コンバイナー / ミラー / 受光部にシール等を貼らないでください。**

禁止 **表示輝度をコントロールするためのセンサーが内蔵されています。その受光部を塞ぐと表示輝度が下がり、表示が見えにくくなります。**

禁止 **受光部に強い光を当てないでください。故障の原因になります。**

知識

- サングラスを着用しているときは表示が見えにくいときがあります。サングラスをはずす、または輝度を調節してください。
- バッテリーを脱着したとき、またはバッテリーの電圧が低下してきたときは、調節した位置がずれることがあります。
- 気象条件（雨、雪、光、温度等）によっては、表示が見づらかったり、一時的に影響を受ける場合があります。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイは次の情報を表示します。

- 車速
- 車線逸脱警報システム (LDWS) の作動状態と警告
  → 204ページ「車線逸脱警報システム (LDWS) とは グレード/仕様別装備」
- ブラインド・スポッド・モニタリング (BSM) の作動状態と警告
  → 210ページ「ブラインド・スポッド・モニタリング (BSM) とは グレード/仕様別装備」
- 車間認知支援システム (DRSS) の警告
  → 215ページ「車間認知支援システム (DRSS) とは グレード/仕様別装備」
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA) の表示
  → 218ページ「ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは グレード/仕様別装備」
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) の作動状態と警告
  → 224ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは グレード/仕様別装備」
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) の警告
  → 236ページ「スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) とは グレード/仕様別装備」
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) の作動状態
  → 245ページ「スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは グレード/仕様別装備」
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の警告
  → 254ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは グレード/仕様別装備」
- ターン バイ ターン (TBT) (方向と距離)

知識

アクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示を変更することができます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

センターディスプレイで、次の項目の設定 / 調節ができます。

1. ホーム画面の アイコンを選択して、設定画面を表示します。
2. AD-Disp を選択します。
3. 設定したい項目を選択します。
   - アクティブ・ドライビング・ディスプレイの角度 (表示位置)
   - 画面の明るさを調節する方法 (自動 / 手動)
   - 画面の明るさの初期設定 (自動調節を選択した場合)
   - 画面の明るさの調節 (手動調節を選択した場合)
   - ターン バイ ターン (TBT) の表示 / 非表示 (ナビガイダンス)
   - アクティブ・ドライビング・ディスプレイの ON/OFF (表示)
   - 設定のリセット (リセット)

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

「i-DM」はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得 / 向上をサポートします。

インテリジェント・ドライブ・マスター・ランプ

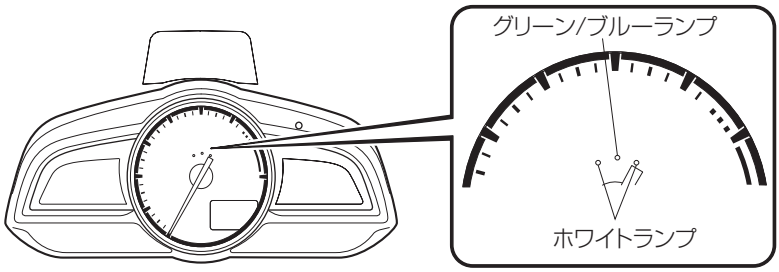
走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況を知らせます。(コーチング機能)

知識

インテリジェント・ドライブ・マスター・ランプを非表示にしているときは表示しません。

インテリジェント・ドライブ・マスター・ランプの表示 / 非表示を変更することができます。

→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」



グリーンランプ

次の運転のときはランプが緑で点灯します。

内容	運転のポイント
やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。	• 加速をするとき / やめるときに、アクセルペダルをゆっくり踏む / もどす • 減速をするとき / やめるときに、ブレーキペダルをゆっくり踏む / もどす • 旋回をするとき / 直進にもどすときに、ハンドルをゆっくり切る / もどす

ブルーランプ

次の運転のときはランプが青で点灯します。

内容	運転のポイント
しなやかな運転を示します。特に以下の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 **走行タイプ 1** 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 **走行タイプ 2** 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。	**走行タイプ 1 の場合** ● 加速をするときに、最適な踏み込み量 / 速さでアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、最適な踏み込み量 / 速さでブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、最適な切り込み量 / 速さでハンドルを操作する **走行タイプ 2 の場合** ● 加速をするときに、一定の加速度を継続するようにアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、一定の減速度を継続するようにブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、一定の横 G を維持するようにハンドルおよびアクセルペダルを操作する

ホワイトランプ

次の運転のときはランプが白で点灯します。

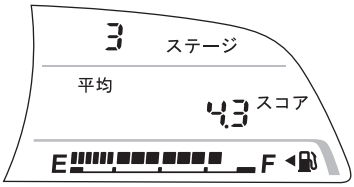
内容	運転のポイント
体が揺れる運転を示します。 やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまりよくない運転です。	● 加速をするとき / やめるときに、アクセルペダルをやや急に踏む / もどす ● 減速をするとき / やめるときに、ブレーキペダルをやや急に踏む / もどす ● 旋回をするとき / 直進にもどすときに、ハンドルをやや急に切る / もどす

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示

運転の評価をスコア (点数) で表示します。スコアに応じてステージが決まります。
ステージは 1st ステージから 3rd ステージまであり、ステージが上がるとスコアの診断が厳しくなります。運転技量が上がり、現在のステージでアベレージスコアを高く保てるようになると、次のステージへ上がります。逆に、低いアベレージスコアが続くとステージが下がります。

マツダコネクト非装備車 グレード/仕様別装備

運転終了後、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、現在のステージ、今回のスコア (現在の評価値) とアベレージスコア (過去 10 回のスコアの平均値) を表示します。

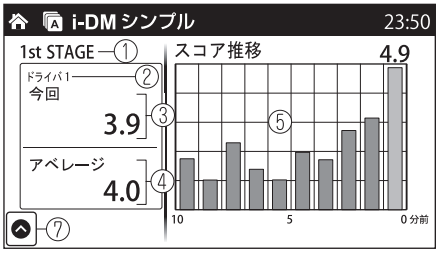


マツダコネクト装備車

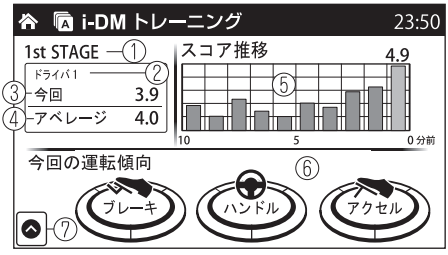
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) の情報をセンターディスプレイに表示します。
表示にはシンプルモードとトレーニングモードの 2 種類あります。

1. ホーム画面の (A)アイコンを選択しアプリケーション画面を表示します。
2. i-DM を選択します。

(シンプルモード)

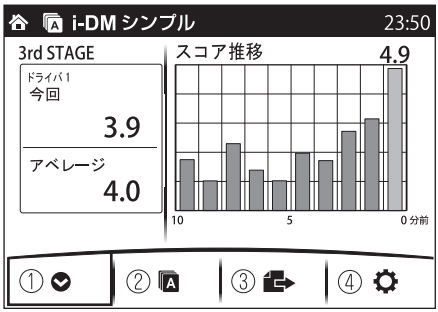


(トレーニングモード)



①現在のステージを表示します。
②ドライバ名を表示します。
ドライバ名の登録 / 選択については、次のページを参照してください。
→ 147ページ「ドライバ選択」
③今回のスコアを表示します。
④アベレージスコアを表示します。

⑤スコアの推移を棒グラフで表示します。各グラフは 1 分間のスコアを示し、過去 10 分間の記録を表示します。最新のグラフは右側にハイライト表示されます。信号待ちや一定速走行など運転操作が無かった場合はゼロのグラフが表示されます。
⑥今回の運転操作傾向を表示します。ブレーキ、ハンドル、アクセルの操作それぞれを表示します。白のゲージはやや急な運転の多さを示し、青のゲージはしなやかな運転の多さを示します。
⑦アイコンを選択すると画面下部に次のメニュー画面が表示されます。

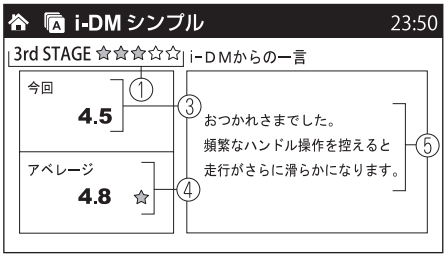
表示	内容
	①メニュー画面を閉じます。 ②アプリケーション画面にもどります。 ③トレーニング / シンプル画面を切り替えることができます。 ④設定画面に進みます。

設定画面
次の表示 / 非表示の切り替えができます。
- エンディング表示
- インテリジェント・ドライブ・マスター・ランプ

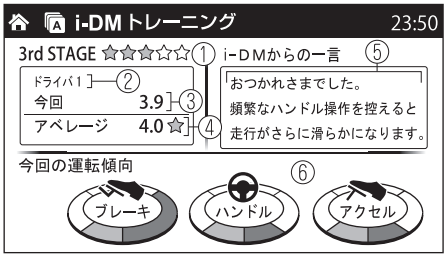
エンディング表示

i-DM のエンディング表示が ON の場合は、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、現在のステージ、今回のスコア（現在の評価値）とアベレージスコア（過去 10 回のスコアの平均値）などを表示します。また今回のスコアに応じて、文字によるワンポイントアドバイスも表示します。（ティーチング機能）

（シンプルモード）



（トレーニングモード）



①現在のステージを表示します。★マークはアベレージスコア 4.8 以上を連続して獲得した回数を示しています。アベレージスコア 4.8 以上を 5 回連続で獲得すると★マークが 5 個になり次のステージへ上がります。
②ドライバ名を表示します。
③今回のスコアを表示します。
④アベレージスコアを表示します。
⑤運転評価メッセージと、ワンポイントアドバイスを表示します。
⑥現在の運転傾向を表示します。ブレーキ、ハンドル、アクセルの操作それぞれを表示します。

知識

燃費モニターと i-DM のエンディング表示を両方 ON にしているときは、両方のエンディングが表示されます。

ドライバ選択 グレード/仕様別装備

マツダコネクト装備車は、車両にドライバ名を 5 名分登録することができます。登録したドライバ名はインテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) で使用でき、ステージ / スコア情報などをドライバ名ごとに管理できます。

知識

安全のため、走行中は一部の操作をすることができません。

1. ホーム画面の アイコンを選択しアプリケーション画面を表示します。
2. 「ドライバ選択」を選択します。
3. 「ドライバ選択」を選択すると、次の画面が表示されます。

①ドライバ選択 ON/OFF 切り替え

ドライバ選択機能の ON/OFF を切り替えます。
ON のとき、ドライバの選択やドライバ名の編集ができます。OFF にすると、「ドライバ選択なし」が自動で選択されます。

②ドライバ名リスト (1 ～ 5)

ドライバ名 (未登録の場合はドライバ番号) を 5 つ表示します。選択中のドライバ名にはチェックマークが表示されます。
エンジン始動後、登録されたキーごとにドライバ名が自動で選択されます。ドライバ情報を変更したい場合は、該当するドライバ名を選択します。

知識

選択されたドライバ名で、インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) を表示し更新されます。

③ドライバ選択なし

ドライバの識別が出来ないとき、またはドライバ選択機能が OFF のときは、「ドライバ選択なし」として表示されます。

④ドライバ名編集

選択されているドライバ名の編集 / 登録画面へ移動します。

知識

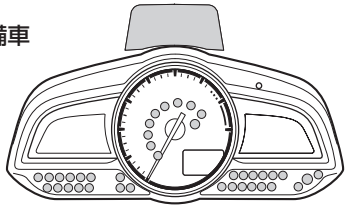
既に登録されているドライバ名と同一のドライバ名は登録できません。

警告灯、表示灯

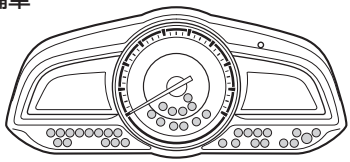
メーターはグレードや仕様により異なります。

メーター

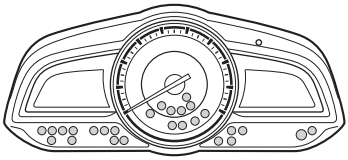
アナログタコメーター装備車



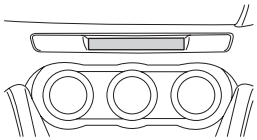
デジタルタコメーター装備車



タコメーター非装備車



ダッシュボード中央



警告灯

故障時などに点灯します。

表示	警告灯名称	ページ
	ブレーキ警告灯 *1*2	553
	充電警告灯 *1	553
	オイル警告灯 *1	553
（赤）	高水温警告灯 *1	553
	電動パワーステアリング警告灯 *1	553
	マスター警告灯 *1	555
	ABS 警告灯 *1	555
	エンジン警告灯 *1	555
i-stop （橙）	i-stop 警告灯 *1	点灯したとき 118 点滅したとき 555
i-ELOOP （橙）	i-ELOOP 警告灯 グレード/仕様別装備	555
AT	オートマチックトランスミッション警告灯 *1 グレード/仕様別装備	555
	車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯 *1 グレード/仕様別装備	点滅したとき 209 点灯したとき 555
4WD	4WD 警告灯 *1 グレード/仕様別装備	555

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	警告灯名称	ページ
	エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯 *1	555
(赤)	KEY 警告灯 *1	点灯したとき 555
		点滅したとき 560
(橙)	アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) 警告灯 *1 グレード/仕様別装備	555
(橙)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告灯 *1 グレード/仕様別装備	555
	LED ヘッドランプ警告灯 *1 グレード/仕様別装備	555
	燃料残量警告灯	560
	シートベルト警告灯	560
	ウォッシャー液残量警告灯 グレード/仕様別装備	560
	半ドア警告灯	560
(橙)	スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告灯 *1 グレード/仕様別装備	560

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

*2 パーキングブレーキをかけているときは点灯し続けます。

表示灯

システムが作動中などに点灯します。

表示	表示灯名称	ページ
（緑）	KEY 表示灯	19
	セキュリティ表示灯 *1	75
	予熱表示灯 *1 グレード/仕様別装備	155
DPF	DPF 表示灯 *1 グレード/仕様別装備	275
	レンチ表示灯 *1 グレード/仕様別装備	154
（青）	低水温表示灯	154
i-stop （緑）	i-stop 表示灯	118
i-ELOOP （緑）	i-ELOOP 表示灯 グレード/仕様別装備	125
	セレクトレバー位置表示 グレード/仕様別装備	159
	車幅灯表示灯	174
	ヘッドランプ上向き表示灯	ヘッドランプが上向き（ハイビーム）のとき 177 パッシング合図のとき 177

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	表示灯名称	ページ
	方向指示 / 非常点滅表示灯	方向指示灯 180
		非常点滅表示灯 181
	フロントフォグランプ表示灯 グレード/仕様別装備	182
	リヤフォグランプ表示灯 グレード/仕様別装備	183
	TCS/DSC 作動表示灯 *1	TCS が作動したとき 194
		DSC が作動したとき 196
		故障したとき 555
	DSC OFF 表示灯 *1	197
SPORT	セレクトモードインジケーター グレード/仕様別装備	171
 (緑)	アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) 表示灯 グレード/仕様別装備	203
	車線逸脱警報システム (LDWS) OFF 表示灯 グレード/仕様別装備	208
	ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯 *1 グレード/仕様別装備	215
	ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 表示 グレード/仕様別装備	219
 (緑)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示灯 グレード/仕様別装備	228

表示	表示灯名称	ページ
(赤)	スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 表示灯 グレード/仕様別装備	スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 240
		スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 256
	スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) OFF 表示灯 グレード/仕様別装備	スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 240
		スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) 250
		スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 256
(橙)	クルーズメイン表示灯 グレード/仕様別装備	269
(緑)	クルーズコントロール表示灯 グレード/仕様別装備	269

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

レンチ表示灯 グレード/仕様別装備

メンテナンス時期になると点灯 / 点滅します。

点灯するとき

- あらかじめ設定されたメンテナンス時期になると点灯します。
  設定 / リセット方法については、次のページを参照してください。
  → 285ページ「メンテナンスモニター グレード/仕様別装備 」
- **(SKYACTIV-D 1.5)**
  エンジンオイルが劣化しているときに点灯します。
  エンジンオイルの点検方法については、次のページを参照してください。
  → 487ページ「エンジンオイルの点検、補充」

知識

お車の使用条件によっては、別冊のメンテナンスノートに記載された交換時期よりも早く点灯することがあります。

点滅するとき (SKYACTIV-D 1.5)

フューエルフィルター (セジメンタ) の水抜きが必要なときに点滅します。マツダ販売店へご相談ください。

低水温表示灯 (青)

エンジン冷却水の温度が低いときに点灯し続けます。
十分に暖機しても点灯したままのときはマツダ販売店で点検を受けてください。

予熱表示灯 (SKYACTIV-D 1.5)

電源ポジションを ON にすると点灯します。予熱が終了すると消灯します。
→ 105ページ「エンジンをかけるとき」

次のようなときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

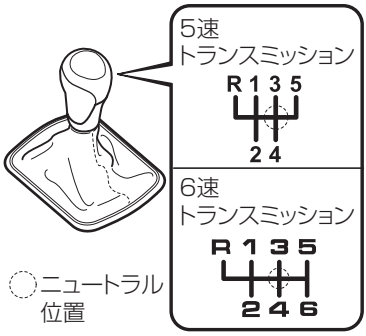
- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 点滅しているとき

知識

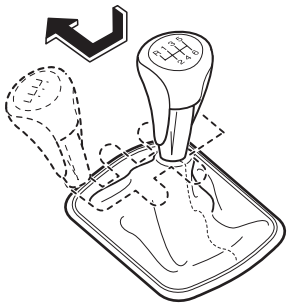
予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い点灯することがあります。

トランスミッションの使いかた

マニュアルトランスミッション



チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。



マニュアルトランスミッションは、シフトの誤操作を防ぐ装置が装備されています。
R に入れるときは、チェンジレバーを下方向へ押しながら R 方向へ操作してください。

⚠注意

必ず守る **R に入れるときは､車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。**

禁 止 **5 速から 4 速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず 2 速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。**

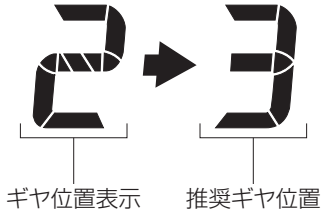
禁 止 **R に入れるとき以外は、誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。**

知識

- R に入らないときは、チェンジレバーをニュートラル位置にもどし、クラッチペダルを踏み直して、再度操作してください。
- エンスト時、エンジンが完全停止したあと 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。
  次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。
  - 運転席のドアが開いているとき
  - 運転席のシートベルトが装着されていないとき
  - エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
  - エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

ギア・シフト・インジケーター (GSI)

ギア・シフト・インジケーター (GSI) は、燃費のよい快適な走行をサポートします。メーター内で選択したギヤ位置を表示し、実際の走行状態に適したギヤ位置に変更するよう運転者に知らせます。



表示	内容
ギヤ位置表示	現在のギヤ位置を表示
推奨ギヤ位置	走行状態に適したギヤ位置を表示

注意

必ず守る

ギア・シフト・インジケーター (GSI) を過信しないでください。実際の走行状況では、表示と異なるシフト操作が必要な場合があります。変速する前に道路や周囲の状況を正確に判断してください。

知識

次のようなとき、ギア・シフト・インジケーター (GSI) は表示しません。

- 停車時
- チェンジレバーがニュートラル位置または R のとき
- 後退時
- 発進時、クラッチを完全につないでいないとき
- 走行中に 2 秒以上クラッチペダルを踏み続けたとき

オートマチックトランスミッション

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリープ現象

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが P、N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンすることができます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

知識

アクセルペダルを踏み込んでいくと途中で重くなり、さらに踏み込むと軽くなります。

この踏力の変化はキックダウンさせるためのアクセルペダルの踏み込み量を容易に認識し、キックダウンさせる・させないをコントロールするための機能です。

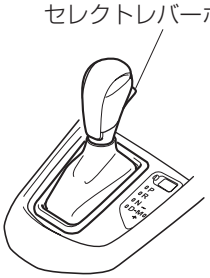
セレクトレバー位置表示

電源ポジションが ON のとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を表示します。

ギヤ位置表示

マニュアルモードのとき使用しているギヤ位置を表示します。

各位置の働き



P（パーキング）

駐車およびエンジンを始動する位置。

R（リバース）

車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

N（ニュートラル）

動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のため P の位置で行なってください。

D（ドライブ）

通常走行する位置。
車速に応じて 1 速から 6 速までを自動変速します。

M（マニュアル）

マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→ 161ページ「マニュアルモード」

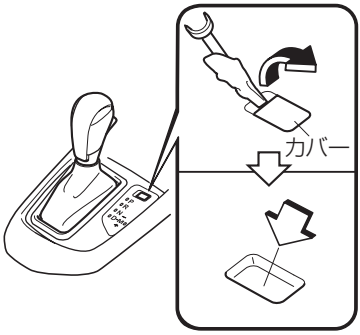
シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

知識

電源ポジションが ACC または OFF のときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。

シフトロック装置の解除

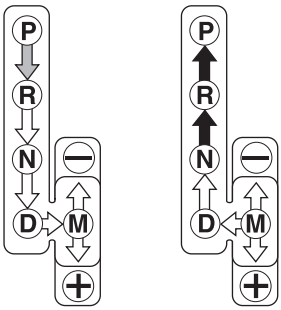


万一、セレクトレバーをPから操作できないときは、カバーをはずし、ブレーキペダルを踏み、マイナスドライバーなどで解除ボタンを押したまま、セレクトレバーボタンを押してセレクトレバーを操作します。

知識

マイナスドライバーなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。マイナスドライバーなどが直接カバーにあたると、傷がつくおそれがあります。

セレクトレバーの操作



レバー操作	
⇨	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
⇨	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

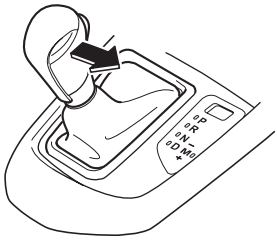
知識

- **誤作動防止について**
  ⇨の操作は、誤作動防止のため、各ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。
- **先にブレーキペダルを踏んでから操作する**
  セレクトレバーをPから操作するとき、セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

AAS モードについて

AAS（アクティブアダプティブシフト）モードとは、運転者が快適に運転するため、道路の状況や運転者の操作に最適なシフトポイントを自動的にコントロールするモードです。
セレクトレバーが D の状態で、登り坂や下り坂、コーナーや高地を走行したり、アクセルペダルをすばやく操作することで AAS モードになる場合があります。
走行状態、路面状態、シーンや操作に応じて、最適なギヤ位置を維持するためシフトチェンジが遅れたり、行なわれない場合がありますが、異常ではありません。

マニュアルモード



セレクトレバーを D から M にいれるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
セレクトレバーを M から D にいれるとマニュアルモードが解除されます。

知識

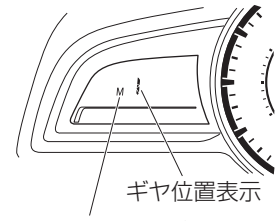
- 停車時にマニュアルモードにした場合、ギヤは 1 速になります。
- D レンジで 5 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは 4 速になります。また、D レンジで 6 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは 5 速になります。

表示灯

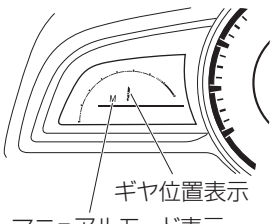
マニュアルモード表示
マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示灯の M が点灯します。

ギヤ位置表示
ギヤ位置が表示されます。
高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギヤ位置表示が 2 回点滅します。

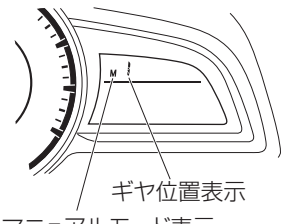
アナログタコメーター装備車



デジタルタコメーター装備車



タコメーター非装備車



知識

次のときは、自動変速になる場合があります

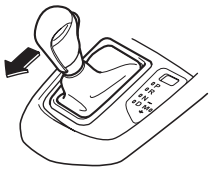
- オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温になると、ギヤ位置表示が消灯しマニュアルモードが解除されるため自動変速になる場合があります。これはオートマチックトランスミッションを保護するための正常な機能です。しばらくして ATF 温度が下がるとギヤ位置表示が再び点灯しマニュアルモードでの走行が可能になります。
- アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでいる間は、自動変速に切り替わります。ただし、DSC を OFF にしているときは、この機能が停止されるため、アクセルをいっぱいに踏み込んでも自動変速に切り替わりません。

シフトチェンジ（変速）のしかた

セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトチェンジすることができます。

シフトアップ（M1 → M2 → M3 → M4 → M5 → M6）

セレクトレバー



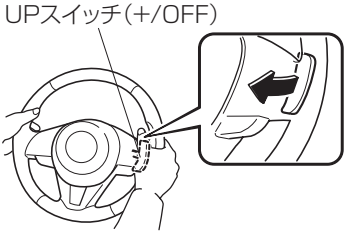
（セレクトレバーでの操作）

セレクトレバーを＋側に動かすとシフトアップ（高速ギヤに変速）します。

（ステアリングシフトスイッチでの操作）

ハンドル右裏側のUPスイッチ（**+/OFF**）を手前に引くとシフトアップ（高速ギヤに変速）します。

ステアリングシフトスイッチ☆



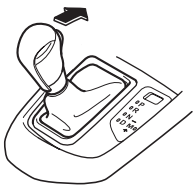
☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

知識

- 低速時は速度によりシフトアップできないことがあります。
- マニュアルモードではタコメーターの指針がレッドゾーンにはいらないように運転してください。なお、エンジン回転数が高いとき、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。
- ステアリングシフトスイッチは、走行中セレクトレバーがDレンジでも、一時的に使用することができます。また、UPスイッチ（**+/OFF**）を一定時間以上手前に引いたときは自動変速にもどります。

シフトダウン（M6 → M5 → M4 → M3 → M2 → M1）

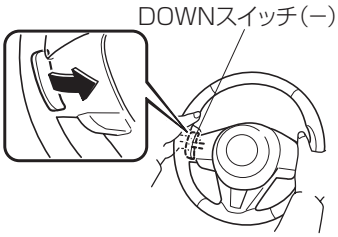
セレクトレバー



（セレクトレバーでの操作）
セレクトレバーを**ー**側に動かすとシフトダウン（低速ギヤに変速）します。

（ステアリングシフトスイッチでの操作）
ハンドル左裏側の DOWN スイッチ（**ー**）を手前に引くとシフトダウン（低速ギヤに変速）します。

ステアリングシフトスイッチ☆



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

⚠警告

必ず守る

高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避ける。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

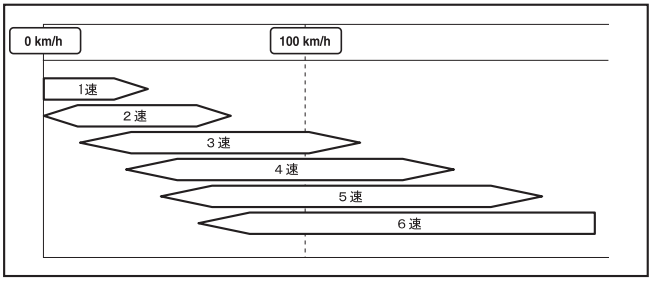
- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンします。
→ 158ページ「オートマチック車の特性」

2 速固定モード

車速が約 10 km/h 以下のときにセレクトレバーを＋側に動かして 2 速にすると 2 速固定モードになり、ギヤ位置は 2 速に固定されます。雪道などすべりやすい路面での発進や走行がしやすくなります。
2 速固定モードのときに、セレクトレバーを＋側または－側に動かして 2 速以外にすると 2 速固定モードは解除されます。

シフトチェンジ（変速）制限速度

マニュアルモードでは、各ギヤ位置において次の表のような制限速度を設けています。制限速度範囲内のときにセレクトレバーを操作すると変速します。



シフトアップ
制限速度より低いときはシフトアップしません。

シフトダウン
制限速度を超えているときはシフトダウンしません。
制限速度を超えていてシフトダウンしなかった場合には、ギヤ位置表示が 2 回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。

キックダウン
走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、シフトダウンします。

知識

2 速固定モード時も、キックダウンでシフトダウンします。

オートシフトダウン
減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。

知識

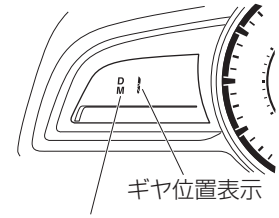
2 速固定モード時は、2 速のまま停車します。

ダイレクトモード グレード/仕様別装備

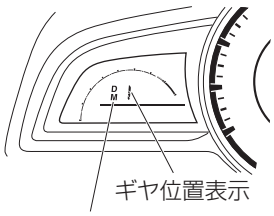
セレクトレバーを D の位置で走行中、ステアリングシフトスイッチを操作すると一時的にギヤ位置を切り替えることができます。
ダイレクトモードのときは、表示灯に D と M が点灯し、使用しているギヤ位置が表示されます。
ダイレクトモードは、次の状態になると解除されます。

- UP スイッチ（**+/OFF**）を一定時間以上手前に引いたとき
- 一定時間以上走行したとき（操作時の走行状態により時間は異なります）
- 停車したとき、または、低速走行になったとき

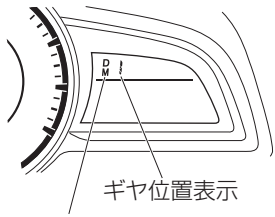
アナログタコメーター装備車



デジタルタコメーター装備車



タコメーター非装備車



オートマチック車を運転するときに

発進または後退するとき

⚠警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
禁止
車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行ないますので、アクセル操作は慎重に行なってください。

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
   前進 …D、M
   後退 …R
2. セレクトレバーの位置を確認します。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

⚠注意

必ず守る **後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。**

知識

- セレクトレバーをRに入れるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRに入っていることを運転者に知らせます。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルをゆっくり踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキをもどします。

走行するとき

通常走行

セレクトレバーをDに入れて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。ギヤは1速から6速の間で、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行

停車中または走行中にセレクトレバーをDからMに入れると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
→ 161ページ「マニュアルモード」

急加速

セレクトレバーがDまたはMのとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速できます。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギヤにシフトダウンしてください。
マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて1段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

停車するとき

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N または P に入れます。

⚠警告

禁止

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。

セレクトレバーが P、N 以外に入っているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。

意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置に入れ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

1. 車を完全に止めます。
2. セレクトレバーを P に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
4. エンジンを止めます。

⚠警告

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかける。

パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーを P に入れただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンをかけたまま駐車しない。

万一セレクトレバーが P、N 以外に入っていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

セレクトレバーを P に入れるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーを P に入れると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

⚠警告

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進しない。

エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドライブセレクションとは（オートマチック車） グレード/仕様別装備

ドライブセレクションとは、車両の走行モードを切り替えることができるシステムです。スポーツモードを選択すると、アクセルペダルを踏み込んだときの車両応答性が高められます。
より安全に高速道路に合流したり、追い越したりしたいときにご使用ください。

⚠注意

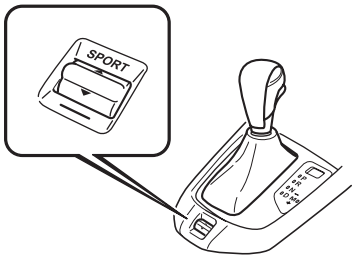
必ず守る

ぬれた路面や積雪路などすべりやすい路面を走行しているときは、スポーツモードの使用を避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

知識

- スポーツモードを選択すると、高いエンジン回転数での走行が多くなり、燃費が悪化することがあります。通常時はスポーツモードを解除して走行することをおすすめします。
- 次のようなときは、走行モードの切り替えはできません。
  - ABS/TCS/DSC が作動しているとき
  - **（クルーズコントロール装備車）**
    クルーズコントロールで定速走行をしているとき
  - **（マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール（MRCC）装備車）**
    マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール（MRCC）で定速走行しているとき
  - 急激なハンドル操作を行なっているとき

ドライブセレクションスイッチ

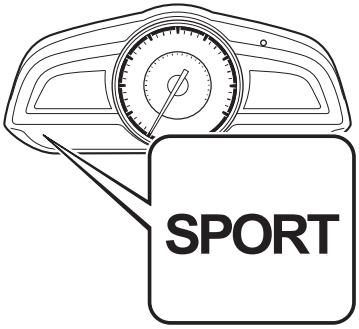


ドライブセレクションスイッチをSPORT側（前方）に押すと、スポーツモードになります。
ドライブセレクションスイッチを――側（手前）に引くと、スポーツモードが解除されます。

知識

- 電源ポジションを OFF にすると、スポーツモードは解除されます。
- スポーツモードを選択したときの走行状態によっては、シフトダウンしたり、少し加速したりすることがあります。

セレクトモードインジケーターライト



スポーツモードを選択しているときに、メーター内のセレクトモードインジケーターライトが点灯します。

知識

走行モードを切り替えることができないときは、セレクトモードインジケーターライトが点滅してお知らせします。

ブレーキの操作

パーキングブレーキ

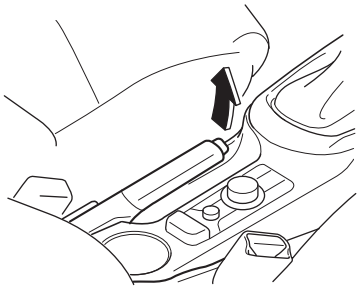
⚠警告

禁止

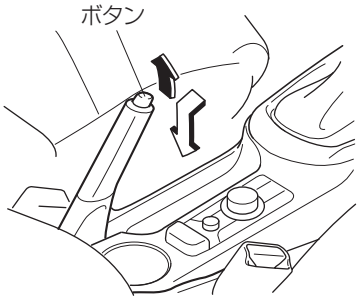
パーキングブレーキをかけたまま走行しない。

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱するためブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

かけるとき



解除するとき



レバーを少し引き上げ、先端のボタンを押してもどします。

i-ACTIV AWD について グレード/仕様別装備

4WD は、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。

走行するときは

オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。
4WD 車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。

ランプスイッチ

ヘッドランプの点灯 / 消灯

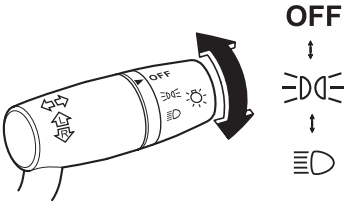
電源ポジションが ON のとき使用できます。車幅灯、尾灯、番号灯のみ電源ポジションが ON 以外でも使用できます。ランプスイッチをまわすと､各ランプが点灯 / 消灯します。

各ランプが点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

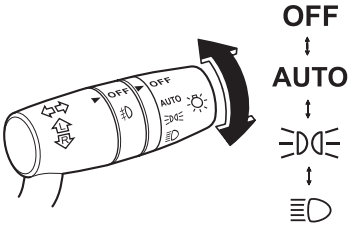
知識

- エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため、海外のような一時的な右側通行で使用するときでも、ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。

標準タイプ



オートライト機能付きタイプ



スイッチ位置	電源ポジション	ランプ名称	
		ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	ON、ACC、OFF	消灯	
AUTO	ON	自動で点灯 / 消灯	
	ACC、OFF	消灯	消灯 *1 / 点灯 *2
≡D◇≡	ON、ACC、OFF	消灯	点灯
≡◇	ON	点灯	
	ACC、OFF	消灯	点灯 *3

*1 電源ポジションが ON 以外のときに、スイッチ位置をAUTOにしても、ランプは点灯しません。

*2 ランプが点灯しているときに、電源ポジションを ON から ON 以外にしても、ランプは点灯し続けます。
運転席ドアを開く、または点灯状態が 30 秒経過すると消灯します。

*3 運転席ドアを開く、または点灯状態が 30 秒経過すると消灯します。

オートライト機能（オートライト機能付きタイプ）

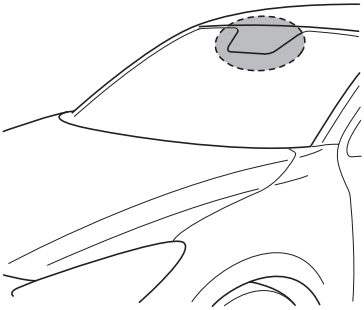
電源ポジションが ON のとき使用できます。
ランプスイッチをAUTOの位置にすると、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯 / 消灯します。

周囲の明るさ	明るい	薄暗い	暗い
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

⚠注意

禁止

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の明るさを感知できなくなり、オートライト機能が正常に作動しないことがあります。



知識

- 長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。
  この場合はランプスイッチを**OFF**の位置にすれば消灯します。
- 車幅灯やヘッドランプを点灯させるタイミングを変更することができます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

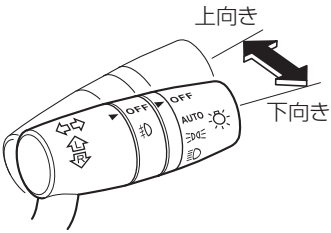
ランプ消し忘れ防止チャイム

ランプを点灯させたまま、電源ポジションを OFF にして、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

知識

ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更することができます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

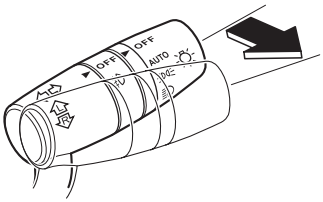
ヘッドランプの切り替え



レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。

ヘッドランプが上向き（ハイビーム）で点灯しているときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

パッシング合図



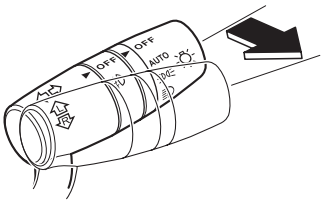
電源ポジションが ON のとき使用できます。ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き（ハイビーム）で点灯します。

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

カミング・ホーム・ライト

レバーを操作すると、ヘッドランプ (下向き) を点灯させるシステムです。

作動させるとき



電源ポジションが ACC または OFF のときに、レバーを引くとヘッドランプが下向き (ロービーム) で点灯します。ドアを閉めてから一定時間経過すると消灯します。

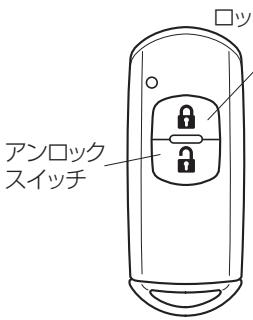
知識

- すべてのドアを閉めてからヘッドランプが消灯するまでの時間を変更することができます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
- レバーを引いたあと、何も操作しない状態が 3 分間続いた場合、ヘッドランプは消灯します。
- ヘッドランプが点灯中に、もう一度レバーを引くとヘッドランプは消灯します。

リービング・ホーム・ライト

車両から離れているときにキーのアンロックスイッチを押すと、ランプを点灯させるシステムです。

作動させるとき



電源ポジションおよびランプスイッチが、次の状態のときにキーのアンロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信するとランプが点灯します。一定時間 (30 秒) 経過すると消灯します。

- 電源ポジション : OFF
- ランプスイッチ : ≡D、≡D、AUTO

リービング・ホーム・ライトを作動させると、次のランプが点灯します。
ヘッドランプの下向き (ロービーム)、車幅灯、尾灯、番号灯

知識

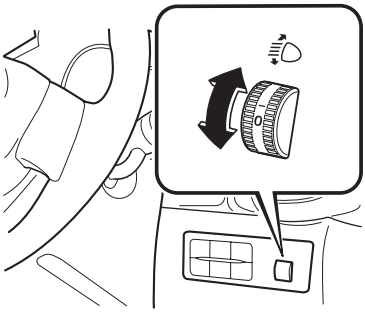
- リービング・ホーム・ライトの作動 / 非作動を変更することができます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
- キーのロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信すると消灯します。
- ランプスイッチを または以外にすると消灯します。

ヘッドランプレベリング

オートタイプ

ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

マニュアルタイプ



ヘッドランプが点灯しているとき、ヘッドランプの照らす方向を下向きに調節することができます。乗員や荷物が多いときなど、ヘッドランプが通常よりも上向きを照らしているときは、スイッチを下方向にまわしてヘッドランプの照らす方向を下向きにしてください。スイッチの数字が大きいほど下向きになります。

スイッチ位置の目安

積載状況		スイッチ位置	
乗員	荷室	2WD 車	4WD 車
運転席のみ乗車時	非積載時	0	0
	満載時	3.5	3.0
運転席と助手席乗車時	非積載時	0.5	0
全席乗車時	非積載時	1.5	1.5
	満載時	2.5	2

知識

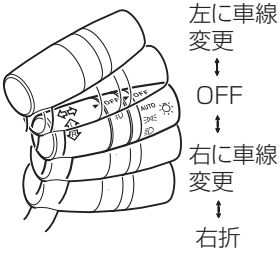
車検などで光軸調整をするときは、スイッチの位置を**0**にしてから行なってください。

方向指示器

方向指示器の操作

電源ポジションが ON のとき使用できます。

方向指示器



車線変更する場合

レバーを車線変更の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

左折、または右折する場合

レバーを左折または右折の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、ハンドルをもどすと、自動でもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

方向指示灯

知識

- 点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 方向指示器のブザーの音量を変更することができます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

スリーフラッシュターンシグナル

レバーを操作し、すぐに手を離すと方向指示灯が 3 回点滅します。

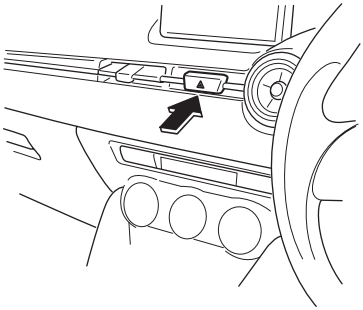
知識

スリーフラッシュターンシグナルの作動 / 非作動を変更することができます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

非常点滅灯スイッチ

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。

非常点滅灯スイッチ



スイッチを押すとすべての方向指示灯および、メーター内にある非常点滅表示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

非常点滅表示灯

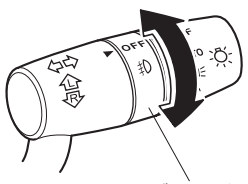
知識

- すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示灯が点滅することがあります。
  → 193ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」
- エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意をうながします。
  → 193ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」

フロントフォグランプスイッチ グレード/仕様別装備

霧などで視界が悪いときに使用します。
電源ポジションが ON で、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているとき使用できます。

フォグランプスイッチ



フォグランプスイッチ

フォグランプスイッチをの位置にすると、フォグランプが点灯します。フォグランプが点灯しているときは、メーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。

OFF

↕

次のいずれかの操作を行なうと、フォグランプは消灯します。

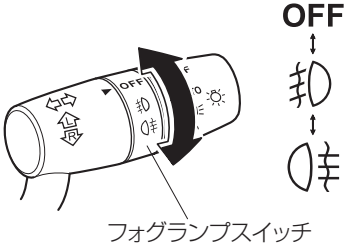
- 電源ポジションを ON 以外にする。
- フォグランプスイッチを**OFF**の位置にする。
- ランプスイッチを**OFF**の位置にする。

フロントフォグランプ表示灯

リヤフォグランプスイッチ

霧などで視界が悪いときに使用します。

フォグランプスイッチ



次の条件のときリヤフォグランプを使用できます。

- 電源ポジション : ON
- フロントフォグランプ点灯時（フロントフォグランプ装備車）
- ヘッドランプ点灯時（フロントフォグランプ非装備車）

フォグランプスイッチを の位置にするとリヤフォグランプが点灯します。フォグランプスイッチは自動で の位置に戻ります。
リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。
フォグランプスイッチを の位置にする、またはランプスイッチを OFF にすると消灯します。

リヤフォグランプ表示灯

ワイパー / ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき作動します。

⚠警告

必ず守る

寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスをあたためてから行なう。

ウォッシャー液がガラス面で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。

必ず守る

ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。

禁 止

ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないままで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

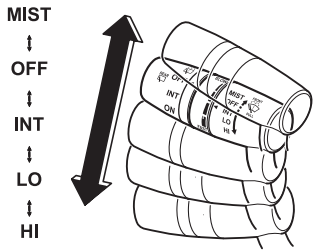
知識

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。針などでつまりを取ってください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを**OFF**の位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

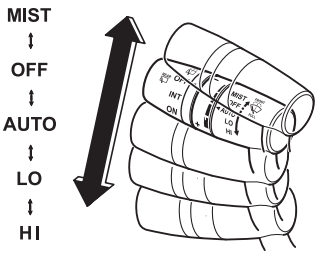
フロントワイパー / ウォッシャー

ワイパーの操作

標準タイプ



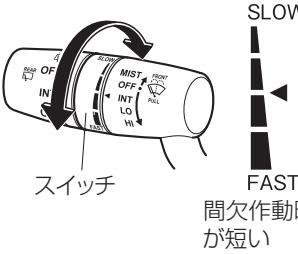
オートワイパー機能付きタイプ



レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
AUTO	オートワイパー機能 / 間欠作動 *1
LO	低速作動
HI	高速作動

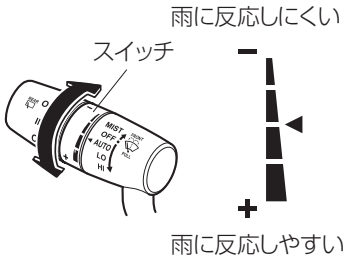
*1 設定変更でオートワイパー機能を OFF にすると、間欠作動に固定されます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

間欠作動時間の調節 (標準タイプ)



レバーを**INT**の位置にしているとき、スイッチをまわすと、間欠作動時間を調節できます。

オートワイパー機能（オートワイパー機能付きタイプ）



レバーをAUTOの位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。

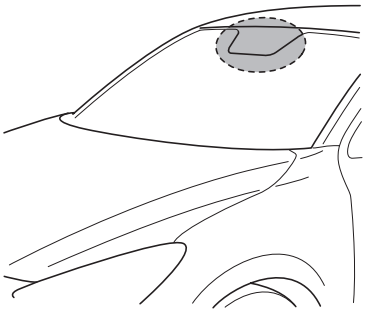
雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動

スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

⚠注意

禁止

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の雨量を感知できなくなり、オートワイパー機能が正常に作動しないことがあります。



禁止

電源ポジションがONで、ワイパーレバーがAUTOの位置のとき、つぎのような場合はワイパーが自動で作動することがあります。手や指を挟まないよう注意してください。万一手や指を挟むと、けがやワイパーの故障につながるおそれがあります。

- **フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき。**
- **フロントガラスのレインセンサー上部を布などで拭いたとき。**
- **フロントガラスに衝撃をあたえたとき。**
- **レインセンサーに車内から衝撃をあたえたとき。**

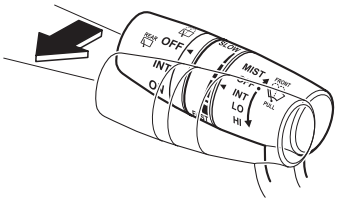
必ず守る

洗車やメンテナンスを行なうときは、ワイパーレバーをOFFの位置にしてください。

知識

- レインセンサーの温度が-10° C以下、または85° C以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。
- フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
- フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物（氷や塩水などを含むもの）が付着しているときや、フロントガラスが凍っているとき、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを**LO**または**HI**にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。
- レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線などの影響により、ワイパーレバーが**AUTO**の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを**OFF**の位置にして走行することをおすすめします。
- オートワイパー機能の作動 / 非作動を変更することができます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

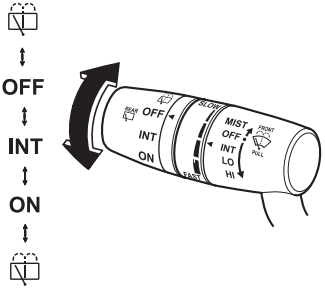
ウォッシャーの操作



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

スイッチの使いかた

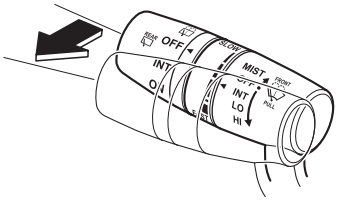
リヤワイパー / ウォッシャー



スイッチ位置	作動状態
	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動 *1
OFF	停止
INT	間欠作動
ON	連続作動
	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動

*1 ワイパーの作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを**ON**の位置から上側にまわします。

ヘッドランプウォッシャースイッチ



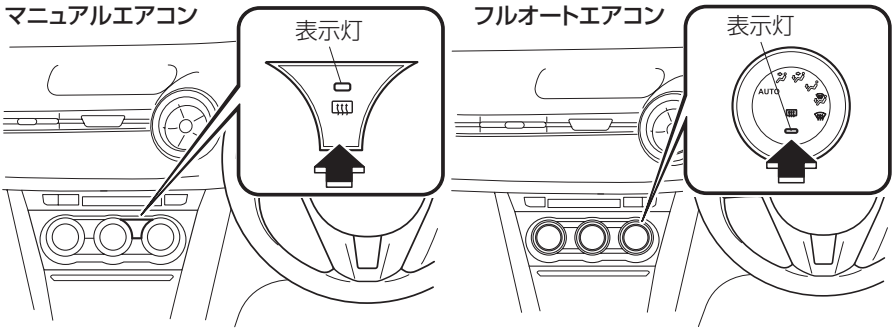
電源ポジションが ON でヘッドライトが点灯しているときに、レバーを手前に 2 回引くとヘッドランプウォッシャーが作動します。

知識

ヘッドランプ点灯後、初めてフロントウォッシャーを作動させると、ヘッドランプウォッシャーが自動で作動します。

リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチ

リヤウインドーを熱線であたため、曇りを取ります。
電源ポジションが ON のとき使用できます。
スイッチを押すと約 15 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



⚠注意

禁止

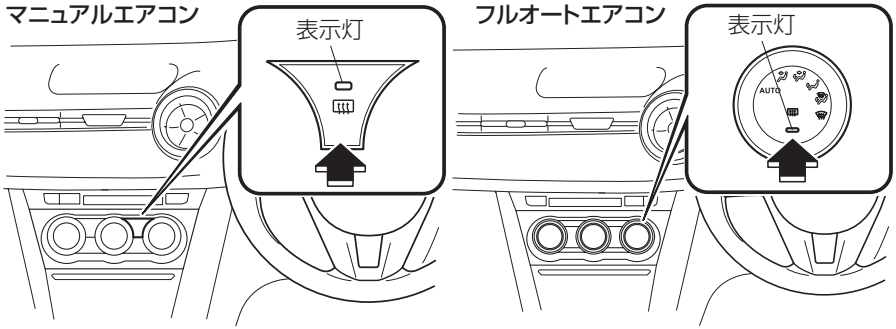
リヤウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。
→511ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

知識

- エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）の作動時間を変更することができます。
→ 585ページ「設定変更（カスタマイズ機能）」

ミラーの曇り取り グレード/仕様別装備

ドアミラーの曇りを取ることができます。
ミラーの曇り取りは、リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）と連動して作動します。
電源ポジションを ON にして、リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチを押すとミラーの曇り取りが作動します。
→ 189ページ「リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチ」



ホーン

ハンドルのマーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

ABS とは

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

⚠警告

必ず守る

ABS を過信せず安全運転に心がける。

ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ジャリ道、新雪道を走行しているとき。**
- **タイヤチェーンを装着しているとき。**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。**
- **凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。**

⚠注意

必ず守る

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

ABS 装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1. 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
2. ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。
3. 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

知識

- ABS は低速（約 10 km/h 以下）では作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後に、モーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ヒルローンチアシスト (HLA) について

ヒルローンチアシスト (HLA) とは

ヒルローンチアシスト (HLA) とは、坂道発進を補助する機能です。坂道停車後の発進時、ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際の車両の後退を防ぎます。
急な坂道でブレーキペダルを放したときに自動でブレーキ力を保持します。

- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーが R 以外のときは上り坂で作動し、R のときは下り坂で作動します。
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが前進の位置のときは上り坂で作動し、R のときは下り坂で作動します。

⚠警告

禁止

ヒルローンチアシスト (HLA) を過信しない。

ヒルローンチアシスト (HLA) はあくまでも発進するときの補助機能です。システムが作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので、システムを過信して発進すると車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあるため危険です。発進時は周囲の安全を確認してください。積載やけん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

- 緩勾配の坂道ではヒルローンチアシスト (HLA) が作動しません。また、積載状態によって作動する勾配が若干変化します。
- パーキングブレーキを引いているときや、車両が完全に停車していないときはヒルローンチアシスト (HLA) は作動しません。
- ヒルローンチアシスト (HLA) 作動中にブレーキペダルが硬くなったりペダルが振動することがありますが、異常ではありません。
- TCS/DSC 作動表示灯が点灯しているときは、ヒルローンチアシスト (HLA) が作動しないことがあります。
- DSC OFF スイッチを押して TCS/DSC を解除してもヒルローンチアシスト (HLA) は解除されません。
- **(オートマチック車)**
  アイドリングストップ中はヒルローンチアシスト (HLA) は作動しませんが、発進補助機能が作動して車両が動き出すことを防ぎます。

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は緊急制動時などに車両に急減速が生じたかを判断し、方向指示灯の点滅により、後続車に注意をうながすシステムです。
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させます。
ブレーキペダルを放すか、車両の減速度から急ブレーキではないと判断されたときにシステムは解除されます。

知識

- **点滅について**
  すべての方向指示灯が高速点滅中に停車した場合、すべての方向指示灯は通常の周期で点滅し続けます。
- **作動について**
  エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は約 60km/h 以下のときは作動しません。
- すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示灯が点滅することがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS) について

TCS とは

TCS（トラクションコントロールシステム）は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

⚠警告

必ず守る

TCS を過信せず安全運転に心がける。

TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- エンジン回転が高いときに TCS が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- TCS を解除するときは、DSC OFF スイッチを押して解除してください。
→ 196ページ「DSC OFF スイッチ」

TCS/DSC 作動表示灯

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について

DSC とは

DSC (ダイナミック · スタビリティ · コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえるため、ABS や TCS などにより、ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。
DSC は約 20 km/h 以上で作動可能な状態になります。
「ABS について」、「TCS について」もあわせてお読みください。
→ 191ページ「ABS とは」
→ 194ページ「TCS とは」

⚠警告

必ず守る

DSC を過信せず安全運転に心がける。

DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
特に DSC 作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

⚠注意

必ず守る

DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- **前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。**
- **摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。**
- **指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用しないでください。**

知識

- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSC が正常に作動しないことがあります。
- 電源ポジションを ON にした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TCS/DSC 作動表示灯

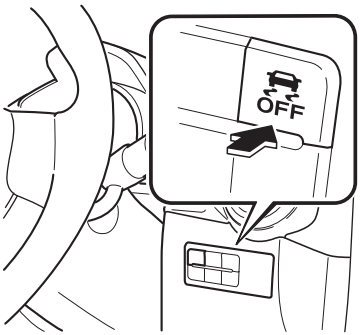
点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

DSC OFF スイッチ



スイッチを押すと TCS/DSC が停止され、メーター内の DSC OFF 表示灯が点灯します。
もう一度押すと TCS/DSC が作動可能な状態になり、DSC OFF 表示灯が消灯します。

知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS が作動し、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときに TCS/DSC を停止します。
- TCS/DSC を停止した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると TCS/DSC は作動可能な状態にもどります。
- TCS/DSC を停止したときは、TCS/DSC が装備されていない車と同じ走行性能になります。
- DSC OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると、その後 DSC OFF スイッチを押しても TCS/DSC を停止することができなくなります。
  その場合、一度電源ポジションを OFF にして、再度電源ポジションを ON にすると、通常の DSC OFF スイッチの操作が可能になります。
- **(スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 装備車)**
  TCS/DSC を停止した状態でスマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が作動すると、TCS/DSC は自動的に作動可能な状態に復帰します。

DSC OFF 表示灯

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- DSC OFF スイッチを押して、TCS/DSC を停止すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - TCS/DSC を停止していないのに点灯したとき。

i-ACTIVSENSE とは グレード/仕様別装備

i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）とは、フォワードセンシングカメラ (FSC) やレーザーセンサーなどを利用したマツダの先進安全・運転支援システムの総称です。これらのシステムは、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。
これらのシステムはあくまで、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

アクティブセーフティ技術とは

アクティブセーフティ技術とは、安全・安心な運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。

認知支援システム

夜間視界
アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH).....201

左右側面・後側方認知
車線逸脱警報システム (LDWS) 204
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 210

車間認知
車間認知支援システム (DRSS).....215

運転者疲労検知
ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....218

駐車場発進時後方認知
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) 220

運転支援システム

車間距離
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC).....224

プリクラッシュセーフティ技術とは

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故が避けづらい状況での衝突回避、避けられず衝突した際の被害低減を図る技術です。

低速度域衝突被害軽減

前進時

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F).....236
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....242

後退時

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R).....245
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....251

中・高速度域衝突被害軽減

スマート・ブレーキ・サポート (SBS).....254

カメラ、センサについて

フォワードセンシングカメラ (FSC)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、車線表示を検知したり、夜間走行時にはヘッドランプ、テールランプ、街灯を認識したりしています。フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次のシステムが共用しています。

- アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム (LDWS)
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、フロントガラスの上のルームミラー付近に設置されています。

→ 257ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について グレード/仕様別装備 」

レーダーセンサー (フロント)

レーダーセンサー (フロント) は、レーダーセンサーから送信される電波が前方車や障害物に反射し、もどってきた電波により対象物を検知します。レーダーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
- 車間認知支援システム (DRSS)
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

レーダーセンサー (フロント) は、ラジエーターグリルの裏側に設置されています。

→ 265ページ「レーダーセンサー (フロント) について グレード/仕様別装備 」

レーザーセンサー (フロント)

レーザーセンサー (フロント) は、近赤外線レーザー光を照射し、前方車のリフレクター (反射板) や前方の障害物からの反射を測定して検知しています。レーザーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS)
- AT 誤発進抑制制御
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

→ 261ページ「レーザーセンサー (フロント) について グレード/仕様別装備 」

レーダーセンサー (リア)

レーダーセンサー (リア) は、レーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。レーダーセンサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
- リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)

レーダーセンサー (リア) はリヤバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。

→ 263ページ「レーダーセンサー (リア) について グレード/仕様別装備 」

超音波センサー (リア)

超音波センサー (リア) は、超音波センサーから送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。超音波センサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

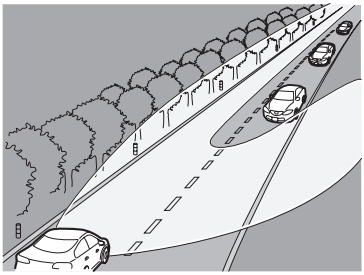
超音波センサー (リア) はリヤバンパーに設置されています。

→ 268ページ「超音波センサー (リヤ) について グレード/仕様別装備 」

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは グレード/仕様別装備

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) は、フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方車や対向車の状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲、照射部分や明るさを自動的に変化させるシステムです。
→ 257ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について グレード/仕様別装備」
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) は、ヘッドランプの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を次のように制御し、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

グレアフリー（防眩）ハイビーム

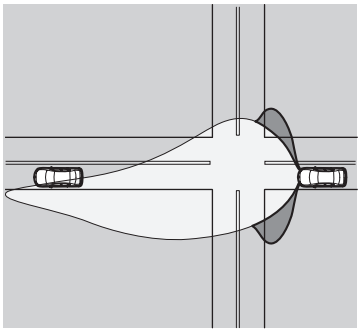


ヘッドランプ上向き（ハイビーム）の配光を前方車の部分だけ減光して照射します。
車速約 40 km/h 以上で走行中に、ヘッドランプ上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を切り替えます。また、車速が約 30 km/h 未満になると、ヘッドランプは下向き（ロービーム）に切り替わります。

知識

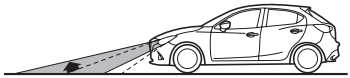
ヘッドランプが上向き（ハイビーム）のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ワイド配光ロービーム



車速約 40 km/h 未満で走行中に、ヘッドランプ下向き（ロービーム）の照射範囲を拡大して照射します。

ハイウェイモード



高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。

アダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。

⚠注意

禁止

サスペンションの改造、ヘッドランプユニットの改造、カメラの取り外しを行わないでください。アダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

必ず守る

システムを過信せず、常に周囲の状況に注意を払い、必要に応じて、上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を手動で切り替えるなど、安全運転に心がけてください。

知識

次のような状況では、アダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）が正常に作動しない場合があります。視界や道路状況、交通状況に応じて、上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を手動で切り替えてください。

- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- 周囲に反射板や標識などの反射物があるとき
- 雨、雪、霧などで視界が悪いとき
- カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
- 前方車や対向車のランプが暗いときや電球切れしているとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- ラゲッジルームや後席へ重い荷物をのせたとき
- 前方車が水をまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき

作動させるとき

電源ポジションがONの状態でランプスイッチがAUTOの位置のときにヘッドランプを上向き（ハイビーム）にすると作動します。同時にメーター内のアダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）表示灯（緑）が点灯します。

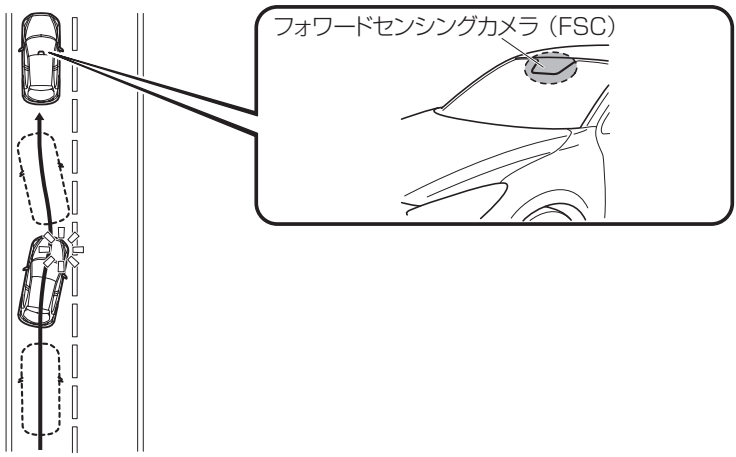
周囲の明るさからアダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）が夜と判断すると作動します。
ランプスイッチをAUTOの位置以外にするか、下向き（ロービーム）またはパッシングにすると解除します。

知識

アダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）を作動しないように変更できます。
→585ページ「設定変更（カスタマイズ機能）」

車線逸脱警報システム (LDWS) とは グレード/仕様別装備

車線逸脱警報システム (LDWS) は自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせる装置です。走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知して、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯の点滅と車線逸脱警報システム (LDWS) 警報チャイム、アクティブドライビング ディスプレイの表示 (アクティブドライビング ディスプレイ装備車) により運転者に知らせます。白線 (黄線) の整備された道路でご使用ください。
→ 257ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について グレード/仕様別装備 」



⚠警告

禁止

次のような状況のときは、車線逸脱警報システム (LDWS) を使わない。

実際の走行状況にあわせた適切な作動ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急カーブのある道**
- **悪天候のとき (雨、霧、雪のときなど)**

禁止

車線逸脱警報システム (LDWS) を過信しない。

車線逸脱警報システム (LDWS) の機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。車線逸脱警報システム (LDWS) は、前方不注意を補助するものではないため、車線逸脱警報システム (LDWS) を過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

サスペンションの改造を行わないでください。車線逸脱警報システム (LDWS) が正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

- 自車が車線を逸脱したときは、車線逸脱警報 (警報音と警告表示) が作動します。適切にハンドルを操作し、車線に沿って車線の中央を走行するようにしてください。
- 車線変更などで方向指示器を操作すると、車線逸脱警報システム (LDWS) の警報を自動解除します。方向指示器をもどし、車線の中央付近を走行して、システムが白線 (黄線) を検知すると、車線逸脱警報システム (LDWS) が復帰します。
- 急なハンドル操作、アクセル操作、ブレーキ操作をしながら車線の白線 (黄線) へ接近したときは、運転者が車線を変更すると判断し、車線逸脱警報システム (LDWS) の警報を自動解除します。
- 短時間のうちに連続して車線をはみ出したときは、車線逸脱警報システム (LDWS) が作動しない場合があります。
- 車線の白線 (黄線) を検知していないときは、車線逸脱警報システム (LDWS) は作動しません。

知識

- 次のようなときは、車線の白線（黄線）を正しく検知することができず、車線逸脱警報システム (LDWS) が正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写ったとき
  - 荷室やリヤシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
  - 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどの分岐路を走行するとき
  - 白線（黄線）がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 前方車が白線（黄線）の近くを走行して、白線（黄線）が見えにくいとき
  - 天候（雨、霧、雪のときなど）により、白線（黄線）が見えにくいとき
  - 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき
  - 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまった轍など、白線（黄線）と紛らわしい線が見えるとき
  - トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - 逆光を浴びて路面が光っているとき
  - 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
  - ガードレールなどの影が、道路上に白線（黄線）と平行して写っているとき
  - 車線の幅が狭いときや広いとき
  - 道路がうねっているとき
  - 段差などにより車が大きく揺れたとき
  - 2 本以上の白線（黄線）が隣接して描かれているとき
  - 交差点付近に様々な路面表示や様々な形状のレーンマーカーがあるとき

作動させるとき

車線逸脱警報システム (LDWS) OFF スイッチを押します。
メーター内の車線逸脱警報システム (LDWS) OFF 表示灯が消灯していることを確認します。
車線逸脱警報システム (LDWS) OFF 表示灯が消灯するとシステムが待機状態になります。

車線逸脱警報システム (LDWS) OFF 表示灯が消灯した状態で車線の中央を走行します。
次の条件をすべて満たすと、システム作動状態になります。

- 左右もしくは一方に白線 (黄線) が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速約 45 km/h 以上で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき

次のとき、車線逸脱警報システム (LDWS) は待機状態になります。

- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 車速が 40 km/h 未満になったとき
- 急なカーブを走行したとき
- 不適切な速度でカーブを走行したとき

知識

- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知するまでは、車線逸脱警報システム (LDWS) は待機状態のままになります。
- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知した場合、検知できていない方向への逸脱は警報できません。
- 車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断する距離、警報感度 (警報しやすさ) を変更できます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能) 」

自動解除

次のようなときは、車線逸脱警報システム (LDWS) が自動で解除され、メーター内の車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯が点灯します。なお、車線逸脱警報システム (LDWS) が作動可能な状態になると自動で復帰し、車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯が消灯します。

- カメラ内部の温度が高温または低温になったとき
- カメラ付近のフロントガラスが曇ったとき
- カメラ付近のフロントガラスに遮蔽物があり前が見えないとき

警報の自動中止

次のような操作を行なうと、運転者の意思で車線変更しているとシステムが判断し、車線逸脱警報システム (LDWS) の警報が自動で中止されます。なお、操作後は、車線逸脱警報システム (LDWS) が自動で復帰します。

- 急なハンドル操作をしたとき
- 急なブレーキ操作をしたとき
- 急なアクセル操作をしたとき
- 方向指示器を操作したとき (方向指示器がもどった後、進路を修正するための約 3 秒程度は、車線逸脱警報システム (LDWS) が作動しない場合があります)

知識

方向指示器を出したまま約 60 秒経過した後、車線の白線 (黄線) に近づくと、車線逸脱警報システム (LDWS) が警報を行なう場合があります。

解除するとき

車線逸脱警報システム (LDWS) を解除するときは、車線逸脱警報システム (LDWS) OFF スイッチを押します。
車線逸脱警報システム (LDWS) OFF 表示灯が点灯します。

知識

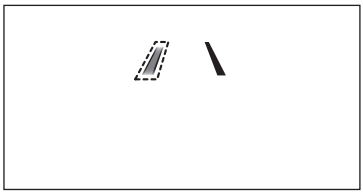
電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、車線逸脱警報システム (LDWS) が作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは車線逸脱警報システム (LDWS) は作動可能な状態のままです。

車線逸脱警報

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、車線逸脱警報システム (LDWS) 警報チャイムが鳴り、車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯が点滅します。適切にハンドルを操作し、車線の中央を走行するようにしてください。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ装備車

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した方向を、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。



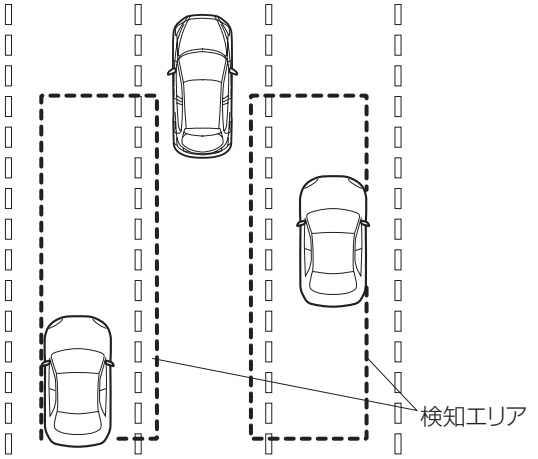
知識

- 外部の騒音など状況によっては、車線逸脱警報システム (LDWS) 警報チャイムが聞こえない場合があります。
- 車線逸脱警報システム (LDWS) 警報チャイムの音量を変更できます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能) 」

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは

グレード/仕様別装備

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) は、自車の後方から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時の後方確認を支援するシステムです。
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) は、車速が約 15 km/h 以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置したブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯を点灯させます。ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの警告表示、および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。
当システムの検知エリアは、自車の左右に隣接する車線で、自車のフロントドア後端付近から自車の後方約 50 m までです。



⚠警告

必ず守る

実際の車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。

本システムは車線変更時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、隣接車線に車両が存在する場合でもブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

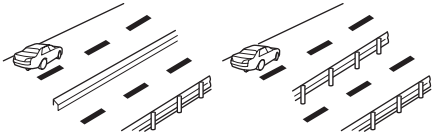
知識

- ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) は次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - メーター内のブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯が消灯しているとき
  - 車速が約 15 km/h 以上のとき
- ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) は次のときには作動しません。
  - ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯が消灯している場合でも、車速が約 10 km/h を下回ったとき
  - チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R に入れて後退中のとき
- 次の場合、システムはブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯を点灯させ、システムの作動を停止します。ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯 が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサー (リア) の車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリヤバンパー上に雪や氷などが多量についたとき (氷、雪や泥が付着しているときは、これらを取り除いてください。)
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダーセンサー (リア) 付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき
- 次のような対象物は、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 隣車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両 (接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています。)
  - 自車とほとんど速度差なく長い時間並走している車両
  - 対向車
  - 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両
  - 道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両 (レーダーセンサー (リア) の検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)

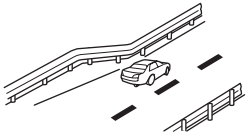
知識

- 次のような場合は、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅、警告表示、および警報チャイムの警告が遅れるか、点滅 / 警告ができないことがあります。
  - 車両が 2 つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき
  - 急勾配を走行しているとき
  - 峠を越えるとき
  - 回転半径が小さいとき (急カーブや交差点を曲がるときなど)
  - 自車線と隣接車線の高さに差があるとき
  - ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を作動可能な状態にした直後
- 道路幅が極端に狭い場合は、2 車線横の車両を検知する場合があります。(レーダーセンサー (リア) の検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
- 道路上および道路端の停止物 (ガードレール、トンネル、側壁、駐車車両など) に対してブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯し、警告表示を表示する場合があります。

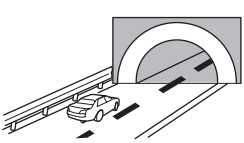
ガードレール、コンクリート壁等が
並行している場合

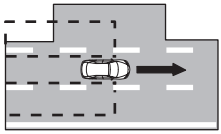


ガードレールや側壁の幅が
狭くなっているところ



トンネルの出入口やトンネル内の
側壁、待避所





- 市街地の交差点を曲がるときなどに、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅、警告表示、または警報チャイムが複数回鳴る場合があります。
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。

知識

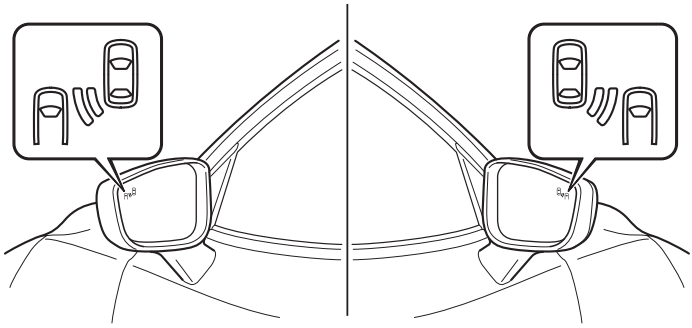
- 次のような場合は、ドアミラーに取り付けられているブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点灯 / 点滅が見えにくいことがあります。
  - ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  - フロント窓ガラスに曇、雪、汚れ、霜が付着しているとき
- チェンジレバー（マニュアル車）またはセレクトレバー（オートマチック車）をRの位置にすると、リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) に切り替わります。
  → 220ページ「リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは グレード/仕様別装備 」

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯 / ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 表示 / ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警報チャイム

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) またはリア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) 作動中は、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯や警報チャイムで、隣接車線や自車後方に車両が存在することを知らせます。

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯

ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。
電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。



前進時 (ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 作動)

後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置したブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯します。また、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯 が点滅します。

後退時 (リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) 作動)

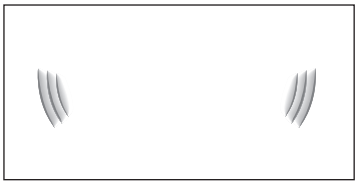
自車後方の左右に接近する車両を検知して、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅します。

減光解除機能

車幅灯が点灯しているとき、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯すると、点灯したときの明るさが減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態ではブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が見えにくい場合には、減光解除ボタンを押すと減光が解除されブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯したときの明るさが明るくなります。
→ 138ページ「パネルライトコントロールスイッチ」

ディスプレイ表示 (アクティブ・ドライビング・ディスプレイ装備車)

前進時、後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてアクティブ・ドライビングディスプレイに警告表示を表示します。



ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警報チャイム

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅と同時に鳴ります。

知識

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警報チャイムの音量を変更できます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能) 」

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を停止させるには

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を作動しないようにできます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を作動しないようにすると、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯が点灯します。

知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) およびリア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) が作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときはブラインド・スポット・モニタリング (BSM) およびリア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) は作動可能な状態のままです。

車間認知支援システム (DRSS) とは グレード/仕様別装備

車間認知支援システム (DRSS) は、車速が約 30 km/h 以上のとき、レーダーセンサー (フロント) が前方車との車間距離を計測し、車速に応じた適正な車間距離よりも前方車に近づきすぎた場合に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイにお知らせを表示して、適正な車間距離を保って運転ができるようアドバイスします。

警告

禁止

車間認知支援システム (DRSS) を過信しない

車間認知支援システム (DRSS) は前方車との安全な車間距離の目安をお知らせし、安全運転のアドバイスを行うシステムです。前方車の種類、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界がありますので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

知識

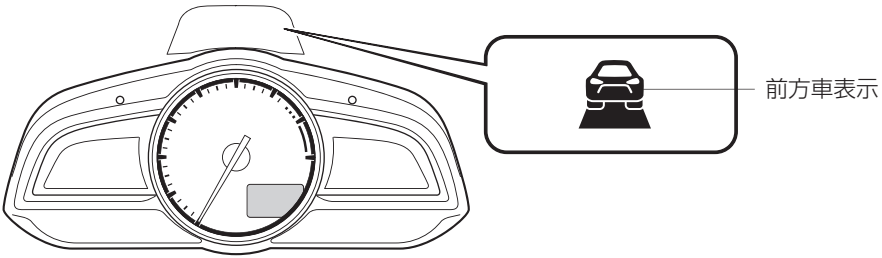
- 次の条件をすべて満たしているときに車間認知支援システム (DRSS) は作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - 車間認知支援システム (DRSS) が ON のとき
  - セレクトレバーが R レンジ以外のとき
  - 車速が約 30 km/h 以上のとき
- システムの作動対象は 4 輪車両です。
- バイクや自転車等にも車間認知支援システム (DRSS) が作動するときがあります。
- 次の条件のときは、車間認知支援システム (DRSS) が正常に作動しないときがあります。
  - DSC が故障しているとき
  - 前方車が極低速のとき
- 次の対象物には作動しません。
  - 対向車
  - 静止物 (停車車両、障害物)
- 車間認知支援システム (DRSS) を作動しないようにできます。
  → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ディスプレイ表示

車間認知支援システム (DRSS) の作動状態をアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。
システム故障時は、スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告灯 (橙) が点灯します。センターディスプレイで点灯理由を確認してください。
→ 553ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」

知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、車間認知支援システム (DRSS) が作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは車間認知支援システム (DRSS) は作動可能な状態になります。



車間表示の目安 *1

ディスプレイ表示	車間距離の目安 (約 40 km/h 走行時)	車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)
 (前方車表示が点灯)	約 25 m ～ 10 m	約 50 m ～ 20 m
 (前方車表示の手前側が橙色で点灯)	約 10 m 以下	約 20 m 以下

*1 車間距離は車速によって異なります。

知識

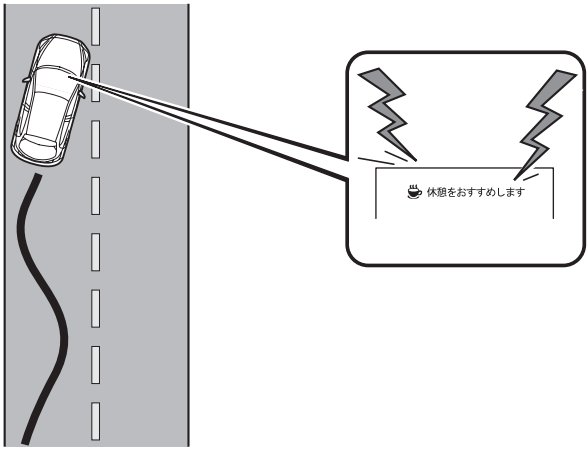
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ表示の前方車表示が点灯する車間距離を変更できます。

→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは

グレード/仕様別装備

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、運転者の疲労や注意力の低下を検知し、運転者に休憩を促すシステムです。
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、車線内を車速が約 65 km/h 以上で走行しているとき、フォワードセンシングカメラ (FSC) や各種車両情報から運転者の疲労増加や注意力低下を推定して、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示、警報チャイムにより運転者へ休憩を促します。
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は高速道路や自動車専用道路などで使用してください。
→ 257ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について グレード/仕様別装備」



⚠警告

必ず守る

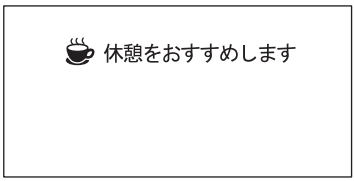
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) を過信せず安全運転に心がける。

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、運転者の疲労や注意力の低下を検知し、運転者へ休憩を促すシステムです。ふらつきを防止するものではないため、過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し、適切にハンドルを操作してください。
また、道路状況や走行状況等によっては、運転者の疲労や注意力の低下を適切に検知出来ない場合があります。運転者は十分に休憩を取り、安全運転に心がけてください。

知識

- ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 車速が約 65 km/h 以上のとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知しているとき
  - 運転者の走行データ学習が完了したとき
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、次のときには作動しません。
  - 車速が約 65 km/h を下回ったとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知できないとき
  - 急カーブを走行しているとき
  - 車線変更したとき
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、次のときには正常に作動しない場合があります。
  - 車線の白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 強風や悪路走行で車両が揺れ続けたとき
  - スポーティーな走行をしているとき
  - 頻繁に車線変更を行っているとき
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、車速が約 65 km/h 以上で約 20 分間走行したときの走行データをもとに、運転者の疲労や注意力の低下を検知しています。次のときは学習した走行データがリセットされます。
  - 15 分以上停車したとき
  - 車速が約 65 km/h 未満で約 30 分間走行したとき
  - 電源ポジションを OFF にしたとき
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA) は、一度休憩を促すと、45 分間は次回休憩をお知らせしません。

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 表示



運転者の疲労や注意力の低下を検知すると、警報チャイムが鳴り、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

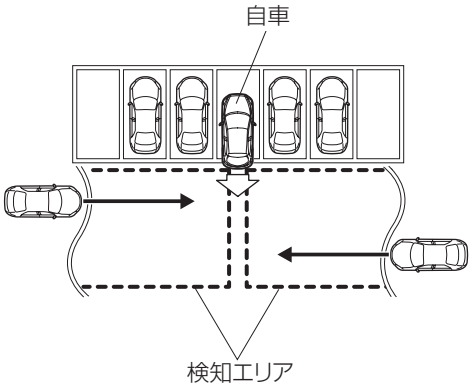
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) を停止させるには

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) を作動しないようにできます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは

グレード/仕様別装備

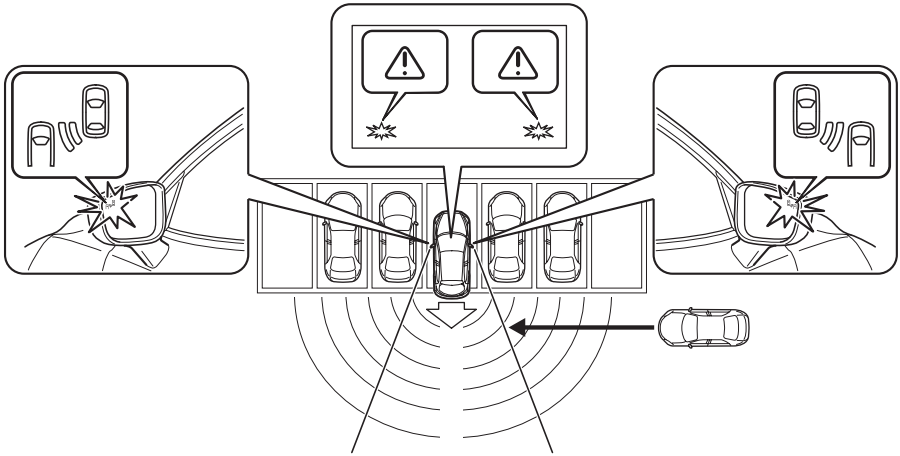
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) は、自車の後方に接近する車両の存在を知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) は、駐車場などから後退するときに自車の左右に接近した車両を検知して、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅、および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。



リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) 作動

1. チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にすると、リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) が作動します。

2. 車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅し、同時に警報チャイムが鳴ります。



⚠警告

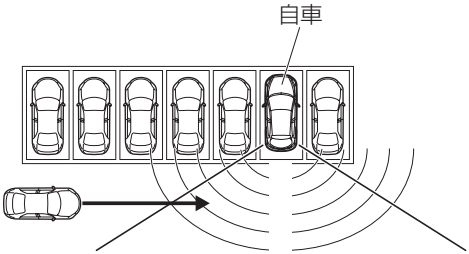
必ず守る

実際の車両後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。

本システムは車両後退時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、自車後方に車両が存在する場合でもブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

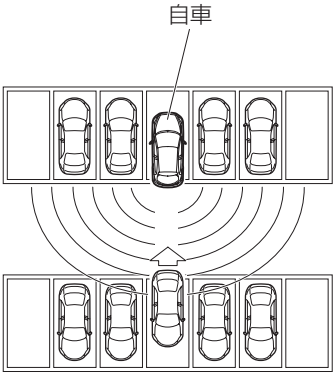
知識

- 次の場合、システムはブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯を点灯させ、システムの作動を停止します。ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯 が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサー (リア) の車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリヤバンパー上に雪や氷などが多量についたとき
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダー付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき
- 次の場合、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 後退時の車速が約 10 km/h 以上のとき
  - 隣接した壁や駐車車両によりレーダーセンサー (リア) の検知エリアが妨げられているとき (レーダーセンサー (リア) の検知エリアが妨げられない位置まで、自車を後退させてください。)

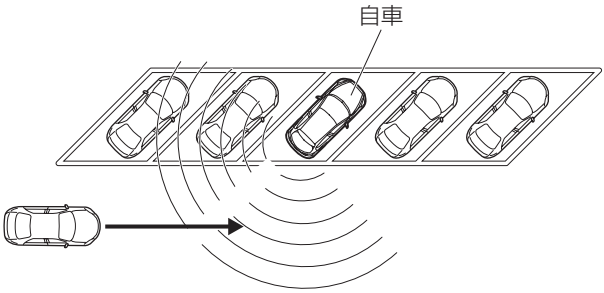


知識

- 自車の真後ろから車両が接近してきたとき



- 車両が斜めに駐車されているとき



- ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を作動可能な状態にした直後

- 次のような場合は、ドアミラーに取り付けられているブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点灯 / 点滅が見えにくいことがあります。
  - ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  - フロント窓ガラスに曇りや雪、汚れ、霜が付着しているとき
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは

グレード/仕様別装備

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) は、レーダーセンサー (フロント) が前方車を検知することで、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、約 30 km/h ～ 100 km/h の設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) は高速道路、加速 / 減速の繰返しが少ない自動車専用道路などで使用してください。

⚠警告

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を過信しない

禁止

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) は運転者の負担を軽減するために、走行速度を一定に保つ、あるいは、前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しない

禁止

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路 (道路状況に合わせた走行はできません。)**
- **高速道路などでインターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアへ進入するなど本線から出るとき (本線上で追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。)**
- **凍結路や積雪路などの滑りやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります。)**
- **長い下り坂 (車間距離を保つため自動的にブレーキを踏み続け、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。)**

⚠警告

必ず守る **マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール（MRCC）を使用しないときは、安全のためマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール（MRCC）を OFF にする**

⚠注意

必ず守る **けん引されるとき、または、他の車をけん引するときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。**

必ず守る **シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動させないよう、システムを OFF にしてください。**

知識

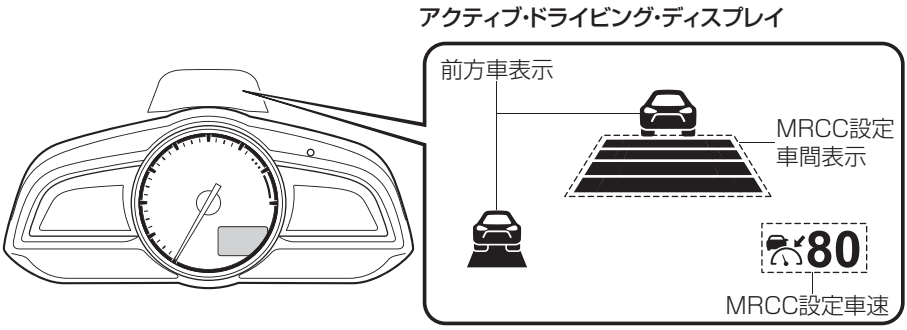
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) は次のすべての条件を満たしているときに作動できます。
  - 車速が約 30 km/h ～ 100 km/h のとき
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が ON のとき
  - ブレーキペダルを踏んでいないとき
  - パーキングブレーキがかかっていないとき
  - スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
  - DSC が正常に作動できる状態のとき
  - すべてのドアが閉まっているとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - **(マニュアル車)**
    - チェンジレバーが R、N 以外のとき
    - クラッチペダルを踏んでいないとき
  - **(オートマチック車)**
    セレクトレバーが D または M (マニュアルモード) のとき
- 次のときは、前方車と接近したときでも、警報が作動しない場合があります。
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) をセットした直後
  - アクセルペダルを踏んでいるとき、またはアクセルペダルを離した直後
  - 他車が割り込んだとき

知識

- 次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物等)
  - 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 追従走行をするときはバイク、自転車等の 2 輪車を前方車として設定しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を使用しないでください。
- 追従走行時は前方車の速度にあわせて加速や減速を行いますが、車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行ってください。
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を使用して走行しているときは、セレクトレバー (オートマチック車)、チェンジレバー (マニュアル車) を操作してもマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が解除されないため、意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 自動ブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中はブレーキランプが点灯しないときがあります。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) ディスプレイ表示

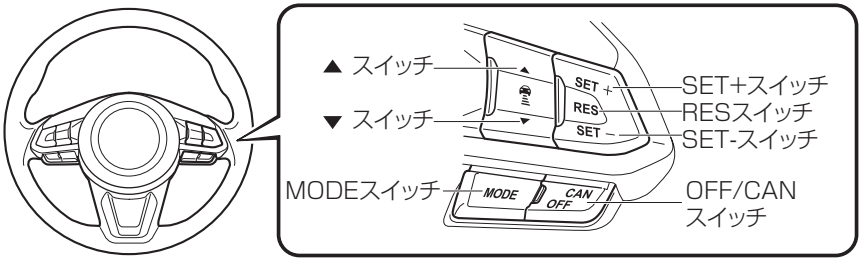
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) の設定状況および作動状態をアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。



接近警報

追従走行時に前方車が急制動を行ったときなど前方車に接近したときは、警報音が「ピピピピピ･･･」と鳴り続け、アクティブ・ドライビング・ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。

設定するとき

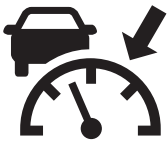


MODE スイッチを押すと速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になり、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) ディスプレイ表示およびマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動状態表示 (白) がアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

知識

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を ON にしたまま電源ポジションを ACC または OFF にしたとき、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) は自動的に OFF になります。

速度を設定するとき



1. アクセルペダルの操作で設定したい速度に調節します。
2. SET ＋または SET －スイッチを押すと定速走行をはじめます。アクティブ・ドライビング・ディスプレイに設定速度が表示され、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動状態表示が白色から緑色に、車間表示の白線表示が白色の塗りつぶし表示に変わります。同時にマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示灯 (緑) が点灯し、チャイムが 1 回鳴ります。

走行状態	ディスプレイ表示
定速走行時	**80**
追従走行時	**80**

知識

- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行います。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- 設定速度より速い速度で走行している車両を前方車としての追従走行はできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
- ディスプレイの車間距離表示が白線表示のとき、SET ＋または SET －スイッチを押すとチャイムが 3 回鳴る場合があります。そのときは速度が設定できないことをお知らせしています。

追従走行時の車間距離を設定するとき

▼スイッチを押すことにより車間距離を短く設定します。▲スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示
長 (約 50 m)	
中 (約 40 m)	
短 (約 30 m)	
極短 (約 25 m)	

知識

- 車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
- 電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に、前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更するとき

スイッチで加速するとき

SET ＋スイッチを押したまま、設定車速を変更すると 10 km/h ずつ調整することができます。
また SET ＋スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度を 5 km/h ずつ調節することができます。
たとえば、SET ＋スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 上がります。

スイッチで減速するとき

SET －スイッチを押したまま、設定車速を変更すると 10 km/h ずつ調整することができます。
また SET －スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度を 5 km/h ずつ調節することができます。
たとえば、SET －スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 下がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、SET ＋スイッチまたは SET －スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

⚠ 注意

アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。

知識

- 追従走行中に SET ＋スイッチで加速したとき、設定速度の調節はできますが加速しません。前方車がいなくなったとき、設定速度になるまで加速し続けます。設定速度はディスプレイの設定速度表示で確認してください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ディスプレイの車間距離表示は白線表示になります。
- 設定速度の下限は 30 km/h です。スイッチ操作で設定速度が 30 km/h になったときは、SET －スイッチを押しても約 30 km/h の定速走行を行います。このときマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) は解除されません。

解除するとき

OFF/CAN スイッチを 2 回押すと、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が解除されます。

一時的に解除されるとき

次のようなときは、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が一時的に解除され、アクティブ・ドライビング・ディスプレイ内のマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動状態表示が緑色から白色に変わり、同時にメーター内のマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示灯 (緑) が消灯します。

- OFF/CAN スイッチを 1 回押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキがかかったとき
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが P、N または R レンジになったとき
- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーが R になったとき

次のようなときは、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

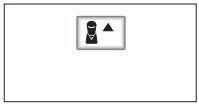
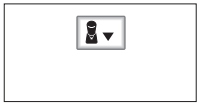
- 車速が 25 km/h 以下になったとき
- DSC が作動したとき
- TCS が一定時間作動したとき
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が作動したとき
- 下り坂を長時間走行したとき
- システムに異常が発見されたとき
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席シートベルトをはずしたとき
- **(マニュアル車)**
  - チェンジレバーが一定時間ニュートラル位置だったとき
  - クラッチペダルを一定時間踏んだとき
- エンストしたとき

知識

- 雨・霧・雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたときもマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が解除される場合があります。
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が一時的に解除されたときは、次の条件をすべて満たしているとき、RES スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) の作動条件をすべて満たしている
  - 下り坂を長時間走行して自動キャンセルされた場合、一定時間経過したとき
- OFF/CAN スイッチを押してマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を解除したときは、RES スイッチを押しても、もとの設定速度にもどりません。

シフトアップ / シフトダウン要求表示について (マニュアル車)

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動中に、シフトアップ要求表示、またはシフトダウン要表示が表示されることがあります。このときは、ギアの位置が不適切であるためシフトチェンジをしてください。

要求	ディスプレイ表示
シフトアップ	
シフトダウン	

知識

- シフトアップ要求表示が表示されてもシフトアップしないときはエンジンに負荷がかかり、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が自動的に解除される、または、エンジンを損傷するおそれがあります。
- シフトダウン要求表示が表示されてもシフトダウンしないときはマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が自動的に解除される、または、エンストすることがあります。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警報

システムの故障や、使用上の注意が必要なときはマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警報でお知らせします。チャイムによって確認してください。

警報	確認すること
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を設定するときに、チャイムが 3 回鳴るとき	車速が低すぎるなど、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が作動可能な条件を満たしていません。
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動時に、チャイムが 1 回鳴るとき	車速が 25 km/h 以下になるなどで、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が解除されています。
走行中にチャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動時に、チャイムとメーター内のマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告灯 (橙) が点灯するとき	システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

定速走行機能

追従走行を解除し、定速走行のみを作動するようにする機能です 。
車速を約 30 ～ 100 km/h の間に設定できます。
高速道路、加速 / 減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠警告

禁止

次のような場所では使用しない。

思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路（道路状況に合わせた走行はできません）**
- **急な下り坂（エンジンブレーキが十分に効かず、設定速度をこえることがあります）**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面（タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります）**

必ず守る

安全運転に心がける

定速走行機能使用中は追従走行を行わないため、警報やブレーキ制御が作動しません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、前方車との車間距離を十分に確保し、安全運転を心がけてください。

定速走行機能に切り替えるとき

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) をONにした状態で、MODEスイッチを押すと、定速走行機能に切り替わります。

⚠警告

必ず守る

定速走行機能を使用しないときは、必ず OFF にする。

常に使用できる状態にしておくと、誤って定速走行機能を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

速度を設定するとき

アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
SET ＋または SET －スイッチを押すと定速走行をはじめます。
同時にメーター内のマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示灯（緑）が点灯し、アクティブ・ドライビング・ディスプレイにクルーズコントロール表示（緑）が表示されます。

知識

- 急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- SET ＋スイッチを押したままにすると加速をはじめます。SET －スイッチを押したままにすると減速をはじめます。

設定速度を上げるとき

次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき

SET ＋スイッチを押したまま、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節（約 1 km/h）ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏み、希望の速度になったところで SET ＋または SET －スイッチを押します。
スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を離すと、もとの設定速度にもどります。

設定速度を下げるとき

SET －スイッチを押し続け、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節（約 1 km/h）ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 下がります。

解除するとき

OFF/CAN スイッチで解除するとき

OFF/CAN スイッチを 1 回押すと、定速走行機能が解除されます。

MODE スイッチで解除するとき

MODE スイッチを押すと、定速走行機能が解除され、追従走行が可能な状態に切り替わります。

次のようなときは、定速走行機能が自動的に解除されます。車速が 30 km/h 以上であれば、RES スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。

- OFF/CAN スイッチを押したとき。
- ブレーキペダルを踏んだとき。
- パーキングブレーキをかけたとき。

（マニュアル車）

- クラッチペダルを踏んだとき。
- チェンジレバーをニュートラルの位置にしたとき

（オートマチック車）

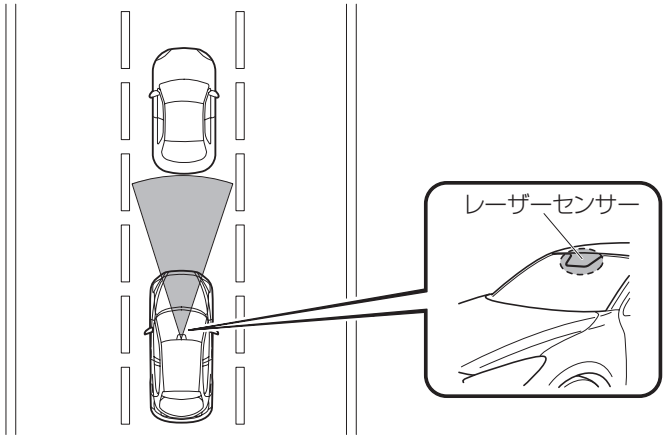
- セレクトレバーを N または P レンジにしたとき

知識

- 設定速度より、約 15 km/h 以上下がったとき、定速走行機能が解除されることがあります。
- 車速が 30 km/h 未満になると、定速走行機能が解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。定速走行機能を設定しなおしてください。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F) とは グレード/仕様別装備

スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は車速が約 4 km/h ～約 30 km/h で走行中に前方車をレーザーセンサーが検知し、前方車との衝突を回避できないと判断したときに、ブレーキ制御 (SCBS ブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。また自車と前方車との相対速度が約 20 km/h より低いときは、衝突を回避できる場合があります。なお、約 4 km/h ～約 30 km/h でシステム作動範囲に入っているときに、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。(ブレーキアシスト (SCBS ブレーキアシスト))



⚠警告

システムを過信しない

必ず守る

- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は、前方車 (4 輪車両) に対して作動するシステムです。2 輪車や歩行者に対しては作動保障しません。
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) のレーザーセンサーはルームミラー付近に設置され、AT 誤発進抑制制御と共用しています。スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) の正しい作動のため、次のことをお守りください。
  - レーザーセンサー付近のフロントガラス表面にステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。レーザーセンサーが前方車や障害物を正しく検知できず思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - フロントガラスにガラスコーティング剤などを使用しないでください。レーザーセンサーが前方車や障害物を正しく検知できず思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - レーザーセンサーの分解などを行なわないでください。
  - 飛び石などでフロントガラスのレーザーセンサー周辺に傷などが認められるときは、ただちにスマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) の使用を停止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。レーザーセンサーの周辺にひび割れや引っかき傷などがあるまま運転を続けると意に反して作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

    作動を停止させるときは次のページを参照してください。
    → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
  - フロントガラスやフロントワイパーを交換する際は、マツダ販売店に相談してください。

サスペンションを改造しない

禁 止

車高や車の傾きが変わると前方車や障害物を正しく検知できないため、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行する際はスマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を停止してください。**

必ず守る **4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、磨耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **レーザーセンサーは、ガラスの汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。**

必ず守る **シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動しないようにシステムを停止してください。**
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

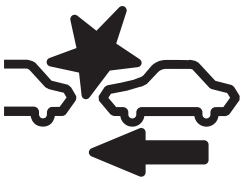
知識

- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は、運転者が意図的に運転操作 (アクセル操作、ハンドル操作) を行なったときは作動しません。
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は次の条件のとき作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
  - 車速が約 4 km/h ～約 30 km/h のとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を停止していないとき
  - DSC が故障状態でないとき

知識

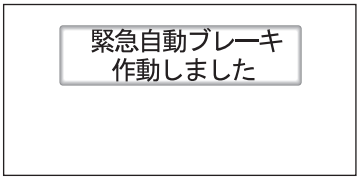
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は近赤外線レーザー光を照射し、前方車のリフレクター (反射板) からの反射を測定して前方車を検知しています。そのため、次のようなときは、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が作動しない場合があります。
  - 車両形状等により反射作用が低い車両
  - 前方車が著しく汚れているとき
  - 雨・霧・雪など天候が悪いとき
  - ウインドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
  - フロントガラスが汚れているとき
  - ハンドルを大きく切った状態や、アクセルを踏み込んだ状態で、前方車に接近しているとき
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両
- 次のような状態のときはスマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が正常に作動しない場合があります。
  - 荷室やリヤシートへ重い荷物をのせたとき
  - 前方車と部分的な接触の可能性があるとき
  - カーブが連続する道路やカーブの出入口を走行しているとき
  - ルーフレールなどを装着してレーザーセンサーをおおうような長尺物をのせたとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 偏摩耗の著しいタイヤを装着して走行しているとき
- 次のようなときはレーザーセンサーが前方車と判断し、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が作動する場合があります。
  - カーブ入口に路側物があるとき
  - カーブで対向車両とすれ違うとき
  - 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
  - ETC ゲートを通過するとき
  - ビニールカーテン、旗などを潜って通行するとき
  - パイロンなどのプラスチック類
  - 2 輪車、歩行者、動物や立ち木
- **(マニュアル車)**
  SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 表示灯 (赤)



スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 作動中に表示灯 (赤) が点滅します。

自動ブレーキ作動表示



SCBS ブレーキ作動中やブレーキアシスト (SCBS ブレーキアシスト) 作動中に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに「緊急自動ブレーキ作動しました」と表示されます。

知識

- SCBS ブレーキ作動中やブレーキアシスト (SCBS ブレーキアシスト) 作動中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。
  → 564ページ「チャイムが鳴ったときは」
- SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後にチャイムが鳴り、SCBS ブレーキが自動的に解除されます。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F) を停止させるには

スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を作動しないようにできます。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を作動しないようにすると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯します。

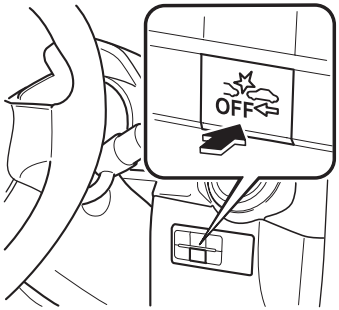
知識

スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を停止した状態でエンジンを停止した場合､次にエンジンを始動するとスマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は作動可能な状態にもどります。

センターディスプレイ装備車

→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

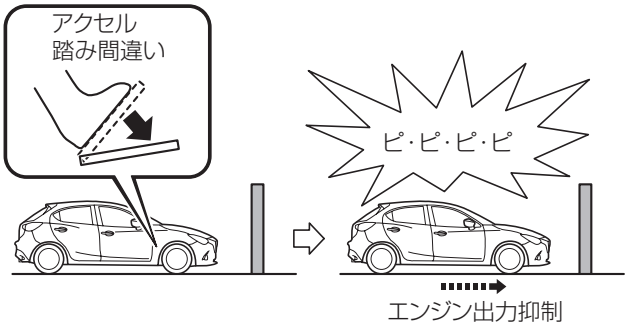
センターディスプレイ非装備車



スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯するまでスマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF スイッチを押し続けると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) が OFF になります。
スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯が消灯するまでスマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF スイッチを再度押し続けると､スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) は作動可能な状態にもどります。

AT 誤発進抑制制御とは（オートマチック車） グレード/仕様別装備

AT 誤発進抑制制御は車両が徐行中（約 10 km/h 以下）や停車時、前方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた（アクセルペダルを踏み間違えたと判断した）ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 表示灯（赤）の点滅と AT 誤発進抑制制御表示（アクティブ・ドライビング・ディスプレイ装備車）で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



⚠警告

AT 誤発進抑制制御を過信せず安全運転に心がける

必ず守る

AT 誤発進抑制制御は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。シフト、アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない

禁 止

停車状態を保ったり、発進を緩やかにするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

踏切内に閉じ込められた場合、レーザーセンサーが遮断機を障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合、あわてずにアクセルを踏み続ける、または踏みなおして脱出してください。脱出の際、車両が急加速することがありますので注意して運転してください。

知識

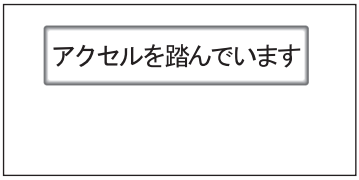
- AT 誤発進抑制制御は次の条件のときに作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を停止していないとき
  - DSC OFF スイッチを押して DSC を作動停止状態にしていないとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
  - セレクトレバーが D/M レンジのとき
- レーザーセンサーの検知能力には限界があります。次のようなときは、AT 誤発進抑制制御が作動しない場合があります。
  - 前方車が著しく汚れているとき
  - フロントガラスに氷、曇り、雪、霜、汚れ、ビニール袋等の異物が付着しているとき
  - ウインドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
- 次のような障害物は AT 誤発進抑制制御が作動しない場合があります。
  - 障害物の高さが低いとき (低い壁、低いガードレール、トレーラーなどの後部)
  - 障害物が小さいとき
  - 障害物が細いとき (標識の支柱など)
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 黒い障害物、汚れた障害物 (レーザーが反射しにくい障害物)
  - フェンス、ガラスなどレーザーが透過 (通過) する障害物
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両
- 次のような状態のときは AT 誤発進抑制制御が作動しない場合があります。
  - 急カーブ、急な坂道のとき
  - ハンドルを大きく切っているとき
  - ボンネットの上に雪などの障害物があるとき

知識

- 次のような状態のときは、AT 誤発進抑制制御が正常に作動しない場合があります。
  - 雨・霧・雪など天候が悪いとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 荷室やリヤシートへ重い荷物をのせたとき
  - 障害物などと部分的な接触の可能性があるとき
  - カーブが連続する道路やカーブの出入口を走行をしているとき
  - ルーフレールなどを装着してレーザーセンサーをおおうような長尺物を装着したとき
  - 車、二輪車、自転車などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき
  - 自車が進路変更を行い、障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 次のようなときは、レーザーセンサーが障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御が作動する場合があります。
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスを感知しているとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
  - ビニールカーテン、旗などを潜って通行するとき
  - パイロンなどのプラスチック類
  - 完全に開いていない駐車場ゲートや遮断器
  - シャシーダイナモなど使用するとき
  - キャリアカーに積載するとき

AT 誤発進抑制制御表示

AT 誤発進抑制制御が作動中に、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 表示灯 (赤) の点滅と同時にアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。



AT 誤発進抑制制御を停止させるには

スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を停止させると、AT 誤発進抑制制御が停止します。
作動を停止させるときは次のページを参照してください。

センターディスプレイ装備車

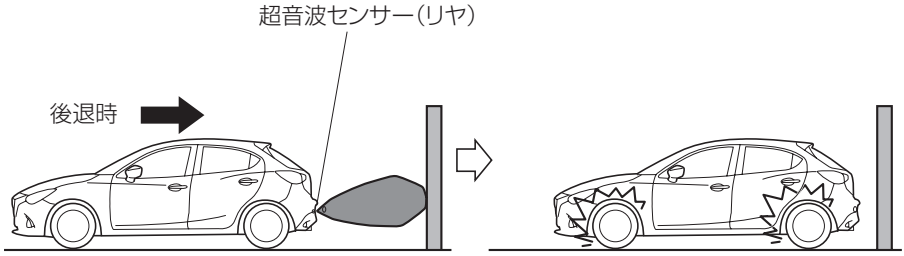
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

センターディスプレイ非装備車

→ 240ページ「スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を停止させるには」

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは グレード/仕様別装備

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) は車速が約 2 km/h ～約 8 km/h で後退中に後方の障害物を超音波センサーが検知し、衝突を回避できないと判断したときに、ブレーキ制御 (SCBS ブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。



⚠警告

必ず守る

システムを過信しない。

- **スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) は、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) の超音波センサー (リヤ) はリヤバンパーに設置され、AT 誤発進抑制制御 [後退時] と共用しています。スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) の正しい作動のため、次のことをお守りください。**
  - **超音波センサー (リヤ) にステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。超音波センサー (リヤ) が障害物を正しく検知できず思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  - **超音波センサー (リヤ) の分解などを行なわないでください。**
  - **飛び石などで超音波センサー (リヤ) 周辺に傷などが認められるときは、ただちにスマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) の使用を停止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。超音波センサー (リヤ) の周辺にひび割れや引っかき傷などがあるまま運転を続けると意に反して作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

    作動を停止させるときは次のページを参照してください。
    → 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
  - **リヤバンパーを交換する際は、マツダ販売店に相談してください。**

禁 止

サスペンションを改造しない。

車高や車の傾きが変わると障害物を正しく検知できないため、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) が正常に作動しない場合があります。

禁 止

超音波センサー (リヤ) に強い衝撃を与えない。

洗車時に超音波センサー (リヤ) に強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。また、荷物の出し入れなどでリヤバンパーに強い衝撃を与えないでください。障害物を正しく検知できず、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) が正常に作動しない場合があります。

⚠注意

必ず守る **草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行する際は、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止してください。**

必ず守る **4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、磨耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **超音波センサー (リヤ) は氷、雪などが付着した場合など、状況によっては障害物を正しく検知できない場合があります。このようなときは、正しい制御ができないおそれがあります。常に後方を注意して運転してください。**

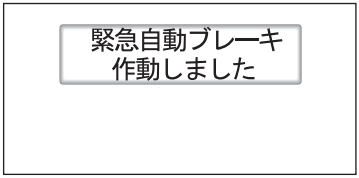
知識

- アクセル操作、ブレーキ操作やハンドル操作によって車両姿勢が変化し、障害物が見えにくくなったり、不要な障害物が見えやすくなったりします。このような場合、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) が作動しなかったり、作動する場合があります。
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) は、次の条件のとき作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にしているとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
  - 車速が約 2 km/h ～約 8 km/h のとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) を停止していないとき
  - DSC が故障状態でないとき
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) は、超音波センサー (リヤ) が発信した超音波が、後方の障害物に反射し、超音波センサー (リヤ) に戻ってきた超音波を受信することで、後方の障害物を検知し、作動しています。
- 次のようなときは、超音波センサー (リヤ) が障害物を検知できず、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) が作動しない場合があります。
  - 低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  - 障害物が車両や壁のように大きくないとき
  - 標識のポールなど、障害物が細いとき
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき

知識

- 次のような状況では、超音波センサー（リヤ）が障害物を正しく検知できず、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) が正常に作動しない場合があります。
  - 超音波センサー（リヤ）付近に何か付着したりしているとき
  - ハンドルを大きく切ったり、ブレーキやアクセル操作をしているとき
  - 障害物の周辺に他の障害物があるとき
  - 雨、霧、雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 荷室やリヤシートへ重い荷物をのせたとき
  - 超音波センサー（リヤ）付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 衝突などで、超音波センサー（リヤ）の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサー（リヤ）など、他の音波の影響を受けたとき
- 次のようなときは、超音波センサー（リヤ）が対象の障害物だと検知し、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - 垂れ幕、ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - トーイングバーやトレーラーを装着しているとき
- **（マニュアル車）**
  SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。

自動ブレーキ作動表示



SCBS ブレーキ作動後に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに「緊急自動ブレーキ作動しました」と表示されます。

知識

- SCBS ブレーキ作動中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。
  → 564ページ「チャイムがなったときは」
- SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後にチャイムが鳴り、SCBS ブレーキが自動的に解除されます。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止させるには

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を作動しないようにできます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を作動しないようにすると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯します。

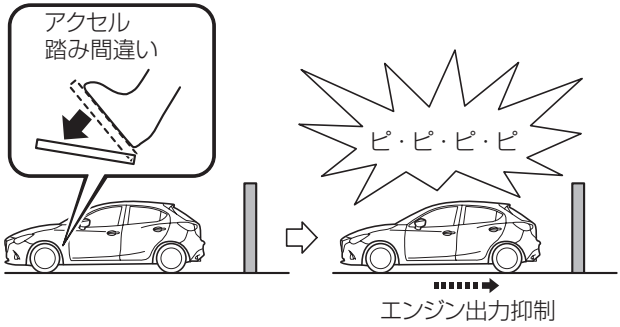
知識

- DSC を OFF にすると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) も OFF になり、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯します。 (警報機能は作動します。)
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を作動しないようにすると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) およびスマート・ブレーキ・サポート (SBS) も作動しなくなります。
- スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動するとスマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) は作動可能な状態にもどります。

AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは (オートマチック車)

グレード/仕様別装備

AT 誤発進抑制制御 [後退時] は車両が徐行中 (約 10 km/h 以下) や停車時、後方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、AT 誤発進抑制制御表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



⚠警告

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を過信せず安全運転に心がける。

必ず守る

AT 誤発進抑制制御 [後退時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。

禁 止

停車状態を保ったり、発進を緩やかにするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

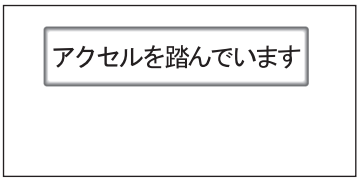
知識

- AT 誤発進抑制制御 [後退時] は次の条件のときに作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - セレクトレバーを R の位置にしているとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS)/ スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止していないとき
  - スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
- 次のようなときは、超音波センサー (リヤ) が障害物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動しない場合があります。
  - 低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  - 障害物が車両や壁のように大きくないとき
  - 標識のポールなど、障害物が細いとき
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき
- 次のような状況では、超音波センサー (リヤ) が障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しない場合があります。
  - 超音波センサー (リヤ) 付近に何か付着したりしているとき
  - ハンドルを大きく切ったり、ブレーキやアクセル操作をしているとき
  - 障害物の周辺に他の障害物があるとき
  - 雨、霧、雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 荷室やリヤシートへ重い荷物をのせたとき
  - 超音波センサー (リヤ) 付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 衝突などで、超音波センサー (リヤ) の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサー (リヤ) など、他の音波の影響を受けたとき

知識

- 次のようなときは、超音波センサー（リヤ）が障害物と検知し、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - 垂れ幕、ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - トーイングバーやトレーラーを装着しているとき

AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示



AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動中に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を停止させるには

スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS)/ スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が停止します。作動を停止させるときは次のページを参照してください。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは グレード/仕様別装備

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) は、車速が約 15km/h 以上でレーダーセンサー (フロント) およびフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車に衝突する可能性があると判断したときに、アクティブ・ドライビング・ディスプレイへの警告表示、および警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、自動ブレーキ制御を行うことで衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します (ブレーキプリフィル付き)。

⚠警告

禁止

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を過信しない

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) は衝突時の被害を軽減するシステムであり、対象物、天候状況、道路状況等によっては対象物の検知に限界があります。このためアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

⚠注意

必ず守る

次のときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

- **けん引されるとき、または、他の車をけん引するとき**
- **シャシーローラーを使用するとき**
- **草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき**

→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

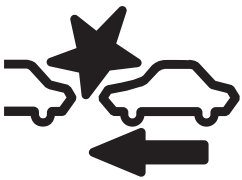
知識

- 次の条件をすべて満たしているときにスマート・ブレーキ・サポート (SBS) は作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が ON のとき
  - スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 警告灯 (橙) が点灯していないとき
  - 車速が約 15km/h 以上で前進しているとき
  - 自車と前方車との相対速度が約 15km/h 以上のとき
  - DSC が作動していないとき

知識

- 次のような状態のときは、スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動しないときがあります。
  - 前方車と部分的な接触の可能性があるとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 前方車のテールランプ (尾灯 / 制動灯など) が消灯しているとき
  - 前方車にテールランプ (尾灯 / 制動灯など) が装備されていないとき
  - 急なアクセルペダル操作をしているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - ハンドルを操作しているとき
  - セレクトレバーを操作しているとき
  - 方向指示器を操作しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC)/ レーダーセンサー (フロント) に関する警告や汚れのメッセージがセンターディスプレイに表示されているとき
- システムの作動対象は 4 輪車両ですが、次のような検知対象物は、レーダーセンサー (フロント) が障害物と判断し、スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動する場合があります。
  - カーブ入り口に路側物があるとき (ガードレール、雪壁等も含む)
  - コーナーを曲がるときやカーブですれ違うときに対向車両があるとき
  - 狭い鉄橋を通るとき
  - 低いゲートやトンネル、狭いゲートなどを通過するとき
  - 地下駐車場の入り口などに侵入するとき
  - 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
  - 前方車に急接近したとき
  - 背の高い草むらなどを走行するとき
  - バイク、自転車などの 2 輪車
  - 歩行者、立ち木など
- システムが作動しているときは、運転者にアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示で知らせます。
- システムが故障しているときは、スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 警告灯 (橙) が点灯します。
  → 149ページ「警告灯」

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 表示灯 (赤)



スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 作動中に表示灯 (赤) が点滅します。

衝突警報

前方車と衝突する可能性がある場合、警報音が「ピピピピピ・・・」と鳴り続け、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を作動しないようにできます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を作動しないようにすると、スマート・ブレーキ・サポート (SBS) OFF 表示灯が点灯します。

知識

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を作動しないようにすると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) も作動しなくなります。

フォワードセンシングカメラ (FSC) について グレード/仕様別装備

この車両にはフォワードセンシングカメラ (FSC) が装備されています。フォワードセンシングカメラ (FSC) は次のシステムが共用しています。

- アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム (LDWS)
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、夜間走行時に前方の状況を判断したり、車線表示を検知したりしています。フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。
フォワードセンシングカメラ (FSC) はルームミラー付近に設置されています。

⚠警告

禁止

サスペンションを改造しない

車高や車の傾きが変わると前方車や障害物を正しく検知できないため、システムが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

正しい作動のため、次のことをお守りください。

- **フォワードセンシングカメラ (FSC) を取外さないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) のカバーを外さないでください。**
- **インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かないでください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを貼らないでください。フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズの前方に妨げとなるものがあると、透明なステッカーでも誤作動の原因となります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常に綺麗な状態にしてください。曇ったときは、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。**
- **フロントガラスの手入れをするときは、ガラスクリーナーなどが、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズに付着しないようにしてください。また、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズには触れないでください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 前方のフロントガラス内側の清掃はマツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤動作の原因になります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体周辺の修理を行うときは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **ルームミラー周辺の修理を行うときはマツダ販売店にご相談ください。**
- **カメラのレンズの手入れは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。万一、衝撃が加わった場合は、アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)、車線逸脱警報システム (LDWS)、ドライバー・アテンション・アラート (DAA)、およびスマート・ブレーキ・サポート (SBS) の使用を中止しマツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) の向きは厳密に調整されていますので、フォワードセンシングカメラ (FSC) の取り付け位置を変更したり、取り外したりしないでください。故障、誤動作の原因になります。**

⚠注意

必ず守る **4輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、磨耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、フォワードセンシングカメラ（FSC）が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **フォワードセンシングカメラ（FSC）は、ガラスの汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。**

知識

- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ（FSC）が正確に対象物を検知できず、各システムが正常に作動しない場合があります。
  - 前方車が車高の低い車両のとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

知識

- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できないことがあります。
  - 雨・霧・雪など天候が悪いとき
  - ウィンドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
  - フロントガラスに氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなどの異物が付着しているとき
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - 模様のない壁の横を走行しているとき (フェンスや縦じま模様の壁を含む)
  - 前方車のテールランプ (尾灯 / 制動灯など) が消灯しているとき
  - 前方車がヘッドランプの照射範囲外にいるとき
  - 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき
  - トンネルの出入り口を走行しているとき
  - ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) をおおうような長尺物をのせたとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 偏摩耗の著しいタイヤを装着して走行しているとき
  - 下り坂や凸凹な道路を走行しているとき
  - 路面に水たまりがあるとき
  - 夜間や夕方、朝方、トンネルや屋内の駐車場など周囲が暗いとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているときなどヘッドランプの明るさが十分でないとき
  - 対象物がフォワードセンシングカメラ (FSC) の死角にいるとき
  - 対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだとき
  - 自車が車線変更をして対象物に接近したとき
  - 対象物との距離が極端に近い状態で走行しているとき
  - タイヤチェーン・応急用スペアタイヤを使用しているとき
  - 他の車をけん引しているとき
  - 重い荷物の積載などにより車が傾いているとき
  - 前方に強い光を受けたとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
  - 車両前方にたくさんの光を発するものがあるとき
  - 前方車にテールランプ (尾灯 / 制動灯など) が装備されていないとき
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両

知識

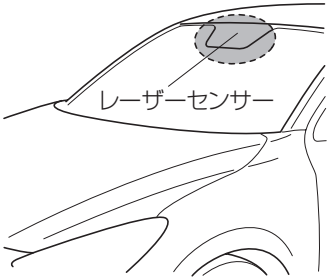
- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、逆光や霧などで正常に作動できない場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯を点灯させますが、故障ではありません。
  - アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯
- フォワードセンシングカメラ (FSC) が、ガラスの汚れや曇りを検知した場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯を点灯させますが、故障ではありません。ガラスの汚れを取り除く、または、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。
  - アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯

レーザーセンサー (フロント) について グレード/仕様別装備

この車両にはレーザーセンサー (フロント) が装備されています。レーザーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS)
- AT 誤発進抑制制御

レーザーセンサー (フロント) は、フロントガラスの上のルームミラー付近に設置されています。
レーザーセンサー (フロント) は、近赤外線レーザー光を照射し、前方車のリフレクター (反射板) や前方の障害物からの反射を測定して検知しています。



各システムの正しい作動のため、レーザーセンサー (フロント) 付近のフロントガラス表面は、いつもきれいにしておいてください。

i-ACTIVSENSE について

⚠警告

必ず守る

レーザーは目を損傷するおそれがありますので、次の事項を必ず守ってください。

- **センサーは絶対に取り外さないでください。**
- **取り外したセンサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M の条件を満たしませんので、目に対する安全を保証できません。**
- **センサーから 100 mm 以内の距離で、拡大鏡・顕微鏡・対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、センサーをのぞき込まないでください。**

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1 :2007
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated July 26th , 2001

レーザーセンサー (フロント) 放射線データ
最大平均出力 :45 mW
パルス幅 :33 ns
波長 :905 nm
発散角 (水平×垂直):28˚ × 12˚

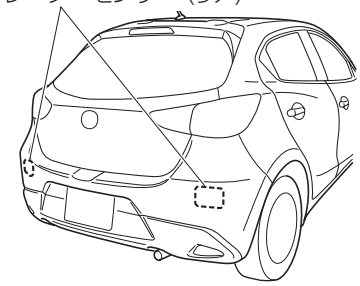
レーダーセンサー (リア) について グレード/仕様別装備

この車両にはレーダーセンサー (リア) が装備されています。レーダーセンサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
- リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)

レーダーセンサー (リア) は、レーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。

レーダーセンサー (リア)



レーダーセンサー (リア) は、リヤバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
レーダーセンサー (リア) の正しい作動のため、レーダーセンサー (リア) 付近のリヤバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。
→ 509ページ「外装の手入れ」

⚠注意

必ず守る

リヤバンパーに強い衝撃が加わったときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちにシステムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

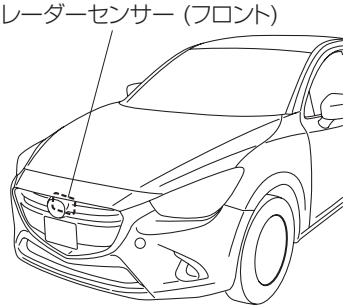
- レーダーセンサー（リア）の検知性能には限界があります。次のような場合は検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  - レーダーセンサー（リア）付近のリヤバンパーが変形したとき
  - リヤバンパーのレーダーセンサー（リア）付近に氷、雪や泥が付着しているとき
  - 雨、雪、霧などの悪天候のとき
- 次のような対象物は、レーダーセンサー（リア）が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 小型の二輪車、自転車、歩行者、動物、ショッピングカート、道路上および道路端の静止物体
  - レーダーが反射しにくい形状の車両（車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど）
- レーダーセンサー（リア）が接近車両を正しく検知するために、車両搭載状態でレーダーセンサー（リア）の向きを車両ごとに調整して出荷しています。レーダーセンサー（リア）の向きが何らかの原因でずれた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサー（リア）の修理、交換およびレーダーセンサー（リア）付近のバンパー修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、システムを停止してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。
- レーダーセンサー（リア）は、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

レーダーセンサー (フロント) について グレード/仕様別装備

この車両にはレーダーセンサー (フロント) が装備されています。
レーダーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- 車間認知支援システム (DRSS)
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

レーダーセンサー (フロント) は、レーダーセンサー (フロント) から送信される電波が前方車や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。
レーダーセンサー (フロント) はフロントのエンブレムの裏側に設置されています。



スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告灯 (橙) が点灯したときは、レーダーセンサー (フロント) 付近が汚れている可能性があります。センターディスプレイの「ウォーニング」を確認してください。
→ 553ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」

⚠注意

必ず守る

各システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- **レーダーセンサー（フロント）付近のラジエーターグリル、およびエンブレム表面にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けたり、ラジエーターグリルおよびエンブレムをレーダーセンサー（フロント）用の正規品以外の物に取り換えたりしないでください。**
- **レーダーセンサー（フロント）は、センサー前面の汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合などは、検出に時間がかかったり、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがありますので、センサーはいつもきれいにしておいてください。**
- **グリルガードなどを取り付けないでください。**
- **接触事故などでフロント部分を破損したときは、レーダーセンサー（フロント）の位置がずれることがあります。ただちにシステムの使用を中止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。**
- **駐車スペースなどから車両を出すときに、他の車両や障害物をフロントバンパーで押さないでください。レーダーセンサー（フロント）に荷重が加わり、位置がずれる可能性があります。**
- **レーダーセンサー（フロント）を取り外したり、分解、改造しないでください。**
- **レーダーセンサー（フロント）付近を修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **サスペンションを改造しないでください。サスペンションの改造をすると車の傾きが変わり、前方車や障害物を正しく検知できないことがあります。**

知識

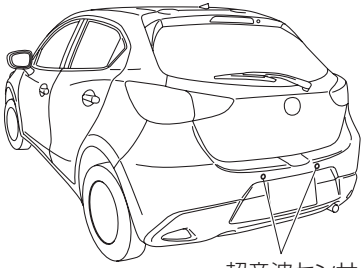
- 次のようなときは、レーダーセンサー（フロント）が前方車や障害物を正確に検知できないことがあります。
  - 前方車が空荷のトレーラーや荷台を幌で囲った車両、樹脂製テールゲートの車両、丸い形状の車両など後面が電波を反射しにくい車両のとき
  - 前方車が車高の低い車両など電波を反射する面積が小さい車両のとき
  - 前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき
  - トランク / ラゲッジルームや後席へ重い荷物をのせたとき
  - フロントのエンブレムの表面に氷や雪、汚れなどが付着しているとき
  - 雨、雪、砂嵐など天候が悪いとき
  - 強力な電波を発生させる施設や物体などの近くを走行しているとき
- 次のような場合は、レーダーが隣の車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できないことがあります。
  - カーブの始まりやカーブの終わり
  - カーブが連続する道路
  - 工事中や車線規制で車線幅の狭い道路
  - 前方車がレーダーセンサー（フロント）の死角にいるとき
  - 前方車が事故や故障で不安定な走行をしているとき
  - 上り坂、下り坂が繰り返される道路
  - 悪路、未舗装の道路を走行しているとき
  - 前方車との車間距離が極端に短いとき
  - 割り込みなどで急接近したとき
- システムが正常に作動しなくなるおそれがあるため、4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。（応急用スペアタイヤも含む）
- バッテリーが弱ってきた場合は、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 交通量が少なく、レーダーセンサー（フロント）が検知する前方車や障害物が少ない道路を走行すると、スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告灯（橙）が一時的に点灯することがありますが異常ではありません。
- レーダーセンサー（フロント）は電波法の基準に適合しています。レーダーセンサー（フロント）に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

超音波センサー (リヤ) について グレード/仕様別装備

この車両には超音波センサー (リヤ) が装備されています。超音波センサー (リヤ) は次のシステムが共用しています。

- スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

超音波センサー (リヤ) は、超音波センサー (リヤ) から送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。
超音波センサー (リヤ) は、リヤバンパーに設置されています。



クルーズコントロールとは グレード/仕様別装備

アクセルペダルを踏まなくても車速を約 30 ～ 100km/h の間に設定できる装置です。
高速道路、加速 / 減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠警告

禁止

次のような場所では使用しない。

思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路（道路状況に合わせた走行はできません）**
- **急な下り坂（エンジンブレーキが十分に効かず、セット速度をこえることがあります）**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面（タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります）**

表示灯

クルーズメイン表示灯（橙）

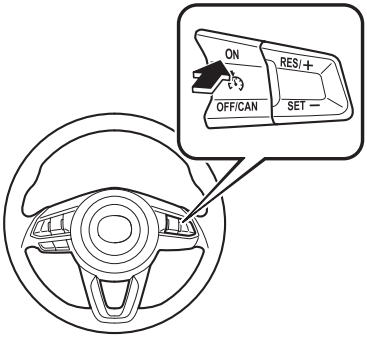
点灯するとき
ON スイッチを押すと点灯します。
OFF/CAN スイッチを押すと消灯します。

クルーズコントロール表示灯（緑）

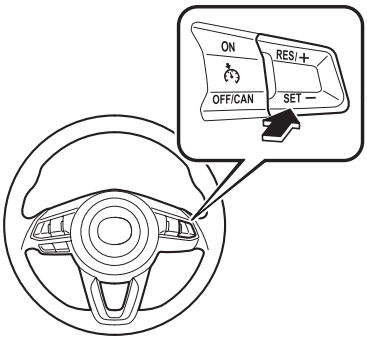
点灯するとき
速度が設定されると点灯します。
OFF/CAN スイッチを押すと消灯します。

クルーズコントロールについて

設定するとき



1. ON スイッチを押すと速度の設定ができる状態になります。同時にメーター内のクルーズメイン表示灯（橙）が点灯します。



2. アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
3. SET −スイッチを押すと定速走行をはじめます。同時にメーター内のクルーズコントロール表示灯（緑）が点灯します。クルーズコントロール表示灯（緑）が点灯したら、すぐにスイッチから手を離します。

⚠警告

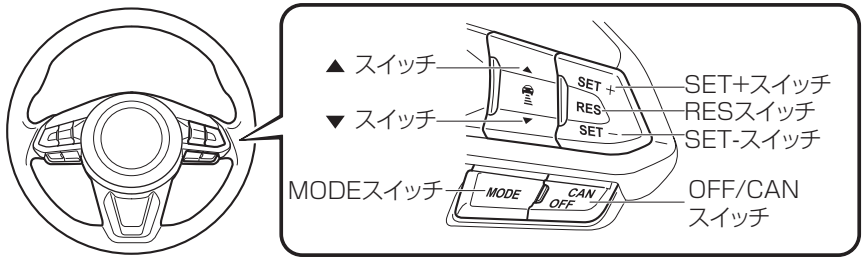
必ず守る

クルーズコントロールを使用しないときは、必ず OFF にする。

常に使用できる状態にしておくと、誤ってクルーズコントロールを作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

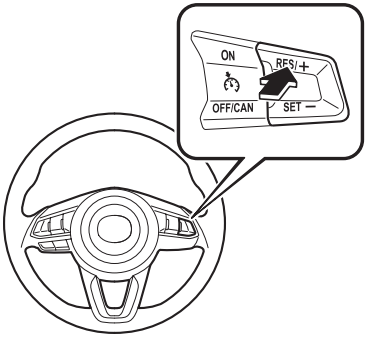
- 次のときは、クルーズコントロールの速度設定ができません。
  - **（オートマチック車）**
    セレクトレバーが P または N レンジのとき
  - **（マニュアル車）**
    チェンジレバーがニュートラル位置のとき
  - パーキングブレーキをかけているとき
- 急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- RES/ ＋スイッチを押したままにすると加速をはじめます。SET －スイッチを押したままにすると減速をはじめます。
- 次のステアリングスイッチ形状は、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) システムが装備されているため、次のページを参照してください。
  → 224ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは」



設定速度を上げるとき

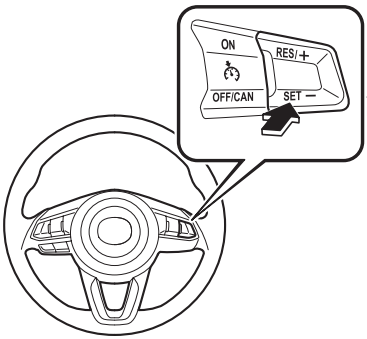
次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき



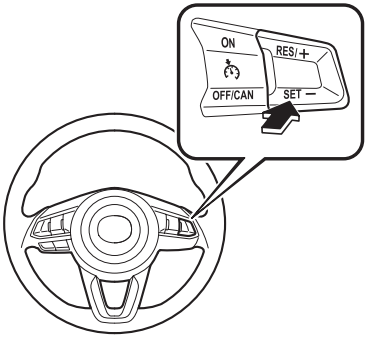
RES/ ＋スイッチを押したまま、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき



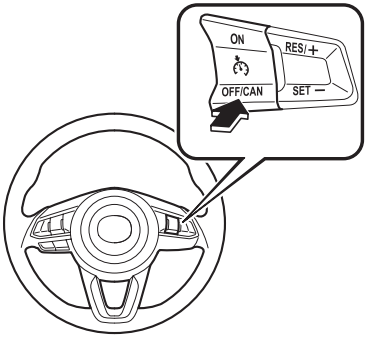
アクセルペダルを踏み、希望の速度になったところでSET −スイッチを押します。
スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を離すと、もとの設定速度にもどります。

設定速度を下げるとき

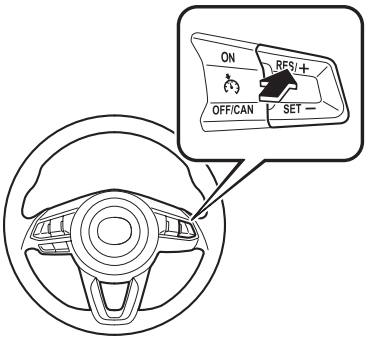


SET −スイッチを押し続け、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節(約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 下がります。

解除するとき



OFF/CAN スイッチを長押し、または 2 回押すと、クルーズコントロールが解除され、クルーズコントロール表示灯（緑）とクルーズメイン表示灯（橙）が消灯します。



次のようなときは、クルーズコントロールが解除されクルーズコントロール表示灯（緑）が消灯しますが、クルーズメイン表示灯（橙）は点灯したままです。車速が 30 km/h 以上であれば、RES/ ＋スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。

- OFF/CAN スイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- **（マニュアル車）**
  クラッチペダルを踏んだとき

クルーズコントロールについて

知識

- 次のような状態になった場合も、クルーズコントロールシステムが一時的に解除されます。
  - パーキングブレーキをかけているとき
  - **（オートマチック車）**
    セレクトレバーが P または N レンジのとき
  - **（マニュアル車）**
    チェンジレバーがニュートラル位置のとき
- クルーズコントロールシステムが一時的に解除された場合、解除された条件にひとつでも該当する場合は、速度を再設定することが出来ません。
- 設定速度より、約 15 km/h 以上下がったとき、クルーズコントロールが解除されることがあります。
- 車速が 30 km/h 未満になると、クルーズコントロールが解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES/ ＋スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。クルーズコントロールを設定しなおしてください。
- **（オートマチック車）**
  クルーズコントロールを使用して走行しているときは、マニュアルモード（セレクトレバーを D から M レンジに操作）にしてもクルーズコントロールは解除されません。そのため、低速ギヤにシフトダウンしてもエンジンブレーキが効きません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは (SKYACTIV-D 1.5)

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) はディーゼルエンジンの排気ガスに含まれる PM (Particulate Matter: 粒子状物質) のほとんどを捕集し、除去するものです。通常走行中は DPF で捕集された PM は自動で除去されますが、次のようなときは PM が自動で除去されません。

- 車速約 15km/h 以下で走り続けているとき
- 10 分以下の短時間走行の繰り返しやエンジンが暖機できないような走行を繰り返したとき
- 長時間アイドリング状態のとき

知識

走行中に自動で PM を除去しているとき、エンジン音や排気ガスの臭いが変化することがあります。

DPF 表示灯

DPF

点灯するとき
電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
PM の除去が自動で行なわれず、DPF で捕集した PM が規定量以上になると点灯します。DPF 表示灯が点灯したときは、次の処置をしてください。
PM を除去するために、完全暖機 (水温 80° C 以上) のときに、アクセルを踏み 20km/h 以上でおよそ 15 分から 20 分走行してください。

点滅するとき
システムに異常があると点滅します。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

注意

必ず守る

DPF 表示灯が点灯してからそのまま運転を続けると、さらに PM が堆積し、表示灯が点滅し始めることがあります。この場合はただちにマツダ販売店で点検を受けてください。点検を受けずにそのまま運転を続けると、エンジンの不調につながるおそれがあります。

駐車支援システムについて

駐車支援システムとは

駐車支援システムは次のシステムで構成されています。

- パーキングセンサー グレード/仕様別装備

  車庫入れや縦列駐車など低速走行時に、超音波センサーで検出した車両周辺の障害物とのおおよその距離を、ブザーおよび検知表示により運転者に知らせるシステムです。

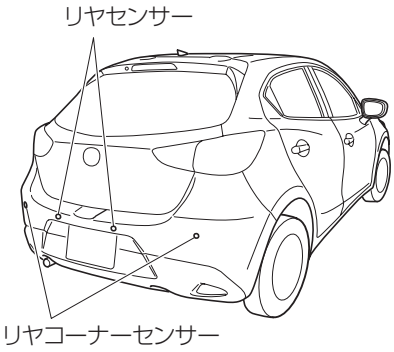
⚠警告

必ず守る

必ず前方 / 後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。

駐車支援システムはあくまでも後退操作を行なうための補助装置です。画面に映し出されているセンサーの検出範囲は実際の状況と異なることがあります。システムを過信して後退すると障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

センサーの取り付け位置



パーキングセンサー グレード/仕様別装備

パーキングセンサーは、車庫入れや縦列駐車など低速走行時に、超音波センサーで検出した車両周辺の障害物とのおおよその距離を、ブザーおよび検知表示により運転者に知らせます。

⚠警告

必ず守る

必ず前方 / 後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。

パーキングセンサーはあくまでも後退するときの補助装置です。また、センサーの検出範囲は限られていますので、システムを過信して前進 / 後退すると障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁 止

センサーの検出範囲内にアクセサリー用品などを取り付けないでください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

障害物の種類や周囲の条件によっては、センサーが障害物を検出できる距離が短くなったり、障害物を検出できない場合があります。必ず前方 / 後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

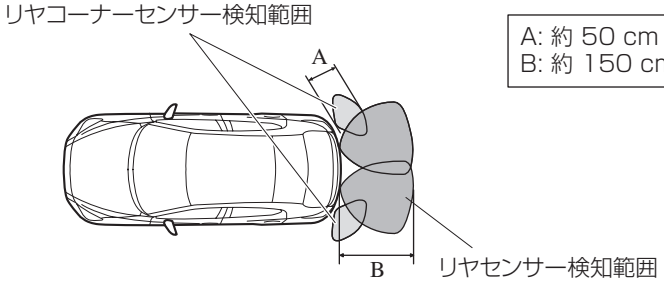
駐車支援システムについて

知識

- 次のようなときは、システムが正常に作動しない場合があります。
  - センサー部に氷、雪、泥などが付着したとき (取り除けば正常に復帰します。)
  - センサー部が凍結したとき (溶ければ正常に復帰します。)
  - センサーを手でふさいだとき
  - センサー付近に強い衝撃が加わったとき
  - 車両姿勢が大きく傾いたとき
  - 炎天下や寒冷時
  - 凹凸道、坂道、砂利道、草むら走行時など
  - 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
  - 市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に取り付けたとき
  - 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
  - 障害物がセンサーに近付きすぎているとき
- 次のような障害物は、パーキングセンサーが検出しない、もしくは検出しにくいことがあります。
  - 針金、ロープなどの細いもの
  - 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
  - 鋭角的な形を持つもの
  - 背が高く上部が張り出しているもの
  - 背の低いもの
- バンパーの真下付近は感知しません。センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- 接触事故などでバンパーへ衝撃が加わったときは、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。センサーの位置がずれると障害物を正常に検出できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- パーキングセンサースイッチを ON にしてもブザーが鳴らない場合や表示灯が点灯しない場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- システムの異常を示すブザーが鳴った場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 低温時やセンサー部に泥や氷、雪などが付着した場合にも、システムの異常を示すブザーが鳴る場合があります。センサー部に付着した異物を取り除いてください。

センサーの検出可能範囲

センサーは、次に示す範囲の障害物を検出します。



作動させるとき

電源ポジションが ON のときに、パーキングセンサースイッチを押すと、ブザーが鳴り、表示灯が点灯します。
パーキングセンサーが ON のときに電源ポジションを ON にした場合も、ブザーが鳴り、表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

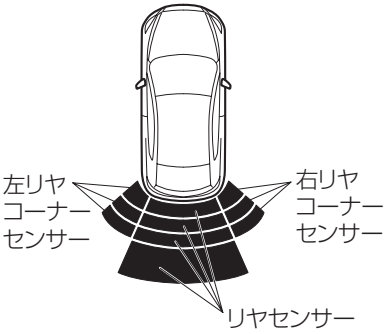
電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、パーキングセンサーが ON の状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたとき、パーキングセンサーは ON の状態のままです。

作動条件

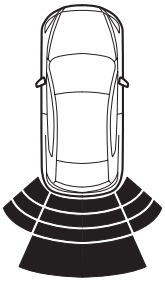
電源ポジションが ON のときにパーキングセンサースイッチを ON にすると使用できます。

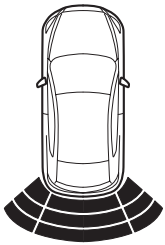
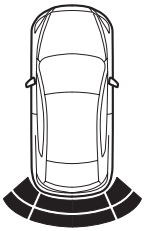
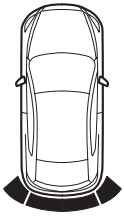
検知表示とブザー

検知表示

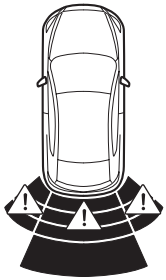
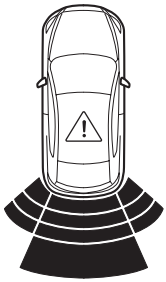
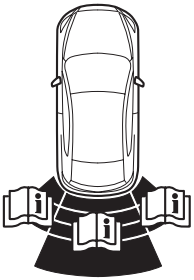


距離表示の見方

表示	車両と障害物の距離
	リヤセンサー : 約 150 ～ 60 cm

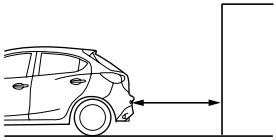
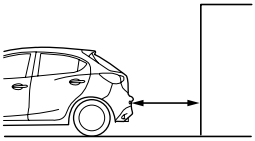
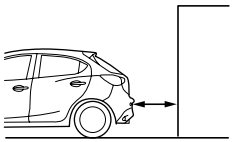
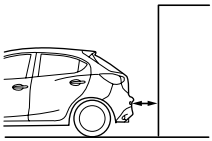
表示	車両と障害物の距離
	リヤセンサー : 約 60 ～ 45 cm リヤコーナーセンサー : 約 50 ～ 37 cm
	リヤセンサー : 約 45 ～ 35 cm リヤコーナーセンサー : 約 37 ～ 25 cm
	リヤセンサー : 約 35 cm 以下 リヤコーナーセンサー : 約 25 cm 以内

こんなときは
異常が発生した場合は、次の表示により異常が発生したことをお知らせします。

	検知表示	解決方法
断線		マツダ販売店で点検を受けてください。
システム異常		マツダ販売店で点検を受けてください。
霜 / 汚れ		障害物検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認してください。システムが復帰しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

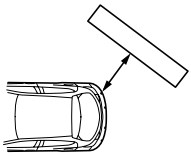
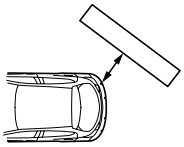
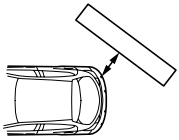
ブザー

障害物との距離に応じた鳴り方で、障害物とのおよその距離を運転者に知らせます。複数個所の障害物を検知した場合は、最も近い障害物との距離に応じて吹鳴します。
システム作動中は、ブザーが次のように作動します。
リヤセンサー

車両と障害物の距離	ブザーの鳴り方
約 150 cm ～ 60 cm 	ピッ・ピッ・ピッ (遅い継続音)
約 60 ～ 45 cm 	ピッピッピッ (継続音)
約 45 ～ 35 cm 	ピピピピ (早い継続音)
約 35 cm 以内 	ピー (連続音)

駐車支援システムについて

リヤコーナーセンサー

車両と障害物の距離	ブザーの鳴り方
約 50 cm ～ 37 cm 	ピッピッピッ（継続音）
約 37 ～ 25 cm 	ピピピピ（早い継続音）
約 25 cm 以内 	ピー（連続音）

こんなときは

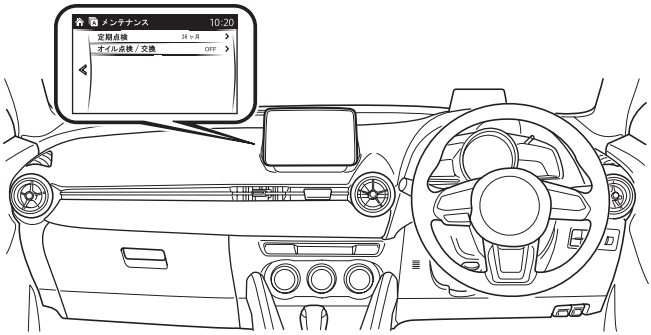
次のようなとき、ブザーの鳴らし方や表示の仕方で異常を知らせます。

表示 / ブザー	確認すること
ブザーが吹鳴しない。	システムの異常が考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
ブザーが「ピピピッ」と 5 回なった。	センサー部に異物が付着していないか確認してください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
特定の検知表示が表示し続ける。	検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認をしてください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

メンテナンスモニター グレード/仕様別装備

あらかじめ設定されたメンテナンス時期になるとセンターディスプレイにお知らせを表示することができます。

（表示例）



次の項目のメンテナンス時期を設定できます。

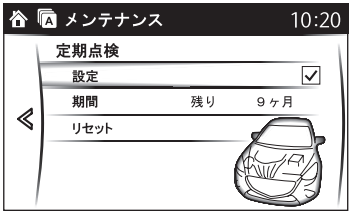
- 定期点検
- オイル点検 / 交換

設定方法

1. ホーム画面の Ⓐアイコンを選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 車両ステータスを選択します。
3. メンテナンスを選択します。
4. 設定したい項目を選択します。OFF を選択すると非表示になります。

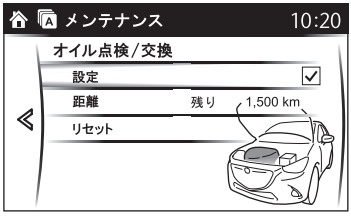
項目により設定できる内容が異なります。

定期点検のとき



定期点検選択後、設定を選択し、点検時期を好みの日数に設定します。

オイル点検 / 交換のとき



オイル点検 / 交換選択後、設定を選択し、交換距離を好みの距離に設定します。

リセット方法

メンテナンスを実施した後、リセット (再設定) をすれば、次回メンテナンス時期が近づいたときに表示させることができます。次の手順でリセットしてください。

1. ホーム画面の アイコンを選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 車両ステータスを選択します。
3. メンテナンスを選択します。
4. 設定したい項目を選択し、リセットを選択します。

知識

(SKYACTIV-D 1.5)

オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場、またはお客様自身で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なってください。

初期化 (オイルデータリセット) 手順については、次のページを参照してください。

→ 487ページ「エンジンオイルの点検、補充」

悪天候での運転

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。
このようなときは、吹き出し口を に切り替えます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

⚠警告

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。

ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路は

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

積雪、寒冷時の運転

すべりやすい路面を走行するときは

早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
→518ページ「タイヤチェーンの取り付け」

- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。
ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは

- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- パーキングブレーキは使わず、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P に入れてタイヤに輪止めをしてください。
- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

⚠注意

必ず守る

運転席 / 助手席側ワイパーアームを立てるときは、運転席側のワイパーアームから立ててください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じるおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車のときにもエンジンを止めましょう。10 分間のアイドリングで、130cc 程度の燃料を浪費します。

不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。
100 kg の不要な荷物を載せて走ると、3% 程度燃費が悪化します。

空ぶかしをしない

空ぶかしをやめると、燃料を節約できます。
空ぶかしは環境にも車にもよくありません。

エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を控えると、燃料の節約になります。外気温 25° C の時に、エアコンを使用すると、12% 程度燃費が悪化します。

タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。
タイヤの空気圧が適正値より 50 kPa (0.5 kg/cm^2) 不足した場合、市街地で 2% 程度、郊外で 4% 程度、それぞれ燃費が悪化します。

ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。
速度にムラのある走り方をすると、市街地で 2% 程度、郊外で 6% 程度燃費が悪化します。

経済的速度

一般道路で 40km/h、高速道路で 80km/h 程度の等速走行が経済的です。

アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時 (オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

一定速度のとき

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。
アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

JC08 モード燃費について

「JC08 モード」とは

知識

車両カタログに記載されている「JC08 モード」燃費は、お客様の使用環境変化や燃費測定技術の進歩を踏まえて、図 1 のような実際の走行に近い細かな速度変化での運転条件で、エンジン冷間時、暖機後の 2 パターンを図 2 のようなシャシーダイナモメーター上で走行した値です。

ただし、気象条件や渋滞などのお客様の使用環境、急発進、エアコンや電気負荷など実際の走行とは異なる場合があります。

図1.JC08モード走行

走行距離 8.172Km
平均速度 24.4Km/h
最高速度 81.6Km/h

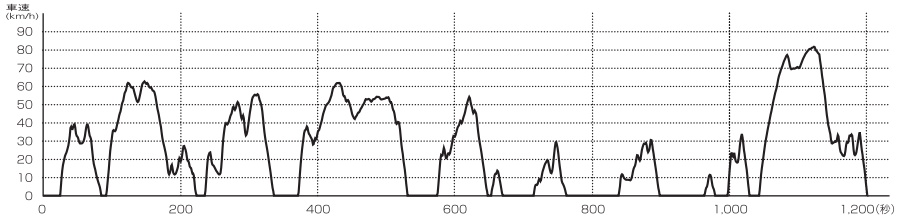
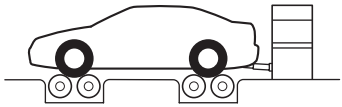


図2.シャシーダイナモメーター



3 快適装備の使いかた

空調 292

エアコンの上手な使いかた.....292
吹き出し口.....294
マニュアルエアコン 296
フルオートエアコン 298

オーディオ 302

オーディオをご使用の前に.....302
アンテナ.....309
オーディオの操作方法 310
オーディオソースの使いかた.....316

マツダコネクト 334

マツダコネクトでできること.....334
マツダコネクト 4 つの操作方法.....336
マツダコネクトをご使用の前に.....338
アンテナ.....356
マツダコネクトの操作方法.....357
マツダコネクトの設定 366
オーディオソースの使いかた.....371
Bluetooth® をご使用の前に 427
Bluetooth® ハンズフリー 440
トラブルシューティング 460

室内装備 465

サンバイザー.....465
室内照明.....465
電源ソケット.....468
カップホルダー.....469
ボトルホルダー.....470
収納 470

エアコンの上手な使いかた

エアコンを使用する前に

外気取り入れ口について

フロントガラスとボンネットの間にある外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いておきましょう。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒（エアコンガス）が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。

エアコンを使用するときは

使用について

エアコンは、エンジンをかけた状態で使用してください。

知識

- エアコンの操作により、アイドリングストップしないことや、アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動することがあります。
  → 113ページ「i-stop について」
- アイドリングストップ中は、吹き出し風量がやや減少する場合があります。
- アイドリングストップ中は、快適な温度を保持するため、インストルメントパネル中央付近からエアコン装置（モーターなど）の作動音が聞こえることがあります。

外気導入と内気循環について

外気導入は、換気したいときやガラスの曇りを取るときに使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど、外気を遮断したいときに使用してください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは、室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

エアコンを使用したあとは

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときは、内部のオイル循環のため、1 か月に 1 回程度エアコンを作動させてください。

エアフィルターについて

花粉やほこりなどの集じん機能を持った、エアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために、エアフィルターを定期的に交換してください。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

知識

エアフィルターの交換について

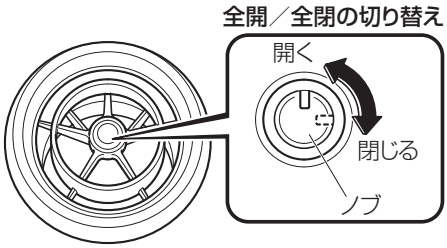
- エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- 大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

吹き出し口

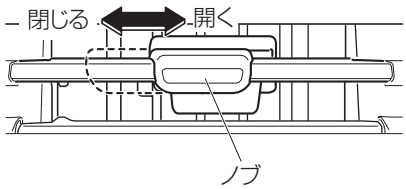
吹き出し口の調節

吹き出し口の開閉

中央（運転席側）および側面

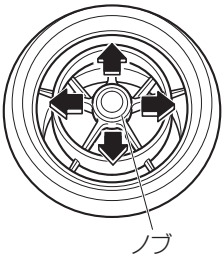


中央（助手席側）

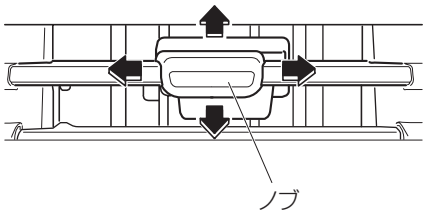


風向きの調節

中央（運転席側）および側面



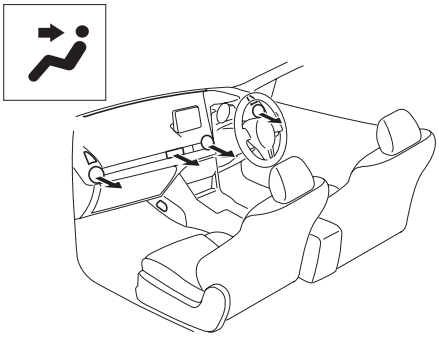
中央（助手席側）



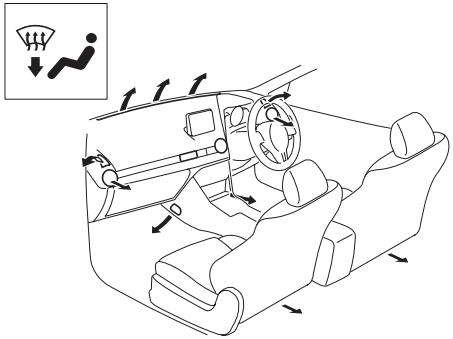
吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

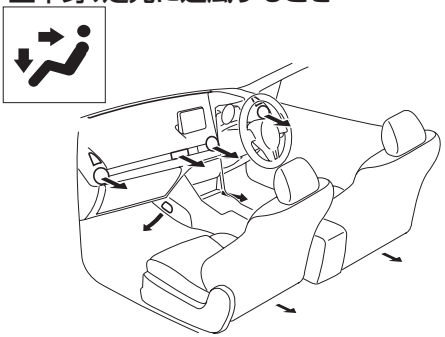
上半身に送風するとき



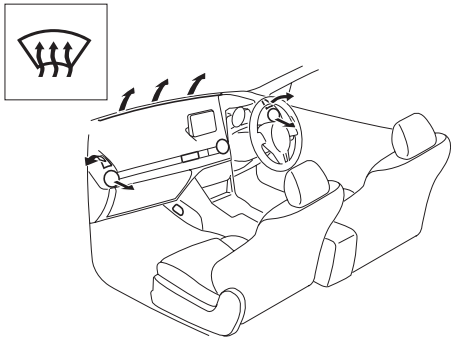
足元への送風とガラスの曇りを取るとき



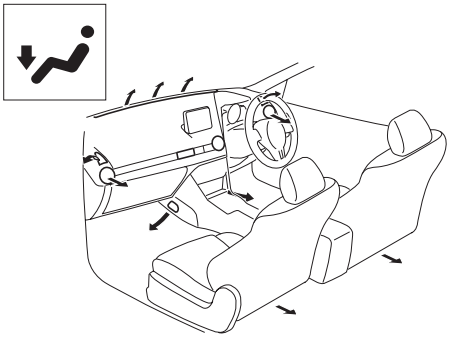
上半身、足元に送風するとき



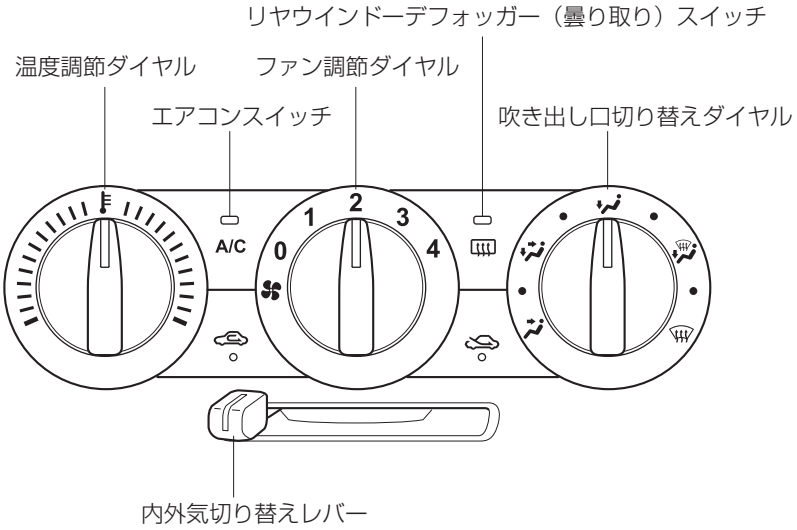
ガラスの曇りを取るとき



主に足元に送風するとき



マニュアルエアコン



各スイッチの使いかた

温度調節ダイヤル

ダイヤルをまわして、吹き出し風の温度を調節します。

ファン調節ダイヤル

風量を４段階に調節できます。

吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的にあわせて、吹き出し口を選択することができます。
→ 295ページ「吹き出し口の選択」

知識

- 吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にし、温度調節ダイヤルを中間付近で使用すると暖められた風が足元から吹き出し、比較的温度の低い風がインストルメントパネル中央および左右から吹き出します。この吹き出しは頭寒足熱を目的としています。
- ダイヤルは各モードの中間位置●に固定することができます。風量を少し調節したいときは、ダイヤルを中間位置に固定してください。
  例えば、ダイヤルをとの間の●位置に固定すると、足元からの吹き出し風量は位置のときよりも減少します。

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルが 0 以外のとき、スイッチを押すごとにエアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が切り替わります。
エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

外気温が 0° C 近くまで下がると、システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

内外気切り替えレバー

内気循環（外気を遮断する）と外気導入（外気を室内に入れる）の切り替えができます。

知識

寒いときや湿度が高いときに、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- （内気循環）
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど、外気を遮断したいときに使用します。
- （外気導入）
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチ

リヤウインドーの曇りを取るときに使用します。
→ 189ページ「リヤウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチ」

ガラスの曇りを取るとき

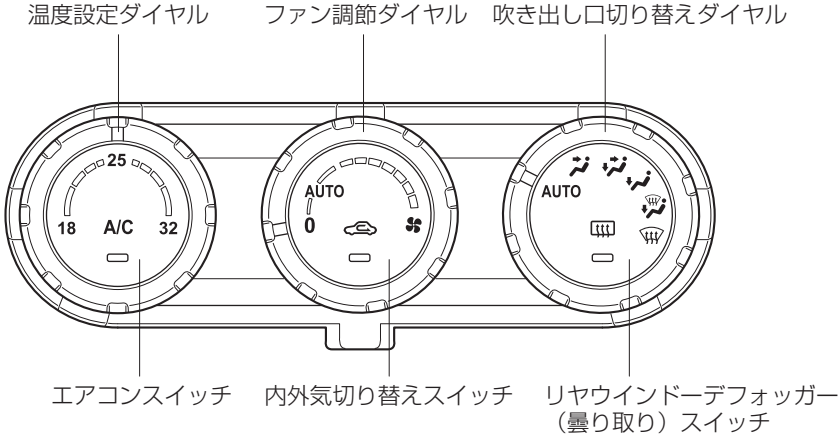
吹き出し口切り替えダイヤルを にします。
風量はお好みにあわせて調節してください。

⚠警告

禁止

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

フルオートエアコン



各スイッチの使いかた

温度設定ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。
ダイヤルの表示数字は、室温設定時の目安となります。

知識

ダイヤルを左側いっぱいにまわすと最大冷房、右側いっぱいにまわすと最大暖房に固定されます。

ファン調節ダイヤル

AUTO 位置のとき設定温度にあわせて、吹き出し風量が自動制御されます。
AUTO 以外の位置にダイヤルをまわすと、吹き出し風量をお好みで調節できます。
右側いっぱいにまわすと、最大風量に固定されます。

吹き出し口切り替えダイヤル

AUTO 位置のとき、設定温度にあわせて吹き出し口の切り替えを自動で行ないます。
AUTO 以外の位置にダイヤルをまわすと、使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→ 295ページ「吹き出し口の選択」

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルが 0 以外の位置のとき、スイッチを押すごとにエアコン (冷房・除湿機能) の作動と停止が切り替わります。
エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

外気温が 0° C 近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しない場合があります。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リヤウインドーの曇りを取りたいときに使用します。
→ 189ページ「リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

通常の使いかた

1. 吹き出し口切り替えダイヤルを AUTO の位置にします。
2. 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) にします。

知識

寒いときや湿度が高いときに、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

3. ファン調節ダイヤルを AUTO の位置にします。
4. エアコンスイッチを押してエアコンを作動（表示灯点灯）させます。
5. 温度設定ダイヤルをまわして希望の温度に調節します。

知識

- 設定温度を極端に低く（高く）しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

6. 作動を停止したいときは、ファン調節ダイヤルを 0 の位置にします。

ガラスの曇りを取るとき

ファン調節ダイヤルが 0 以外の位置のときに、吹き出し口切り替えダイヤルを にします。
自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロント窓ガラスに送風されます。

警告

禁止

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。

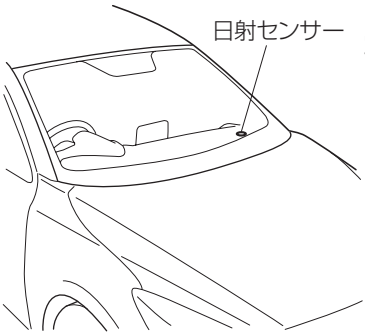
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

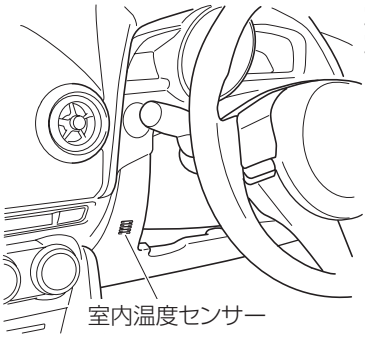
- ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
- 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

日射センサーについて



日射センサーの上に物を置かないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

室内温度センサーについて



室内温度センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

オーディオをご使用の前に グレード/仕様別装備

⚠警告

必ず守る

オーディオは、車を止めてから操作する。

走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

知識

- エンジンを止めたままで､オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内、または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ（雑音）が発生することがありますが故障ではありません。

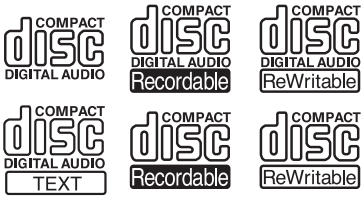
ラジオについて

ラジオの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

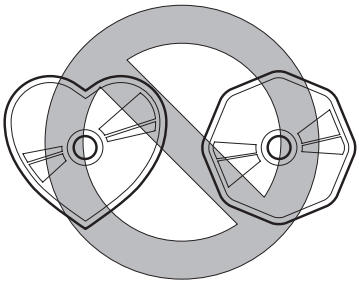
→316ページ「ラジオを聞く」

CD について

- イラストで示すマークがついている CD のみ使用できます。



- コピーコントロール CD（著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽 CD）の中で、CD の規格に準拠していないものは、再生できない場合があります。
- ハート型や八角形など特殊形状の CD は使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。



- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。
- 本機内部のレンズの汚れなどにより、CD が正しく作動しなくなることがあります。
- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露（水滴）が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、CD を取り出して室内を換気、または除湿してから使用してください。
- CD 信号面に直接手で触れると、CD の信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。CD の端と中心の穴をはさんで持ってください。
- CD はケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- CD の汚れを取るときは、やわらかい布で CD の中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、CD の表面を傷める原因になりますので使用しないでください。
- 文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりした CD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- 変形したり、ひびが入ったりした CD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。

- セロハンテープやレンタル CD のラベルからのりがはみ出したものや、ラベルをはがしたあとがある CD は、使用しないでください。また、市販の CD-R ラベルを貼り付けたディスクも使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- CD 差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- CD-R/CD-RW は、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理（通常の CD プレーヤーで再生できるようにする処理）されていない CD-R/CD-RW は再生できません。
- 700MB を超える CD-R/CD-RW の再生はできません。
- 音楽用 CD レコーダー、またはパソコンで記録した CD-R/CD-RW は、ディスクの特性、キズ·汚れなどにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション（ライティングソフト）の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください（詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください）。
- CD-R/CD-RW に記録されているタイトルなどの文字情報は、音楽データ (CD-DA) 再生時に表示できない場合があります。
- CD-RW は、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常の CD や CD-R より時間がかかります。
- CD-R/CD-RW の取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

→ 318ページ「CD を再生する　グレード/仕様別装備」

USB オーディオ機器について

USB メモリ、USB オーディオ機器に記録して再生可能なデータは次の通りです。
MP3、AAC (M4A) *1、WMA
→ 306ページ「再生可能なオーディオファイルについて」

*1 本機は、拡張子 (.m4a) にのみ対応しています

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

知識

- データ規格の詳細については「再生可能なオーディオファイルについて」を参照ください。
  → 306ページ「再生可能なオーディオファイルについて」
- FAT32 でフォーマットされた USB メモリに対応しています。
  (NTFS フォーマットなどでフォーマットされた USB メモリには対応していません)。
- USB メモリは 16GB を超えると動作が不安定になる事があります。
  (推奨容量：16GB 以下推奨格納音楽ファイル数：1,000 ファイル以内)
- 本機では USB2.0/1.1 規格に対応したデバイスが利用できます。
  USB3.0 規格品であっても USB2.0 と互換のある機材であれば、USB2.0 デバイスとして利用可能です。
- 本機は著作権保護された WMA/AAC ファイルを再生できません。
- 機器に保存された曲順と再生順序が違うことがあります。
- 機器が 1,000mA 以上の電力を使用する場合は、作動しなかったり、充電できない場合があります。
- USB オーディオ再生中に USB オーディオ機器を取り外さないでください。(ラジオや CD などの、別のオーディオモード中に取り外すことができます)。
- パスワードで保護されたデータは、再生することができません。
- 記録されているデータの消失、損傷といった万一にそなえて、データはバックアップを取っておくことをおすすめします。
- USB オーディオ機器が再生に対応していない音楽データは、本機で再生できない場合があります。

記載している規格以外で書き込まれた MP3/WMA/AAC ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
→ 323ページ「USB オーディオ機器の音楽を聞く」

再生可能なオーディオファイルについて

本機で再生可能なオーディオファイルは次の通りです。

対応フォーマット		対応ビットレート	対応サンプリングレート	CD	USB
MP3		32 ～ 160kbps	32 ～ 48kHz	○	○
WMA	WMA Std	32 ～ 160kbps	32 ～ 48kHz	○	○
M4A	AAC	64 ～ 256kbps	32 ～ 48kHz	○	○

○: 可能
—: 不可能

MP3 について

MPEG Audio Layer3 の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。
MP3 は、音声データを元のデータの約 10 分の 1 に圧縮することができます。
本機は、拡張子 (.mp3) がついているファイルを MP3 ファイルとして再生します。

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

知識

フランス、トムソン社からの MP3 特許ライセンスについて

本機は、個人の使用、または非商用的な使用を目的としています。次のような、商用目的には使用できません。ご使用には、別途、トムソン社からの商用使用許諾が必要です。詳しくは http://mp3licensing.com をご覧ください。

- 有料リアルタイム放送 (地上波、衛星、ケーブル、その他の放送媒体)
- インターネットによる放送、またはストリーミング
- イントラネット / ネットワーク
- 有料オーディオ・アプリケーションやオーディオ・オンデマンド・アプリケーションなどの電子情報配信システム

- MP3 ファイルが記録された CD-R/CD-RW/CD-ROM の再生に対応しています。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.mp3」を追記してからメディアに書き込んでください。
- 表示される文字数には制限があります。

WMA について

WMA とは、Windows Media Audio の略称で、Microsoft 社の音声圧縮フォーマットです。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成・保存することができます。
本機は、拡張子 (.wma) がついているファイルを WMA ファイルとして再生します。
※ Microsoft、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

- 記載している規格以外で書き込まれた WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wma」を追記してからメディアに書き込んでください。

AAC について

AAC とは、Advanced Audio Coding の略称で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成 · 保存することができます。
本機は、拡張子 (.m4a) がついているファイルを AAC ファイルとして再生します。

⚠注意

必ず守る **オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。**

- 記載している規格以外で書き込まれた AAC ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.m4a」を追記してからメディアに書き込んでください。

iPod について

本機は、音楽ファイルが記録された iPod の再生に対応しています。
iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
機種や OS のバージョンによっては、対応していない場合があります。

⚠注意

必ず守る **iPod を使用しないときは取りはずしてください。車内に放置すると、車内の高温と湿度で破損したりバッテリーが消耗することがあります。**

必ず守る **iPod のバッテリーが劣化している場合、本機に接続しても充電や再生ができない場合があります。**

必ず守る **ご使用前に、iPod の取扱書をよくお読みください。**

必ず守る **iPod は、USB 端子に接続して、操作をオーディオユニットで行います。iPod 本体での操作はできません。**

知識

- 本機は、iPod の画像やビデオを表示することはできません。
- 記録されているデータの消失、損傷といった万一にそなえて、データはバックアップを取っておくことをおすすめします。

→ 330ページ「iPod モードの使いかた」

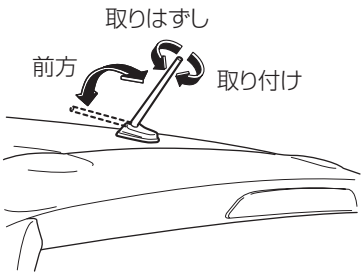
商標について

本書に記載されている商品・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

- AUDIOPILOT™、Centerpoint®は Bose コーポレーションの登録商標です。
- Bluetooth®は米国 Bluetooth SIG,Inc. の登録商標です。
- iPhone、iPod は Apple Inc. の商標です。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Microsoft、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

アンテナ グレード/仕様別装備

可倒・脱着タイプ



ラジオを使用するときは、アンテナを図の位置まで起こします。
取りはずすときは、左にまわします。取り付けるときは右にまわし、しっかりと締めます。

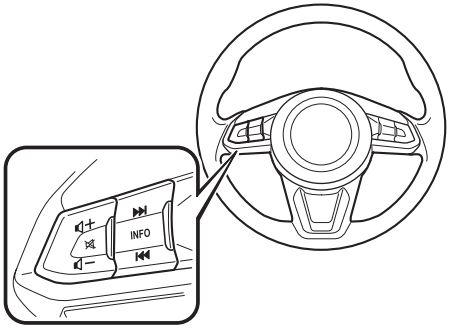
注意

必ず守る **天井の低い車庫に入れるときなど、アンテナが当たる場所では、アンテナを倒してください。起こしているとアンテナが損傷するおそれがあります。**

必ず守る **自動洗車機を使用するときには、アンテナが損傷するおそれがありますので、アンテナを取りはずしてください。**

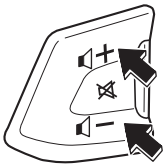
オーディオの操作方法 グレード/仕様別装備

オーディオリモートコントロールスイッチによる操作 グレード/仕様別装備



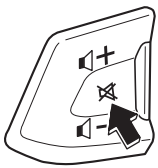
ハンドルの左側にあります。
オーディオの電源が入っているときに、手元でオーディオの操作をすることができます。

音量を調節するとき



＋、－ボタンを操作して、音量を調節します。

消音にするとき



🔇ボタンを押すと、消音できます。もう一度ボタンを押すともとにもどります。

知識

消音にしたあと電源ポジションを OFF にすると、消音は解除されます。その後エンジンをかけると、消音にする前の状態にもどります。音を消したいときは、🔇ボタンを押してください。

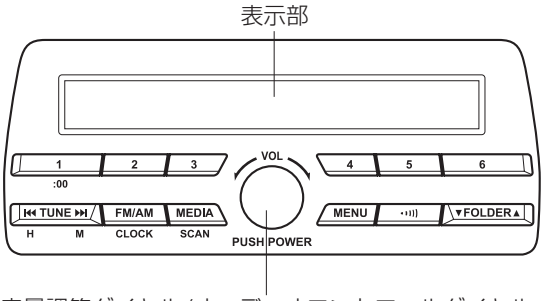
選局するとき

ラジオを聞いているときに⏮、⏭ボタンを押すと、1～6のボタンにあらかじめ記憶させておいた放送局を呼び出すことができます。ボタンを押すごとに順次記憶された放送局に切り替わります。
また、ピッと音がするまで押すと、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。

頭出しをするとき

USB オーディオを聞いているときに⏮、⏭ボタンを操作すると、曲の頭出しをすることができます。
次の曲の頭に進めたいときは⏭ボタンを押し、今聞いている曲の頭にもどしたいときは⏮ボタンを押します。

音量 / 音質の調節



音量調節

音量調節ダイヤルをまわして調節します。
右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

音質調節

1. **MENU**ボタンを押して調節したいモードを選びます。
   ボタンを押すごとにモードが切り替わります。
2. オーディオコントロールダイヤルをまわして調節します。

モード	ダイヤルをまわす方向	
	左	右
ALC (自動音量調節)	音量変化小	音量変化大
BASS (低音調節)	低音弱	低音強
TREB (高音調節)	高音弱	高音強
FADE (前後音量調節)	音量バランスをフロント側に移動	音量バランスをリア側に移動
BAL (左右音量調節)	音量バランスを左側に移動	音量バランスを右側に移動
BEEP (操作音設定)	OFF	ON

モード	ダイヤルをまわす方向	
	左	右
12Hr < > 24Hr (時間表示設定)	時計を 12Hr 表示 (点滅)	時計を 24Hr 表示 (点滅)

ALC (自動音量調節)
オートマチックレベルコントロール (ALC) は、車速に応じて自動的にオーディオの音量 / 音質が変化する機能です。車速が早いほど変化量は大きくなり、車速が遅いほど変化量は小さくなります。
ALC OFF、ALC LEVEL1 ～ 7 モードがあり、ALC LEVEL7 にすると変化量が最大になります。状況に応じてモードを選択してください。

BEEP (操作音設定)
ボタンの長押し操作による、オーディオ操作音の設定をすることができます。
初期設定では ON になっています。OFF にすると操作音はしなくなります。

12Hr < > 24Hr (時間表示設定)
オーディオコントロールダイヤルをまわして、12/24 時間の表示を切り替えることができます。
→ 313ページ「時計の調節」

知識
- 音量 / 音質調節値は、表示部に表示されます。
- **MENU**ボタンを押してしばらくすると、音質調節前の表示にもどります。ピッと音がするまで押し続けると低音、高音、前後、左右の調節値が中央値 (初期値) にもどり、表示部に“CLEAR”が表示されます。

時計の調節

時刻のあわせかた
1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. **FM/AM**ボタンをピッと音がするまで押します。
   時刻が点滅表示されます。
   - 時間調節
     時刻が点滅中に、⏮、⏭ボタンを押して時刻をあわせます。
     左 (⏮) 側を押している間“時”表示が早送りされます。
     右 (⏭) 側を押している間“分”表示が早送りされます。
3. 調節後、**FM/AM**ボタンを押します。

時報にあわせるとき

1. **FM/AM**ボタンをピッと音がするまで押します。
   時刻が点滅表示されます。
2. 時報にあわせて 1 ボタンを押します。時刻は次のように修正されます。

   (例)
   12:01 ～ 12:29 → 12:00
   12:30 ～ 12:59 → 1:00

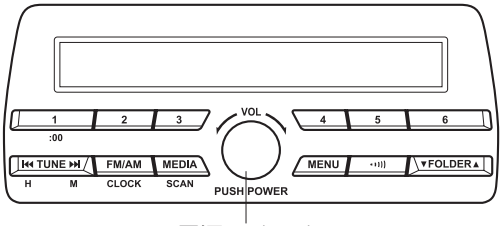
知識

- 時刻をあわせたあと、1 ボタンを再度押した時点で“秒”は“00”からスタートします。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは時計がリセットされます。もう一度設定してください。

MEMO

オーディオソースの使いかた グレード/仕様別装備

ラジオを聞く



電源スイッチ

1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. **FM/AM**ボタンを押し、聞きたいバンドを選択します。
3. 選局します。
   - 自動選局
     ⏮、⏭ボタンをピッと音がするまで押し続けると、自動選局を始め、放送を受信すると止まります。
   - 手動選局
     ⏮、⏭ボタンを押して選局します。
4. 音量 / 音質を調節します。
5. ラジオを止めるときは、電源スイッチを押します。

知識

受信する電波が弱いときは、手動選局をしてください。

放送局を記憶するとき

1 ～ 6 のボタンを使って、選局した周波数を記憶させておくと便利です。
AM、FM1、FM2 それぞれ 6 局まで記憶できます。

1. 記憶させたい放送局を選びます。
2. 1 ～ 6 いずれか 1 つのボタンをピッと音がするまで押します。
   記憶させたチャンネル番号と周波数が 1 回点滅します。
3. 呼び出すときは、1 ～ 6 いずれかのボタンを押します。

知識

呼び出すときに、ボタンをピッと音がするまで押すと、そのとき受信している周波数が記憶されます。

聞きたい局を探すとき

MEDIAボタンを使って、受信可能な放送局を探すことができます。

1. **MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けると、周波数の低い方から高い方へ５秒間ずつ受信していきます。
2. 聞きたい局が受信されたらもう一度**MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けます。その周波数を受信し続けます。

交通情報の受信

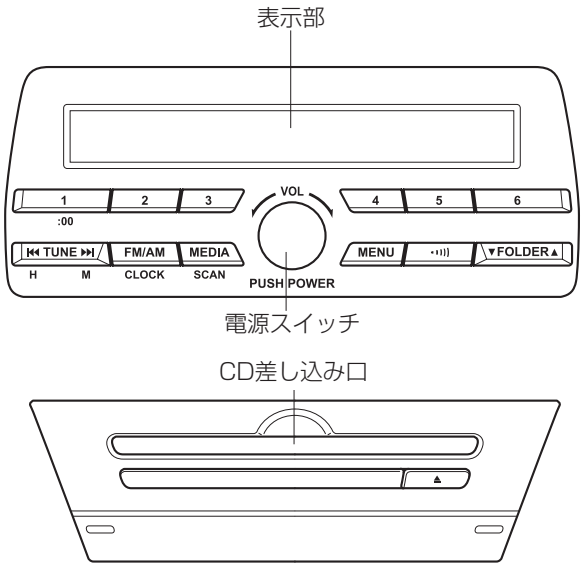
交通情報を放送している地域では、•ıı))ボタンを押すと交通情報を受信できます。

1. •ıı))ボタンを押すと、AM1620kHz、または AM1629kHz を受信します。
2. もう一度押すともとの状態にもどります。
3. 受信中、ボタンをピッと音がするまで押すごとに、AM1620kHz と AM1629kHz を切り替えることができます。

知識

•ıı))ボタンで受信中は、１～６のボタンを押しても記憶された放送局は選局されません。

CD を再生する グレード/仕様別装備



タイプ	再生できるデータ
音楽 /MP3/WMA/AAC CD プレーヤー	• 音楽データ (CD-DA) • MP3/WMA/AAC ファイル

知識

一枚のディスクに音楽データ (CD-DA) と MP3/WMA/AAC ファイルが混在しているときは、ディスクに記録する方法によって再生される内容が異なります。

再生するとき

1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. CD のラベル面を上にして、CD 差し込み口に軽く押し込みます。CD が自動的に送り込まれ、再生を始めます。
   CD が入っているときは、**MEDIA**ボタンを押して CD モードに切り替えると再生を始めます。
3. 音量 / 音質を調節します。
4. 再生を止めるときは電源スイッチを押します (もう一度押すと再生できます)。

知識

- 12cmCD サイズ専用です。8cmCD（シングル）サイズは、アダプタを使用しても再生することはできません。8cmCD アダプタを使用すると故障の原因になります。
- CD が入っていないときは、CD モードに切り替えることはできません。
- **(MP3/WMA/AAC CD)**
  再生はフォルダ番号の順に行なわれます。MP3/WMA/AAC ファイルがないフォルダはスキップされます。

一時停止

一時停止するときは 4 ボタンを押します。
もう一度押すと再生できます。

CD を取り出すとき

1. ⏏ボタンを押します。
2. CD の端を持って取り出します。

聞きたいフォルダを選択するとき (MP3/WMA/AAC CD 再生中)

今聞いているフォルダの前のフォルダを選択するときは▼ボタン、次のフォルダを選択するときは▲ボタンを押します。

早送り / 早もどしをするとき

1. 早送りするときは⏭ボタン、早もどしするときは⏮ボタンを押し続けます。
2. ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。

知識

(MP3/WMA/AAC CD)

VBR（可変ビットレート）を利用して録音されたファイルを再生しているときは、早送り / 早もどしをするときに再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

曲の頭出しをするとき

今聞いている曲の頭にもどしたいときは⏮ボタンを押します。
次の曲の頭に進めたいときは⏭ボタンを押します。

同じ曲をくり返して聞くとき

音楽 CD 再生中

1. 再生中に 1 ボタンを押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“TRACK RPT”が表示されます (表示部下側の RPT 横に♫が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA/AAC CD 再生中

(今聞いている曲をくり返し聞くとき)

1. 再生中に 1 ボタンを押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“TRACK RPT”が表示されます (表示部下側の RPT 横に♫が表示されます)。
2. 3 秒以上経過したあとに、もう一度押すと解除されます。

(今聞いているフォルダ内をくり返し聞くとき)

1. 再生中に 1 ボタンを押し、3 秒以内にもう一度押すとそのフォルダ内の曲をくり返して再生します。表示部に“FOLDER RPT”が表示されます (表示部下側の RPT 横に📁が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

ランダム選曲をするとき

CD 内の曲をランダムに選曲し、再生することができます。

音楽 CD 再生中

1. 再生中に 2 ボタンを押すと、CD 内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“DISC RDM”が表示されます (表示部下側の RDM 横に💿が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA/AAC CD 再生中

(フォルダ内の曲をランダムに聞くとき)

1. 再生中に 2 ボタンを押すと、フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“FOLDER RDM”が表示されます (表示部下側の RDM 横に📁が表示されます)。
2. 3 秒以上経過したあとに、もう一度押すと解除されます。

(CD 内の曲をランダムに聞くとき)

1. 再生中に 2 ボタンを押し、3 秒以内にもう一度押すと CD 内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“DISC RDM”が表示されます (表示部下側の RDM 横に💿が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

聞きたい曲を探すとき

音楽 CD 再生中
CD 内の曲を 10 秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

MP3/WMA/AAC CD 再生中
再生中のフォルダ内の曲を 10 秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

1. 再生中に**MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けると、次の曲の頭から順に 10 秒間ずつ再生されます。
2. 聞きたい曲が再生されているときに、もう一度**MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けます。その曲の再生がそのまま続きます。

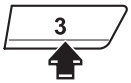
知識

すべての曲の再生が終わると自動的に解除され、通常の再生にもどります。

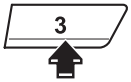
表示を切り替えるとき

再生中、3 ボタンを押すごとに、表示部に表示される情報を、次のように切り替えることができます。

音楽 CD 再生中

ボタン	表示部に表示される情報
	トラックナンバー / 再生時間
	トラックナンバー
	トラック名
	アルバム名
	アーティスト名

MP3/WMA/AAC CD 再生中

ボタン	表示部に表示される情報
	ファイルナンバー / 再生時間
	フォルダナンバー / ファイルナンバー
	ファイル名
	フォルダ名
	アルバム名
	曲名
	アーティスト名

知識

- 表示できる情報が CD に記録されている場合のみ、表示部に情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“✳”に置き換えて表示します。

隠れているタイトルを表示する

表示部に一度に表示できる文字数は 13 文字までです。タイトルが長く、最後まで表示されていないときは 3 ボタンをピッと音がするまで押し続けると、次の 13 文字を表示します。最後の文字を表示しているときに 3 ボタンをピッと音がするまで押し続けると、タイトルの最初の 13 文字を表示します。

知識

表示される文字数には制限があります。

メッセージがでたときは

“CHECK CD”のメッセージが表示されたときは、CD に何らかの異常があります。CD にキズや汚れがないか、または記録されている内容に MP3/WMA/AAC ファイルがあるか確認して正しく入れ直してください。
再度メッセージが表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

USB オーディオ機器の音楽を聞く

市販の USB メモリー、音楽プレイヤー、スマートフォンを本機の USB 端子に接続することで、オーディオ再生することができます。

⚠警告

必ず守る

USB 端子に接続したコードが、パーキングブレーキレバーやセレクトレバー（オートマチック車）、チェンジレバー（マニュアル車）に絡まないようにする。

運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止

プラグを接続した状態で、USB 端子の上に物を載せたり、大きな力を加えたりしないでください。

禁止

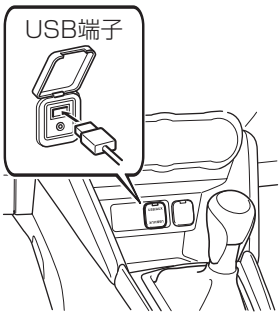
接続する機器によっては、車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時にノイズが発生することがあります（ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください）。

知識

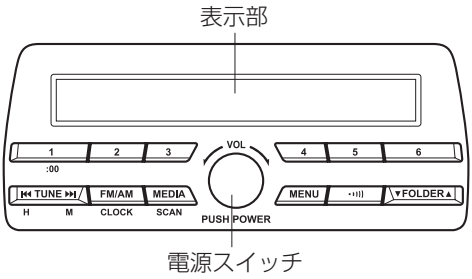
- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。
- ご使用前に、USB オーディオ機器の取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、USB オーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。
- プラグは USB 端子に確実に差し込んでください。

機器を接続する

USB ケーブルで、車両と USB オーディオ機器を接続します。
プラグの抜き差しは、USB 端子の穴に対して垂直に行なってください。



USB モードの使いかた



タイプ	再生できるデータ
USB モード	MP3/WMA/AAC ファイル

USB3.0 の機器には対応していません。また、その他の機器も、機種や OS のバージョンによっては、対応していない場合があります。

再生するとき

1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. オーディオユニットの電源スイッチを ON にします。
3. オーディオユニットの**MEDIA**ボタンを操作して USB モードに切り替えると再生を開始します。
4. 再生を止めるときは電源スイッチを押します。（もう一度押すと再生できます。）

知識

- スマートフォンなどの一部の機器は、USB 接続による操作ができるように設定を変更してください。
- USB 機器が接続されていないときは、USB モードには切り替わりません。
- USB 機器に再生可能なデータが無いときは“NO CONTENTS”の文字が点滅します。
- 再生はフォルダ番号の順に行なわれます。MP3/WMA/AAC ファイルがないフォルダはスキップされます。
- USB モード中に USB 機器を取りはずさないでください。データが破損するおそれがあります。

一時停止

一時停止するときは、4 ボタンを押します。
もう一度押すと再生できます。

聞きたいフォルダを選択するとき

今聞いているフォルダの前のフォルダを選択するときは▼ボタン、次のフォルダを選択するときは▲ボタンを押します。

早送り / 早もどしをするとき

1. 早送りするときは▶▶|ボタン、早もどしするときは|◀◀ボタンを押し続けます。
2. ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。

曲の頭出しをするとき

今聞いている曲の頭にもどしたいときは|◀◀ボタンを押します。
次の曲の頭に進めたいときは▶▶|ボタンを押します。

同じ曲をくり返して聞くとき

今聞いている曲をくり返し聞くとき

1. 再生中に 1 ボタンを押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“TRACK RPT”が表示されます (表示部下側の RPT 横に ♫が表示されます)。
2. 3 秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

今聞いているフォルダ内をくり返し聞くとき

1. 再生中に 1 ボタンを押し、3 秒以内にもう一度押すとそのフォルダ内の曲をくり返して再生します。表示部に“FOLDER RPT”が表示されます (表示部下側の RPT 横に 📁が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

ランダム選曲をするとき

USB 機器内の曲をランダムに選曲し、再生することができます。

フォルダ内の曲をランダムに聞くとき

1. 再生中に 2 ボタンを押すと、フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“FOLDER RDM”が表示されます (表示部下側の RDM 横に が表示されます)。
2. 3 秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

USB 機器内の曲をランダムに聞くとき

1. 再生中に 2 ボタンを押し、3 秒以内にもう一度押すと USB 機器内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“ALL RDM”が表示されます (表示部下側の RDM 横に が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

聞きたい曲を探すとき

再生中のフォルダ内の曲を 10 秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

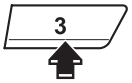
1. 再生中に**MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けると、次の曲の頭から順に 10 秒間ずつ再生されます。
2. 聞きたい曲が再生されているときにもう一度**MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けます。その曲の再生がそのまま続きます。

知識

全ての曲の再生が終わると自動的に解除され、通常の再生にもどります。

表示を切り替えるとき

再生中、3 ボタンを押すごとに、表示部に表示される情報を、次のように切り替えることができます。

ボタン	表示部に表示される情報
	ファイルナンバー / 再生時間
	フォルダナンバー / ファイルナンバー
	ファイル名
	フォルダ名
	アルバム名
	曲名
	アーティスト名

知識

- 表示できる情報が USB 機器に記録されている場合のみ、表示部に情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“✳”に置き換えて表示します。

隠れているタイトルを表示する

表示部に一度に表示できる文字数は、13 文字までです。タイトルが長く、最後まで表示されていないときは、3 ボタンをピッと音がするまで押し続けると、次の 13 文字を表示します。最後の文字を表示しているときに 3 ボタンをピッと音がするまで押し続けると、タイトルの最初の 13 文字を表示します。

知識

表示される文字数には制限があります。

メッセージがでたときは

“CHECK USB”のメッセージが表示されたときは、USB 機器に何らかの異常があります。USB 機器に記録されている内容に MP3/WMA/AAC ファイルがあるか確認して、正しく接続し直してください。
再度メッセージが表示されたときは、で点検を受けてください。

AUX の使いかた

市販のポータブルオーディオを本機の AUX 端子に接続することで、オーディオ再生することができます。

オーディオ

⚠警告

必ず守る

AUX 端子に接続したコードが、パーキングブレーキレバーやセレクトレバー（オートマチック車）、チェンジレバー（マニュアル車）に絡まないようにする。

運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止

プラグを接続した状態で、AUX 端子の上に物を載せたり、大きな力を加えたりしないでください。

禁止

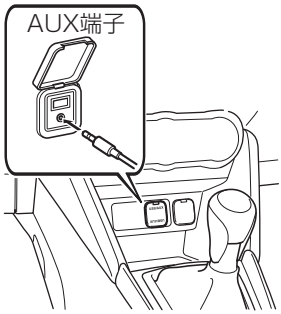
接続する機器によっては、車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時にノイズが発生することがあります（ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください）。

知識

- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。
- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- ポータブルオーディオを AUX 端子に接続するための接続コードは、市販の抵抗なしのステレオミニプラグ (3.5 ϕ) を使用してください。ご使用前に接続コードの取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで､オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、ポータブルオーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。
- プラグは AUX 端子に確実に差し込んでください。

機器を接続する

プラグの抜き差しは、AUX 端子の穴に対して垂直に行なってください。



AUX モードの使いかた

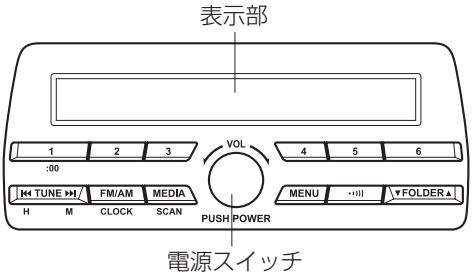
1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. オーディオユニットの電源スイッチを ON にします。

3. オーディオユニットの**MEDIA**ボタンを操作して AUX モードに切り替えます。

知識

- 機器が AUX 端子に接続されていないときは、AUX モードには切り替わりません。
- 音量調節は、ポータブルオーディオ本体およびオーディオユニットで行います。
- 音量調節以外の操作は、ポータブルオーディオ本体で行います。オーディオユニットでは操作できません。
- AUX モード中に AUX 端子からコードを抜いたり、接続している機器側のプラグを抜くとノイズが発生することがあります。

iPod モードの使いかた



機種や OS のバージョンによっては、対応していない場合があります。

再生するとき

1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. オーディオユニットの電源スイッチを ON にします。
3. オーディオユニットの**MEDIA**ボタンを操作して、iPod モードに切り替えると再生を開始します。
4. 再生を止めるときは、電源スイッチを押します (もう一度押すと再生できます)。

知識

- iPod が接続されていないときは、iPod モードには切り替わりません。
- iPod に再生可能なデータが無いときは“NO CONTENTS”が点滅します。
- iPod モード中に iPod を取りはずさないでください。データが破損するおそれがあります。

一時停止

一時停止するときは、4 ボタンを押します。
もう一度押すと再生できます。

カテゴリー切り替え

今聞いているカテゴリーの前のカテゴリーを選択するときは 5 ボタン、次のカテゴリーを選択するときは 6 ボタンを押します。

知識

カテゴリーはプレイリスト、アーティスト、アルバム、ソング、Podcast、ジャンル、コンポーザー、オーディオブックがあります。

聞きたいリストを選択するとき

今聞いているリストの前のリストを選択するときは▼ボタン、次のリストを選択するときは▲ボタンを押します。

知識

選択しているカテゴリーがソング、またはオーディオブックのときは、リストはありません。

早送り / 早もどしをするとき

1. 早送りするときは▶▶|ボタン、早もどしするときは|◀◀ボタンを押し続けます。
2. ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。

曲の頭出しをするとき

今聞いている曲の頭にもどしたいときは|◀◀ボタンを押します。
次の曲の頭に進めたいときは▶▶|ボタンを押します。

同じ曲をくり返して聞くとき

1. 再生中に 1 ボタンを押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“TRACK RPT”が表示されます (表示部下側の RPT 横に ♫が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

ランダム選曲をするとき

iPod 内の曲をランダムに選曲し、再生することができます。

リスト内の曲をランダムに聞くとき

1. 再生中に 2 ボタンを押すと、リスト内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“SONG RDM”が表示されます (表示部下側の RDM 横に 📁が表示されます)。
2. 3 秒以上経過したあとに、もう一度押すと解除されます。

iPod 内の曲をランダムに聞くとき

1. 再生中に 2 ボタンを押し、3 秒以内にもう一度押すと iPod 内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“ALBUM RDM”が表示されます (表示部下側の RDM 横に 💿が表示されます)。
2. もう一度押すと解除されます。

聞きたい曲を探すとき

再生中のリスト内の曲を 10 秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

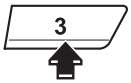
1. 再生中に**MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けると、次の曲の頭から順に 10 秒間ずつ再生されます。
2. 聞きたい曲が再生されているときにもう一度**MEDIA**ボタンをピッと音がするまで押し続けます。その曲の再生がそのまま続きます。

知識

全ての曲の再生が終わると、自動的に解除され、通常の再生にもどります。

表示を切り替えるとき

再生中、3 ボタンを押すごとに、表示部に表示される情報を、次のように切り替えることができます。

ボタン	表示部に表示される情報
	ファイルナンバー / 再生時間
	ファイルナンバー
	カテゴリー名
	アーティスト名
	アルバム名
	曲名

知識

- 表示できる情報が iPod に記録されている場合のみ、表示部に情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“*”に置き換えて表示します。

隠れているタイトルを表示する

一度に表示できる文字数は、13 文字までです。タイトルが長く、最後まで表示されていないときは、3 ボタンをピッと音がするまで押し続けると、次の 13 文字を表示します。最後の文字を表示しているときに、3 ボタンをピッと音がするまで押し続けると、タイトルの最初の 13 文字を表示します。

知識

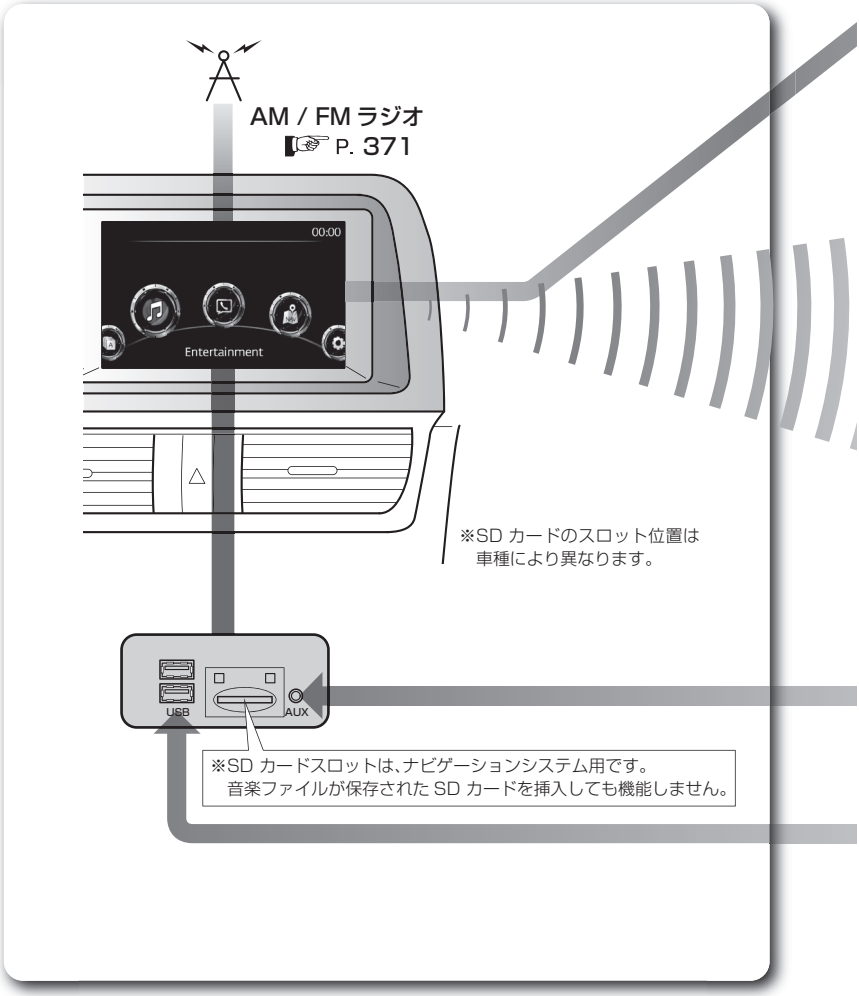
表示される文字数には制限があります。

メッセージがでたときは

“CHECK iPod” のメッセージが表示されたときは、iPod に何らかの異常があります。iPod に記録されている内容に再生可能なファイルがあるか確認して、正しく接続し直してください。
再度メッセージが表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

マツダコネクトでできること

マツダコネクトをより便利に



お客様準備品

Bluetooth（接続のしかた） P. 431

スマートフォン

Bluetooth® で接続されたスマートフォンの発着信や、格納されている音楽ファイルの再生ができます。

ハンズフリー P. 440

オーディオ P. 411

スマートフォンにアプリをインストールすることで、Aha™、Stitcher™のサービスが利用できます。

Aha™※ P. 415

Stitcher™※ P. 420

※Aha™、Stitcher™のご利用には、アプリでのユーザー登録が必要です。

お客様準備品

ミニプラグケーブル接続に対応したオーディオ機器を接続し、オーディオ機器の音声をスピーカーから流すことができます。

AUX

AUX オーディオ P. 424

USB

USB メモリー、USB オーディオ機器に格納されている音楽ファイルを再生できます。

USB オーディオ機器 P. 402

USB メモリー P. 402

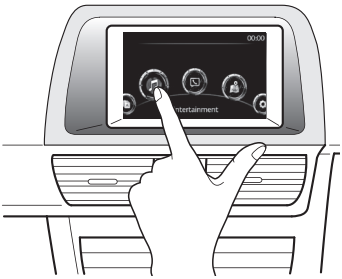
※USB メモリの推奨容量は 16GB 以下。推奨格納音楽ファイル数は 1000 ファイル以内です。
※カードリーダーや USB ハブには対応していません。

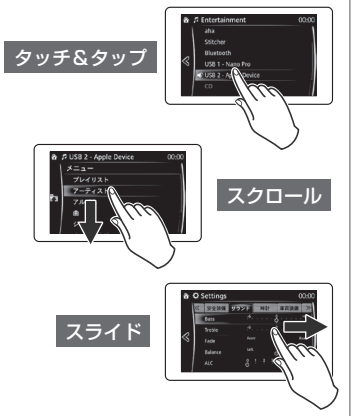
マツダコネクト４つの操作方法

タッチ操作＜停車中＞

ラジオやテレビの選局や、USB オーディオ機器の選曲、音質の調整等、タッチ操作で快適に行えます。

P. 359

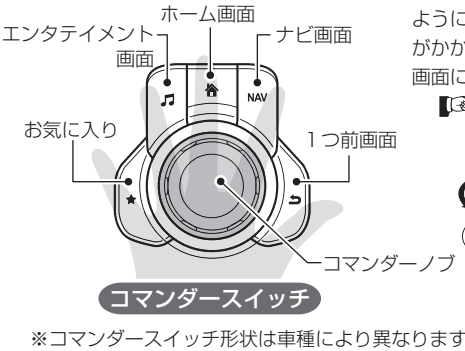


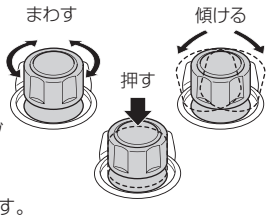


コマンダースイッチ操作

各画面へのスイッチ操作と、コマンダー操作ができます。
左手をコマンダースイッチに包み込むように持つと各画面へのスイッチに指がかかります。手元を見なくても、各画面に切り替えることができます。

P. 357



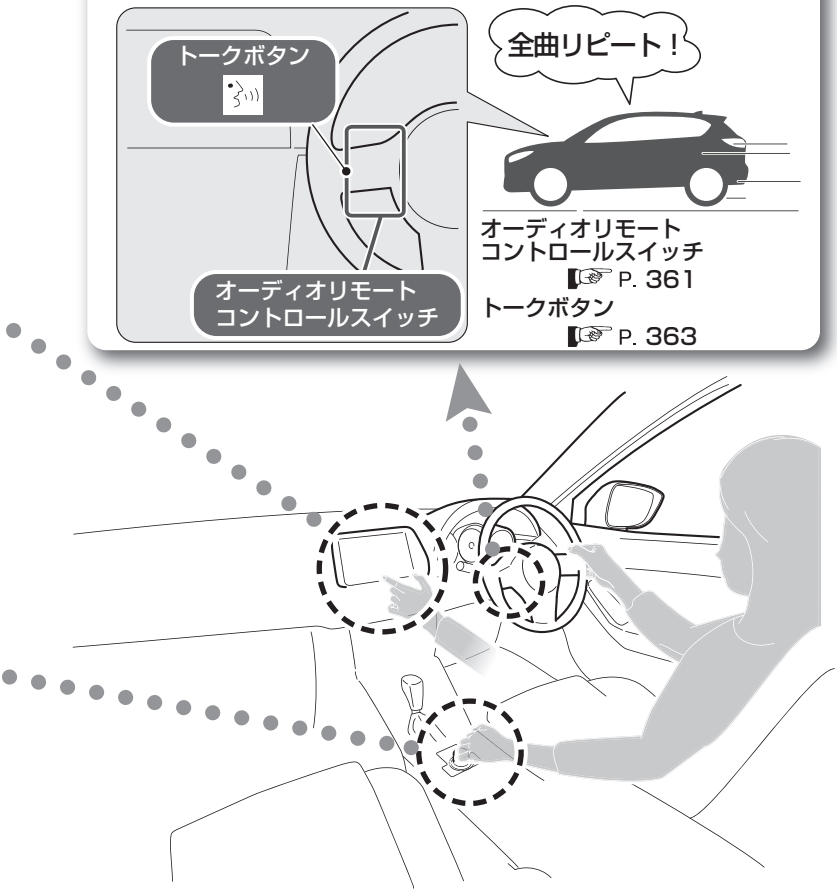


コマンダースイッチ

※コマンダースイッチ形状は車種により異なります。

音声認識・オーディオリモートコントロールスイッチ操作

オーディオリモートコントロールスイッチの「トークボタン」から
音声操作ができます。
停車中走行中に関わらず、よく使う機能を少ない手順で操作することができます。



マツダコネクトをご使用の前に

⚠警告

必ず守る **オーディオは、車を止めてから操作する。走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠注意

必ず守る **安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。**

知識

- エンジンを止めたままで､オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内、または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ（雑音）が発生することがありますが故障ではありません。

ラジオについて

ラジオの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

- 本機は AM 放送の FM 補完中継放送（ワイド FM）に対応しています。
- 本機で受信可能な周波数帯域は次の通りです。
  FM 放送波 76.0 ～ 99.0MHz
  AM 放送波 522 ～ 1629kHz

→ 371ページ「ラジオを聞く」

テレビについて

テレビの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

⚠注意

本機は、ARIB（電波産業会）規格に基いた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。

必ず守る

各社の商標および製品商標に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

必ず守る

本機に搭載されているソフトウェア、またはその一部につき、改変、翻訳、翻案、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行ったりそれに関与してはいけません。

禁 止

本機を、法令により許されている場合を除き、日本国外に持ち出してはいけません。

禁 止

- 本機には、The FreeType Project LICENSE (http://www.freetype.org/license.html) の適用を受けるソフトウェア freetype (http://www.freetype.org/) が組み込まれています。
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for usein the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)
  (本機には、OpenSSL プロジェクト (http://www.openssl.org/) によって開発されたソフトウェア OpenSSL Toolkit が含まれています)
- 本機は、Desay SV Automotive Japan 株式会社で製造されたものです。

地上デジタルテレビ放送について

- 地上デジタルテレビ放送は、大きく分けて 3 種類のサービスがあります。
  - テレビ放送 : 従来からのテレビ放送
  - ラジオ放送 : 音声を主とした放送
  - データ放送 : 現在地周辺の生活情報やクイズ・ニュース・天気予報などの放送
    ※本機では、テレビ放送のサービスを受けることができます (データ放送とラジオ放送には、対応しておりません)。

- 受信モードをお車の状況にあわせて切り替えることで、受信状態を安定させることができます。
  ※自動でワンセグ・フルセグ (SDTV) の切り替えを行なうか、行なわないかは、設定により変更することができます。
- 本機は、ハイビジョン放送の再生には対応しておりません。ハイビジョン放送は、標準画質 (SDTV) で再生します。
- 地上デジタルテレビ放送のサービスのひとつとして「ワンセグ」があります。

- 日本の地上デジタルテレビ放送は、約 6MHz の帯域を 13 個のセグメントに分けて放送する仕組みですが、そのうち 12 セグメントを使って高画質・高音質の放送を行なっています。ワンセグ放送は、残り 1 セグメントを使って携帯や移動体向けに放送するサービスです。
  ※地上デジタルテレビ放送の携帯・移動体向けサービス「ワンセグ」は、12 セグに比べると画質や音質は劣りますが、受信エリアは 12 セグよりも広く、送信局から離れた場所でも安定して受信できる可能性が高くなります。

コンテンツ権利保護専用方式について

本機は、コンテンツ権利保護専用方式 (ソフトウェア方式) を採用しています。そのため、B-CAS カードは不要です。
→ 379ページ「テレビを見る グレード/仕様別装備 」

CD について

本機で使用できるメディア、再生可能なデータは次の通りです。
次のマークが記載されたディスクが使用可能です。

市販ディスク	
記録されたディスク	

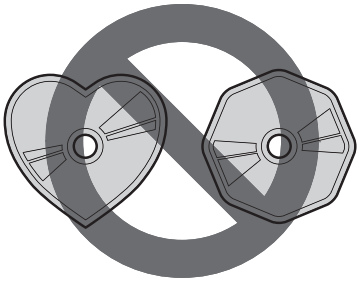
MP3/WMA/AAC CD として、ディスクに記録し再生可能なデータは次の通りです。
MP3、WMA、AAC
→ 352ページ「再生可能なオーディオファイルについて」

知識

- 一枚のディスクに音楽データ (CD-DA) と MP3/WMA/AAC ファイルが混在しているときは、ディスクに記録する方法によって再生される内容が異なります。
- データ規格の詳細については、「再生可能なオーディオファイルについて」をご参照ください。
  → 352ページ「再生可能なオーディオファイルについて」

マツダコネクト

- コピーコントロール CD（著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽 CD）の中で、CD の規格に準拠していないものは、再生できない場合があります。
- ハート型や八角形など特殊形状の CD は使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。



- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。
- 本機内部のレンズの汚れなどにより、CD が正しく作動しなくなることがあります。
- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露（水滴）が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、CD を取り出して室内を換気、または除湿してから使用してください。
- CD 信号面に直接手で触れると、CD の信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。CD の端と中心の穴をはさんで持ってください。CD はケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- CD の汚れを取るときは、やわらかい布で CD の中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、CD の表面を傷める原因になりますので使用しないでください。
- 文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりした CD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- 変形したり、ひびがはいったりした CD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- セロハンテープやレンタル CD のラベルからのりがはみ出したものや、ラベルをはがしたあとがある CD は、使用しないでください。また、市販の CD-R ラベルを貼り付けたディスクも使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- CD 差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- CD-R/CD-RW は、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理（通常の CD プレーヤーで再生できるようにする処理）されていない CD-R/CD-R は再生できません。
- 700MB を超える CD-R/CD-RW の再生はできません。

- 音楽用 CD レコーダー、またはパソコンで記録した CD-R/CD-RW は、ディスクの特性、キズ·汚れなどにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション (ライティングソフト) の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください (詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください)。
- CD-R/CD-RW に記録されているタイトルなどの文字情報は、音楽データ (CD-DA) 再生時に表示できない場合があります。
- CD-RW は、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常の CD や CD-R より時間がかかります。
- CD-R/CD-RW の取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

→ 384ページ「CD を再生する グレード/仕様別装備 」

DVD について

本機で使用できるメディア、再生可能なデータは次の通りです。
次のマークが記載されたディスクが使用可能です。

市販ディスク	
記録されたディスク	

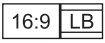
知識

- 本機は、CPRM (Content Protection for Recordable Media) に対応しています。
- 本機の地域番号は「2」です。再生可能な地域番号に「2」が含まれているディスクのみ再生できます。
- 記載している規格以外で書き込まれた DVD-Video/DVD-VR ファイルは、再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。
- DVD-VR ファイルは、メニューが表示されません。

- ハート型など特殊形状の DVD は使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。
- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。
- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露（水滴）が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、DVD を取り出して室内を換気、または除湿してから使用してください。
- DVD 信号面に直接手で触れると、DVD の信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。DVD の端と中心の穴をはさんで持ってください。
- DVD はケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- DVD の汚れを取るときは、やわらかい布で DVD の中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、DVD の表面を傷める原因になりますので使用しないでください。
- 文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりした DVD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- 変形したり、ひびがはいったりした DVD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- セロハンテープやレンタル DVD のラベルからのりがはみ出していたり、ラベルをはがしたりしたあとがある DVD は、使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- DVD 差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW は、録画に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理（通常の DVD プレーヤーで再生できるようにする処理）されていない DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW は再生できません。
- 音楽用 DVD レコーダー、またはパソコンで記録した DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW は、ディスクの特性、キズ·汚れ、または本機内部のレンズの汚れ·露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション（ライティングソフト）の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください（詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください）。
- DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW の取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
- DVD ビデオではディスクのソフト制作者の意図により、再生状態が決められていることがあります。この DVD プレーヤーでは、ソフト制作者が意図した内容にしたがって再生されるため、操作した通りに機能が働かないことがあります。必ず、再生させるディスクに付属の取扱書もあわせて参照してください。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
  「ドルビー」、「Dolby」およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

ディスクに表示されているマークについて

ディスクやパッケージに表示されているマークには、下記のものがあります。

マーク		意味
NTSC		カラーテレビの方式です。
		音声のトラック数です。 数字が収録されている音声数を表します。
		字幕の言語数です。 数字が収録されている言語数を表します。
		アングルの数です。 数字が収録されているアングル数を表します。
		選択することができる画面モードです。 「16:9」はワイド画面、「4:3」は標準画面を表します。
		再生可能な地域番号。ALL は全世界向け、数字は地域番号を表します（「2」は日本を示します）。

正しく DVD をご利用いただくために（用語の解説）

DVD-Video

DVD-Video は、DVD フォーラムの定めた映像保存の規格です。
デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつである MPEG2（エムペグ 2）が採用され、映像データが平均約 1/40 に圧縮して記憶されています。また、画像の形状に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されています。音声情報は、PCM のほか、ドルビーデジタルを用いて記憶させることができ、より臨場感のある音声を楽しむことができます。
さらに、マルチアングル・マルチランゲージなどさまざまな付加機能も用意されており、より高度に楽しむことができます。

DVD-VR

DVD-VR は、DVD Video Recording Format の略称で、DVD フォーラムの定めた映像保存の規格です。

マルチアングル

DVD プレーヤーの機能のひとつで、同じ場面が視点をかえて複数のアングル（カメラの位置）で記憶させることができるため、アングルを自由に選択することができます。

マルチランゲージ（多言語）

DVD プレーヤーの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕を複数の言語で記憶させることができるため、言語を自由に選択することができます。

地域番号（リージョンコード）
DVD プレーヤーとディスクは、販売地域ごとに再生可能な地域番号（リージョンコード）が設けられています。
再生させるディスクの地域番号が、プレーヤーに設定されている地域番号と異なる場合は、ディスクの再生はできません。
また、地域番号の表示がないディスクでも地域が制限されていることがありますので、その場合は、この DVD プレーヤーで再生させることができないことがあります。
→ 391ページ「DVD を再生する グレード/仕様別装備」

USB オーディオ機器について

USB メモリ、USB オーディオ機器に記録して再生可能なデータは次の通りです。
MP3、AAC (M4A)、WMA、Ogg、WAV
→ 352ページ「再生可能なオーディオファイルについて」

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

知識

- データ規格の詳細については「再生可能なオーディオファイルについて」を参照ください。
  → 352ページ「再生可能なオーディオファイルについて」
- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。
  マツダコネクトで接続確認済み機材は次のサイトで情報公開しています。
  マツダコネクトサポートページ

  http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP
- FAT32 でフォーマットされた USB メモリに対応しています。
  (NTFS フォーマットなどでフォーマットされた USB メモリには対応していません)。
- USB メモリは 16GB を超えると動作が不安定になることがあります。
  (推奨容量：16GB 以下推奨格納音楽ファイル数：1,000 ファイル以内)
- USB メモリのファイル名が長すぎると、動作が不安定になることがあります。
  (推奨：80 文字以内)
- 本機では USB2.0/1.1 規格に対応したデバイスが利用できます。
  USB3.0 規格品であっても USB2.0 と互換のある機材であれば、USB2.0 デバイスとして利用可能です。
- 本機は著作権保護された WMA/AAC/Ogg ファイルを再生できません。
- 機器に保存された曲順と再生順序が違うことがあります。
- 機器が 1,000mA 以上の電力を使用する場合は、作動しなかったり、充電できない場合があります。
- USB オーディオ再生中に USB オーディオ機器を取り外さないでください (ラジオや CD などの、別のオーディオモード中に取り外すことができます)。
- パスワードで保護されたデータは、再生することができません。
- 記録されているデータの消失、損傷といった万一にそなえて、データはバックアップを取っておくことをおすすめします。
- USB オーディオ機器が再生に対応していない音楽データは、本機で再生できない場合があります。

記載している規格以外で書き込まれた MP3/WMA/AAC/Ogg ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
→ 402ページ「USB オーディオ機器の音楽を聞く」

Gracenote 音楽認識サービスについて

音楽認識テクノロジーおよび関連データは、Gracenote®により提供されます。
Gracenote は、音楽認識テクノロジーおよび関連コンテンツ配信の業界標準です。
詳細については、次の Web サイトをご覧ください : www.gracenote.com
Gracenote, Inc. 提供の CD および音楽関連データ : copyright©2000 to present Gracenote. Gracenote Software, copyright©2000 to present Gracenote.
本製品およびサービスには、Gracenote が所有する 1 つまたは複数の特許が適用されます。適用可能な一部の Gracenote 特許の一覧については、Gracenote の Web サイトをご覧ください。Gracenote、CDDB、MusicID、MediaVOCS、Gracenote のロゴとロゴタイプ、および“Powered by Gracenote”ロゴは、米国および / またはその他の国における Gracenote の登録商標または商標です。

知識

- 「Gracenote 音楽認識サービス」によって提供されたデータについては内容を 100% 保証するものではありません。
- Gracenote 音楽データベースは更新することができます。
  → 402ページ「USB オーディオ機器の音楽を聞く」
- Gracenote 音楽認識は、USB オーディオ機能でのみ対応しています。

Gracenote 音楽認識サービスのご利用について

本ソフトウェア製品または本電器製品には、カリフォルニア州エメリービル市の Gracenote, Inc. (以下「Gracenote」とする) から提供されているソフトウェアが含まれています。本ソフトウェア製品または本電器製品は、Gracenote 社のソフトウェア (以下「Gracenote ソフトウェア」とする) を利用し、音楽 CD や楽曲ファイルを識別し、アーティスト名、トラック名、タイトル情報 (以下「Gracenote データ」とする) などの音楽関連情報をオンラインサーバー或いは製品に実装されたデータベース (以下、総称して「Gracenote サーバー」とする) から取得するとともに、取得された Gracenote データを利用し、他の機能も実現しています。お客様は、本ソフトウェア製品または本電器製品の使用用途以外に、つまり、エンドユーザー向けの本来の機能の目的以外に Gracenote データを使用することはできません。
お客様は、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーを非営利的かつ個人的目的にのみに使用することについて、同意するものとします。お客様は、いかなる第三者に対しても、Gracenote ソフトウェアや Gracenote データを、譲渡、コピー、転送、または送信しないことに同意するものとします。お客様は、ここに明示的に許諾されていること以外の目的に、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、または Gracenote サーバーを使用または活用しないことに同意するものとします。お客様は、お客様がこれらの制限に違反した場合、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーを使用するための非独占的な使用許諾契約が解除されることに同意するものとします。また、お客様の使用許諾契約が解除された場合、お客様は Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバー全ての使用を中止することに同意するものとします。
Gracenote は、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーの全ての所有権を含む、全ての権利を保有します。いかなる場合においても、Gracenote は、お客様が提供する任意の情報に関して、いかなる支払い義務もお客様に対して負うことはないものとします。お客様は、Gracenote, Inc. が本契約上の権利を Gracenote として直接的にお客様に対し、行使できることに同意するものとします。
Gracenote のサービスは、統計的処理を行うために、クエリ調査用の固有の識別子を使用しています。無作為に割り当てられた数字による識別子を使用することにより、Gracenote サービスを利用しているお客様を認識しながらも、特定することなしにクエリを数えられるようにしています。詳細については、Web ページ上の、Gracenote のサービスに関する Gracenote プライバシーポリシーを参照してください。
Gracenote ソフトウェアと Gracenote データの個々の情報は、お客様に対して「現状有姿」のままで提供され、使用が許諾されるものとします。Gracenote は、Gracenote サーバーにおける全ての Gracenote データの正確性に関して、明示的または黙示的を問わず、一切の表明や保証をしていません。Gracenote は、妥当な理由があると判断した場合、Gracenote サーバーからデータを削除したり、データのカテゴリを変更したりする権利を保有するものとします。Gracenote ソフトウェアまたは Gracenote サーバーにエラー、障害のないことや、或いは Gracenote ソフトウェアまたは Gracenote サーバーの機能に中断が生じないことの保証は致しません。Gracenote は、将来 Gracenote が提供する可能性のある、新しく拡張や追加されるデータタイプまたはカテゴリを、お客様に提供する義務を負わないものとします。また、Gracenote は、任意の時点でサービスを中止できるものとします。

Gracenote は、黙示的な商品適合性保証、特定目的に対する商品適合性保証、権利所有権、および非侵害性についての責任を負わないものとし、これに限らず、明示的または黙示的ないかなる保証もしないものとします。Gracenote は、お客様による Gracenote ソフトウェアまたは任意の Gracenote サーバーの利用により、得る結果について保証しないもとのとします。いかなる場合においても、Gracenote は結果的損害または偶発的損害、或いは利益の損失または収入の損失に対して、一切の責任を負わないものとします。
©2000 to present. Gracenote, Inc.

Bluetooth® オーディオについて

Bluetooth®通信機能のあるポータブルオーディオ機器を車両の Bluetooth ®ユニットに登録すると、登録したポータブルオーディオ機器に録音されている音楽を、車両のスピーカーから聴くことができます。また、ポータブルオーディオ機器を車両の外部入力端子に接続する必要はありません。
→ 431ページ「Bluetooth ®の登録」
登録後は、車両のセンターディスプレイで音楽の再生 / 停止が可能です。

知識

- Bluetooth®機器によっては使用できない場合があります。対応する Bluetooth®機器の情報はマツダ販売店に問い合わせください。
- 安全のため、車両が停止しているときのみペアリング（登録）することができます。車両が発進すると、ペアリングは中断されます。ペアリングを行う前に、安全な場所に車両を止めてください。
- Bluetooth®機器の通信可能距離は約 10 メートル以内です。
- Bluetooth®機器を鞄に入れたままだと、接続しにくい場合があります。
- コンテンツ保護されたデジタル音声出力 (SCMS-Tなど) には対応していません。
- スマートフォンなどでの音楽配信サービスアプリ等の楽曲は再生できないことがあります。
- Bluetooth®接続していない場合でも、音声コマンドを発話することによりオーディオの基本操作などは可能です。
- マツダコネクトで接続確認済み機材は次のサイトでも情報公開しています。
  マツダコネクトサポートページ

  http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP

対応 Bluetooth®規格（推奨）

Ver. 1.1/1.2/2.0 + EDR/2.1 + EDR/3.0 (適合)
および Bluetooth®Ver3.0 と互換のあるもの

対応プロファイル

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) Ver. 1.0/1.2
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) Ver. 1.0/1.3/1.4

A2DP は、音声を Bluetooth®ユニットに転送するだけのプロファイルです。AVRCP に対応せず、A2DP のみに対応している Bluetooth® オーディオ機器の場合、センターディスプレイでの操作はできません。この場合は、Bluetooth®非対応のポータブルオーディオ機器を AUX 端子に接続したときと同様に、携帯機器本体側での操作のみ可能です。

機能	AVRCP		
	Ver. 1.0	Ver. 1.3	Ver. 1.4
再生	○	○	○
一時停止	○	○	○
ファイル（トラック）アップ / ダウン	○	○	○
早もどし	—	○	○
早送り	—	○	○
楽曲情報表示	—	○	○
リピート	—	機器に依存	機器に依存
シャッフル	—	機器に依存	機器に依存
スキャン	—	機器に依存	機器に依存
フォルダアップ / ダウン	—	—	機器に依存

○: 可能
—: 不可能

知識

Bluetooth®が接続されているときは、Bluetooth ®オーディオ機器のバッテリー消費量が増加します。

⚠注意

必ず守る

Bluetooth オーディオとして接続しているデバイスを、同時に USB オーディオとして本機に接続しないでください。正常に操作できなくなったり、予期しない動作を引き起こすことがあります。

→ 411ページ「Bluetooth ®オーディオシステムの使いかた」

再生可能なオーディオファイルについて

本機で再生可能なオーディオファイルは次の通りです。

対応フォーマット		対応ビットレート	対応サンプリングレート	CD	USB
MP3		32 ～ 320kbps	32 ～ 48kHz	○	○
AAC	AACLC	64 ～ 320kbps	11.025 ～ 44.1kHz	○	○
	HE-AAC（モノラル）	24 ～ 80kbps	32kHz/44.1kHz	○	○
	HE-AAC（ステレオ）	24 ～ 80kbps	32kHz/44.1kHz	○	○
WMA	WMA Std	8 ～ 320kbps	32 ～ 48kHz	○	○
	WMA Pro	32 ～ 768kbps	32 ～ 96kHz	○	○
	WMA Lossless	32 ～ 3,000kbps	32 ～ 48kHz	○	○
Ogg		32 ～ 500kbps	8 ～ 192kHz	−	○
WAV		32 ～ 1,536kbps	32 ～ 48kHz	−	○
M4A	AAC	64 ～ 256kbps	32 ～ 48kHz	○	○

○: 可能
−: 不可能

MP3 について

MPEG Audio Layer3 の略で、ISO（国際標準化機構）のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。
MP3 は、音声データを元のデータの約 10 分の 1 に圧縮することができます。
本機は、拡張子 (.mp3) がついているファイルを MP3 ファイルとして再生します。

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

知識

フランス、トムソン社からの MP3 特許ライセンスについて

本機は、個人の使用、または非商用的な使用を目的としています。次のような、商用目的には使用できません。ご使用には、別途、トムソン社からの商用使用許諾が必要です。詳しくは http://mp3licensing.com をご覧ください。

- 有料リアルタイム放送 (地上波、衛星、ケーブル、その他の放送媒体)
- インターネットによる放送、またはストリーミング
- イントラネット / ネットワーク
- 有料オーディオ・アプリケーションやオーディオ・オンデマンド・アプリケーションなどの電子情報配信システム

- MP3 ファイルが記録された CD-R/CD-RW/CD-ROM の再生に対応しています。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.mp3」を追記してからメディアに書き込んでください。
- 表示される文字数には制限があります。

WMA について

WMA とは、Windows Media Audio の略称で、Microsoft 社の音声圧縮フォーマットです。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成・保存することができます。
本機は、拡張子 (.wma) がついているファイルを WMA ファイルとして再生します。
※ Microsoft、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

- 記載している規格以外で書き込まれた WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wma」を追記してからメディアに書き込んでください。

AAC について

AAC とは、Advanced Audio Coding の略称で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成 · 保存することができます。
本機は、拡張子 (.aac/.m4a) がついているファイルを AAC ファイルとして再生します。

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

- 記載している規格以外で書き込まれた AAC ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.aac」、「.m4a」を追記してからメディアに書き込んでください。

Ogg について

Ogg とは、Xiph.Org Foundation の音声圧縮フォーマットです。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成 · 保存することができます。
本機は、拡張子 (.ogg) がついているファイルを Ogg ファイルとして再生します。

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

- 記載している規格以外で書き込まれた Ogg ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.ogg」を追記してからメディアに書き込んでください。

WAV について

WAV とは、WAVE の略称で、Microsoft と IBM によって開発された音声圧縮の規格です。本機では PCM（パルス符号変調）形式で記録された、拡張子（.wav）がついているファイルを WAV ファイルとして再生します。

⚠注意

必ず守る

オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。

知識

PCM 形式は、CD などに採用されている形式で、アナログのオーディオデータをデジタル化するための手法です。

詳しくは https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/89879 をご覧ください。

- 記載している規格以外で書き込まれた WAV ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wav」を追記してからメディアに書き込んでください。

商標について

本書に記載されている商品・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

- Aha、Aha ロゴおよび Aha トレードドレスは Harman International Industries, Inc. の商標、または登録商標です。
- AUDIOPILOT™、Centerpoint®は Bose コーポレーションの登録商標です。
- Bluetooth®は米国 Bluetooth SIG,Inc. の登録商標です。
- Gracenote、CDDB、MusicID、MediaVOCS、Gracenote のロゴとロゴタイプ、および “Poweredby Gracenote” ロゴは、米国および / またはその他の国における Gracenote の登録商標または商標です。
- iPhone、iPod は Apple Inc. の商標です。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Microsoft、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Stitcher™、Stitcher™ ロゴおよび Stitcher™ トレードドレスは Stitcher, Inc. の商標、または商標登録です。

アンテナ

プリントタイプ グレード/仕様別装備

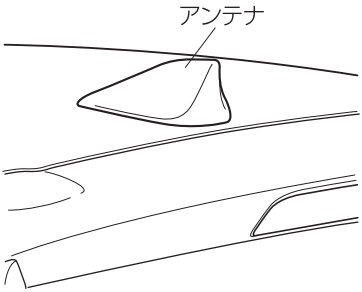
ガラスにプリントされています。

⚠注意

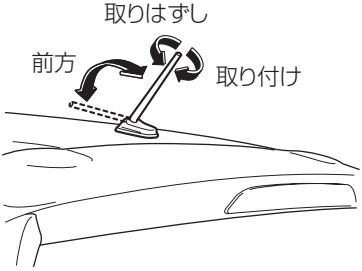
必ず守る

アンテナがプリントされているガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、アンテナにそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、アンテナをいためるおそれがあります。
→511ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

シャークフィンタイプ



可倒・脱着タイプ



ラジオを使用するときは、アンテナを図の位置まで起こします。
取りはずすときは、左にまわします。取り付けるときは右にまわし、しっかりと締めます。

⚠注意

必ず守る **天井の低い車庫に入れるときなど、アンテナが当たる場所では、アンテナを倒してください。起こしているとアンテナが損傷するおそれがあります。**

必ず守る **自動洗車機を使用するときには、アンテナが損傷するおそれがありますので、アンテナを取りはずしてください。**

マツダコネクトの操作方法

知識

本取扱書に記載されている機能の説明、画面やボタンの文字および形状などは、実際と異なる場合があります。

また、これらのコンテンツは、今後のソフトアップデートに応じて、予告なしに順次変更される可能性があります。

次の操作方法があります。

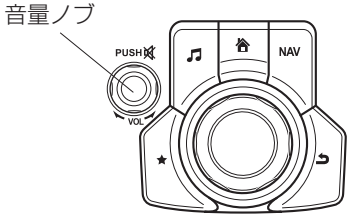
- コマンダースイッチによる操作
- タッチパネルによる操作
- オーディオリモートコントロールスイッチによる操作
- 音声認識機能による操作

コマンダースイッチによる操作

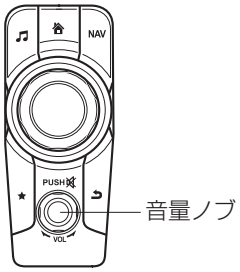
知識

安全のため、走行中は一部の操作をすることができません。

Aタイプ



Bタイプ



コマンダーノブ周囲のスイッチ

音量ノブを押すと消音できます。もう一度ダイヤルを押すと、もとにもどります。
右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと音量が小さくなります。

知識

オーディオを OFF にしたい場合は、音量をゼロにしてください。

コマンダーノブ周囲のボタンを押すことで次の操作ができます。

ホーム画面

: ホーム画面を表示します。

: エンターテイメント画面を表示します。

NAV: ナビゲーション画面を表示します（ナビゲーションシステム装備車）。ナビゲーション画面の操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。また、ナビゲーション用 SD カード PLUS が差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。

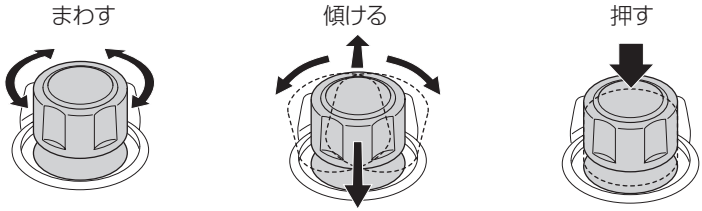
★: お気に入り画面を表示します。長押しすると、お気に入りに登録できます（FM/AM ラジオの放送局、電話帳、ナビゲーションシステムの目的地を登録可能）。

: 前の画面にもどります。

アイコン	説明
	Applications（アプリケーション） 平均燃費、メンテナンス、警告などの情報を確認できます。
	Entertainment（エンターテイメント） ラジオや CD などのオーディオを操作します。最後に使用されたオーディオソースが表示されます。ディスクが抜かれた場合など、その時に使用することができなかったオーディオソースはスキップされ、その前のオーディオソースが表示されます。
	Communication（コミュニケーション） 電話や SMS 機能を使用できます。

アイコン	説明
	Navigation (ナビゲーション) ナビゲーション画面を表示します (ナビゲーションシステム装備車)。ナビゲーションシステム用の SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。 コンパスは、車両停車時、または低速走行時には、正しい方位を示さない場合があります。
	Settings (設定) 設定メニュー (画面、安全装備、サウンド Bluetooth®など) を表示します。

コマンダーノブの操作



(画面上のアイコンを選択するには)

1. コマンダーノブを傾ける、またはまわして、選択したいアイコンにカーソルを移動させます。
2. コマンダーノブを押して、アイコンを選択します。

知識

機能によっては、コマンダーノブの長押しで操作できます。

タッチパネルによる操作

注意

禁止

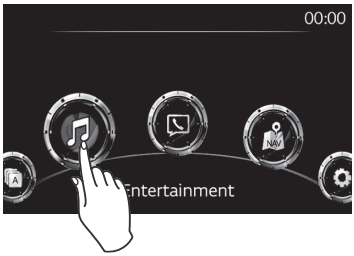
画面部分を指で強く押したり、先のとがったものなどで触れたりしないでください。画面に傷がついたり、損傷したりするおそれがあります。

知識

安全のため、走行中はタッチパネルの操作をすることができません。

基本的な操作方法

タッチ & タップ

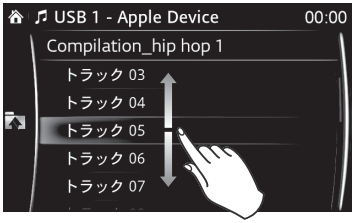


1. 画面に表示されている項目に、指で触れる (タッチする)、または指で軽くたたきます (タップする)。
2. 操作が実行されたり、次の項目が表示されます。

スライド

1. 項目のスライダーバーにタッチします。
2. スライダーを指で押さえながら、設定したい設定値まで移動します。

画面をスクロールする



1. 画面を指で押さえながら、上下に移動します。
2. 表示されていない項目が表示されます。

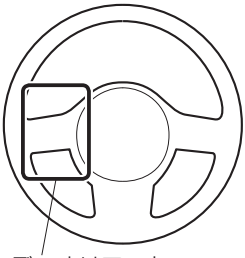
前の画面にもどる

1. にタッチします。
2. 前の画面にもどります。

ホーム画面を表示する

1. にタッチします。
2. ホーム画面が表示されます。

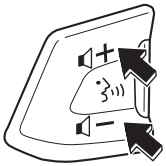
オーディオリモートコントロールスイッチによる操作



オーディオリモート
コントロールスイッチ

ハンドルの左側にあります。
手元でオーディオの操作をすることができます。
スイッチの形状は車種により異なります。

音量を調節するとき



＋、－ボタンを操作して、音量を調節します。

選局するとき

ラジオを聞いているときに⏮、⏭ボタンを押すと、お気に入りにあらかじめ登録させておいた放送局を呼び出すことができます。⏮、⏭ボタンを押すごとに順次登録された放送局に切り替わります。
また、ピッと音がするまで押すと、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。

テレビを視聴しているときに⏮、⏭ボタンを押すと、チャンネルリストを使って設定された放送局を呼び出すことができます。⏮、⏭ボタンを押すごとに順次設定された放送局に切り替わります。また、ピッと音がするまで押すと、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。

頭出しをするとき

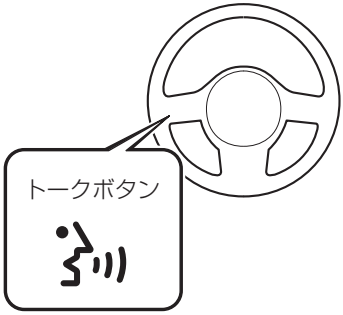
CD、USB、iPod、または Bluetooth®オーディオを聞いているときに⏮、⏭ボタンを操作すると、曲の頭出しをすることができます。
次の曲の頭に進めたいときは⏭ボタンを押し、今聞いている曲の頭にもどしたいときは⏮ボタンを押します。

DVD を視聴しているときに⏮、⏭ボタンを操作すると、チャプターの頭出しをすることができます。次のチャプターの頭に進めたいときは⏭ボタンを押し、今視聴しているチャプターの頭にもどしたいときは⏮ボタンを押します。

Aha™、または Stitcher™ ラジオを聞いているときに⏭ボタンを押すと、次の曲の頭に進みます。

音声認識機能による操作

この項目では、音声認識の基本操作を説明します。



1. 起動
   トークボタンを押します。
2. ピッのあとに発話してください。
   発話できるコマンド（音声認識として受け取れることば）は音声認識ができる主なオーディオ操作をご参照ください。

音声案内ガイドをスキップする

本機が音声ガイドを発話しているときに、再度トークボタンを押すことで音声ガイドをスキップしてピッと鳴ります。コマンドを素早く発話することができます。

音声認識を終了する

次の操作のいずれかを行います：

- ハングアップボタンを押す。
- 発話：「キャンセル」
- コマンダースイッチ、またはセンターディスプレイ（車両停車時のみ）を操作する。

知識

- 音声認識実行中に操作方法が分からなくなったときは「チュートリアル」または「ヘルプ」と発話してください。
- 「もどる」と「キャンセル」は、音声認識実行中に常に使用できるコマンドです。
- 音声認識実行中に「キャンセル」と発話すると、音声認識モードを終了します。
  音声認識実行中に「もどる」と発話すると、前の操作にもどります。

音声認識操作ができる主なオーディオ操作

トークボタンを押して、次のコマンドを発話するとオーディオを操作することができます。
( ) 内のコマンドは省略することができます。
／で分割されたコマンドはどちらか選択できます。

音声コマンド	説明
FM (ラジオ) (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを FM ラジオに切り替えます。
AM (ラジオ) (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを AM ラジオに切り替えます。
Aha (ラジオ) (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを Aha™ に切り替えます。
Stitcher に移動 /Stitcher (を) 再生	オーディオソースを Stitcher™ に切り替えます。
ブルートゥース (オーディオ) (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを Bluetooth®オーディオに切り替えます。
USB (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを USB 1に切り替えます。
USB2 (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを USB 2に切り替えます。
CD (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを CD に切り替えます。
AUX (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを AUX に切り替えます。
DVD (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを DVD に切り替えます。
TV (に移動 /(を) 再生)	オーディオソースを TV に切り替えます。

知識

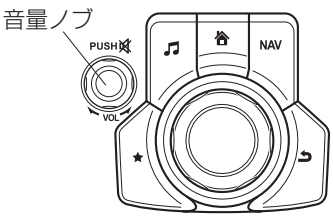
- 上記のコマンドは、使用可能なコマンドの一例です。
- 各オーディオソースで使用可能な音声認識コマンドは、ピッのあとに「ヘルプ」と発話して表示されるガイダンスをご確認ください。

音声認識を失敗しないようにするために、次のポイントに注意してください：

- 音声案内中やビープ音が鳴っている間は、音声認識を行うことができません。音声案内やビープ音が終わるのを待ってから、音声コマンドを発話してください。
- Bluetooth®で接続されている電話があるときに、電話関連のコマンドが利用可能になります。音声認識で電話を操作する前に電話を Bluetooth®に接続してください。
- 必要以上に大声でしゃべったり、ゆっくりしゃべったりしないでください。
- 機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
- 機器側の電話帳の人物を音声認識で呼びだす場合、登録されている名前が長いほど認識率は向上します（「はは」、「いえ」、「つま」などのように短い場合、認識に失敗するときがあります）。
- 単語や数字の間で区切らないように発音してください。
- 指定された音声コマンド以外は、認識することができません。指定された音声コマンドを発話してください。
- マイクの方に向いたり近づいたりする必要はありません。安全運転中の姿勢のまま音声コマンドを発話してください。
- Bluetooth®ハンズフリーを使用するときは、車両の外の雑音やエアコンの気流を乱すのを防ぐために窓を閉めてください。
- エアコンの風がマイクに当たっていないことを確認してください。

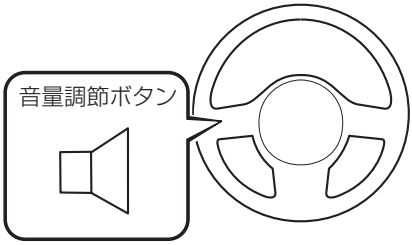
マツダコネクトの設定

コマンダースイッチ



※コマンダースイッチの形状は車種により異なります。

オーディオリモートコントロールスイッチ



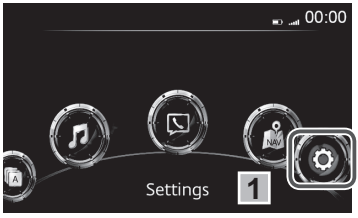
音量の調節

コマンダースイッチの音量ノブをまわして調節します。または、オーディオリモートコントロールスイッチの音量調節ボタンを押して調節します。

知識

- 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。
- ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。
- オーディオを OFF にしたい場合は、音量をゼロにしてください。

画面の調節



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。

2. 画面 タブを選択し、各項目を変更します。

画面消灯 / 時計表示

画面を消灯することができます。 ディスプレイOFF を選択すると、画面が消灯します。

ディスプレイOFF＋時計表示 を選択すると、画面が消灯して時計が表示されます。

画面を元の表示にもどすには、次の操作をします。

- 画面にタッチする。
- コマンダースイッチを操作する。

昼画面 / 夜画面（モード）の切り替え

昼画面 / 夜画面の選択をすることができます。

自動 : ライトの点灯 / 消灯により昼画面と夜画面の表示が切り替わります。*1

昼 : 常に昼画面表示になります。

夜 : 常に夜画面表示になります。

*1 減光を解除しているときは常に昼画面になります。
→ 138ページ「パネルライトコントロールスイッチ」

明るさを調節する

明るさ : スライダーで画面の明るさを調節します。

コントラストを調節する

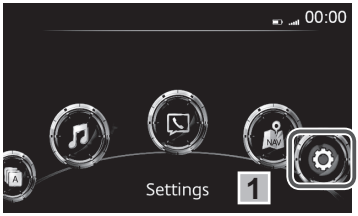
コントラスト : スライダーで画面のコントラストを調節します。

画面設定をリセットする

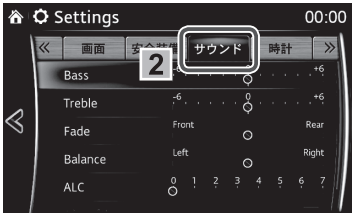
すべての画面設定値をリセットし、初期値にもどすことができます。

1. リセット を選択します。
2. はい を選択します。

音質の調節



1. ホーム画面の を選択して、設定画面を表示します。



2. サウンドタブを選択し、各項目を変更します。

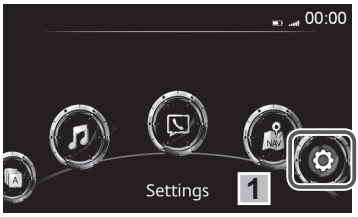
項目	設定内容
Bass (低音調節)	＋側 : 低音強 －側 : 低音弱
Treble (高音調節)	＋側 : 高音強 －側 : 高音弱
Fade (前後音量調節)	前側 : フロントスピーカーの音量強調 後側 : リヤスピーカーの音量強調
Balance (左右音量調節)	右側 : 右側スピーカーの音量強調 左側 : 左側スピーカーの音量強調
ALC (自動音量調節)	Off ～ 7 段階で感度調節
ビープ音 (操作音設定)	ON/OFF

ALC (自動音量調節)
オートマチックレベルコントロール (ALC) は、車速に応じて自動的にオーディオの音量 / 音質が変化する機能です。車速が早いほど変化量は大きくなり、車速が遅いほど変化量は小さくなります。

各システムの設定

知識

グレードや仕様によって、画面表示が異なる場合があります。



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

タブ	アイテム	説明
AD-Disp	高さ 明るさ調節 その他	→ 139ページ「アクティブ・ドライビング・ディスプレイ グレード/仕様別装備 」
画面	画面消灯 / 時計表示 その他	画面の調節をします。
安全装備	ＢＳＭ音量 その他	→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
サウンド	Bass その他	音質の調節をします。
時計	時刻設定	現在の設定時刻が表示されます。 ＋を選択すると時間 / 分が進み、－を選択すると時間 / 分がもどります。 12h 表示のときのみ、AM/PM の選択ができます。
	GPS 同期	ON にすると GPS と同期します。 OFF にすると「時刻設定」などから時刻の変更ができます。
	時刻表示	12h/24h 表示を変更します。
	タイムゾーン	GPS 同期 OFF の時に、指定したい地域を選択します。

タブ	アイテム		説明
車両装備	オートワイパー その他		→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
通信	Bluetooth®		→ 431ページ「Bluetooth ®の登録」
システム	ボタンの説明表示		ボタンの説明を表示 / 非表示します。
	ミュージックデータベース更新		Gracenote®を更新します。USB オーディオとともに使用されます。 ● 音楽情報の補足 (曲名、アーティスト名など) ● 音楽認識によるアーティスト再生、アルバム再生の補助 → 402ページ「USB オーディオ機器の音楽を聞く」
	工場出荷時の状態にリセット		音質設定以外の設定が初期化されます。 **Yes** を選択すると初期化が実行されます。
	システム情報	免責事項	免責事項を確認できます。
		バージョン情報	オーディオユニットの OS バージョンと Gracenote データベースバージョンを確認することができます。
	言語		指定したい言語を選択します。

オーディオソースの使いかた

ラジオを聞く

交通情報の受信

1. ホーム画面から を選択します。
最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. 交通情報を選択すると再生画面とメニューバーが表示されます。

ボタン	説明	音声コマンド
1620/1629	選択するごとに、AM1620kHz と AM1629kHz を切り替えることができます。	—
設定	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	—

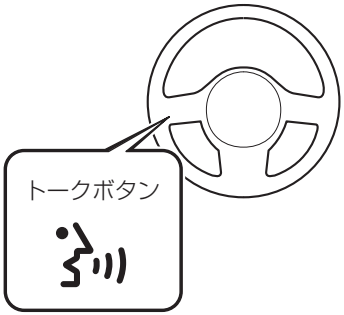
FM/AM ラジオの受信

1. ホーム画面から を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. AMかFMを選択すると、再生画面とメニューバーが表示されます。

（ FM を選択した場合）

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   （音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。）
2. 「AM」または「FM」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

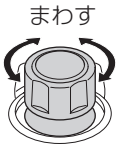
音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のオーディオソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	放送局リストを表示します。放送局リストには エリア登録Ch、受信Chの 2 つがあります。 エリア登録Chには本機が記憶している放送局を、自車の位置を参考に表示します。 受信Chには本機が実際に受信できた放送局を表示します。表示された放送局リストから聞きたい局を選択します。	放送局
	お気に入りリストを表示します。長押しすると、そのとき受信している周波数をお気に入りに登録できます。	お気に入り
	受信可能な放送局を探すことができます。 周波数の低い方から高い方へ 5 秒間ずつ受信していきます。聞きたい局がみつかったら、もう一度選択することでその周波数が固定されます。	スキャン
	周波数選択画面を表示します。*1	チューニング
 	自動選局します。 長押しすると周波数は変化し続けます。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	シークダウン / シークアップ

アイコン	説明	音声コマンド
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 周波数選択方法

- コマンダーノブをまわす。
- ◀または▶をタッチする。
  周波数が 1 ステップずつ切り替わります。
- ◀または▶を長押しする。
  周波数は変化し続けます。アイコンから手を離すと止まります。



放送局リスト

自車の位置を基点に放送局を表示します。また放送局リストの表示を更新できます。

ラジオ再生画面で放送局リストボタンを選択します。

(エリア登録 Ch. を表示させる場合)

1. エリア登録 Ch. タブを選択します。
   あらかじめ本機がエリアごとに記憶している放送局が自車位置を参考に昇順で表示されます。
2. リスト更新を選択します。
   リスト更新を選択することによって最新の自車位置で放送局リストを更新することができます。

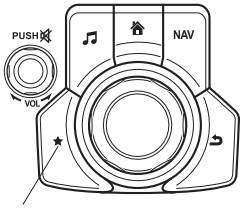
(受信 Ch. を表示させる場合)

1. 受信 Ch. タブを選択します。
   本機のチューナーが実際に受信した放送局が昇順で表示されます。
2. リスト更新を選択します。
   リスト更新を選択することによって再度受信可能な放送局を探し、リストを更新することができます。

知識

- エリア登録 Ch. は、本機が記憶している放送局の中から、自車位置に応じて受信可能と思われる放送局がリスト表示されます。受信状況によってはリストにある放送局を受信することができない場合があります。
- 受信 Ch. では放送局名が表示されない周波数が表示されることがあります。次のような場合は、放送局名が表示されません。
  - 地域のコミュニティ放送局
  - 新たに中継局を増設した放送局
- 本機に記憶された放送局名は、放送局名称の変更などによって最新とは異なる場合があります。

お気に入りに登録する



お気に入りボタン

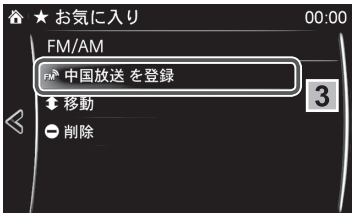
※コマンダースイッチの形状は車種により、異なります。

選局した放送局を登録しておくと便利です。最大 50 件の放送局を登録することができます。お気に入りリストは FM、AM で共通です。

★を長押しすると、現在流れている放送局を登録します。また、次の手順で登録することもできます。

1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 追加/編集を選択します。



3. （視聴している周波数）を登録を選択します。
4. お気に入りリストの一番下に追加されます。

お気に入りから放送局を選択する

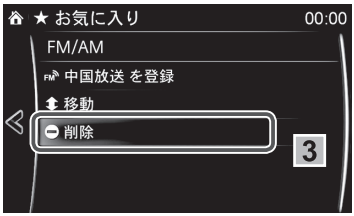
1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 登録した周波数を選択すると、その放送局を受信します。

お気に入りから削除する

1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 追加/編集を選択します。



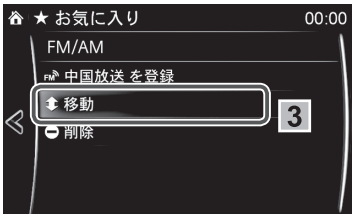
3. 削除を選択します。

4. 削除したい放送局、または周波数を選択します。
5. 削除を選択します。

お気に入りリストの表示順を変更する

1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 追加/編集を選択します。



3. 移動を選択します。

4. 放送局、または周波数を選択すると、その放送局を移動できるようになります。
5. スライド、またはコマンダースイッチで放送局を移動し、**OK**を選択します。

テレビを見る グレード/仕様別装備

1. ホーム画面から を選択します。最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. TVを選択すると、テレビ画面が表示されます。

4. コマンダーノブを押すか、画面をタッチすると、メニューバーが表示されます。

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	—
	チャンネルリストを表示します。	—
EPG	視聴しているチャンネルの番組情報を表示します。確認したい番組を選択すると、番組説明を表示します。	—
	系列局を探してチャンネルを切り替えます。	—

アイコン	説明	音声コマンド
 	選局します。 チャンネルリストに記憶させておいた放送局を呼び出します。 長押しすると自動選局します。	—
	テレビ設定画面を表示します。	—
	画質を設定します。 画面の下部に画質設定を表示します。	—
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	—

知識

- 安全のため、走行中は映像が表示されません。
- テレビを表示してしばらくすると、フルスクリーン表示に切り替わります。
- テレビでは音声認識を利用できません。

チャンネルリスト

放送局は、チャンネルリストから探します。

チャンネルリストに登録する

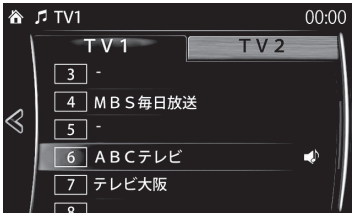
受信可能な放送局を、チャンネルリストに登録することができます。
チャンネルは[ＴＶ１]、[ＴＶ２]それぞれ 12 局まで登録できます。

(視聴している放送局を登録する)

1. ☰を選択すると、チャンネルリストを表示します。
2. ［ＴＶ１］または［ＴＶ２］タブを選択して、チャンネルリストを選びます。
3. リストのいずれかを長押しすると、放送局を登録します。

(受信可能なすべての放送局を登録する)

1. ☰を選択すると、チャンネルリストを表示します。
2. ［ＴＶ１］または［ＴＶ２］タブを選択して、チャンネルリストを選びます。
3. ［Auto Preset］を選択します。
4. ［はい］を選択すると、受信可能な放送局を探し、チャンネルリストに登録します。



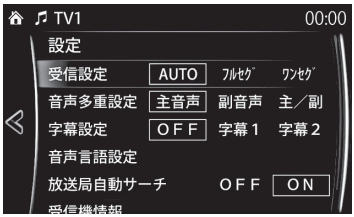
チャンネルリストから放送局を選択する

1. ☰を選択すると、チャンネルリストを表示します。
2. ［ＴＶ１］または［ＴＶ２］タブを選択して、チャンネルリストを選びます。
3. 呼び出す放送局を選択します。

テレビの各種機能を設定する

テレビの各種機能を設定することができます。

1. を選択すると、設定項目が表示されます。



2. 設定したいメニューを選択して設定します。

受信設定

フルセグ (地上デジタルテレビ放送) とワンセグの受信設定を変更します。

AUTO : 受信状態によってフルセグ受信とワンセグ受信を切り替えます。

フルセグ : 常にフルセグを受信します。

ワンセグ : 常にワンセグを受信します。

音声多重設定

主 / 副音声を選択することができます。

主音声 : 主音声に切り替えます。

副音声 : 副音声に切り替えます。

主／副 : 主音声副音声に切り替えます。

字幕設定

字幕表示を設定します。

OFF : 字幕を表示しません。

字幕 1 : 字幕 1 を表示します。

字幕 2 : 字幕 2 を表示します。

音声言語設定

音声言語を設定します。

1. 音声言語設定を選択すると、選択可能な音声言語設定が表示されます。
2. 聞きたい音声言語設定を選択します。

放送局自動サーチ
放送局自動サーチ機能の ON/OFF を設定します。

OFF : 視聴している放送の受信状態が悪くなっても、中継局を探しません。

ON : 視聴している放送の受信状態が悪くなると、受信状態の良い中継局を探して自動で切り替えます。

受信機情報
受信機情報を表示します。

受信機情報を選択すると、ソフト情報を表示します。

設定初期化
すべてのテレビ設定値をリセットし、初期値にもどすことができます。

1. 設定初期化を選択します。
2. はいを選択します。

画質を設定する
画面の明るさ、コントラスト、色合い、色の濃さを設定できます。

1. を選択します。

2. 次のタブを選択し、調節します。

タブ	説明
明るさ	スライダーで画面の明るさを調節します。
コントラスト	スライダーで画面のコントラストを調節します。
色合い	スライダーで画面の色合いを調節します。

タブ	説明
色の濃さ	スライダーで画面の色の濃さを調節します。
リセット	画面設定を初期値にもどします。 リセットを選択します。

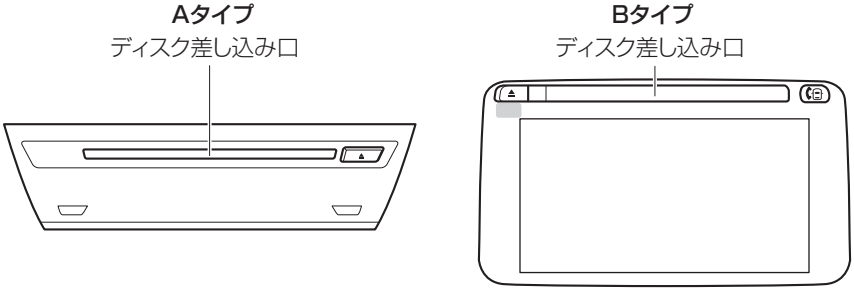
緊急放送の視聴

本機は、緊急放送を受信することができます。

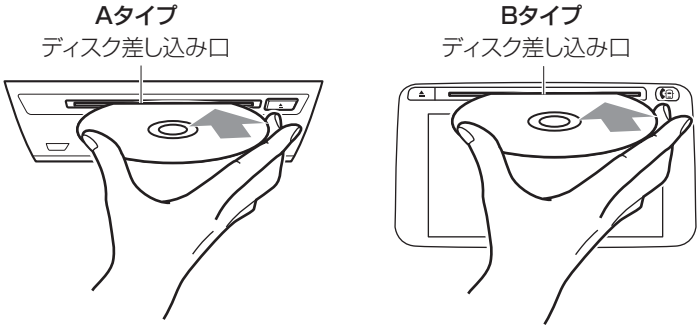
1. 緊急放送を受信すると、確認画面が表示されます。
2. はいを選択すると、緊急放送に切り替わります。
   緊急放送が終了すると、もとの状態にもどります。

CD を再生する グレード/仕様別装備

CD を本機にセットする



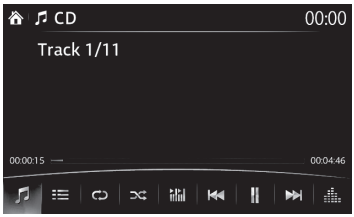
1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. CD のラベル面を上にして、CD 差し込み口に軽く押し込みます。CD が自動的に送り込まれ、再生を始めます。



CD 再生画面へ移動する

1. ホーム画面から を選択します。最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

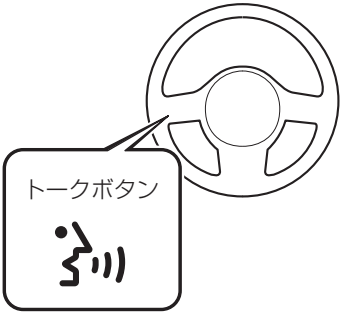
3. CD を選択すると、再生画面とメニューバーが表示されます。



知識

- 本機は CD-TEXT 対応です。CD-TEXT 対応ディスクの再生時は曲名やアーティスト 名などの楽曲情報が表示されます。
- MP3/WMA/AAC CD では音楽ファイル作成時に楽曲情報が埋め込まれていれば楽曲情報が表示されます。
- CD の再生では Gracenote 音楽認識サービスは利用できません。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴っ た後に発話します。)
2. 「CD」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド *1
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	(音楽 CD) *2 CD 内のトラックリストを表示します。 聞きたいトラックを選択します。	トラックリスト
	(MP3/WMA/AAC CD) 一番上の階層のフォルダ / ファイルリストを表示します。 フォルダを選択します。フォルダ内のファイルが表示されます。聞きたいファイルを選択します。	—
	(MP3/WMA/AAC CD のみ) 現在再生しているフォルダのファイルリストを表示します。聞きたいファイルを選択します。	トラックリスト

アイコン	説明	音声コマンド [*1]
	(音楽 CD) 再生中の曲をくり返して再生します。	リピート [*3]
	リピート再生を解除します。	
	(MP3/WMA/AAC CD) 再生中の曲をくり返して再生します。	リピート [*4]
	フォルダ内の曲をくり返して再生します。	
	リピート再生を解除します。	
	(音楽 CD) CD 内の曲をランダムな順序で再生します。	シャッフル [*5]
	シャッフル再生を解除します。	
	(MP3/WMA/AAC CD) フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。	シャッフル [*6]
	CD 内の曲をランダムな順序で再生します。	
	シャッフル再生を解除します。	
	(音楽 CD) CD 内の各曲の初めを再生し、聞きたい曲を探すことができます。もう一度選択すると解除され、その曲の再生がそのまま続きます。	スキャン
	(MP3/WMA/AAC CD) フォルダ内の各曲の初めを再生し、聞きたい曲を探すことができます。もう一度選択すると解除され、その曲の再生がそのまま続きます。	スキャン

アイコン	説明	音声コマンド *1
	曲の再生が始まって数秒以内であれば、前の曲の頭にもどります。 曲の再生が始まって数秒以上経過していれば、再生中の曲の頭にもどります。 長押しすると早もどしをします。アイコンまたはコマンダーノブから手を離すと止まります。	前へ *7
	（一時停止中に選択すると）曲を再生します。	再生
	（再生中に選択すると）一時停止します。	一時停止
	次の曲の頭に進みます。 長押しすると早送りをします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	次へ *8
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

*2 音楽 CD のみ音声認識機能が使えます。

*3「リピート」と発話すると［リピート］［解除］の順に切り替わります。

*4「リピート」と発話すると［1 曲リピート］［フォルダ内リピート］［解除］の順に切り替わります。

*5「シャッフル」と発話すると［シャッフル再生］［シャッフル解除］が切り替わります。

*6「シャッフル」と発話すると［フォルダ内シャッフル］［CD 内シャッフル］［解除］の順に切り替わります。

*7 音声認識では「早もどし」に対応していません。

*8 音声認識では「早送り」に対応していません。

知識

- 12cmCD サイズ専用です。8cmCD（シングル）サイズは、アダプタを使用しても再生することはできません。8cmCD アダプタを使用すると故障の原因になります。
- **(MP3/WMA/AAC CD)**
  再生は表示の上から順に再生されます。
  フォルダが存在する場合は、そのフォルダの中にある曲を再生してから次を再生します。
  フォルダに再生可能な曲がない場合は、次を再生します。

使用例 (MP3/WMA/AAC CD の一番上の階層から曲を探すとき)

1. を選択して、一番上の階層のフォルダ / ファイルリストを表示します。

2. フォルダを選ぶと、そのフォルダの中のフォルダ / ファイルリストが表示されます。

3. 聞きたいファイルを選択します。

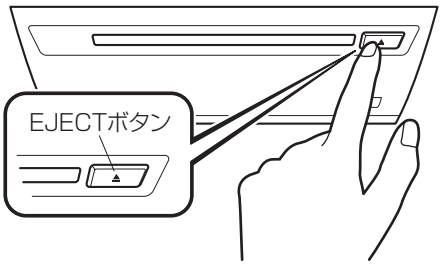
知識

- を選択すると、一つ上のフォルダに移動します。
- スキャン再生中にオーディオ操作をおこなうと、スキャン再生中の曲が通常再生されます。その後、オーディオは通常操作をおこなうことができます。
- CD を取り出すと、CD の前に再生していたオーディオソースに移動します。

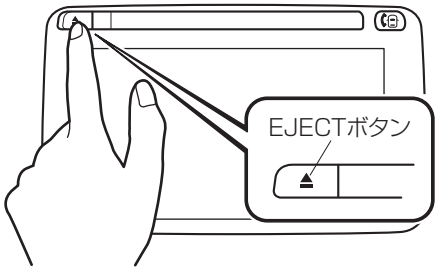
CD を取り出すとき

1. ⏏ボタンを押します。

Aタイプ

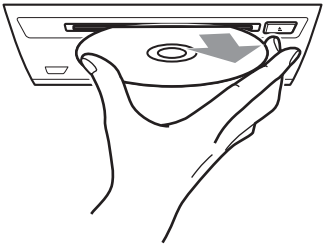


Bタイプ

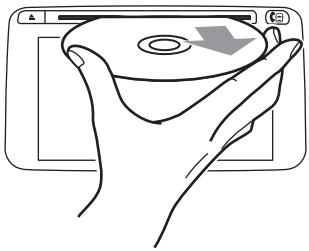


2. CD の端を持って取り出します。

Aタイプ



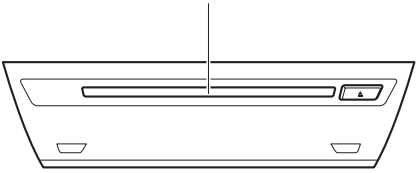
Bタイプ



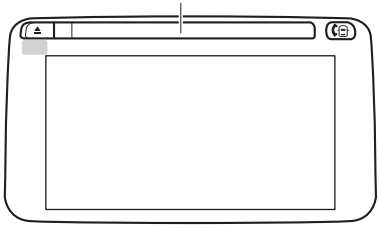
DVD を再生する グレード/仕様別装備

DVD を本機にセットする

Aタイプ
ディスク差し込み口

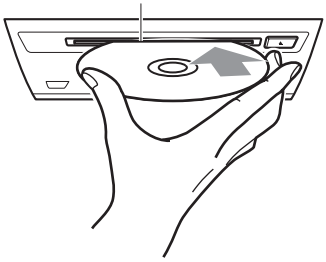


Bタイプ
ディスク差し込み口

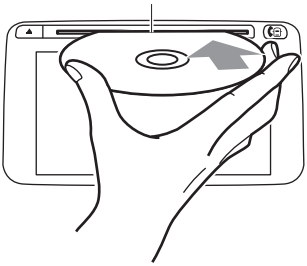


1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
2. DVD のラベル面を上にして、DVD 差し込み口に軽く押し込みます。DVD が自動的に送り込まれ、DVD のトップメニュー画面とコントローラーが表示されます。

Aタイプ
ディスク差し込み口

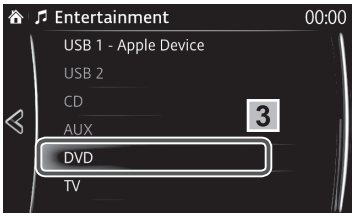


Bタイプ
ディスク差し込み口



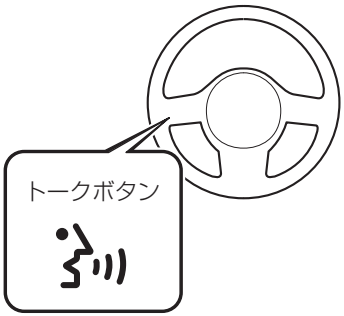
DVD 再生画面へ移動する

1. ホーム画面から を選択します。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。



3. DVDを選択すると、再生画面とメニューバーが表示されます。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「DVD」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	DVD のメニュー画面にもどります。	メニュー
	チャプターの再生が始まって数秒以内であれば、前のチャプターの頭にもどります。チャプターの再生が始まって数秒以上経過していれば、再生中のチャプターの頭にもどります。 再生中に長押しすると早もどしをします。一時停止中に長押しすると逆スロー再生をします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	前へ
	（一時停止中に選択すると）曲を再生します。	再生
	（再生中に選択すると）一時停止します。	一時停止
	次のチャプターの先頭に進みます。 再生中に長押しすると早送りをします。 一時停止中に長押しするとスロー再生をします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	次へ
	選ぶごとに、カメラアングルを変更します（使用可能な DVD の場合）。	カメラの角度
	字幕の表示 / 非表示を切り替えます（使用可能な DVD の場合）。	字幕
	視聴制限を切り替えます。 視聴制限レベルや、PIN コードの設定を変更することができます。	ペアレンタルロック

アイコン	説明	音声コマンド
	再生を一時停止して、DVD 設定画面を表示します。 サウンド設定を選択すると、音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」 アスペクト比を選択すると、アスペクト比（画面の横縦比）を選択できます。16:9 ワイドスクリーン、4:3 レターボックス、4:3 パンスキャンから選択できます。	DVD 設定
	画質を設定します。 画面の下部に画質設定を表示します。	画質設定

知識

- 12cmDVD サイズ専用です。8cmDVD サイズは、アダプタを使用しても再生することはできません。8cmDVD アダプタを使用すると故障の原因になります。
- 安全のため、走行中は映像が表示されず音声のみになります。
- コントローラーの をスライドすると、コントローラーが移動します。
- DVD の再生を止めた後に DVD モードに切り替えると、DVD のメニュー画面を表示せずに再生を再開します。
- DVD 再生中に他のオーディオに切り替える場合、DVD は一時停止状態になります。
- DVD 再生中のスライダーが、コマンダーノブで操作できます。コマンダーノブを上方向に倒してスライダーを選択します。
- DVD-VR 方式で記録したディスクの再生時は、メニュー表示されないことがあります。

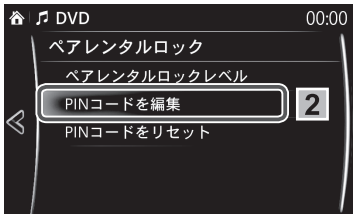
ペアレンタルロック（視聴制限設定）

DVD には視聴制限レベルが設定されたものがあります。
DVD の視聴制限レベルがオーディオ側で設定した設定レベル以上の場合は、再生できません。視聴制限レベル変更、PIN コード編集、PIN コードリセットを設定することができます。

PIN コードを設定する

視聴制限機能を使用するには、まず PIN コードを設定する必要があります。

1. を選択します。



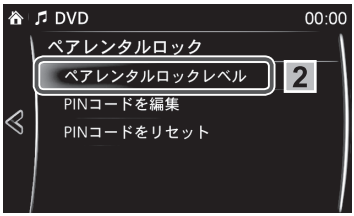
2. PINコードを編集を選択します。

3. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
4. OK を選択します。

視聴制限レベルを変更する

視聴制限機能を使用するには、まず PIN コードを設定する必要があります。

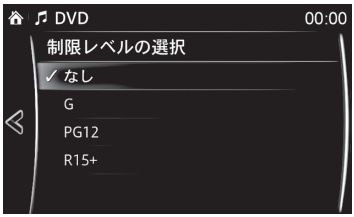
1. を選択します。



2. ペアレンタルロックレベルを選択します。

3. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
4. OKを選択します。
5. 視聴制限レベルを選択します。

知識



制限レベルは、なし、G、PG12、R15+ から選択できます。

PIN コードを編集する

視聴制限機能を使用するには、まず PIN コードを設定する必要があります。

1. を選択します。

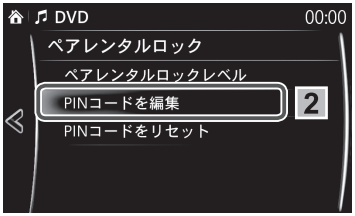
2. PINコードを編集を選択します。

3. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
4. OKを選択します。
5. テンキーを使用して新しい PIN コードを入力します。
6. OKを選択します。

PIN コードをリセットする

登録した PIN コードを忘れたときは、工場初期設定時の PIN コード［0000］を入力することでリセットできます。

1. を選択します。



2. PINコードを編集を選択します。

3. テンキーを使用して工場初期設定時の PIN コード［0000］を入力します。
4. OK を選択します。
5. テンキーを使用して新しい PIN コードを入力します。
6. OK を選択します。

ロックされた DVD を再生する

再生しようとしている DVD が設定した視聴制限によってロックされた場合は、PIN コードを入力して解除します。

1. ロックされた DVD を再生すると、PIN コード入力画面が表示されます。
2. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
3. OK を選択すると、再生を開始します。

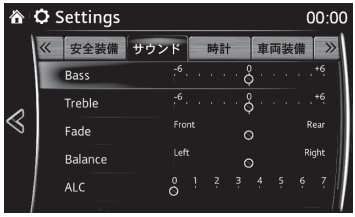
DVD の各種機能を設定する

音質とアスペクト比を設定することができます。

音質を設定する

1. ⚙を選択します。

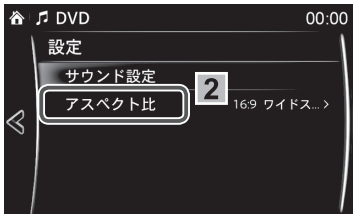
2. サウンド設定を選択すると、音質設定画面を表示します。
→ 366ページ「マツダコネクトの設定」



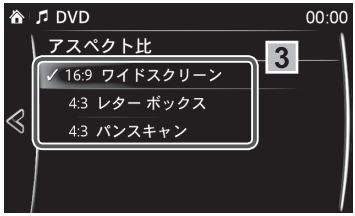
音量 / 画面 / 音質の調節

アスペクト比を設定する

1. ⚙を選択します。



2. アスペクト比を選択します。



3. アスペクト比を選択します。

画質を設定する

画面の明るさ、コントラスト、色合い、色の濃さを設定することができます。

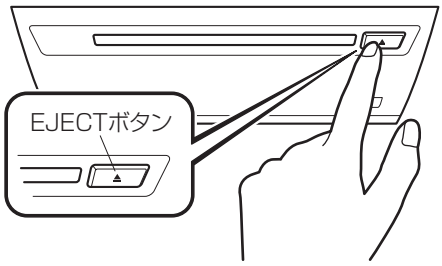
を選択すると、画面の下部に次のタブが表示されます。

タブ	説明
明るさ	スライダーで画面の明るさを調節します。
コントラスト	スライダーで画面のコントラストを調節します。
色合い	スライダーで画面の色合いを調節します。
色の濃さ	スライダーで画面の色の濃さを調節します。
リセット	画面設定を初期値にもどします。リセットを選択します。

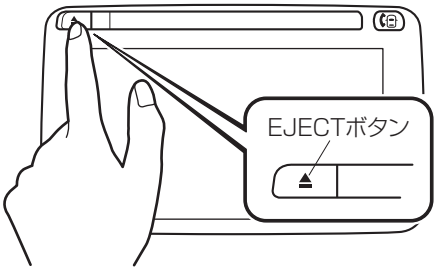
DVD を取り出すとき

1. ⏏ボタンを押します。

Aタイプ

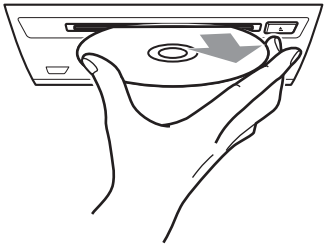


Bタイプ

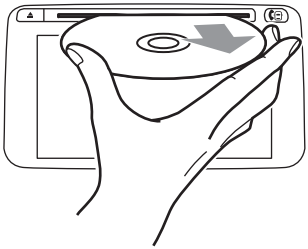


2. DVD の端を持って取り出します。

Aタイプ



Bタイプ



知識

DVD を取り出すと、DVD の前に再生していたオーディオソースに移動します。

USB オーディオ機器の音楽を聞く

市販の USB メモリー、音楽プレイヤー、スマートフォンを本機の USB 端子に接続することで、オーディオ再生することができます。

⚠警告

必ず守る

USB 端子に接続したコードが、セレクトレバーに絡まないようにする。

運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

- **プラグを接続した状態で、USB 端子の上やコンソールボックスのフタの上に物を載せたり、大きな力を加えたりしないでください。**
- **接続する機器によっては、車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時にノイズが発生することがあります（ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください）。**
- **デバイスに対して、同時に接続しないでください。**
- **USB オーディオとして接続しているデバイスを、同時に Bluetooth オーディオとして本機に接続しないでください。正常に操作できなくなったり、予期しない動作を引き起こすことがあります。**
- **USB ポートに SD カードリーダーや USB ハブを接続しないでください。カードに書き込まれた音楽の再生には対応していません。ナビゲーションシステムが使用できなくなることがあります。またマウスやキーボードも接続しないでください。**
- **USB オーディオ機器を車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温となり、故障の原因になります。**
- **SD カードスロットは、ナビゲーションシステム用です。ナビゲーション用 SD カード PLUS（マツダ純正品）を差し込んで使用します。音楽ファイルが保存された SD カードを挿入しても再生できません。**

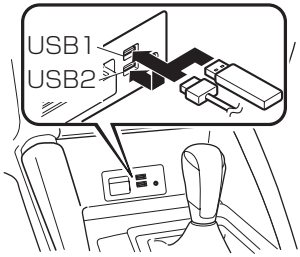
知識

- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。マツダコネクトで接続確認済み機材は次のサイトで情報公開しています。
  マツダコネクトサポートページ

  http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP
  本ページよりエンターテイメントの動作確認済機種を参照ください。
- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- プラグは USB 端子に確実に差し込んでください。
- 本機では USB2.0/1.1 規格に対応したデバイスが利用できます。USB3.0 規格品であっても USB2.0 と互換のある機材であれば、USB2.0 デバイスとして利用可能です。

機器を接続する

USB ケーブルで、車両と USB オーディオ機器を接続します。プラグの抜き差しは USB 端子の穴に対して垂直におこなってください。



※USB の位置は車種により異なります。

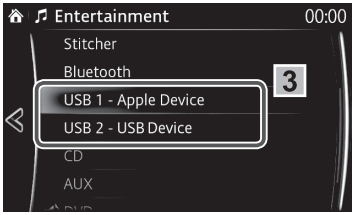
USB 端子の位置は車種により異なります。

知識

- USB メモリを使用する場合、容量や保存されたファイル数によっては再生できるまで時間がかかることがあります。
- USB メモリの容量は 16GB 以下、保存ファイル数は 1,000 以内が推奨となります。
- USB メモリのファイル名が長すぎると、動作が不安定になることがあります。
  (推奨：80 文字以内)

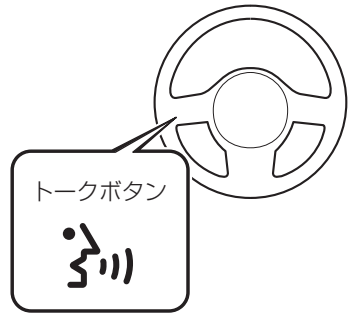
音楽を再生する

1. ホーム画面から を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
2. アイコン左端の♫ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。



3. **USB 1** または **USB 2** を選択します。
   (USB を接続していない場合は、
   [USB1]、[USB2] は選択できません)

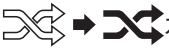
音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「USB1」または「USB2」と発話します。
   (USB を接続していない場合は、[USB1]、[USB2] は選択できません)

USB オーディオ機器再生画面

アイコン	説明	音声コマンド *1
	エンターテイメントメニューを表示します。 他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	カテゴリーリストを表示します。 アルバムやアーティストなどの再生方法が指定できます。	—
	カテゴリーで選択した再生方法のトラックリストを表示します。	現在のフォルダ
	➡ 再生中の曲をくり返して再生します。	リピート *3
	➡ カテゴリーで選択した再生方法のトラックリスト全体をくり返して再生します。	全曲リピート *4
	➡ リピート再生を解除します。	リピート *3

アイコン	説明	音声コマンド *1
	 カテゴリーで選択した再生方法のトラックリストをランダムな順序で再生します。	シャッフル *5
	シャッフル再生を解除します。	
	Gracenote の More Like This™ によって、再生中の曲と似た曲を自動で探し出し、再生を開始します。*2 More Like This™ をキャンセルするには、カテゴリーリストの中から任意の曲を選択します。	More Like This (モア ライク ディス)
	曲の再生が始まって数秒以内であれば、前の曲の頭にもどります。曲の再生が始まって数秒以上経過していれば、再生中の曲の頭にもどります。長押しすると早もどしをします。	前へ *6
	(一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	(再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止
	次の曲の頭に進みます。 長押しすると早送りをします。	次へ *7
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

*2 USB 接続してから「More Like This」が使用できるようになるまで一定の時間が必要になります。使用可能になるまでの時間は接続した USB に格納された音楽データの容量により異なります。

*3「リピート」と発話すると［リピート］［全曲リピート］［解除］の順に切り替わります。

*4「全曲リピート」と発話するとダイレクトに［全曲リピート］を選択できます。

*5「シャッフル」と発話すると［シャッフル再生］［シャッフル解除］が切り替わります。

*6 音声認識では「早もどし」に対応していません。

*7 音声認識では「早送り」に対応していません。

知識

再生時間を表示しているスライダーを移動することで、好きな時間から再生できます。

聞きたい曲を選ぶ

カテゴリーリストから曲の再生方法を選択します。

カテゴリー	説明	音声コマンド
プレイリスト	機器に登録されたプレイリスト一覧が表示され、選択したプレイリストをトラックリストとして再生します。	プレイリスト
アーティスト	機器に収録されたアーティスト一覧が表示され、選択したアーティストのアルバムまたは全曲をトラックリストとして再生します。	アーティスト *1
アルバム	機器に収録されたアルバム一覧が表示され、選択したアルバムをトラックリストとして再生します。	アルバム *1
曲	機器に収録された全ての曲が表示され、全ての曲をトラックリストとして再生します。また、アルファベット～ 50 音検索で聞きたい曲が探せます。	曲 *1
ジャンル	機器に収録された曲のジャンル一覧が表示され、選択したジャンルの中でアーティスト別やアルバム別、またはすべての曲をトラックリストとして再生します。	ジャンル *1
オーディオブック	機器に収録されたオーディオブックのリストが表示され、選択したチャプターを再生します。	オーディオブック *1*2
ポッドキャスト	機器に収録された Podcast のリストが表示され、選択したエピソードを再生します。	ポッドキャスト *1*2
フォルダ	機器に作成されたフォルダが表示され、選択したフォルダをトラックリストとして再生します。	フォルダ *1*3

楽曲情報がない音楽ファイルは「曲」「フォルダ」でしか表示されません。

*1 音声認識機能が使えます。音声コマンドはカテゴリー名です。

*2 iPhone、iPod を接続時に操作することができます。

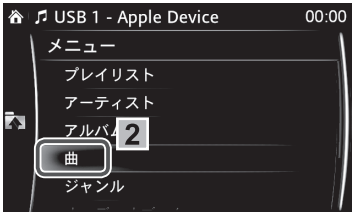
*3 iPhone 以外のスマートフォン、USB メモリを接続時に操作することができます。
(音楽データ以外が格納されていてもリスト表示されますが、再生可能な音楽ファイル以外は選択できません。)

知識

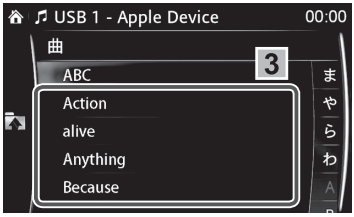
1 つのプレイリストに格納できる曲は最大 65534 曲です。

使用例 (USB 機器内にあるすべての曲を再生するとき)

1. を選択して、カテゴリーリストを表示します。



2. 曲 を選択します。USB 機器内にあるすべての曲が表示されます。



3. 聞きたい曲名を選択します。聞きたい曲が再生されます。

   継続して再生をすることで、USB 機器内にあるすべての曲を再生することができます。

使用例（アーティストを選んで曲を再生するとき）

1. を選択して、カテゴリーリストを表示します。

2. アーティストを選択します。アーティストの一覧が表示されます。

3. アーティストを選択します。選択したアーティストのアルバム一覧が表示されます。

4. 聞きたいアルバムを選択すると、そのアルバムの収録曲が表示されます。アーティストのすべての曲を聞きたいときは、すべての曲を選択します。
5. 聞きたい曲名を選択します。聞きたい曲が再生されます。

USB オーディオ再生時に表示される楽曲情報

USB オーディオ機器でオーディオを再生した場合、車両に収録されているデータベースの中からアルバム名やアーティスト名、ジャンル、タイトルを検索し、各情報がデータベースに収録されていると、各情報を自動で付与します。本機に収録されているデータベース情報は、Gracenote 音楽認識サービスのデータベース情報を使用しています。

知識

- 自動で付与された情報は、実際と異なる場合があります。
- Gracenote データベースに登録がない楽曲でも音楽ファイルに楽曲情報があれば楽曲情報が表示されます。
- 音楽データの取り込み方によっては、楽曲情報が表示されないことがあります。

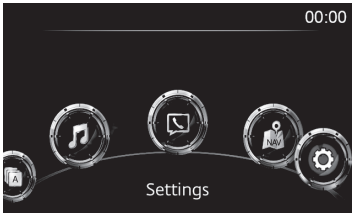
データベースを更新する

知識

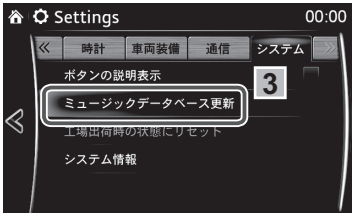
最新の Gracenote データベースは、次の Web サイトからダウンロードすることができます。

http://infotainment.mazdahandsfree.com/howtomanageupdates?language=jp-JP

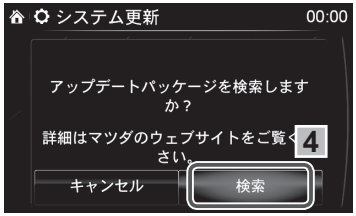
USB オーディオ機器を使用して Gracenote データベースを更新することができます。



1. Gracenote 更新用ソフトウェアを保存した USB オーディオ機器を接続します。
2. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



3. システム タブを選択し、
ミュージックデータベース更新 を選択します。



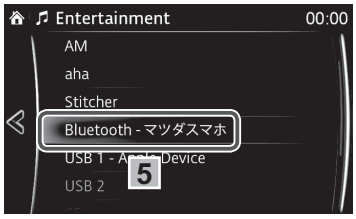
4. 検索を選択します。USB オーディオ機器に保存されているアップデートパッケージの一覧とそのバージョンが表示されます。
5. アップデートに使用するパッケージを選択します。
6. インストールを選択します。

Bluetooth® オーディオシステムの使いかた

Bluetooth®オーディオモードに切り替える

Bluetooth®オーディオ機器に保存されている音楽や音声を、センターディスプレイで操作するために Bluetooth®オーディオモードに切り替えてください。使用する前に Bluetooth®オーディオ機器を車載の Bluetooth ®ユニットに登録する必要があります。
→ 431ページ「Bluetooth ®の登録」

1. Bluetooth®オーディオ機器の電源を ON にします。
2. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
3. ホーム画面から♫を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
4. アイコン左端の♫ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。



5. Bluetoothを選択します。

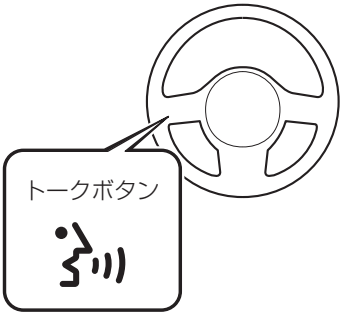
知識

- Aha™ や Stitcher™ ラジオを使用後に Bluetoot®オーディオを使用する場合は、先に携帯機器側のアプリケーションを終了させる必要があります。
- Bluetooth®オーディオ機器の再生が始まらない場合は▶/❚❚を選択してください。
- モードが Bluetooth®オーディオモードから他のモード（ラジオモードなど）に切り替わると、Bluetooth®オーディオ機器からの再生は停止します。

再生

Bluetooth®オーディオモードに切り替えると、Bluetooth ®オーディオ機器の音声を車両のスピーカーから聞くことができます。
Bluetooth®オーディオモードに切り替わると、画面の下部に次のアイコンが表示されます。お使いの Bluetooth®オーディオ機器のバージョンによって、表示されるアイコンは異なります。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「Bluetooth (ブルートゥース)」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	(AVRCP Ver. 1.4 のみ) 一番上の階層のフォルダ / ファイルを表示します。フォルダを選択します。フォルダ内のファイルが表示されます。 聞きたいファイルを選択します。	メニュー

アイコン	説明	音声コマンド
	(AVRCP Ver. 1.3 以上) 再生中の曲を繰り返し再生します。 もう一度選択すると、フォルダ内の曲を繰り返し再生します。 もう一度選択すると解除されます。 ソングリピート時、フォルダリピート時にはアイコンが変化します。	リピート
	(AVRCP Ver. 1.3 以上) フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。 もう一度選択すると、機器内の曲をランダムな順序で再生します。 もう一度選択すると解除されます。 フォルダシャッフル時、デバイスシャッフル時にはアイコンが変化します。	シャッフル
	前の曲の頭にもどります。 長押しすると早もどしをします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	前へ
	(一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	(再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止
	次の曲の頭に進みます。 長押しすると早送りをします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	次へ
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

使用例（機器の一番上の階層から曲を探すとき）

1. を選択して、一番上の階層のフォルダ / ファイルリストを表示します。

2. フォルダを選ぶと、そのフォルダの中のフォルダ / ファイルリストが表示されます。プレイリストを選ぶと、その中のファイルリストが表示されます。
3. 聞きたいファイルを選択します。

知識

を選択すると、一つ上のフォルダに移動します。

Bluetooth®オーディオ機器情報表示

Bluetooth®オーディオ機器を接続すると、次の情報が画面に表示されます。

	AVRCP Ver. 1.3 未満	AVRCP Ver. 1.3	AVRCP Ver. 1.4 以上
機器名	○	○	○
バッテリー残量表示	○	○	○
曲名	—	○	○
アーティスト名	—	○	○
アルバム名	—	○	○
再生時間	—	○	○
アルバムアート	—	—	—

○: 表示
—: 非表示

知識

機器によっては、一部の情報が表示できない場合があります。

Aha™ の使いかた

Aha[*1]は、インターネットラジオや Podcast など、様々なインターネット・コンテンツを利用することができるアプリケーションです。
Facebook や Twitter の一部機能を使用することもできます。
周辺情報サービスを利用して周辺の目的地を探したり、リアルタイムの周辺情報を入手することができます。
Aha によって提供されるサービスの内容は、予告なく Aha によって変更される場合があります。

*1 Aha、Aha ロゴおよび Aha トレードドレスは Harman International Industries, Inc. の商標、または登録商標です。

知識

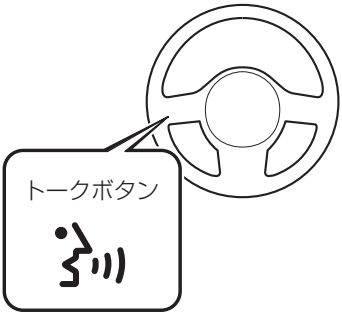
Aha を操作する前に、次の手続きを行ってください :

- 機器に Aha アプリケーションをインストールする。
- 機器で Aha アカウントを作成する。
- 機器で Aha にログインする。
- 機器でプリセットステーションを設定する。

再生

1. ホーム画面から を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
2. アイコン左端の ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。
3. aha を選択すると、画面の下部に次のアイコンが表示されます。選択するステーションによって、表示されるアイコンは異なります。
4. また、次のアイコン以外が表示される場合もあります。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタン を押します。
   （音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。）
2. 「Aha（アハ）」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	メインメニューを表示します。 他のステーションに切り替えたいときに使います。	メインリスト
	コンテンツリストを表示します。 ステーション内の、他のコンテンツに切り替えたいときに使います。	リスト

アイコン	説明	音声コマンド
	シャウト 音声を録音します。 音声を録音し、再生可能な音声として Facebook や他のソーシャルステーションに投稿します。	シャウト
	Like[*1] 現在のコンテンツを“Like (好き)”評価します。	Like
	Dislike[*1] 現在のコンテンツを“Dislike (嫌い)”評価します。	Dislike
	15 秒巻きもどします。	15 秒戻る
	地図 (ナビゲーションシステム装備車のみ) 周辺情報サービスを利用して検索した目的地を、ナビゲーションシステム上に表示します。	—
	電話発信 周辺情報サービスを利用して検索した店などに、電話をかけることができます。 接続している機器が、ハンズフリーとして接続されている場合に、使用できます。	—
	前のコンテンツにもどります。	前の
	➡ (一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	➡ (再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止
	次のコンテンツに進みます。	次の
	30 秒早送りをします。	30 秒進む
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 ステーションやプロバイダーによっては、違うタイプの「Like」、「Dislike」を使用しています。

メインメニュー

を選択します。

タブを切り替えてステーションのカテゴリを選択します。

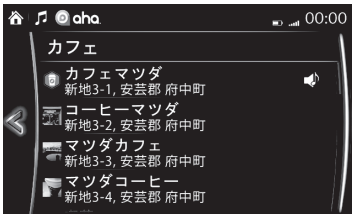
タイプ	再生できるデータ
プリセット	機器で設定したプリセットステーションリストを表示します。 プリセットステーション名を選択すると、そのステーションの内容が再生されます。
周辺情報	ステーションリストから好みのステーションを選択します。 検索された、自車位置周辺の目的地へ案内します。 事前に機器でフィルタ設定することで、好みのカテゴリを指定することができます。

知識

- 周辺情報サービスは、Aha が提供する内容に依存するため、利用可能なサービスが異なる場合があります。
- 視聴する番組によってメニュー表示は異なる場合があります。

使用例（周辺情報）

1. メインメニューの周辺情報タブから、好みのステーションを選択します。
   検索された目的地の順番で、目的地名や住所などの再生が始まります。
2. を選択すると、現在表示されている目的地をナビゲーションシステム上に表示します（ナビゲーションシステム装備車のみ）。
3. を選択すると、現在表示されている目的地の電話番号に電話をかけます。
4. 詳細 を選択すると、コンテンツリストを表示します。



一覧から他の目的地を選択できます。

シャウト

Facebook や Caraoke などのソーシャルステーションでは「シャウト」機能を利用した音声メッセージの投稿が可能です。

1. を選択すると、カウントダウン (3, 2, 1, 0) が始まります。カウントダウンが終了すると、録音が開始されます。
2. 音声を録音します。
3. 投稿 を選択すると、録音が保存・投稿されます。

知識

- 録音可能時間は、ステーションによって異なります（最大 30 秒間）。
- 録音可能時間が経過すると、自動的に録音は停止します。その後、投稿するか破棄するかを選択します。

Stitcher™ ラジオの使いかた

Stitcher™*1ラジオとは

Stitcher™ ラジオは、インターネットラジオや Podcast などのストリーミング放送を聴くことのできるアプリケーションです。
気に入ったコンテンツをお気に入りに登録したり、“Like”または“Dislike”することで、自動的にお勧めのコンテンツを選択してくれます。
*1 Stitcher™、Stitcher™ ロゴおよび Stitcher™ トレードドレスは Stitcher, Inc. の商標、または商標登録です。

知識

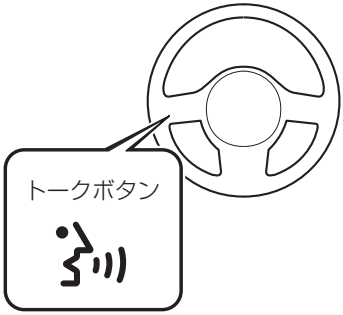
Bluetooth®の Stitcher™ ラジオを操作する前に、次の手続きを行ってください:

- 機器に Stitcher™ ラジオアプリケーションをインストールする。
- 機器で Stitcher™ ラジオアカウントを作成する。
- 機器で Stitcher™ ラジオにログインする。
- 機器でプリセットステーションを設定する。

再生

1. ホーム画面から を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
2. アイコン左端の ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。
3. **Stitcher** を選択すると、画面の下部に次のアイコンが表示されます。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタン を押します。
   (音声ガイドが流れ、最後に ピッ と鳴った後に発話します。)
2. 「Stitcher(スティッチャー)」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

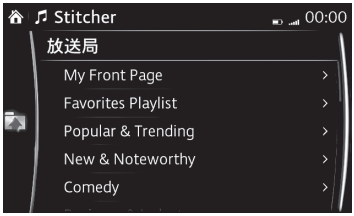
音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	放送局リストを表示します。 他の放送局に切り替えたいときに使います。	放送曲
	Dislike 再生中の番組を“Dislike（嫌い）”評価します。	Dislike
	Like 再生中の番組を“Like（好き）”評価します。	Like
	再生中の放送局を、お気に入りに追加、またはお気に入りから削除します。	お気に入りに追加
	30 秒巻きもどします。	30 秒戻る
	（一時停止中に選択すると）曲を再生します。	再生
	(再生中に選択すると)一時停止します。	一時停止
	次の放送局に進みます。	次の
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

知識

視聴する番組によってメニュー表示は異なる場合があります。

放送局リスト



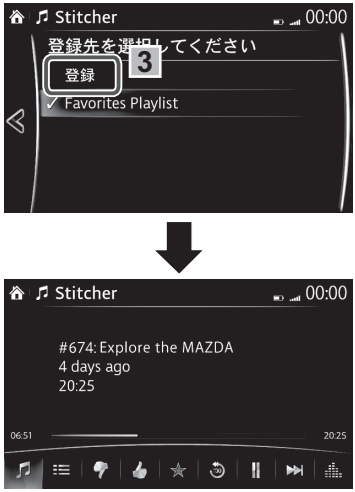
1. ☰を選択すると、ステーションリストが表示されます。
   ①お気に入り放送局名：選択すると、お気に入りに登録されている番組が表示されます
   ②カテゴリ名：Stitcher™があなたの好みから選択した、お勧めのカテゴリが表示されます。選択すると、そのカテゴリの番組が表示されます。
2. 放送局名を選択すると、再生します。

お気に入りに追加する

再生中の番組が、お気に入りに登録されていない場合、お気に入りに登録することができます。

1. ★を選択して、登録を追加できるお気に入り放送局を表示します。

2. Favorites Playlistを選択します。



3. 登録を選択し、お気に入りステーションに番組を追加します。

知識

- 複数のお気に入り放送局を選択して、登録することができます。
- 自分で登録したお気に入り放送局だけでなく、デフォルト設定のお気に入りステーションも表示されます。

お気に入りから削除する

再生中の番組が、既にお気に入りに登録されている場合、お気に入りから削除することができます。

1. ★を選択して、お気に入りから削除します。

AUX の使いかた

⚠警告

必ず守る

AUX 端子に接続したコードが、セレクトレバーに絡まないようにする。

運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止

プラグを接続した状態で、AUX 端子の上やコンソールボックスのフタの上に物を乗せたり、大きな力を加えたりしないでください。

禁止

接続する機器によっては、車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時にノイズが発生することがあります（ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください）。

知識

- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。
- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- ポータブルオーディオを AUX 端子に接続するための接続コードは、市販の抵抗なしのステレオミニプラグ (3.5 φ) を使用してください。ご使用前に接続コードの取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、ポータブルオーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。
- プラグは AUX 端子に確実に差し込んでください。

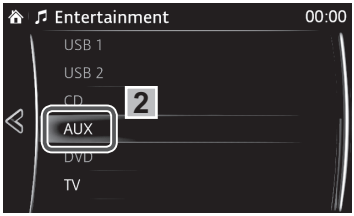
機器を接続する

AUX 端子の位置は車種により異なります。

知識

プラグの抜き差しは、AUX 端子の穴に対して垂直に行なってください。

音楽を再生する



1. ホーム画面の を選択して、エンターテイメント画面を表示します。
2. **AUX** を選択すると、画面の下部に表に示すアイコンが表示されます。

AUX 機器再生画面

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	—
	音質を調節します。 → 366ページ「マツダコネクトの設定」	—

知識

- 機器が AUX 端子に接続されていないときは、AUX モードには切り替わりません。
- 音量調節は、ポータブルオーディオ本体およびコマンダースイッチ、またはオーディオリモートコントロールスイッチで行います。
- 音量調節以外の操作は、ポータブルオーディオ本体で行います。センターディスプレイやコマンダースイッチでは操作できません。
- AUX モード中に AUX 端子からコードを抜いたり、接続している機器側のプラグを抜いたりするとノイズが発生することがあります。

Bluetooth® をご使用の前に

Bluetooth® ハンズフリーについて

車両の Bluetooth®ユニットに電波送信で Bluetooth ®対応機器（携帯電話）を接続すると、オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタン、ピックアップボタン、ハングアップボタン、またはセンターディスプレイでの操作により、電話に出たり電話をかけたりすることができます。例えば、機器（携帯電話）をコートのポケットに入れている場合でも、機器（携帯電話）を取り出して直接操作することなく、電話をかけることができます。
→ 440ページ「電話のかけかた」

知識

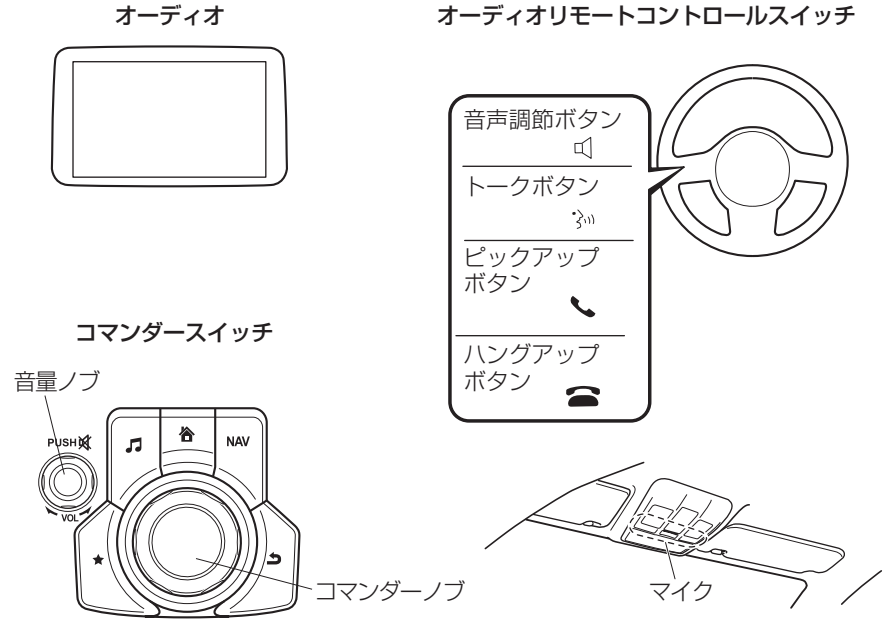
- Bluetooth®機器によっては使用できない場合があります。対応する Bluetooth®機器の情報はマツダ販売店に問い合わせください。
- 安全のため、車両が停止しているときのみペアリング（登録）することができます。車両が発進すると、ペアリングは中断されます。ペアリングを行う前に、安全な場所に車両を止めてください。
- Bluetooth®対応機器の通信可能距離は約 10 メートル以内です。
- 本機で接続確認済み機種は次のサイトで情報公開しています。
  マツダコネクトサポートページ

  http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP

対応 Bluetooth®規格（推奨）

Ver. 1.1/1.2/2.0 + EDR/2.1 + EDR/3.0（適合）
および Bluetooth®Ver3.0 と互換性のあるもの。

構成部品



オーディオや各スイッチの形状は車種により異なります。

マイク（ハンズフリー）

マイクは音声認識での音声コマンド入力や、ハンズフリー通話に使用します。

トークボタン

音声認識を起動します。

ピックアップボタン / ハングアップボタン

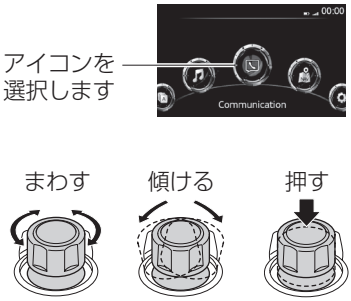
電話発信や通話終了のようなハンズフリー通話の基本的な機能には、オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタン、ピックアップボタン、ハングアップボタンを使用します。

知識

ピックアップボタンは着信を受ける、ハングアップボタンは音声通話を終了するときなどに使用します。

コマンダースイッチ

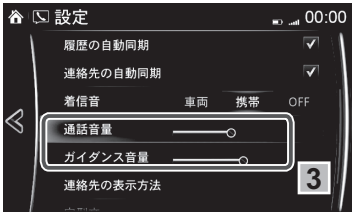
コマンダースイッチは音量の調節とセンターディスプレイの操作に使います。コマンダーノブを傾ける、またはまわしてカーソルを移動します。コマンダーノブを押して、アイコンを選択します。



音量の調節

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. 設定を選択します。



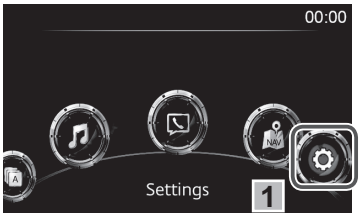
3. 通話音量とガイダンス音量をスライダーで調節します。

知識

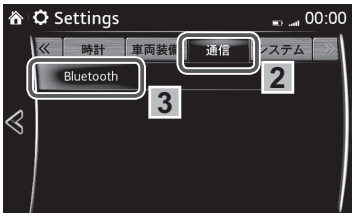
- コマンダースイッチの音量ノブをまわして、音量を調節します。右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと音量が小さくなります。音量はオーディオリモートコントロールスイッチの音量調節ボタンを操作することでも調節できます。
- 他のオーディオモードと比べて、音量が小さいと感じた場合は、機器側の音量を上げてください。
- ハンズフリー通話中や音声ガイダンスなど大きくしたいシーンで操作してください。

Bluetooth® の ON/OFF

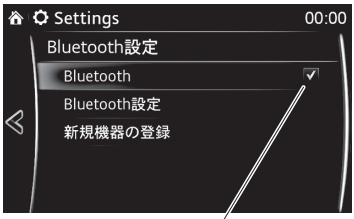
Bluetooth®接続を使用するには、Bluetooth ®設定を ON にします。チェック状態が ON、チェックが外れた状態は OFF となります。



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。



Bluetooth 設定画面が表示されます。

チェックが外れているとOFF の状態です。

Bluetooth® の登録

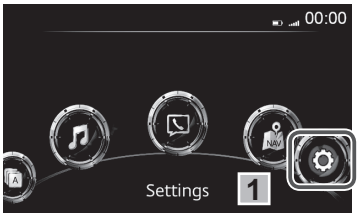
機器の登録（ペアリング）

Bluetooth®オーディオとハンズフリーを使用するには、次の手順で Bluetooth ®対応機器を登録します。Bluetooth®通信機能のあるポータブルオーディオ機器、または携帯電話を 7 個まで登録することができます。

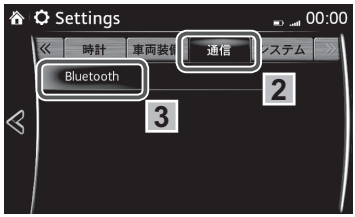
知識

Bluetooth®は、電源ポジションを ACC、または ON に切り替えた後、1 ～ 2 分間操作できない場合がありますが異常ではありません。1 ～ 2 分経過後も Bluetooth® 機器が自動接続されない場合は、Bluetooth®機器 の Bluetooth ®設定が正常である事を確認のうえ、車両側から Bluetooth®機器に再接続を試みてください。

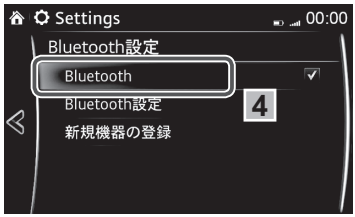
ペアリング手順



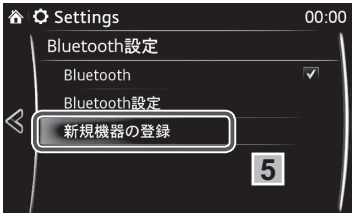
1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



2. 通信 タブを選択します。
3. **Bluetooth** を選択します。



4. (OFF の場合) **Bluetooth** を選択して ON にします。



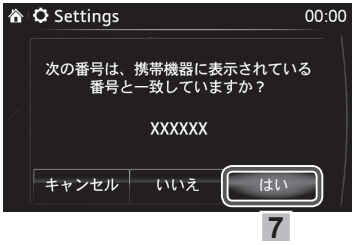
5. 新規機器の登録を選択して、手順 6 のメッセージを表示させます。

6. このメッセージが表示されている間に、Bluetooth®機器を操作して、Bluetooth ®機器を検索します。

7. [Bluetooth®機器での操作]
Bluetooth®機器の検索結果の機器一覧に表示された「Mazda」を選択します。

(Bluetooth®機器が Bluetooth ®バージョン 2.0 の機器の場合)
[Bluetooth®機器での操作]
センターディスプレイに表示された 4 桁のペアリングコードを Bluetooth®機器に入力します。

(Bluetooth®機器が Bluetooth ®バージョン 2.1 以上の場合)
[Bluetooth®機器での操作]
センターディスプレイに表示された 6 桁のコードが Bluetooth®機器にも表示されていることを確認し はい を選択します。



[本機での操作]
Bluetooth®機器に表示された 6 桁のコードがセンターディスプレイに表示されていれば、はい を選択します。

知識

- Bluetooth®機器が電話帳インポートやショートメッセージ機能に対応している場合は、電話帳や通話履歴、ショートメッセージ（SMS）がダウンロードされます。
- 電話帳インポートやショートメッセージ機能の動作には、Bluetooth®機器でダウンロード許可操作を実行する必要がある場合があります。
- **Bluetooth®機器の Bluetooth ®接続については、Bluetooth ®機器の取扱書を必ず参照してください。**

ペアリングと自動再接続について

ペアリングが完了すると、次回のシステム起動時に、前回の Bluetooth®接続を自動的に復元しようとします。Bluetooth®ハンズフリー機能を ON、または電源ポジションを OFF から ACC に切り替えると、機器の接続状態がセンターディスプレイに表示されます。

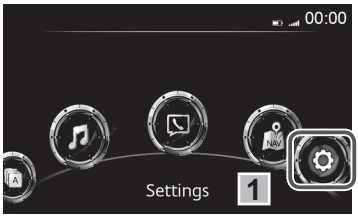
知識

- 同じ Bluetooth®機器のペアリングをやり直す場合は、Bluetooth ®機器から「Mazda」を一度削除する必要があります。
- Bluetooth®機器やマツダ車両でペアリングした情報を削除してしまった場合、ペアリング相手でも一度登録を削除して、再度ペアリングする必要があります。
- システム起動時の Bluetooth®自動接続は Bluetooth ®機器が接続可能な状態である必要があります。
- ペアリングする前に、機器と車両の両方の Bluetooth®の設定が ON になっていることを確認してください。

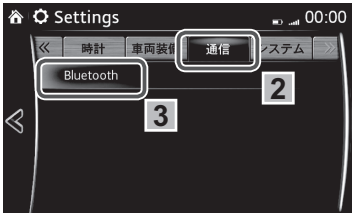
Bluetooth®機器の選択

複数の Bluetooth®機器をペアリングしているときは、接続する Bluetooth ®を選択することができます。他のペアリング済み Bluetooth®機器と接続したいときは、次の手順で Bluetooth®機器の接続を変更します。

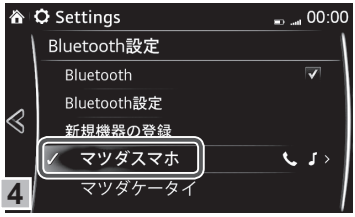
他の Bluetooth®機器を接続する



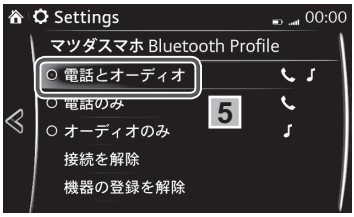
1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



2. 通信 タブを選択します。
3. **Bluetooth** を選択します。



4. 接続したい機器の名前を選択します。



5. 接続方法を選択します。

電話とオーディオ を選択
ハンズフリーと Bluetooth®オーディオ両方の機器として接続します。

電話のみ を選択
ハンズフリー機器として接続します。

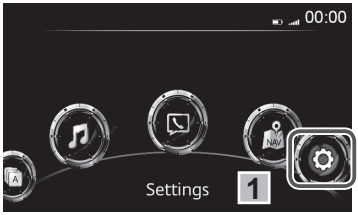
オーディオのみ を選択
Bluetooth®オーディオとして接続します。

知識

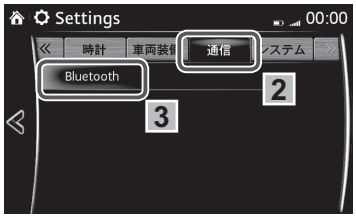
ハンズフリー、またはオーディオは、次の機能を使用することができます。

- ハンズフリー : 電話→ 440ページ「電話のかけかた」、SMS → 453ページ「メッセージの受信と返信」
- オーディオ : Bluetooth®オーディオ→ 411ページ「Bluetooth ®オーディオシステムの使いかた」、Aha™ → 415ページ「Aha™ の使いかた」、Stitcher™ ラジオ→ 420ページ「Stitcher™ ラジオの使いかた」
- システム起動時の Bluetooth®自動接続では、Bluetooth ®機器側の要求が優先されるため、[電話のみ] や [オーディオのみ] を本機で選択していても、[電話とオーディオ] として接続される場合があります。

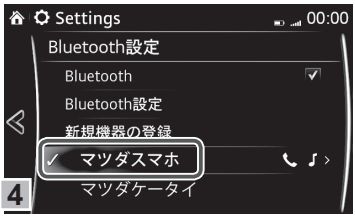
Bluetooth®機器との接続を切断する



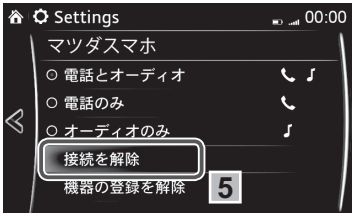
1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。



4. 現在接続している機器の名前を選択します。



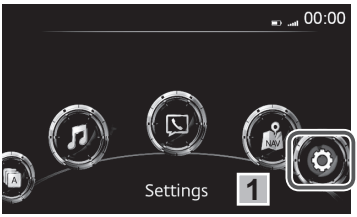
5. 接続を解除を選択します。

知識

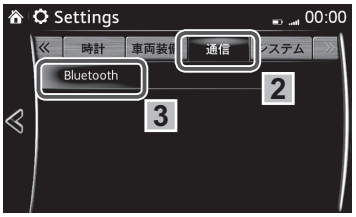
Bluetooth 設定で Bluetooth を OFF にしても接続を切断できます。
→ 430ページ「Bluetooth ®の ON/OFF」

Bluetooth®機器を削除する

ペアリング済み Bluetooth®機器を指定して削除するとき

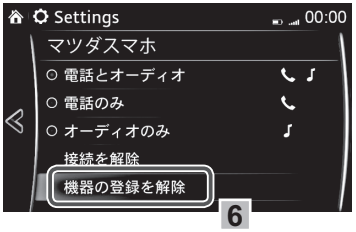


1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。

4. (OFF の場合) **Bluetooth**を選択して ON にします。
5. 削除したい機器の名前を選択します。



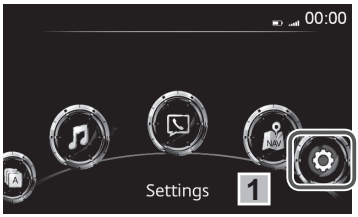
6. 機器の登録を解除を選択します。

7. 確認画面ではいを選択します。

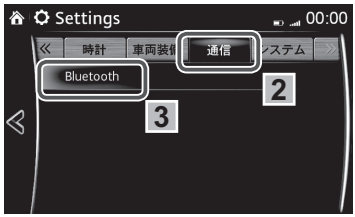
知識

- Bluetooth®の登録を削除すると、削除したBluetooth®機器の電話帳や通話履歴、ショートメッセージも削除されます。
- Bluetooth®機器の登録を削除した場合、Bluetooth®機器でも「Mazda」を削除してください。

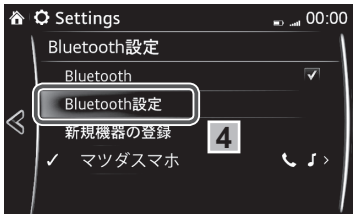
全ての機器を削除するとき



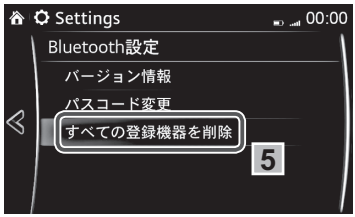
1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。



4. Bluetooth設定を選択します。



5. すべての登録機器を削除を選択します。

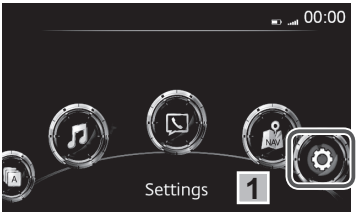
6. 確認画面で はい を選択します。

知識

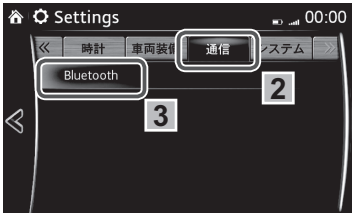
- Bluetooth®機器の登録を削除すると、削除した Bluetooth ®機器の電話帳や通話履歴、ショートメッセージも削除されます。
- Bluetooth®機器の登録を削除した場合、Bluetooth ®機器でも「Mazda」を削除してください。

パスコードを変更する

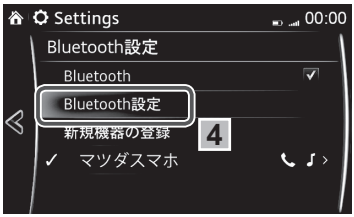
ペアリングする Bluetooth®機器のバージョンが 2.0 以前の場合は、マツダ車両で設定しておいた 4 桁のパスコードを入力してペアリングします。4 桁のパスコードは、次の手順で変更できます。



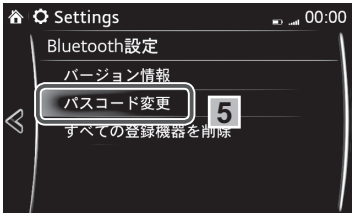
1. ホーム画面の を選択して、設定画面を表示します。



2. 通信 タブを選択します。
3. **Bluetooth** を選択します。



4. Bluetooth設定 を選択します。



5. パスコード変更を選択します。

6. 新しいパスコードを入力します。
7. ✔を選択します。

知識

パスコードを変更しても、ペアリング済みの Bluetooth®機器の接続には影響ありません。

Bluetooth® ハンズフリー

電話のかけかた

本機では、4 つの方法から電話をかけることができます。

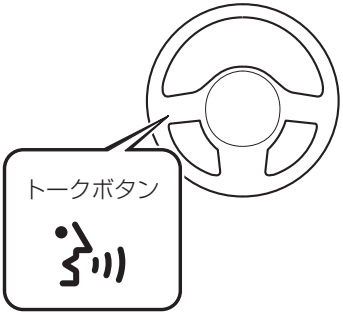
- 連絡先（電話帳）
- お気に入り
- 履歴（発信履歴、着信履歴）
- ダイヤル

連絡先（電話帳）を利用して電話する

音声での操作

ダウンロードされた電話帳、または電話番号が登録された人物の中から、連絡先を発話することによって発信することができます。

1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
2. ピッという音が鳴るまで待ちます。
3. 発話 :（例）「マツダ タロウの携帯に電話」（マツダ タロウという人物が Bluetooth® 機器の電話帳に登録されている場合）
4. 電話を発信するために、音声案内に従ってください。



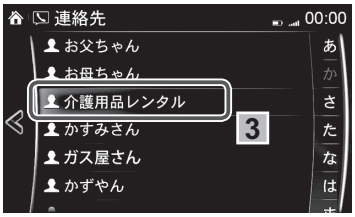
知識

- 事前にダウンロードしておいた連絡先を利用して電話をかけます。
  → 446ページ「連絡先を入力する（電話帳をダウンロードする）」
- Bluetooth®機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
- 電話帳に登録されている、ふりがな情報通りに発話してください。

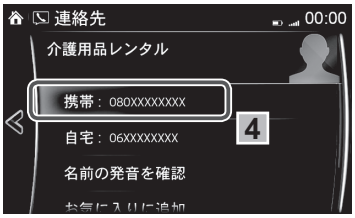
センターディスプレイでの操作

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. 連絡先を選択して、連絡先リストを表示します。



3. 電話を発信したい連絡先を選択して、連絡先の詳細を表示します。



4. 電話番号を選択して、電話を発信します。

お気に入りから電話を発信する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入りを選択して、お気に入り一覧を表示します。

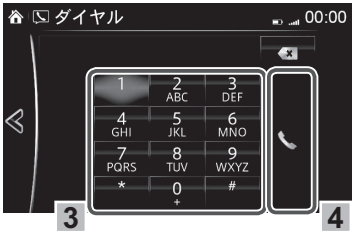
3. 電話したい連絡先情報を選択します。

4. 電話番号を選択します。

電話番号を入力して電話する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. ダイヤル を押すとダイヤルパッドが表示されます。



3. ダイヤルパッドを使って電話番号を入力します。
4. を選択して電話を発信します。

知識

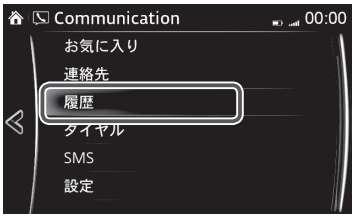
- を選択すると、ひとつ前の入力番号を削除します。
- を長押しすると、すべての入力番号を削除します。
- 0 + を長押しすると、＋を入力できます。

履歴（発信履歴、着信履歴）を利用して電話をかける

音声での操作

- **リダイヤル**
  携帯電話 / 車両から、最後に電話をかけた相手（発信履歴の最新の人物）に電話を発信します。
  - オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
  - ピッという音が鳴るまで待ちます。
  - 発話 :「リダイヤル」
- **コールバック**
  携帯電話 / 車両に対し、最後に電話をかけてきた相手（着信履歴の最新の人物）に電話を発信します。
  - オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
  - ピッという音が鳴るまで待ちます。
  - 発話 :「コールバック」

センターディスプレイでの操作



ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面から履歴を選択します。

- **発着信履歴から電話する（すべて）**
  すべての履歴が表示され、電話をする相手先を選択します。
- **不在着信履歴から電話する（不在着信）**
  不在着信履歴が表示され、電話をする相手先を選択します。

電話の受けかた

「着信通知」の設定が On になっているときに、電話の着信があると、着信通知画面が表示されます。
→ 458ページ「コミュニケーション設定」

通話を開始するには、オーディオリモートコントロールスイッチのピックアップボタンを押すか画面上の 応答 を選択します。

着信を拒否するには、オーディオリモートコントロールスイッチのハングアップボタンを押すか画面上の 拒否 を選択します。

知識

着信通知を OFF に設定すると、着信通知画面が表示されずかかってきた電話は着信拒否されます。
→ 458ページ「コミュニケーション設定」

通話中にできること

通話中画面には、次のアイコンが表示されます。使用状況によって表示されるアイコンは異なります。

アイコン	説明
	コミュニケーションメニューを表示します。
	通話を終了します。
	ハンズフリーから携帯電話に電話を転送する 本機と Bluetooth®機器の間の通信が取り消され、通常の電話として機器（携帯電話）側で受けるように切り替えます。

アイコン	説明
	機器（携帯電話）からハンズフリーに電話を転送する 機器（携帯電話）と接続し、Bluetooth®ハンズフリーの通話に切り替えます。
	通話中にマイクを消音することができます。 もう一度選択すると解除されます。
	通話中に別の相手に発信して三者通話ができます。次の中から連絡先を選択して発信します。 履歴：通話履歴が表示されます。 連絡先：電話帳が表示されます。 ダイヤル：ダイヤルパッドが表示されます。電話番号を入力します。 機器の契約内容によっては使用できない場合があります。
	保留中の通話が合流し、三者通話になります。 機器の契約内容によっては使用できない場合があります。
	保留中の通話を切り替えます。
	DTMF (Dual Tone Multi-Frequency Signal) 送信 ダイヤルパッドで DTMF を送信する場合、この機能を使用します。一般的に、DTMF 送信を要求するものは家庭用電話の留守番電話、または会社の自動ガイダンスコールセンターです。

連絡先を入力する（電話帳をダウンロードする）

Bluetooth®を使用することで、Bluetooth ®機器から電話帳のデータを本機の連絡先に登録することができます。

自動ダウンロード

「連絡先の自動同期」の設定が On になっている場合は、Bluetooth®機器が接続されたときに自動的にダウンロードされます。

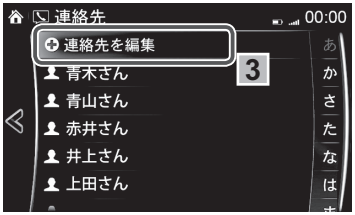
→ 458ページ「コミュニケーション設定」

手動ダウンロード

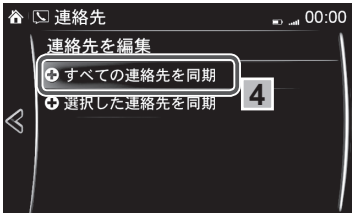
「連絡先の自動同期」の設定が Off の場合、次の手順で電話帳のダウンロードを行います。

1. ホーム画面の⚙を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

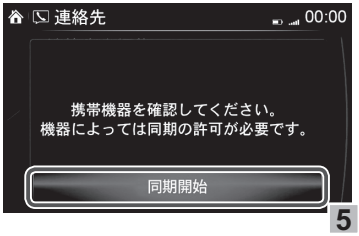
2. 連絡先 を選択して、連絡先リストを表示します。



3. 連絡先を編集 を選択します。



4. すべての連絡先を同期 を選択します。



5. 同期開始 を選択します。

知識

- 電話帳のダウンロードは、Bluetooth®の PBAP プロファイルを使用します。お使いの Bluetooth®機器が対応しているかは、マツダコネクトサポートページをご確認ください。

  http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP
- 最大 1000 件までの連絡先を登録することができます。
- 電話帳、着信 / 発信履歴、およびお気に入りメモリは、プライバシーを保護するために、ペアリングした Bluetooth®機器ごとに独立して保存しています。
- 本機は、Bluetooth®の OPP プロファイルにも対応しています。PBAP プロファイルを持たない Bluetooth®機器でも電話帳転送ができます。手順 4 で「選択した連絡先を同期」を選択して、Bluetooth®機器の操作を行い電話帳データを送信してください。(Bluetooth®機器の取扱書を参照ください。)
- Bluetooth®機器から電話帳をダウンロードするには、本機での操作の他に、Bluetooth®機器側の操作が必要になる場合があります。詳しくは Bluetooth®機器の取扱書をご参照ください。

連絡先をお気に入り登録する

最大 50 件の連絡先を登録することができます。電話番号を登録すると、電話帳の中から電話したい人を探す必要がなく、より早く電話を発信することができます。

知識

事前に連絡先を入力 (電話帳をダウンロード) する必要があります。

→ 446ページ「連絡先を入力する (電話帳をダウンロードする)」

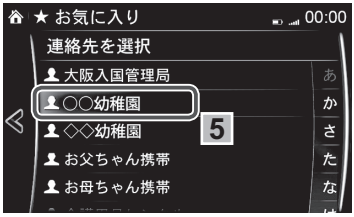
お気に入りに登録する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入りを選択して、お気に入り一覧を表示します。

3. 追加/編集を選択します。

4. 連絡先を登録または電話番号を登録を選選択します。



5. 表示されたリストー覧から連絡先を選択します。

知識

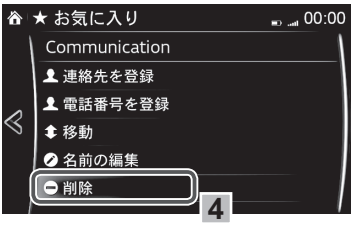
- バッテリーを切り離しても、お気に入りリストは消去されません。
- 「連絡先を登録」を選択すると、選択した人の名前などの情報も含め登録されます。また、「電話番号を登録」を選択すると、選択した人の電話番号のみ登録されます。

お気に入りから削除する

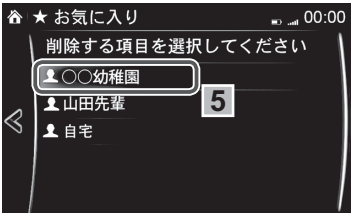
1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入りを選択して、お気に入り一覧を表示します。

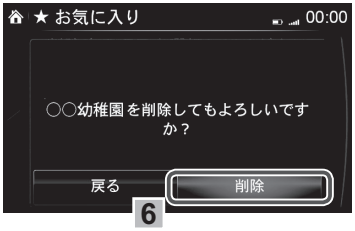
3. 追加/編集を選択します。



4. 削除を選択します。



5. 削除したい連絡先情報を選択します。



6. 確認画面で 削除 を選択します。

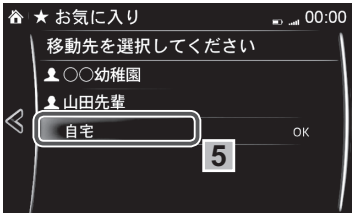
お気に入り一覧の表示順を変更する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

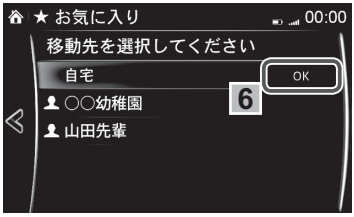
2. お気に入り を選択して、お気に入り一覧を表示します。

3. 追加/編集 を選択します。

4. 移動 を選択します。



5. 連絡先を選択すると、その連絡先を移動させることができます。



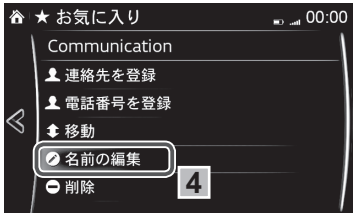
6. スライド、またはコマンダースイッチで連絡先を移動し、**OK**を選選択します。

お気に入りの連絡先名を変更する

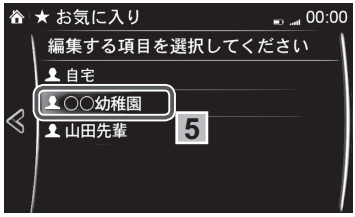
1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入りを選択して、お気に入り一覧を表示します。

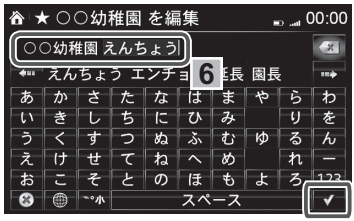
3. 追加/編集を選択します。



4. 名前の編集を選択します。



5. 連絡先を選択して、キーボード画面を表示します。



6. 変更したい連絡先名を入力し✔を選択して、連絡先名を保存します。

知識

お気に入りリストが表示されているときに連絡先を長押しすると、長押しした連絡先の追加 / 編集メニューが表示されます。

メッセージの受信と返信

接続している Bluetooth®機器が受信した SMS(Short Message Service) メッセージをダウンロードしてセンターディスプレイに表示したり、人工音声で読みあげることができます。また、受信したメッセージに定型文を返信したり、その番号に電話することができます。

知識

ご使用の Bluetooth®機器によっては Bluetooth ®機器での設定が必要です。

メッセージをダウンロードする

接続している Bluetooth®機器から、最新 20 件までのメッセージをダウンロードし、表示することができます。

自動ダウンロード

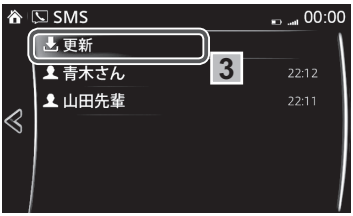
「SMS の自動同期」の設定が On になっている場合、Bluetooth®機器が接続されたときに自動的にダウンロードされます。→ 458ページ「コミュニケーション設定」

手動ダウンロード

「SMS の自動同期」の設定が Off の場合、次の手順でメッセージのダウンロードを行います。

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. SMS を選択して、受信トレイを表示します。



3. 更新 を選択すると、Bluetooth®機器からメッセージをダウンロードします。

知識

- 添付データはダウンロードされません。
- 140 バイトまでのメッセージをダウンロードできます。
- プライバシーを保護するために、ペアリングした Bluetooth®機器ごとに独立して保存しています。
- ショートメッセージ機能は Bluetooth® の MAP プロファイルを使用します。お使いの Bluetooth®機器が対応しているかは、マツダコネクトサポートページをご確認ください。

http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP

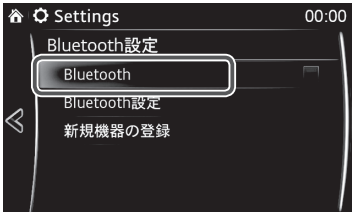
- Bluetooth®機器からメッセージの受信と返信をおこなうには、本機での操作の他に Bluetooth®機器側の操作や設定が必要になる場合があります。詳しくは Bluetooth®機器の取扱書をご参照ください。

例 :iPhone の場合

ペアリング済みで接続されている状態から次の操作をおこないます。

1. **(iPhone 操作)**
   設定メニュー→ Bluetooth →デバイス「Mazda」の右端ⓘを選択します。

2. **(iPhone 操作)**
   「通知を表示」項目の設定を ON に設定します。



3. **(本機の操作)**
   Bluetooth®を OFF にします。
   → 430ページ「Bluetooth ®の ON/OFF」

4. **（本機の操作）**

再度 Bluetooth®を ON にして、iPhone が自動的に再接続されるのを待ちます。

5. **（本機の操作）**

iPhone 接続後、**SMS** が選択できればご利用可能です。

メッセージを受信したとき

「メッセージ新着通知」の設定が On になっているときに、Bluetooth®機器がメッセージを受信すると、メッセージ受信通知が表示されます。
→ 458ページ「コミュニケーション設定」
読む を選択すると、メッセージが表示されます。
メッセージ詳細の下に、次のアイコンが表示されます。使用状況によって表示されるアイコンは異なります。

アイコン	説明
	コミュニケーションメニューを表示します。
	受信トレイを表示します。
	表示中の受信メッセージを音声再生します。 もう一度選択すると一時停止します。

アイコン	説明
	前のメッセージを表示します。
	次のメッセージを表示します。
	表示中の受信メッセージの送信者のみに返信します。 表示された返信画面の本文を選択して、送信する文章を定型文から選択します。 送信を選択します。
	表示中の受信メッセージの送信者に電話をかけます。 送信者の電話番号が非通知の場合は、電話を発信することができません。
	表示中の受信メッセージを削除します。 機器に保存されているメッセージも削除されます。

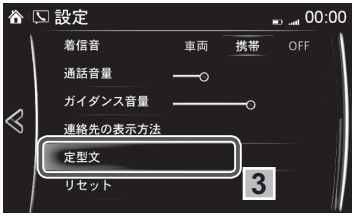
知識

定型文は、最大３つまで選択できます。

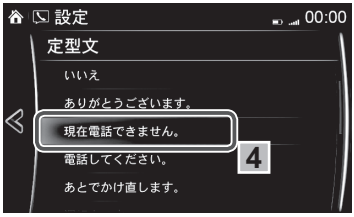
定型文を編集する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. 設定を選択します。



3. 定型文を選択します。



4. 編集したい定型文を選択します。キーボード画面が表示されます。

5. 変更したいメッセージ内容を入力し、✔を選択すると定型文として保存されます。

知識

- 🌐を選択すると、言語を変更します。
- ⊗を選択すると、編集を保存せずに前の画面にもどります。

コミュニケーション設定

ホーム画面の📞を選択して、コミュニケーション画面を表示します。設定を選択して、設定を変更します。

アイテム	設定	説明
Bluetooth	—	Bluetooth®機器の接続設定をします。 → 431ページ「Bluetooth ®の登録」
着信通知	オン / オフ	電話の着信があったときに、通知します。 → 445ページ「電話の受けかた」
SMS の自動同期 *1	オン / オフ	Bluetooth®機器が接続されたとき、自動的に SMS をダウンロードします。 → 453ページ「メッセージの受信と返信」
メッセージ新着通知	オン / オフ	新たにメッセージを受信したときに、通知します。 → 453ページ「メッセージの受信と返信」
履歴の自動同期 *1	オン / オフ	Bluetooth®機器が接続されたとき、自動的に通話履歴をダウンロードします。
連絡先の自動同期 *1	オン / オフ	Bluetooth®機器が接続されたとき、自動的に電話帳をダウンロードします。 → 446ページ「連絡先を入力する (電話帳をダウンロードする)」
着信音	車両 / 携帯 / オフ	着信音量の設定を変更します。
通話音量	スライダーで調節します。	通話音量を調節します。 → 428ページ「構成部品」
ガイダンス音量	—	音声ガイダンスと着信音量を調節します。 → 428ページ「構成部品」
連絡先の表示方法	名前、苗字	連絡先の表示順を名前で並び替えます。
	苗字、名前	連絡先の表示順を苗字で並び替えます。
定型文	—	定型文を編集します。 → 453ページ「メッセージの受信と返信」

アイテム	設定	説明
リセット	—	コミュニケーション設定が全て初期化されます。

*1 Bluetooth®機器でダウンロードに対する許可操作が必要な場合があります。

トラブルシューティング

Bluetooth®機器ペアリング、接続の問題

- Bluetooth®は、使用する Bluetooth ®機器の設定によってもふるまいが変化します。
- 正常に使用できなくなった場合は Bluetooth®機器の取扱書も参照してください。
- 本機で動作確認済み機種は、次のサイトで情報公開しています。
  マツダコネクトサポートページをご確認ください。

http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP

問題	原因	解決方法
ペアリングができない	—	Bluetooth®機器が Bluetooth®ユニットに対応しているか確認し、Bluetooth®機器の Bluetooth®と FindMode*1が ON になっているのを確認してください。その後、ペアリングを行ってもペアリングできない場合はマツダ販売店にご相談ください。Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。

問題	原因	解決方法
再ペアリングできない	本機または Bluetooth® 機器に登録されているペアリング情報を誤認識している。	次の手順でペアリングを実施します。 ● Bluetooth®機器に登録されている「Mazda」を削除する。 ● 再度ペアリングを行う。Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。
エンジン始動で自動接続しない	Bluetooth®機器によっては、Bluetooth®や FindMode*1が時間経過により自動で OFF になる場合があります。	Bluetooth®と FindMode*1が ON になっている事を確認し、再度接続してください。 Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。
自動接続していたが、突然自動接続しなくなった		
接続が途切れる	Bluetooth®機器を後部座席のカバンの中やズボンの後ろポケットの中等、電波が遮断されやすい場所に置いていませんか？	Bluetooth®機器を電波が遮断されにくい場所から移動させてください。 Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。
エンジン始動で自動接続しない	Bluetooth®機器の OS がアップデートされた際に、登録されているペアリング情報が更新されている。	次の手順でペアリングを実施します。 ● Bluetooth®機器に登録されている「Mazda」を削除する。 ● 再度ペアリングを行う。Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。

*1 Bluetooth®機器の存在が、外から検知されるようにするための設定

音声認識に関する問題

問題	原因	解決方法
• 音声認識がうまくいかない • 数値を誤認識しやすい	• 話し方がゆっくりすぎませんか？ • 話し方が強すぎませんか？（怒鳴っていませんか？） • ビープ音が鳴り終わる前に話していませんか？ • マイクにエアコンの風などが当たっていませんか？ • 標準でない表現（方言など）で話していませんか？	左の項目に注意して話してください。また、数値を連続して話す場合、数値間に間を置かずにつなげて話すと認識率は向上します。Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。
	• マイクに不具合がある。	マイクの接続不良や故障が考えられます。マツダ販売店にご相談ください。

問題	原因	解決方法
電話帳の名前をうまく認識しない	Bluetooth®システムが認識しにくい状態になっています。	次の対応を行っていただくと、認識率が向上します。 ● 電話帳からあまり使わない連絡先を削除する。 ● 短い名前を避け、長い名前を適用する。 (名前は長いほど認識率が上がります。「ママ」や「パパ」などの短い文言は避けていただくと認識しやすくなります)
	Bluetooth®機器の接続に問題がある。	ペアリングの状態を確認し、問題がある場合は、Bluetooth®機器ペアリング、接続の問題を確認してください。
	電話帳にふりがな情報が登録されていない。	機器の電話帳にふりがな情報を追加し、電話帳を再ダウンロードしてください。
ガイダンスをスキップしたい	—	トークボタンを押すことにより、ガイダンスはいつでもスキップできます。

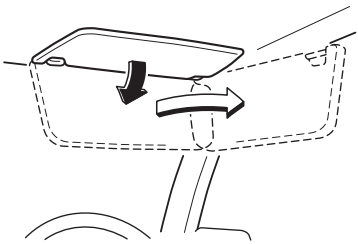
電話に関する問題

問題	原因	解決方法
通話開始時、通話相手に車両のノイズが聞こえる	通話開始から約 3 秒間は、Bluetooth®ユニットのノイズ抑制機能が通話環境の適応に時間が必要な為、通話相手にノイズが聞こえ、声が通りにくい事が有ります。	Bluetooth®機器に問題はありません。
相手の声が聞こえない / 小さい	ボリュームがゼロ、または小さくなっていませんか？	通話音量を上げてください。

その他の問題

問題	原因	解決方法
Bluetooth®機器に表示されるバッテリーの残量と、車両に表示されるバッテリーの残量が異なる	Bluetooth®機器からの、残量値情報と本機の表示スケールにずれがあるためです。	ありません
車両で通話を実行時、着信 / 発信履歴が電話番号で更新されるが、名前が出ない	電話帳に通話相手先が登録されていません。	番号が電話帳に登録されていれば、エンジンを再始動すると、電話帳の名前で着信 / 発信履歴が更新されます。
着信 / 発信履歴がBluetooth®機器と車両間で同期しない	Bluetooth®機器によっては、エンジン始動後に、着信 / 発信履歴をダウンロードすることがあります。	Bluetooth®機器を操作する必要があります。Bluetooth®機器の取扱書を参照してください。

サンバイザー



前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。

バニティミラー（化粧鏡）

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。

室内照明

知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチが DOOR の位置で電源ポジションが OFF のときに、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

- 運転席ドアを解錠すると約 30 秒間点灯します。
- キーが車内にある状態でドアを開けて、閉めたあと約 15 秒間点灯します。
- キーを携帯して車外からドアを開けて、閉めたあと約 5 秒間点灯します。

ルームランプスイッチが DOOR の位置のとき、電源ポジションを OFF にすると約 15 秒間点灯します。

知識

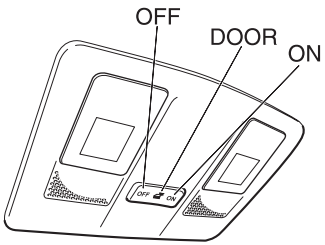
- 次のようなときルームランプはすぐに消灯します。
  - 電源ポジションを ON にしたとき。
  - 運転席ドアを施錠したとき。
- ルームランプスイッチが DOOR の位置で、約 30 分間ドアが確実に閉まっていない状態が続くと、自動的にルームランプが消灯して、バッテリーあがりを防止します。
- ラゲッジルームランプスイッチが ON の位置で、約 30 分間リヤゲートが確実に閉まっていない状態が続くと、自動的にラゲッジルームランプが消灯して、バッテリーあがりを防止します。
- イルミネーテッドエントリーシステムの作動時間を変更することができます。
→ 585ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ルームランプ

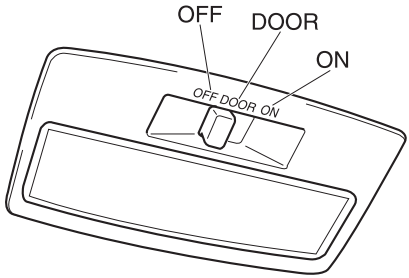
電源ポジションに関係なく使用できます。

フロント

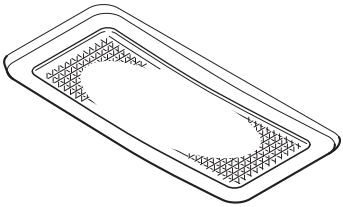
マップランプ装備車



マップランプ非装備車



リヤ



スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	● ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。 ● イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯 / 消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯

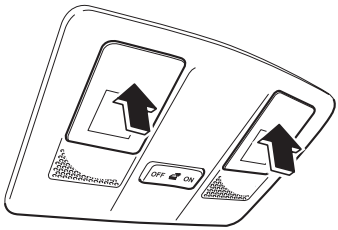
知識

(マップランプ装備車)

リヤルームランプはフロントルームランプに連動して点灯 / 消灯します。

マップランプ グレード/仕様別装備

電源ポジションに関係なく使用できます。ルームランプのスイッチ位置が DOOR または OFF のときに、レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

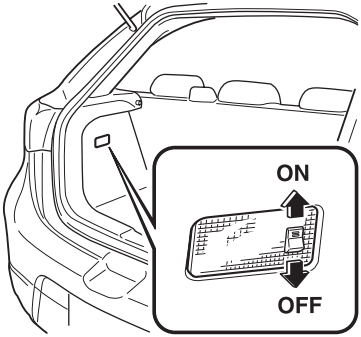


知識

次のときはレンズを押しても消灯しません。

- ルームランプのスイッチ位置が ON のとき。
- ルームランプのスイッチ位置が DOOR でドアが開いているとき。
- イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

ラゲッジルームランプ



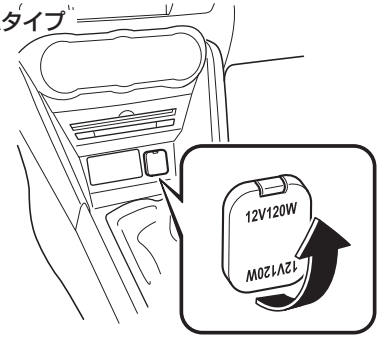
電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ラゲッジルームランプ
ON	リヤゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯

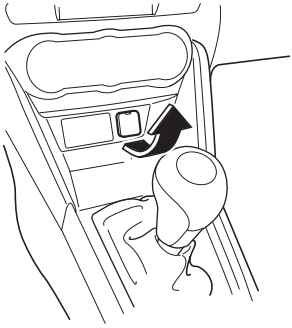
電源ソケット

電源ポジションが ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120W (DC12V—10A) 以下の電気製品を使用してください。

Aタイプ



Bタイプ



⚠注意

必ず守る **使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。**

必ず守る **電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。**

禁止 **消費電力が 120W (DC12V—10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。**

⚠注意

必ず守る **電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。**

必ず守る **電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器をはずし、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットからはずしたあと、電源ポジションを OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。**

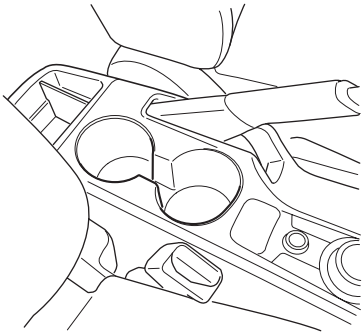
知識

- エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- シガーライターを差し込まないでください。

カップホルダー

⚠注意

禁 止 **走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。**

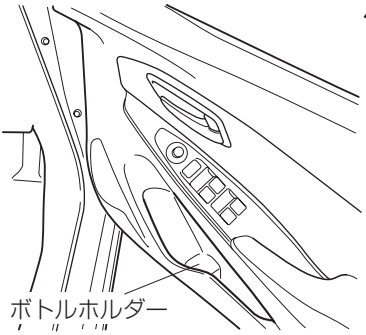


ボトルホルダー

⚠注意

禁 止

ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。



ペットボトルなどを置くことができます。

収納

⚠注意

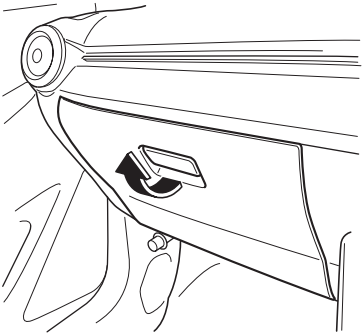
必ず守る

走行中は、グローブボックスなどのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。

禁 止

炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

グローブボックス



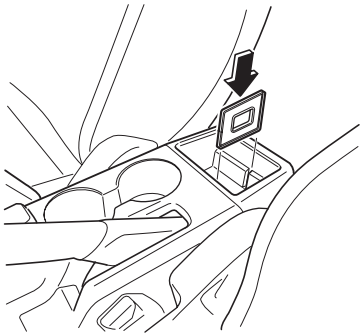
閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

コンソールマルチトレイ

⚠注意

禁止

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。



フレキシブルチップを使用することで、カップや小物を置くことができます。
フレキシブルチップを使用しないときは、コンソールマルチトレイを広く使うことができます。

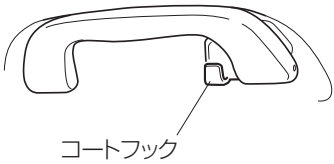
リヤコートフック

⚠警告

禁止

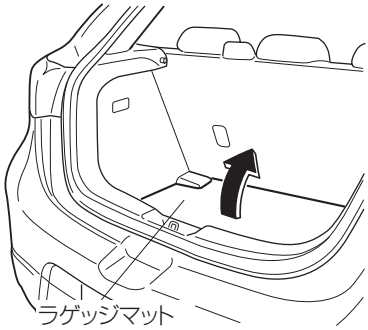
アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



サブトランクボックス

サブトランクボックスはラゲッジマットの下にあります。
小物などを収納することができます。



4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 474

必ずまもる 474
お車に触れるときは注意する 475

点検、整備 476

点検整備について 476
定期点検 477
日常点検の前に 478
日常点検 480
その他の手入れ 490

ヒューズ切れ、電球切れのとき 491

ヒューズの受け持つ装置 491
ランプ類、電気装置が作動しないとき 495

電池交換 506

電池を交換するときは 506

車の手入れ 509

外装の手入れ 509
内装の手入れ 513

季節の準備 517

冬にそなえて 517
夏にそなえて 519

環境保護のために 520

廃棄物を処理するときは 520

必ずまもる

違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジンの改造や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを取りはずしたり、位置を変えないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

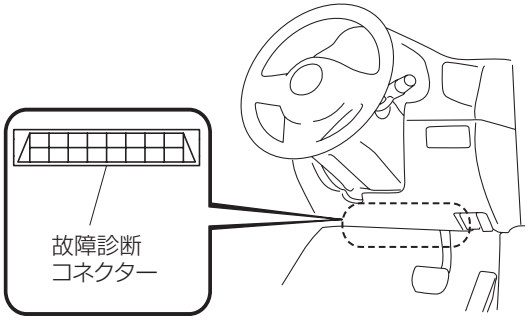
ホイール、ホイールナットは純正品以外を装着しないでください。純正品以外のものを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、駆動系部品に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。
また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障診断コネクターに点検整備用の故障診断器以外を接続しない

故障診断コネクターは、専用の機器を接続することで故障などを自己診断するためのコネクターです。
故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断器以外を接続しないでください。故障診断器以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬ故障につながるおそれがあります。



お車に触れるときは注意する

手入れをするとき

日常点検やタイヤ交換などの作業、洗車など手入れをするときは、けがをしないように注意してください。

見えにくい箇所へ触れるとき

手にけがをするおそれがありますので、軍手など厚手の手袋を使用して点検や作業などを行なってください。

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

使用済みバッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠警告

必ず守る **点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なう。**
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。**
手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。**

必ず守る **エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。**

知識

無料点検について

新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000km)、6 か月 (または走行距離 5,000km) は無料で点検が受けられます。

車両データの記録について

本車両は、車両の制御や操作、その他の走行環境に関する主要なデータを記録するコンピューターを装備しています。

記録されるデータ

- エンジン回転数や車速など、車両の状態
- アクセル / ブレーキなどの運転状態・車両走行時の環境情報
- 各車載コンピューターの故障診断情報
- その他、各車載コンピューターの制御に関する情報

知識

記録されるデータの項目は、車両のグレードやオプション装備の種類により異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

マツダおよびマツダの委託先は、コンピューターに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意 (リース車は借貸主の同意) がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

定期点検

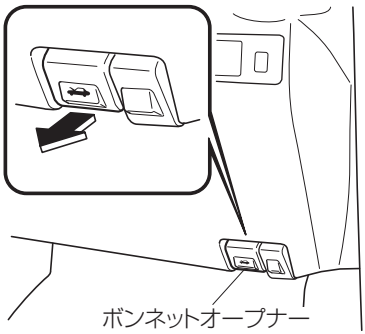
1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

知識

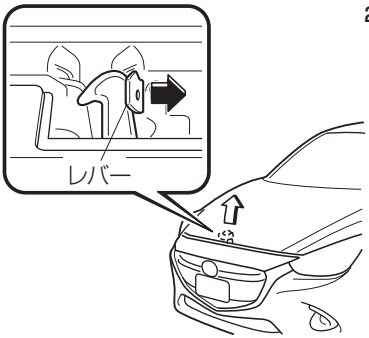
- **点検結果について**
  点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
- **シビアコンディションについて**
  一般的な使用よりも厳しい使われ方をした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。
  詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

日常点検の前に

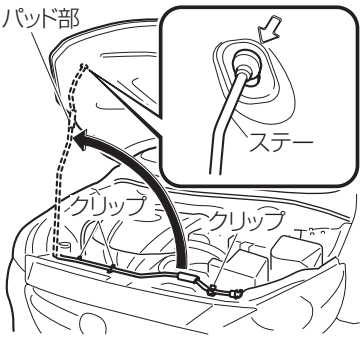
ボンネットの開けかた



1. 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

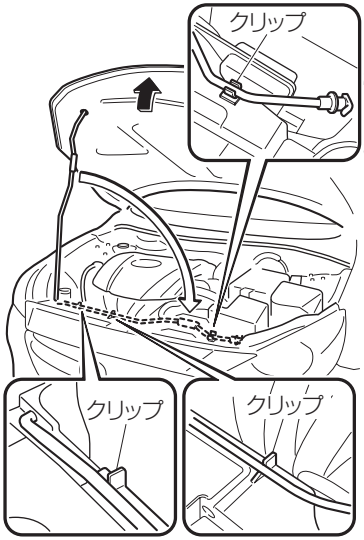


2. ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを矢印の方向に倒したままボンネットを持ち上げます。



3. パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。

ボンネットの閉めかた



1. エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。
2. ボンネットを手でささえてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。
3. ボンネットをゆっくりおろし、約 20 cm の高さから静かに落として閉めます。

⚠警告

必ず守る

ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。

走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁 止

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さえつけないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

必ず守る

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

必ず守る

エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

知識

点検結果について

点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

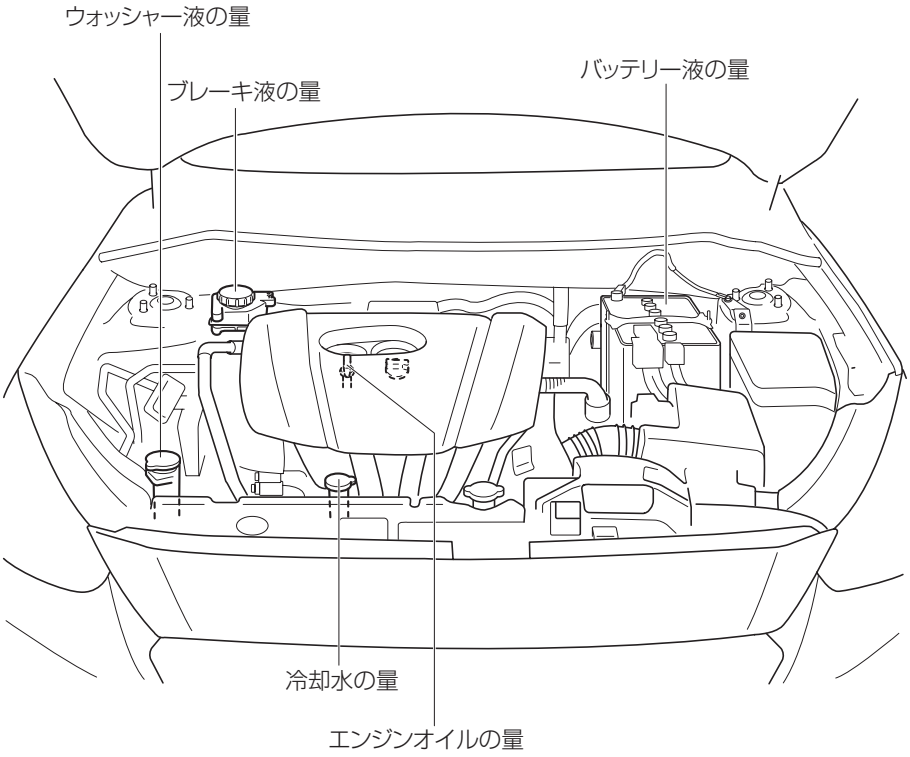
点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

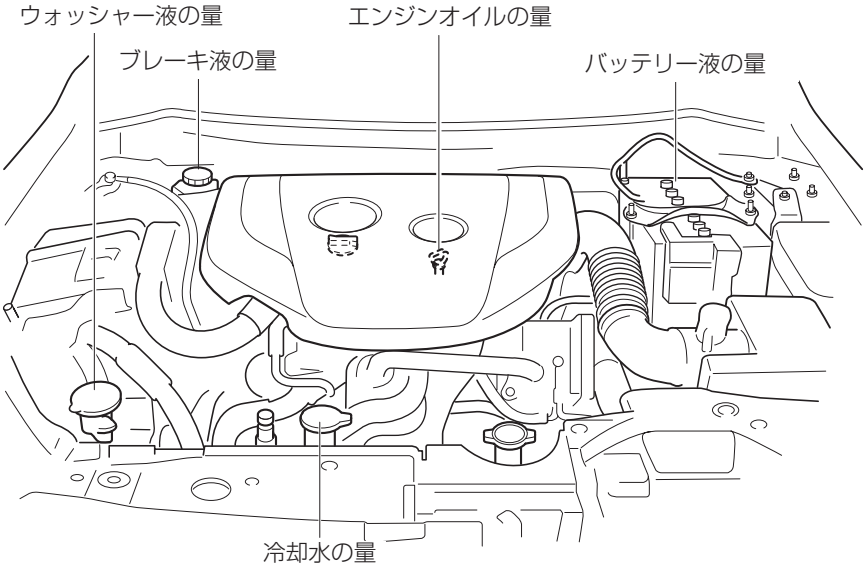
前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エンジンルームをのぞいて

SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5



SKYACTIV-D 1.5



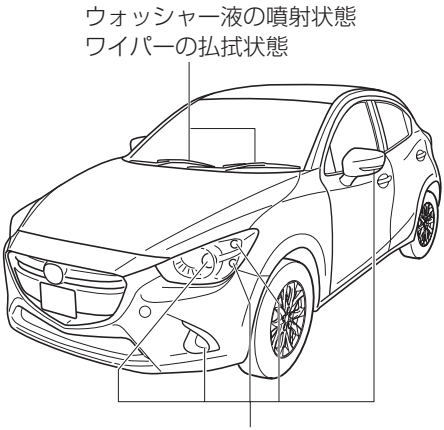
⚠注意

必ず守る

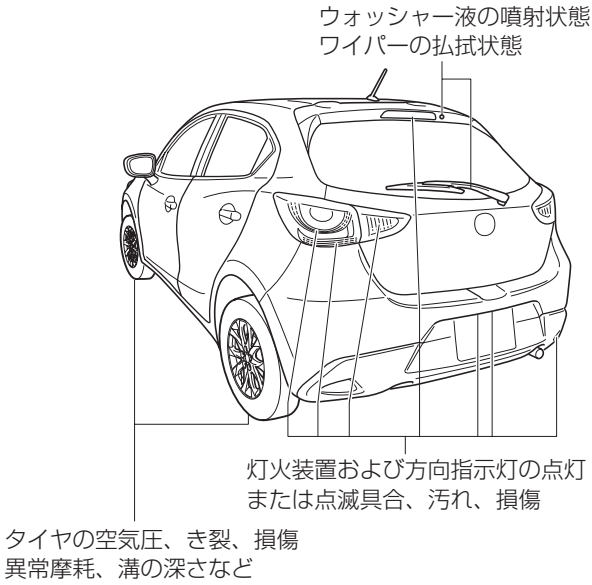
エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

全体を見まわして

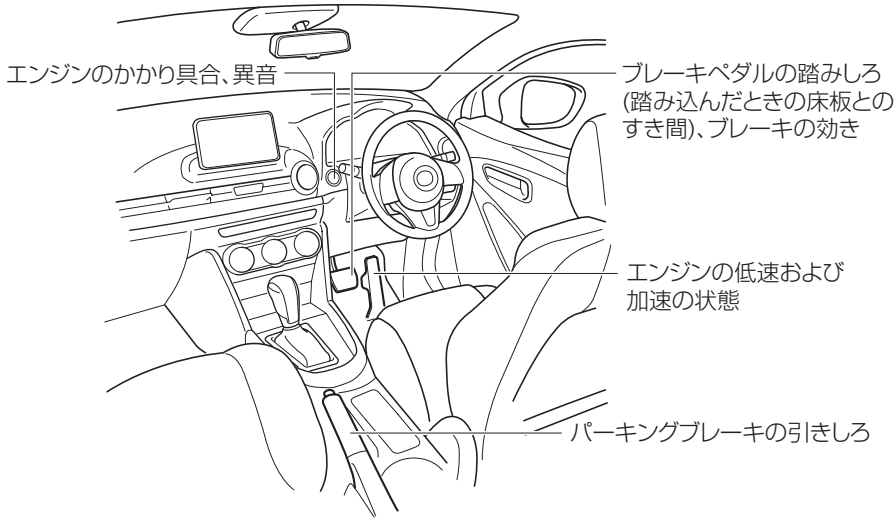
フロント



リヤ



運転席にすわって



タイヤの点検

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

知識

タイヤの劣化について

タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後５～７年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

空気圧の点検

タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調整してください。

⚠警告

禁止

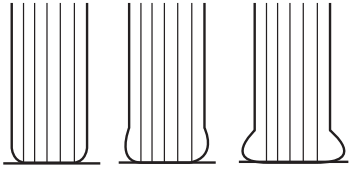
タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。

タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

タイヤバルブキャップは純正品を使用する。

タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



過多　適正　不足

き裂、損傷の点検

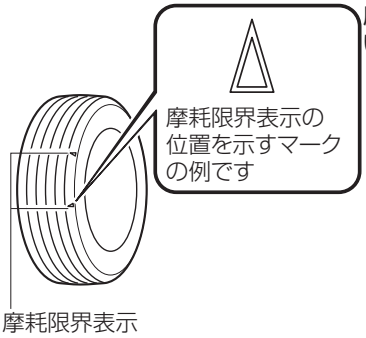
⚠警告

禁止

異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になるおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

- **走行中にハンドルがとられる**
- **異常な振動を感じる**
- **パンクやバースト（破裂）する**
- **車の性能（燃費・走行安定性・制動距離など）が十分に発揮できない**
- **部品に悪影響をあたえる**

溝の深さ、異常摩耗の点検



摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

⚠警告

禁止

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が現れているタイヤを使用しない。

そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

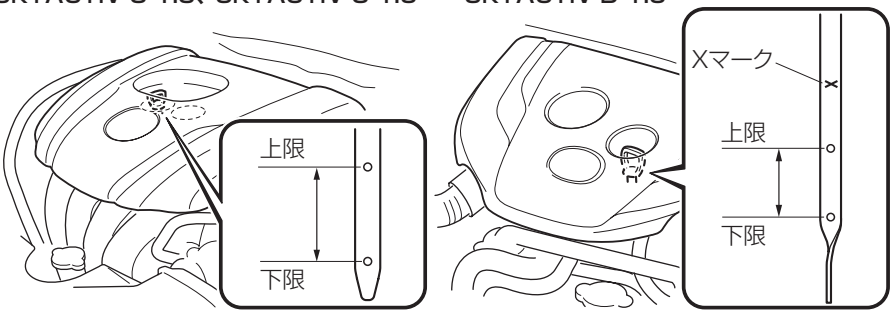
知識

摩耗限界表示について

摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm だけ浅くなっています。

エンジンオイルの点検、補充

SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5　　SKYACTIV-D 1.5



オイルレベルゲージでエンジンオイルの量を点検してください。
不足しているときは上限から下限の間になるよう補充してください。
点検の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

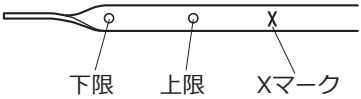
SKYACTIV-D 1.5

⚠注意

必ず守る

指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用した場合、DPF 内にオイル中の灰分が堆積し、燃費の悪化や DPF の交換が必要になることがあります。
→ 571ページ「エンジンオイル」

知識



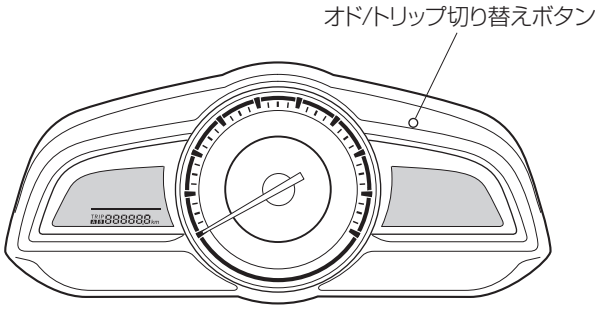
- エンジンオイルの量を点検するときは、オイルレベルゲージをひねらずまっすぐに抜いてください。
  また、オイルレベルゲージを差すときは、必ずオイルレベルゲージの×マークを車両前方に向けてひねらずまっすぐ差し込んでください。
- エンジンオイルがレベルゲージの×の位置を超えている場合はオイル交換をしてください。
- DPF に堆積した PM (Particulate Matter: 粒子状物質) が自動で除去されるとき、エンジンオイルに燃料が混ざり、油量が増えることがありますが異常ではありません。

オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なうか、次の手順で記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯またはオイル警告灯が点灯することがあります。

知識

記憶値の初期化 (オイルデータリセット) は次の手順でも行なうことができます。

1. 電源ポジションを OFF にします。
2. オド / トリップ切り替えボタンを押したまま、電源ポジションを ON にし、マスター警告灯⚠/❗が点滅するまで、オド / トリップ切り替えボタンを約 5 秒間押し続けます。



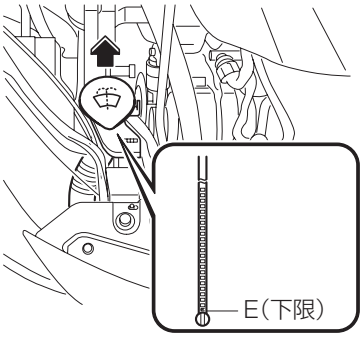
3. マスター警告灯⚠/❗が数秒間点滅したら、初期化は完了です。

バッテリーの点検

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。
→ 540ページ「バッテリーあがりについて」

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
- 交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の補充



補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

⚠注意

必ず守る

エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

知識

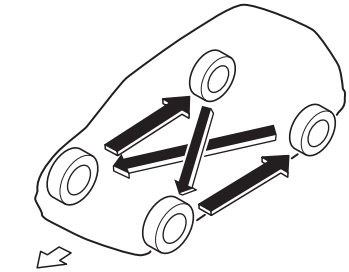
ウォッシャータンクについて

ウォッシャータンクは、フロントワイパー用、リヤワイパー用、ヘッドランプウォッシャー用で兼用しています。

その他の手入れ

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。



⚠警告

必ず守る

タイヤを交換するときは指定されたサイズや種類のタイヤを装着する。

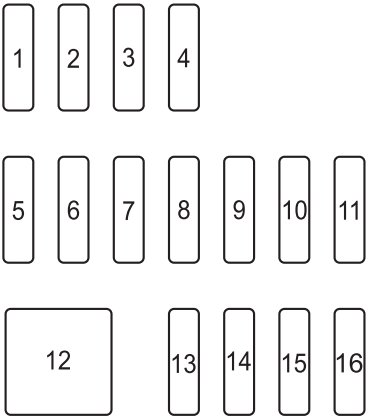
指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- タイヤの位置交換を行なうまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
  → 484ページ「タイヤの点検」
- タイヤの位置交換を行なったあとはタイヤの空気圧を規定値に調整してください。
  → 584ページ「タイヤ空気圧」
- お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されていないため、お客様自身ではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

ヒューズの受け持つ装置

室内ヒューズボックス

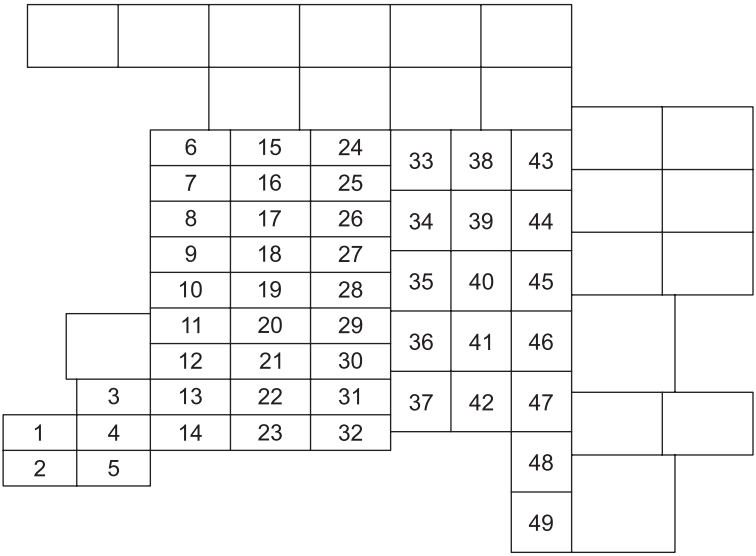


位置	表示	容量	保護装置
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5	F.OUTLET	15 A	電源ソケット
6	—	—	—
7	AT IND	7.5 A	セレクトレバー位置表示
8	MIRROR	7.5 A	電動ミラー
9	—	—	—
10	P.WINDOW2	25 A	パワーウインドー
11	R.WIPER	15 A	リヤワイパー / ウォッシャー
12	P.SEAT D	30A	—

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
13	—	—	—
14	SRS2/ESCL	15 A	ステアリングロック
15	SEAT WARM	20 A	シートヒーター グレード/仕様別装備
16	M.DEF	7.5 A	ミラーデフォッガー（曇り取り） グレード/仕様別装備

エンジンルーム内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	C/U IG1	15 A	各種電源
2	ENGINE IG1	7.5 A	エンジンコントロールシステム
3	SUNROOF	10 A	—
4	INTERIOR	15 A	ルームランプ
5	ENG+B	7.5 A	エンジンコントロールシステム

位置	表示	容量	保護装置
6	AUDIO2	15 A	オーディオ
7	METER1	10 A	メーター
8	SRS1	7.5 A	エアバッグシステム
9	METER2	7.5 A	メーター グレード/仕様別装備
10	RADIO	7.5 A	オーディオ
11	ENGINE3	15 A	エンジンコントロールシステム
12	ENGINE1	15 A	エンジンコントロールシステム
13	ENGINE2	15 A	エンジンコントロールシステム
14	AUDIO1	25 A	オーディオ
15	A/C MAG	7.5 A	空調
16	AT PUMP	15 A	トランスアクスルコントロールシステム グレード/仕様別装備
17	AT	15 A	トランスアクスルコントロールシステム、エンジンスイッチ
18	D.LOCK	25 A	パワードアロック
19	H/L RH	20 A	ヘッドランプ 右
20	ENG+B2	7.5 A	エンジンコントロールシステム
21	TAIL	20 A	尾灯、番号灯、車幅灯
22	ST.HEATER	15A	—
23	ROOM	25 A	ルームランプ
24	FOG	15 A	フォグランプ グレード/仕様別装備
25	H/CLEAN	20 A	ヘッドランプウォッシャー グレード/仕様別装備
26	STOP	10 A	制動灯
27	HORN	15 A	ホーン

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
28	H/L LH	20 A	ヘッドランプ 左
29	ABS/DSC S	30 A	ABS、DSC
30	HAZARD	15 A	方向指示灯 / 非常点滅灯
31	FUEL PUMP	15 A	フューエルポンプ グレード/仕様別装備
32	FUEL WARM	25 A	フューエルウォーマー グレード/仕様別装備
33	WIPER	20 A	フロントワイパー
34	CABIN+B	50 A	各種電源
35	FAN2	30 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
36	FUEL PUMP	30 A	—
37	ABS/DSC M	50 A	ABS、DSC
38	EVVT	20 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
39	—	—	—
40	FAN1	30 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
41	FAN3	40 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
42	ENG.MAIN	40 A	エンジンコントロールシステム
43	EPS	60 A	電動パワーステアリング グレード/仕様別装備
44	DEFOG	40 A	リヤウインドーデフォッガー (曇り取り)
45	IG2	30 A	各種電源
46	INJECTOR	30 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
47	HEATER	40 A	空調
48	P.WINDOW1	30 A	パワーウインドー

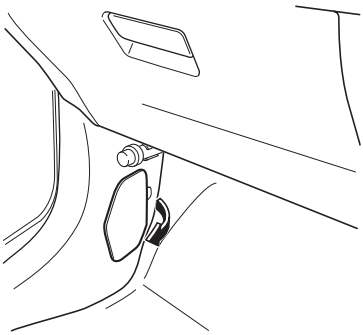
位置	表示	容量	保護装置
49	DCDC DE	40 A	各種電源 グレード/仕様別装備

ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

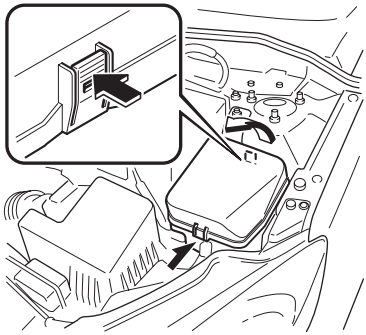
ヒューズの交換

室内ヒューズボックス



1. 電源ポジションを OFF にします。
2. ヒューズボックスのカバーを開きます。ヒューズボックスは助手席左下と、エンジンルーム内にあります。

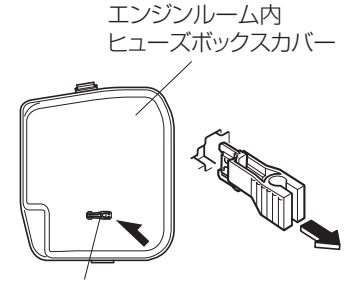
エンジンルーム内ヒューズボックス



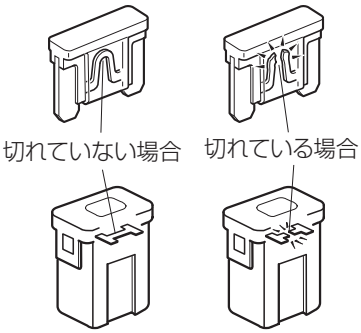
ヒューズ切れ、電球切れのとき

知識

- 各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。
- ヒューズボックスのカバー裏側に各ヒューズの規定容量が表示されています。



3. ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
   →491ページ「ヒューズの受け持つ装置」
4. ヒューズを抜き取ります。



5. ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。
6. ヒューズボックスのカバーを元の通り取り付けます。

警告

禁止

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しない。

配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

注意

必ず守る

必ずマツダ純正品または同等品を使用してください。

知識

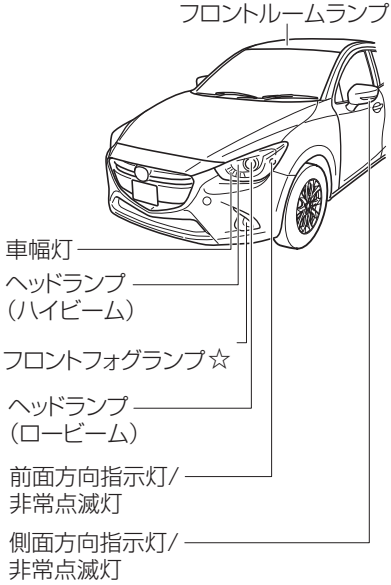
ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

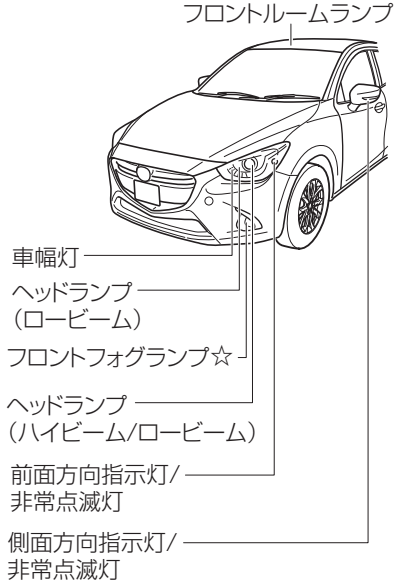
フロント

LEDヘッドランプ装備車

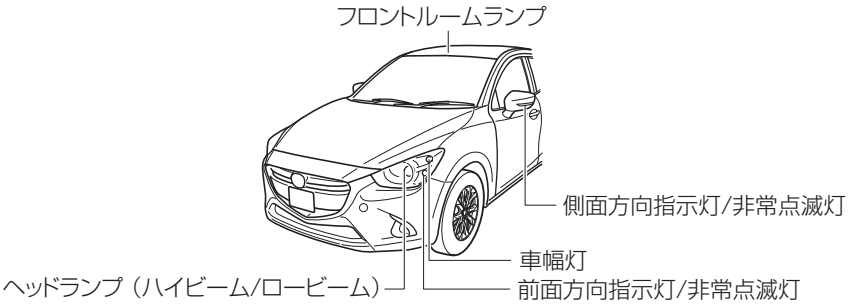
(アダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）非装備車)



(アダプティブ･LED･ヘッドライト（ALH）装備車)



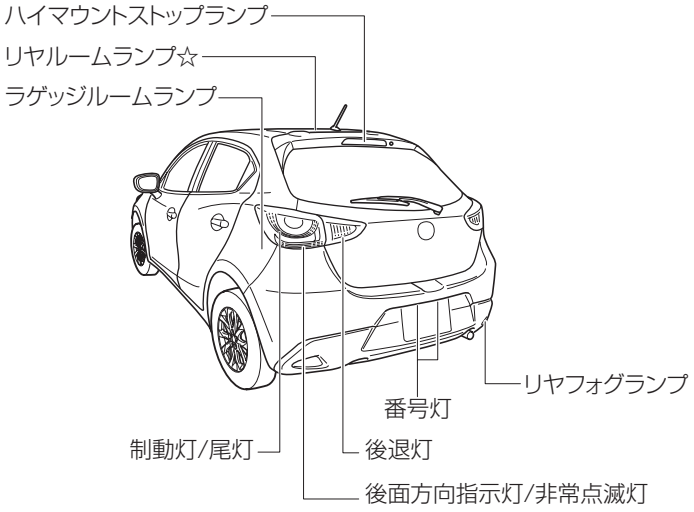
ハロゲンヘッドランプ装備車



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

リヤ



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

⚠注意

必ず守る **電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。**

必ず守る **番号灯、ルームランプ、ラゲッジルームランプのレンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズや内装に当たると、傷がつくおそれがあります。**

必ず守る **マイナスドライバーなどを使ってレンズやランプ本体を取りはずすときは、マイナスドライバーなどが内部の端子に当たらないようにしてください。マイナスドライバーなどが直接端子に当たると、ショートするおそれがあります。**

知識

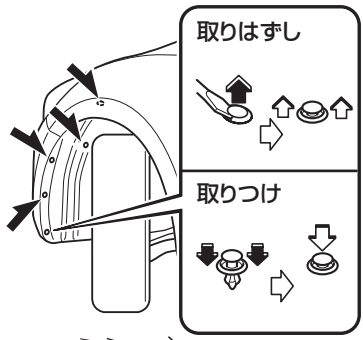
- **ハロゲン球の取り扱いについて**
  ハロゲン球を素手で触れてはいけませんが、万一、誤ってハロゲン球に触れてしまったときは、水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ってください。
- **交換する電球について**
  必ず同じ W 数の電球を使用してください。
- **ランプの曇りについて**
  ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ (LED ヘッドランプ装備車)

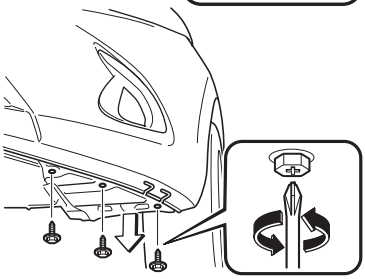
上向き (ハイビーム)、下向き (ロービーム)
LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店にご相談ください。

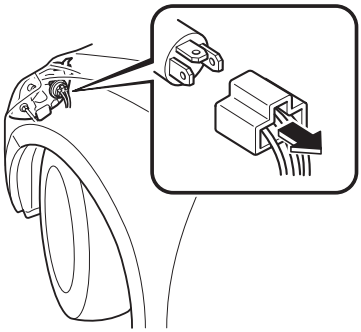
ヒューズ切れ、電球切れのとき

ヘッドランプ (ハロゲンヘッドランプ装備車)

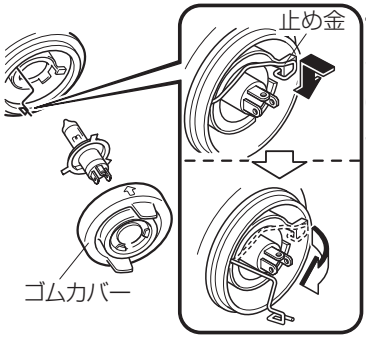


1. エンジンをかけ、交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。
2. ファスナー、ネジをドライバーなどではずし、マッドガードをめくります。





3. 電球の後側にあるコネクターを取りはずします。

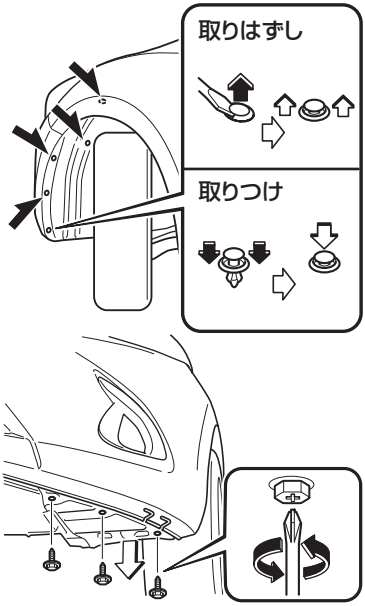


4. ゴムカバーをはずします。
5. 止め金をはずし、電球を抜き取ります。
6. 電球を取り換えます。
7. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

車幅灯 (LED ヘッドランプ装備車)

LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店にご相談ください。

前面方向指示灯 / 非常点滅灯、車幅灯 (ハロゲンヘッドランプ装備車)

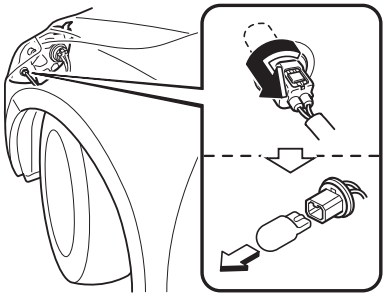


1. エンジンをかけ、交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。
2. ファスナー、ネジをドライバーなどではずし、マッドガードをめくります。

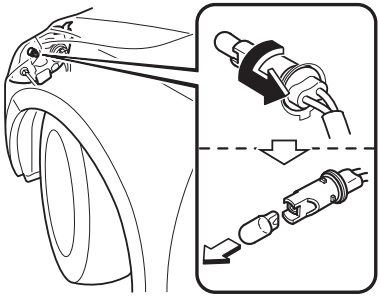
ヒューズ切れ、電球切れのとき

3. ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

前面方向指示灯/非常点滅灯



車幅灯



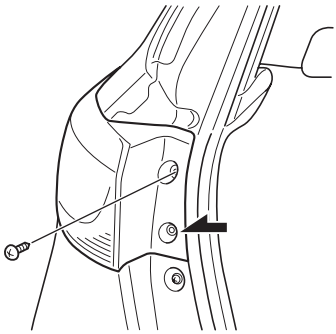
4. 電球を取り換えます。

5. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

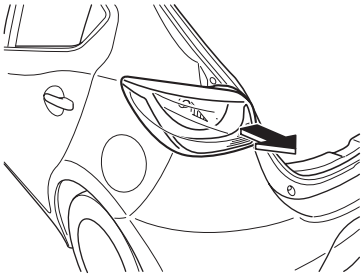
フロントフォグランプ グレード/仕様別装備、制動灯 / 尾灯、側面方向指示灯 / 非常点滅灯、ハイマウントストップランプ

LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店にご相談ください。

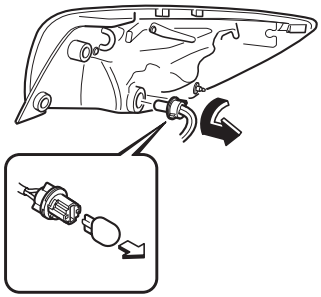
後面方向指示灯 / 非常点滅灯



1. ネジをはずします。

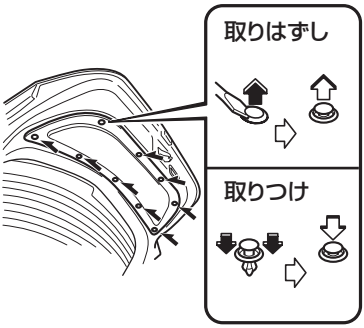


2. ユニットを車両後方に引き、取りはずします。

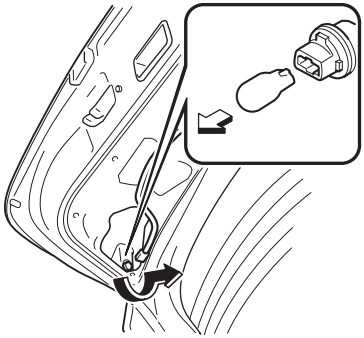


3. ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。
4. ソケットから電球を取りはずします。
5. 電球を取り換えます。
6. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

後退灯



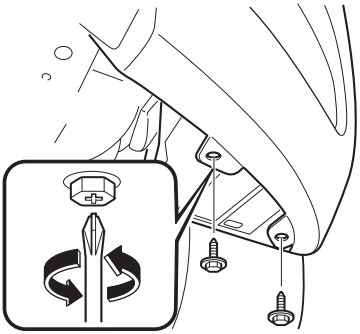
1. リヤゲートを開けます。
2. ファスナーを取りはずしてリヤゲートトリムを取りはずします。



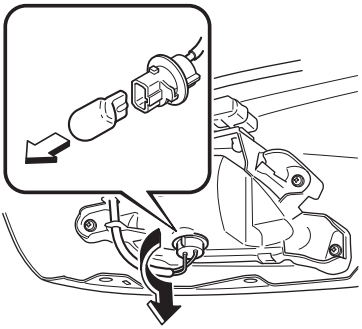
3. ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4. 電球を取り換えます。
5. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

リヤフォグランプ グレード/仕様別装備

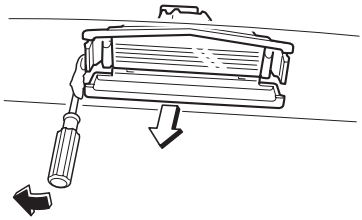


1. ネジをドライバーなどではずし、マッドガードをめくります。

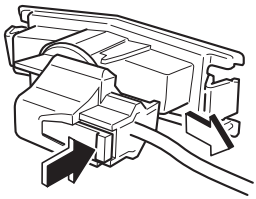


2. ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
3. 電球を取り換えます。
4. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

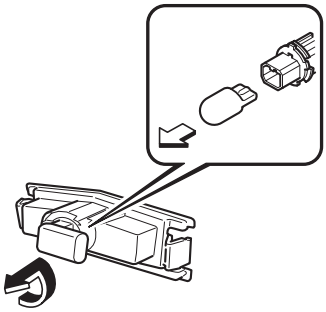
番号灯



1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、ランプ本体を取りはずします。



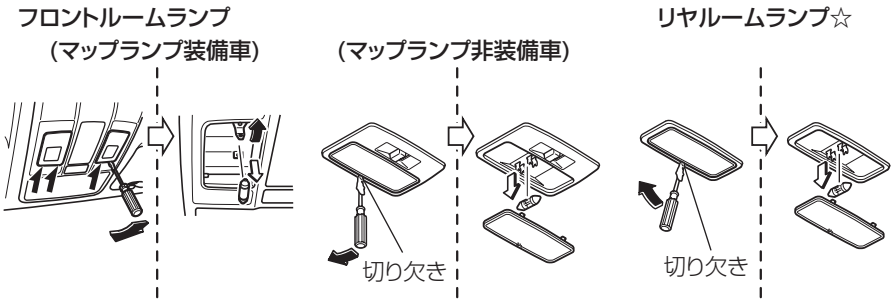
2. ツメを押し、コネクターをはずします。



3. ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4. 電球を取り換えます。
5. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

フロントルームランプ、リヤルームランプ グレード/仕様別装備

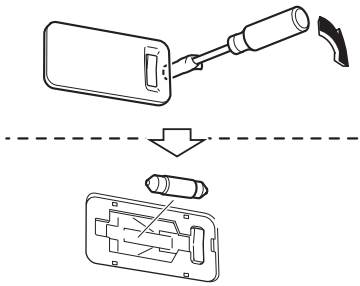
1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
2. 電球を取りはずします。



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

3. 電球を取り換えます。
4. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

ラゲッジルームランプ



1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
2. 電球を抜き取ります。
3. 電球を取り換えます。
4. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

電池を交換するときは

⚠注意

必ず守る **電池の＋側と－側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。**

禁 止 **電池を交換するときは内部回路や電極に触れたり、電極を曲げたりしないように注意してください。また内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。**

必ず守る **電池を交換してもキーが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。**

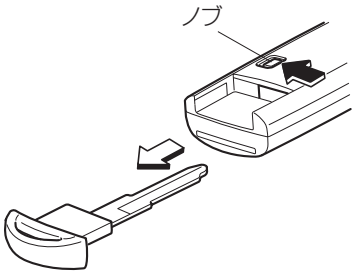
キー

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

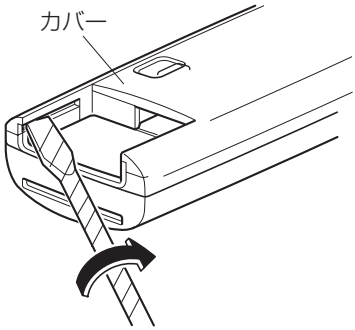
- エンジンをきったときにメーター内の KEY 表示灯 (緑) が点滅する
- キーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

電池交換のとき、キーが破損するおそれがあるため、マツダ販売店での交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

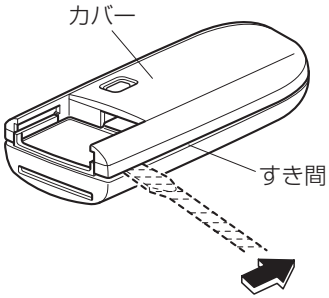
電池の規格 : リチウム電池 CR2025



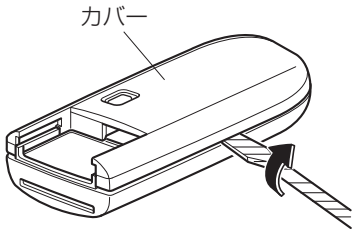
1. ノブを押したまま、補助キーを引き出します。



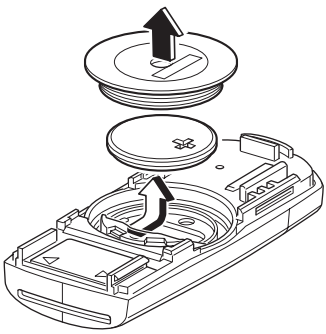
2. 保護テープを巻いたマイナスドライバーなどを矢印の方向にまわし、カバーを少し開けます。



3. 保護テープを巻いたマイナスドライバーなどをすき間に差し込み、矢印の方向にスライドさせます。

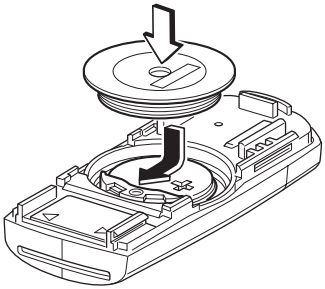


4. マイナスドライバーなどを矢印の方向にまわしてカバーを取りはずします。

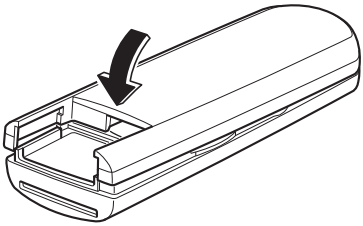


5. キャップをはずして、電池を取り出します。

電池交換



6. 新しい電池の＋側を上にして差し込み、キャップをかぶせます。



7. カバーを取り付けます。
8. 補助キーを差し込みます。

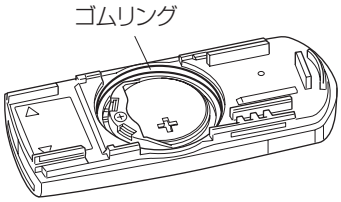
⚠注意

禁 止

ゴムリングを傷つけないようにしてください。

必ず守る

ゴムリングが外れた場合は、新しい電池を入れる前にゴムリングを取り付けてください。



外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのプラスチックを使用しているランプ類は、コンパウンド(みがき粉)入りのワックスを使用しないでください。
- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。
  - 海岸地帯を走行したとき。
  - 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
  - ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
  - コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
  - 泥、ほこりが著しく付いたとき。
  - 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

洗車するとき

水洗いするとき

1. 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取ってください。

⚠注意

オートワイパー装備車は、ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。

運転席 / 助手席側ワイパーアームを立てるときは、運転席側のワイパーアームから立ててください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じるおそれがあります。

エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。

洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。

自動洗車機を使用するとき

- ドアミラーを格納してください。
- アンテナを取りはずしてください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーがひっかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入るおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

ワックスの使用について

- コンパウンド (みがき紛) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについた油膜を取るときは純正ガラスクリーナーを使用してください。
ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。

⚠注意

必ず守る

熱線を損傷するおそれがあるため、熱線にそってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

フロントガラスの油膜をとるときは

フロントガラスに油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

アルミホイールの手入れ グレード/仕様別装備

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

⚠注意

禁 止

中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。
変色・シミの原因となります。

知識

アルミホイールを洗うときは

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。
- **(16 インチホイール)**
  アルミホイールが白っぽくなり光沢がなくなったときは、コンパウンド (みがき粉) なしのワックスを使用してください。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗装はがれなどの原因となります。すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗装の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

⚠警告

禁止

室内に水をかけない。

オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

知識

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

次のような場合は、すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
そのままにしておくと変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になったり、汚れが落ちにくくなります。

- 飲み物や芳香剤などをこぼしたとき
- 油脂類が付着したとき
- 汚れがあるとき

シートベルトの手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤（約 5%）をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

⚠警告

必ず守る **シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。**

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。**

有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなることがあります。

ビニールの手入れ

ブラシや掃除機を使用してビニールのほこりや汚れを落としてください。
革・ビニール用クリーナーを使用してビニールの汚れを落としてください。

布張り部分の手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤（約 5%）をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

革張り部分の手入れ グレード/仕様別装備

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除きます。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤（約 5%）をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
4. 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

- 天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷が分かる場合があります。
- 品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
- 次のような場合は、早めに手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと早く摩耗したり、カビやシミなどの原因になります。
  - 砂、ほこりなどが付いたとき
  - ハンドクリームなどの油分が付いたとき
  - 化粧品、整髪料などのアルコール類が付いたとき
- 革張り部分がぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
- 直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
- ビニール製品を長時間、革張り部分の上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

樹脂部品の手入れ

注意

禁止

つや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

インストルメントパネル上面の手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイの手入れ グレード/仕様別装備

コンバイナーおよびミラー表面はコーティングされています。手入れをするときは、硬い布、表面が粗い布、洗剤などは使用せず、メガネ拭きのようなきめの細かい、やわらかい布をお使いください。
薬剤などが付着したときは、すぐにふき取ってください。コンバイナーおよびミラーが破損したり、表面のコーティングが傷ついたりするおそれがあります。

車の手入れ

パネルの手入れ

パネルが汚れたときは、きれいな水にひたして固くしぼったやわらかい布などで軽くふき取ってください。
特に汚れが気になるときは、次の方法で手入れを行なってください。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

光沢のあるパネル、メッキ部分などの金属部分がある場合は、傷がつきやすいので、特に注意して手入れを行なってください。

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
→ 571ページ「エンジンオイル」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。
バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	凍結温度
30%	− 16° C
50%	− 37° C

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。
冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→ 489ページ「ウォッシャー液の補充」

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

⚠警告

必ず守る **タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。**

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

195/55R16 87V タイヤ装着車にはタイヤチェーンを装着することができません。タイヤチェーンを使用するときは、前後輪とも 185/60R16 86 または 185/65R15 88 タイヤに交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみて手順を理解しておきましょう。
→518ページ「タイヤチェーンの取り付け」

タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは 4WD 車も前輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

⚠注意

必ず守る **標準タイヤのみタイヤチェーンを装着できます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、タイヤチェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。**

必ず守る **純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。**

禁 止 **積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。**
また、4WD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下で走行してください。30km/h以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
- ホイールキャップ装着車は、キャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。
- 195/55R16 87V タイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、ボディーなどに干渉し傷をつけることがあるため装着できません。タイヤチェーンを使用するときは、前後輪とも 185/60R16 86 または 185/65R15 88 タイヤに交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- アルミホイール装着車にタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

夏にそなえて

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

環境保護のために

廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガスを使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。

5 トラブルが起きたら

故障したとき 522
路上で動けなくなったとき....522
スタックしたとき....523
踏切内で動けなくなったとき....524

緊急用具の取り扱い 525
発炎筒....525
工具、ジャッキの格納場所....526
ジャッキの取り扱い....527

パンクしたとき 531
タイヤパンク応急修理キット....531

バッテリーがあがったとき 540
バッテリーあがりについて....540

エンジンが始動しないとき 544
燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 1.5)....544

オーバーヒートしたとき 545
オーバーヒートについて....545

キーが作動しないとき 547
キー一時停止機能....547

けん引について 548
けん引してもらうとき....548
固定用フックについて....551

万一事故が起きたとき 552

警告灯 / 表示灯 553
警告灯が点灯、点滅したときは....553
センターディスプレイにメッセージが表示されたときは....562

警報チャイム 564
チャイムがなったときは....564

リヤゲート 567
リヤゲートが開けられなくなったとき....567

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 569
アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき...569

路上で動けなくなったとき

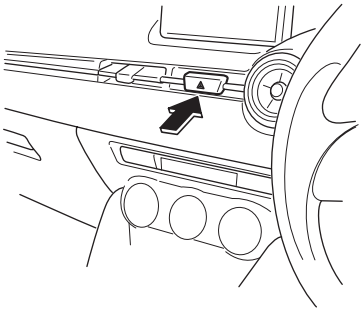
一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー / セレクトレバーを N に入れ、安全な場所まで押し出します。

⚠警告

必ず守る

万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止める。

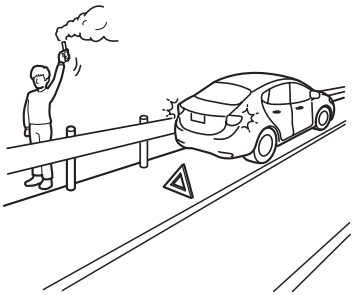
爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。



1. 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。
2. 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。

   → 525ページ「発炎筒」

   - 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務づけられています。
   - 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。



3. 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。
4. 安全を確保した後、救援を求めます。

   故障の修理などお困りの際はマツダ販売店に連絡してください。

知識

停止表示板 (停止表示灯) について

停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

スタックしたとき

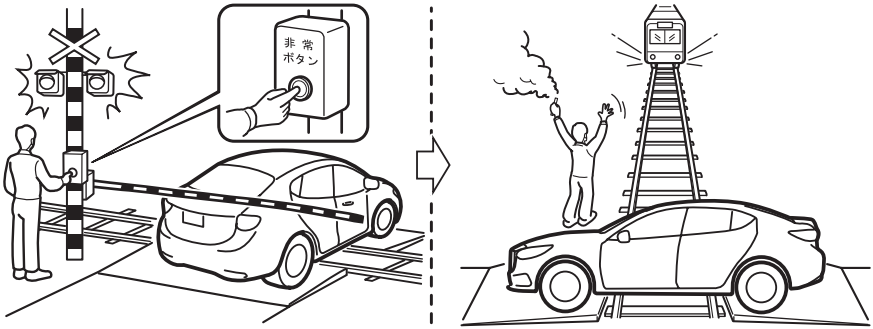
ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。

- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを D または R に入れて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー / セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき

1. 踏切の非常ボタンを押します。緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→ 525ページ「発炎筒」
2. 付近の人に救援を求めます。



エンストで動けなくなったとき

1. エンジンをかけ直します。
2. エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→ 525ページ「発炎筒」
3. 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー / セレクトレバーを N に入れ、安全な場所まで押し出します。

知識

緊急避難について

スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

発炎筒

⚠警告

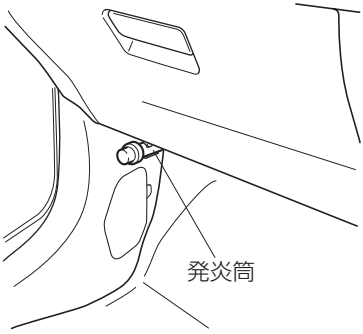
禁止 **油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。**
火災につながるおそれがあります。

禁止 **使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけない。**
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **お子さまにはさわらせない。**
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **トンネル内では発炎筒を使用しない。**
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について



事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

- 使用方法
- 使用上の注意事項
- 発炎時間
- 有効期限

工具、ジャッキの格納場所

⚠警告

必ず守る

車に搭載されているジャッキを使用する。

車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁 止

ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。

必ず守る

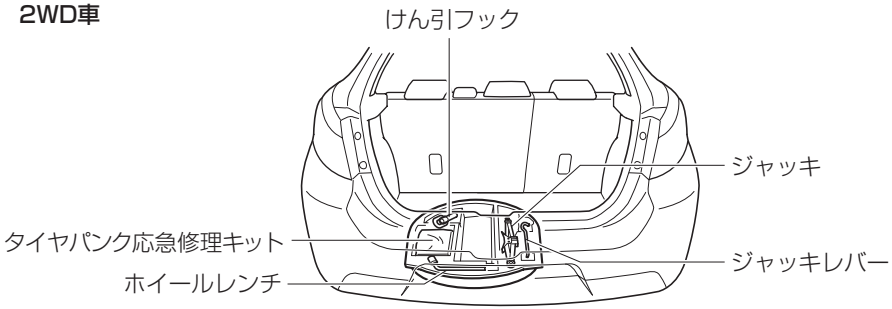
工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。

知識

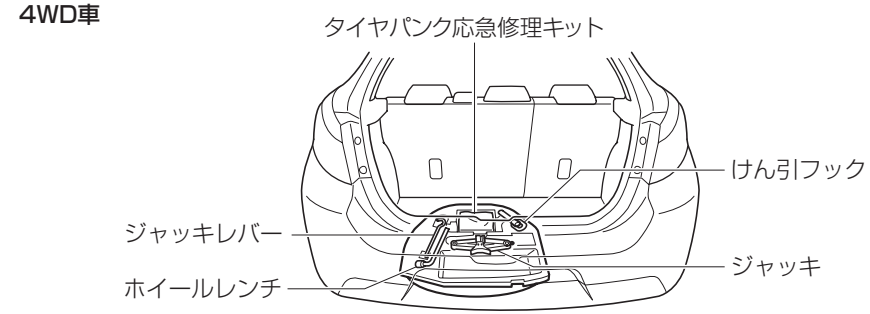
スペアタイヤはお客様のお車に標準で搭載されておりません。スペアタイヤの取り扱いについては、マツダ販売店にご相談ください。

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

2WD車



4WD車



ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

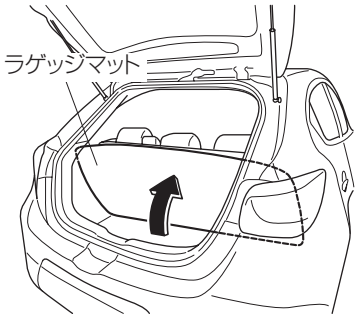
1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P にいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
→ 522ページ「路上で動けなくなったとき」
5. 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→ 526ページ「工具、ジャッキの格納場所」
6. 輪止めを用意します。

知識

輪止めについて

輪止めはお客様のお車に標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

ジャッキを取り出すとき



1. ラゲッジマットをめくります。
2. ジャッキを取り出します。

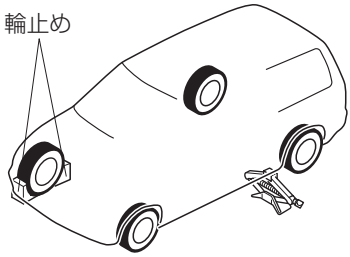
ジャッキアップするとき

警告

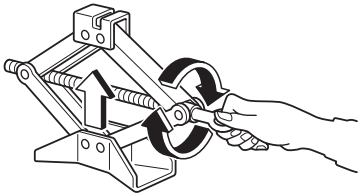
必ず守る

ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P にいれ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。

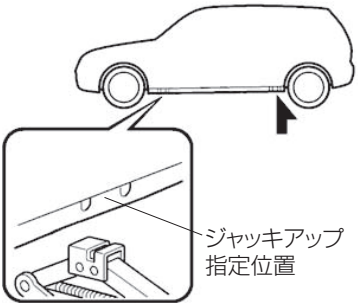
チェンジレバーが 1 または R、セレクトレバーが P にはいっていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。



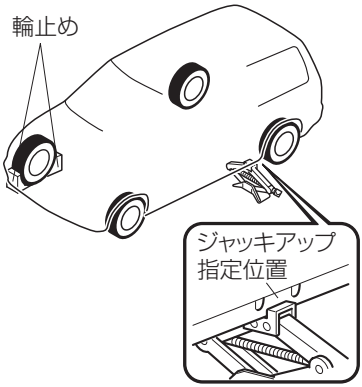
1. ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
   - 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
   - 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後
2. ジャッキを地面に置きます。



3. ジャッキの図の部分を手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



4. ジャッキをジャッキアップ指定位置（目印となるふくらみの間）の中央に直角にセットします。



5. ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置（目印となるふくらみの間）の中央にジャッキがはまっていることを確認します。

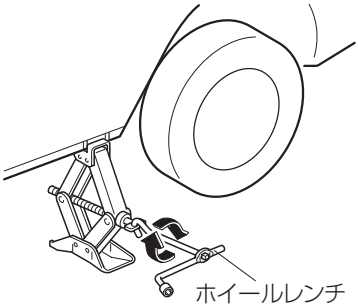
⚠警告

禁止

ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れない。

車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

6. ジャッキにジャッキレバーをかけ、ジャッキレバーにホイールレンチを組み付けます。



7. タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。

⚠警告

禁止 **必要以上にジャッキアップしない。**

車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけない。**

ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **ジャッキアップした車の下には絶対にはいらない。**

万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **人を乗せたままジャッキアップしないでください。**

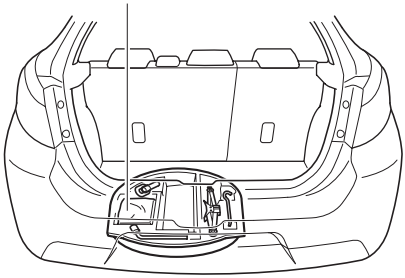
ジャッキを格納するとき

1. ジャッキを取り出すときと逆の手順で格納します。

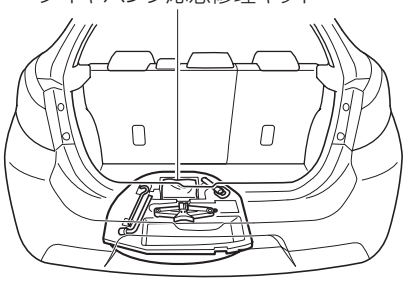
タイヤパンク応急修理キット

本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤに刺さった釘やネジなどを抜かず、応急修理してください。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。

2WD車



4WD車



タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。

修理剤

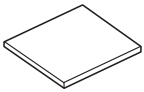
注入ホース

エアコンプレッサー

予備バルブコア

コアまわし

速度制限シール


取扱説明書

⚠警告

必ず守る **万一誤飲したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。**

修理剤を誤飲すると健康に害があります。

必ず守る **修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄する。**

それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

パンクしたとき

⚠警告

禁止 **お子さまには修理剤をさわらせない。**

誤って使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **天然ゴムに対するアレルギーを有する人は修理剤に触れない。**

アレルギー症状を発症する可能性があります。

知識

修理剤の使用について

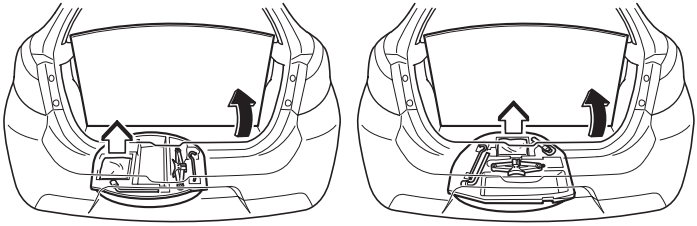
- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店またはJAF などに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限がきれているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - パンクしたまま走行し、タイヤ側面が損傷しているとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールやバルブが破損しているとき
  - タイヤが 2 本以上パンクしているとき

タイヤパンク応急修理キットの使いかた

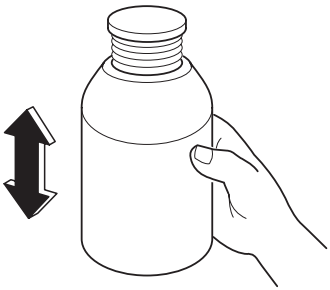
1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。

5. 人や荷物を降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

2WD車　　4WD車



6. 修理剤のボトルをよく振ります。



⚠ 警告

必ず守る

注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。

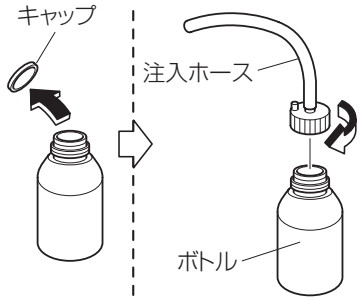
注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、衣服などに付着すると取れないおそれがあります。

知識

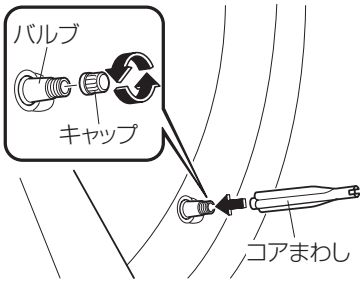
修理剤の性質について

0° C 以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。
車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。

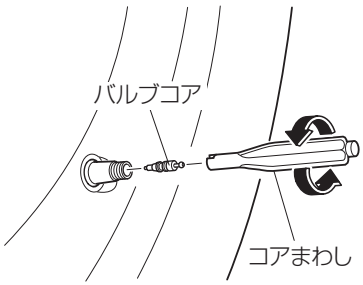
パンクしたとき



7. ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。



8. パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。



9. コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。

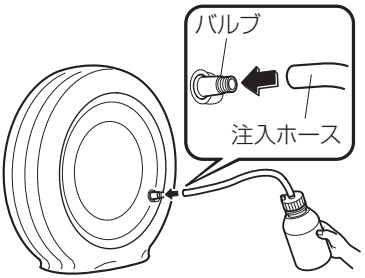
⚠注意

必ず守る

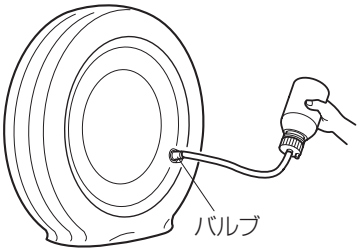
バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

知識

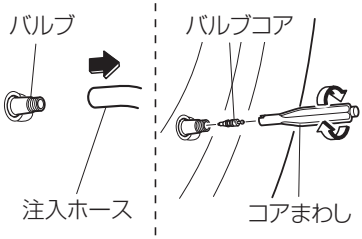
バルブコアは汚れないように保管してください。



10.注入ホースをバルブに差し込みます。



11.ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤をすべてタイヤの中に注入します。



12.注入ホースをバルブから引き抜きます。

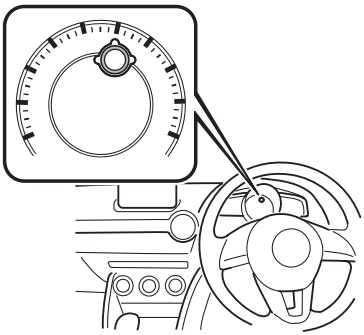
13.コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブコアを取り付けます。

14.残った修理剤が漏れないようにするために、注入ホースをタブに取り付けます。

知識

修理剤の回収について

注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または修理の際に使用済み修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。



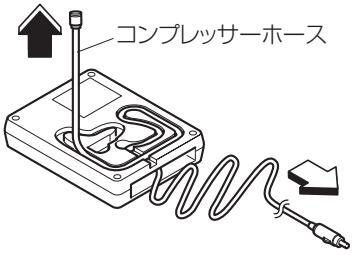
15.運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。

警告

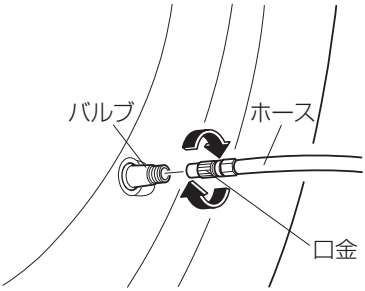
禁止

ハンドルのパッド部に速度制限シールを貼らない。

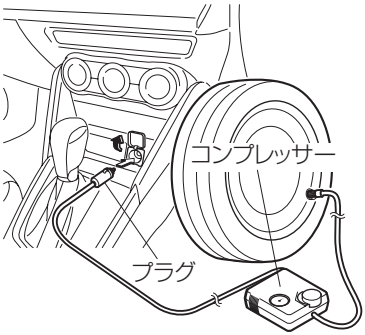
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。



16.エアコンプレッサーからコンプレッサーホースと電源プラグを引き出します。



17.エアコンプレッサーのホースの口金を右にまわしてバルブに取り付けます。



18.エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションを ACC にします。
→ 468ページ「電源ソケット」

⚠注意

必ず守る

電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。

19.エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

知識

空気圧の調整について

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼り付けられているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。
- 10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

20. 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースの口金を左にまわしてバルブから抜きます。

21. バルブキャップを取り付けます。

22. 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、ただちに走行を始めます。

注意

必ず守る

80km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80km/h 以上の速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

23. 10 分間もしくは 5km 程度走行後に手順 17 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を確認します。適正空気圧より低下していたら、手順 18 の作業から再度行ないます。

警告

禁 止

空気圧が 130kPa (1.3kgf/cm^2) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店または JAF などに連絡する。

本修理キットによる応急修理はできません。

禁 止

手順 17 ～ 23 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。

マツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠注意

必ず守る **タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。**

24. 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理 · 再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

応急修理をしたタイヤとホイールは

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早く新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理 · 再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤の有効期限について

修理剤には有効期限があります。有効期限がきれたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限がきれる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。

⚠警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

必ず守る

必ず保護メガネを着用する。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

必ず守る

バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、バッテリー液をこぼさない。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

必ず守る

絶対に火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

必ず守る

換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわない。また、充電中はバッテリーに近づかない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

⚠警告

必ず守る

ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検する。

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

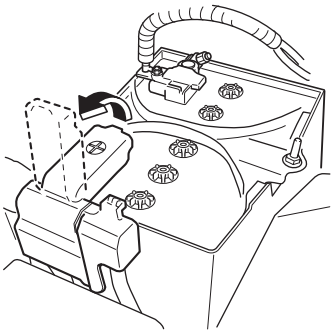
処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売のブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。
自車と同じ 12V バッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

⚠注意

必ず守る

ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

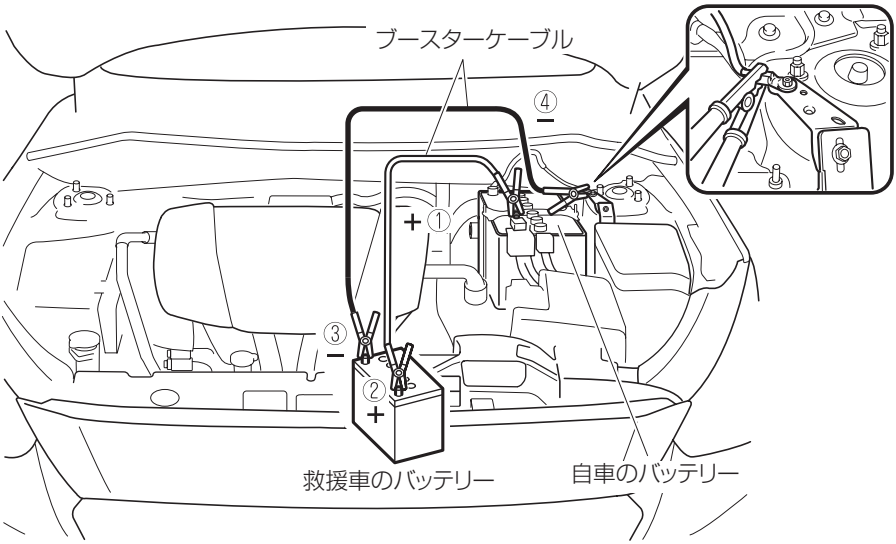


1. 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。
2. ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認します。
3. バッテリーキャップを取りはずします。

バッテリーがあがったとき

4. 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
   ブースターケーブルを接続する前に各バッテリーの端子（＋、－）の位置を確認してください。

   - **1本目**
     ①自車のバッテリーの＋端子
     ②救援車のバッテリーの＋端子
   - **2本目**
     ③救援車のバッテリーの－端子
     ④図で表示の箇所（アースを取る）



⚠警告

禁止

バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、火花の発生を防ぐため次の点を必ず守ってください。

- **④の接続は自車バッテリーの－端子に接続しないでください。**
- **ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、＋端子がボディーや－端子に触れないように十分注意してください。**

5. 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。

6. 自車のエンジンをかけます。約 3 分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。

⚠警告

禁止

充電中はバッテリーに近づかない。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

7. ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。
8. バッテリーキャップを取り付けます。
9. 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

バッテリーがあがりやすいときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 1.5)

⚠注意

連続して 30 秒以上エンジン始動の操作をしないでください。 スターターを損傷するおそれがあります。
エンジンが始動しない場合、10 秒待ってから再度エンジン始動を試みてください。

燃料切れを起こした場合、少なくとも 10L の燃料を補給してからエンジンを始動してください。燃料切れが起きると燃料系統に空気が入り、エンジン始動に時間がかかることがあります。燃料を補給したあとでエンジンが始動しない場合、エンジン始動を数回試みてください。それでも始動しないときはマツダ販売店へ連絡してください。

オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯（赤）が点灯し、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠警告

禁止

エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。

エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。

禁止

エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。

エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。

特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

オーバーヒートしたとき

処置方法

1. 安全な場所に車を止めます。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。

   エンジンルームから蒸気が出ているときは
   エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
   エンジンルームから蒸気が出ていないときは
   エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。
   クーリングファンが作動していることを確認し、高水温警告灯 (赤) が消灯したらエンジンを止めます。

⚠注意

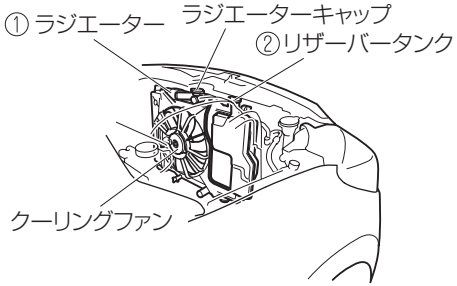
必ず守る

クーリングファンが作動していないときは、クーリングファンの故障が考えられます。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

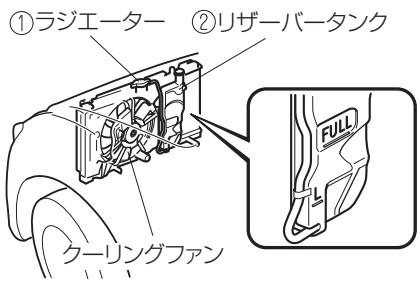
3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。冷却水量が不足しているときは①ラジエーター②リザーバータンクの順に冷却水を補充してください。

   冷却水がない場合は一時的に水を補充してください。
   補充後はキャップを確実に取り付けてください。

SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5



SKYACTIV-D 1.5



4. 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受けてください。

キー一時停止機能

キーが車内にあるとき、車内に置いてあるキーの機能 (プッシュボタンスタートでのエンジン始動、リクエストスイッチの操作 (アドバンストキーレス機能装備車)) が盗難防止のため、一時停止する場合があります。
車内から一時停止したキーのアンロックスイッチを押すと復帰します。

けん引してもらうとき

けん引はできるだけマツダ販売店または JAF などに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠警告

必ず守る

長い下り坂を降りるときは、レッカー車でけん引する。

ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度 30km/h 以下、走行距離は 30km 以内にしてください。

必ず守る

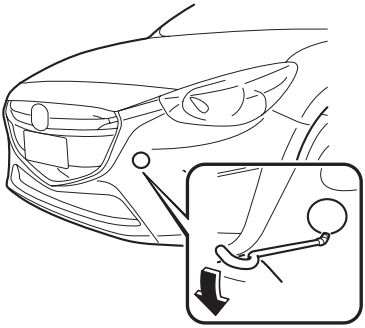
4WD 車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地状態で搬送してください。駆動装置の故障時は、トレーラーなどに搭載して搬送してください。前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

やむをえずロープでけん引してもらうときは、車両の前側にあるけん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

1. けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→ 526ページ「工具、ジャッキの格納場所」

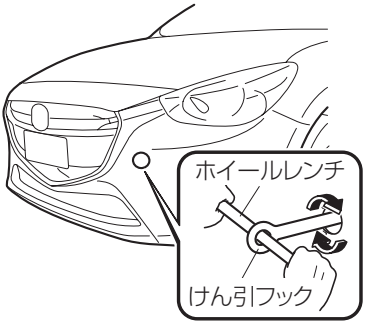


2. ジャッキレバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。

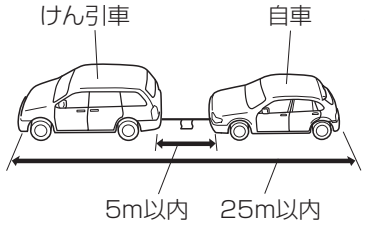
⚠注意

必ず守る

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。



3. ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



4. けん引ロープをフックにかけます。
5. ロープは 5m 以内にして、中央に 0.3m 平方 (0.3m × 0.3m) 以上の白い布を必ずつけてください。
6. けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー / セレクトレバーを N に入れます。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ACC にします。

けん引について

⚠警告

必ず守る

やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

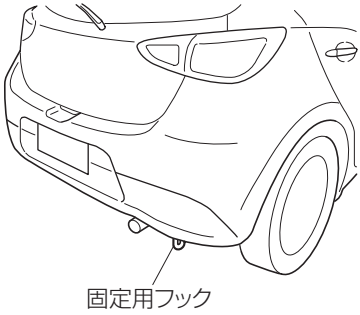
⚠注意

必ず守る

けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

7. パーキングブレーキを解除します。
8. けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

固定用フックについて



リヤバンパー下部の運転席側のフックは車両輸送時の固定用フックです。他車をけん引することはできません。
ただし、自車が雪などでスタックして走行できなくなったとき、緊急用として他車に引っ張り出してもらうときには使用できます。

⚠注意

必ず守る

緊急用として使用するときは次の点に注意してください。固定用フックや車体を損傷するおそれがあります。

- **車両の横方向に荷重がかからないよう、車両の後方にまっすぐ引っ張り出してください。**
- **固定用フックを使用したとき、バンパーを損傷するおそれがあります。**
- **金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。**

万一事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

事故がおきたら

軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

警告灯が点灯、点滅したときは

警告灯が点灯 / 点滅した場合は、それぞれの方法で対処してください。消灯すれば問題ありませんが、消灯しない場合、または再度点灯 / 点滅する場合はマツダ販売店にご相談ください。
マツダコネクト装備車は警告の詳細を確認することができます。

1. 警告灯点灯時にホーム画面の を選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 「車両ステータス」を選択します。
3. 「ウォーニング」を選択すると、現在発生している警告が表示されます。
4. 確認したい警告を選択すると、警告の詳細が表示されます。

ただちに安全な場所に停車する

次の警告灯が点灯したときはシステムの故障のおそれがあります。安全な場所に停車しマツダ販売店に連絡してください。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件

ブレーキ警告灯	• パーキングブレーキをかけているとき点灯し、解除すると消灯します。
	• 次のようなときは点灯し続けます。
	ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。
	  • ブレーキ液が不足しているとき。
	  • ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。
	⚠警告
	禁止 **ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。**
	ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。
	必ず守る **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。**
	急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件
 充電警告灯	エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯します。 ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。 **⚠警告** 禁 止 **充電警告表示が点灯したまま走行しない。** **エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。**
 オイル警告灯	次のようなときに点灯します。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。 ● エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下したとき ● **(SKYACTIV-D 1.5)** エンジンオイルが異常に劣化したとき 点灯したときは、エンジンオイルの量を点検し、不足しているときは補充してください。 → 487ページ「エンジンオイルの点検、補充」 エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。
 (赤) 高水温警告灯	エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると点灯します。 **点灯したときは** オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。 → 545ページ「オーバーヒートについて」 **点滅したときは** エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件
 電動パワーステアリング警告灯	エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると点灯 / 点滅します。 点灯 / 点滅したときは安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。 エンジンを再始動した後でも点灯 / 点滅するときは、マツダ販売店に連絡してください。 **知識** ● 点灯 / 点滅したときは電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ハンドル操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。 ● 停車中または低速走行時にハンドル操作を繰り返すと、システム保護のためハンドル操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ハンドル操作をしないでください。しばらくするともとにもどります。

マツダ販売店で点検を受ける

次の警告灯または表示灯が点灯 / 点滅したときは、システムになんらかの故障または異常のおそれがあります。マツダ販売店に連絡し、点検を受けてください。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件
 マスター警告灯	**(マツダコネクト装備車)** システムに異常があると点灯します。 センターディスプレイで点灯理由を確認してください。 → 553ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」 **(マツダコネクト非装備車)** 次のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● バッテリマネジメントシステムに異常があるとき。 ● ブレーキスイッチに異常があるとき。 ● **(SKYACTIV-D 1.5)** • エンジン油圧制御に異常があるとき • エンジンのタイミングチェーンに異常があるとき • グローバイヒーターに異常があるとき • 水冷式インタークーラーシステムに異常があるとき • ターボ装置に異常があるとき

警告灯 / 表示灯

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件
 ABS 警告灯	システムに異常があるときは点灯し続けます。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **⚠警告** **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。** **急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。** **知識** ABS 警告灯が点灯しているときは、ABS は作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。
 エンジン警告灯	エンジン制御システムに異常があると点灯 / 点滅し続けます。 高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。 点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯 / 点滅したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。
i-stop (橙) (点滅) i-stop 警告灯	システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。
i-ELOOP (橙) i-ELOOP 警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。
AT オートマチックトランスミッション警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件
 (点灯) TCS/DSC 作動表示灯	次のようなときは DSC、TCS、またはヒルローンチアシスト (HLA) の異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。 ● 走行中に点灯したとき。
4WD 4WD 警告灯 グレード/仕様別装備	**点灯するとき** 次のようなときに点灯します。システムの異常が考えられため、マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 4WD システムに異常があるとき ● 前後輪のタイヤサイズが大きく異なるとき **点滅するとき** 次のようなときに点滅します。安全な場所に停車し、消灯したことを確認して発進してください。点滅し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。 ● ディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなったとき ● ぬかるみから脱出しようとする場合など前後輪のタイヤに大きな回転差が生じたとき
 エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯	次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき。 ● 点灯 / 点滅し続けるとき。 **⚠警告** **エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しない。** **衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。**

警告灯 / 表示灯

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件
 (赤) (点灯) KEY 警告灯	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **⚠ 注意** **同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅している場合は、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
 LED ヘッドランプ警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると点滅します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 (橙) アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) 警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 悪天候 (雨、霧、雪のときなど) やフロントガラスが汚れているとき、曇っているときなどフォワードセンシングカメラ (FSC) の視界が悪い場合、アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) 警告灯が点灯することがありますが、故障ではありません。
 車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 悪天候 (雨、霧、雪のときなど) やフロントガラスが汚れているとき、曇っているときなどフォワードセンシングカメラ (FSC) の視界が悪い場合、車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯が点灯することがありますが、故障ではありません。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件
 ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯 グレード/仕様別装備	次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき ● ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を作動可能な状態にしても点灯し続けるとき **知識** 悪天候、バンパーの汚れ等によりレーダー感度が一時的に低下し点灯することがありますが、故障ではありません。
 (橙) マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告灯 グレード/仕様別装備	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が ON のとき、システムに異常があると点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。

処置する

それぞれの処置方法で警告灯が消灯することを確認してください。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
 燃料残量警告灯	電源ポジションが ON のとき、燃料が少なくなると点灯します。 **知識** • 燃料タンク内の燃料残量が 9L 前後になったときに点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。 • 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。	燃料を補給してください。
 シートベルト警告灯	**点灯するとき** 電源ポジションが ON のとき、運転席 / 助手席シートベルトを着用していないと点灯します。 **点滅するとき** 運転席 / 助手席シートベルトを着用しないまま約 20km/h 以上になるとしばらくの間点滅します。	シートベルトを着用してください。
 ウォッシャー液残量警告灯 グレード/仕様別装備	電源ポジションが ON のとき、ウォッシャー液が少なくなると点灯します。	ウォッシャー液を補充してください。

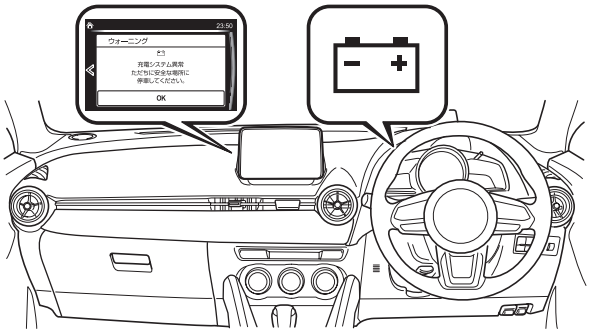
表示 / 名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
 半ドア警告灯	いずれかのドア / リヤゲートが確実に閉まっていないときに点灯します。	ドア / リヤゲートを確実に閉めてください。
 （橙） スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告灯 グレード/仕様別装備	フロントガラスが汚れているとき、フロントのエンブレムが汚れているとき、またはシステムに異常があるときに点灯します。	**(マツダコネクト装備車)** センターディスプレイで点灯理由を確認してください。 → 553ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」 点灯理由がフロントガラス、またはフロントのエンブレムの汚れのときは、フロントガラス、またはフロントのエンブレムを清掃してください。 他の理由のときはマツダ販売店で点検を受けてください。 **(マツダコネクト非装備車)** フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃してください。清掃しても点灯したままのとき、または汚れていないのに点灯しているときはマツダ販売店で点検を受けてください。

表示 / 名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
 （赤） （点滅） KEY 警告灯	キーの電池が切れたとき。	電池を交換してください。 → 506ページ「電池を交換するときは」
	キーが作動範囲内にないとき。	キーを作動範囲に入れてください。 → 23ページ「アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード/仕様別装備 」 → 25ページ「キーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード/仕様別装備 」
	キーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき。	
	キーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき。	キーに類似した他社のキーを作動範囲外に出してください。
	電源ポジションを OFF にせずに、キーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき。	キーを車内に戻してください。

センターディスプレイにメッセージが表示されたときは

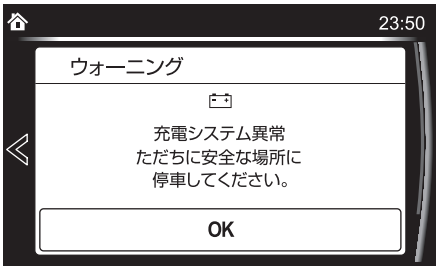
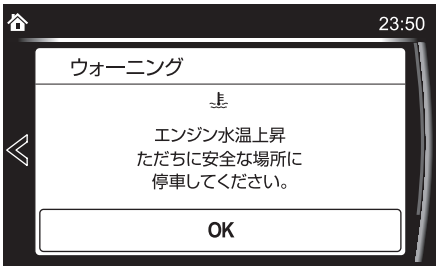
センターディスプレイにメッセージが表示されたときは、落ち着いて表示されたメッセージの方法で処置してください。

（表示例）



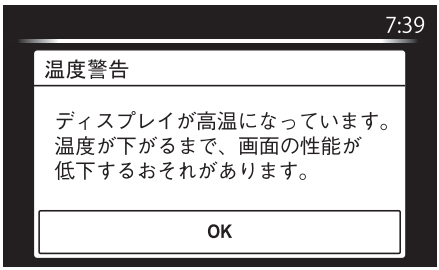
ただちに安全な場所に停車する

次のメッセージが表示されたときはシステムの故障のおそれがあります。安全な場所に停車しマツダ販売店に連絡してください。

表示	表示条件
	充電装置に異常があると表示します。
	エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに表示します。

表示内容を確認する

次のときに表示します。

表示	表示条件 / 処置方法
	センターディスプレイ周辺温度が高温状態となっているときに表示します。 車室内の温度を下げる、直射日光を避けるなどセンターディスプレイ周辺温度を下げることをおすすめします。

チャイムがなったときは

システムの故障や、使用上の注意が必要な場合に警報チャイムでお知らせします。

チャイム	現象	確認してください
ランプ消し忘れ防止	電源ポジションを OFF にして運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り続ける	ランプを点灯させたままになっていないか
エアバッグ警告 / プリテンショナー警告	約 35 分のあいだに、毎分 6 秒間チャイムが鳴り続ける	**⚠警告** **禁止 エアバッグ警告チャイム / プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しない。** **衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。**
シートベルト着用忘れ	車速が約 20km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴る	運転席 / 助手席シートベルトの着用を確認する。着用すると鳴り止む。
電源オフ忘れ警報	運転席ドアを開けたときに、車内のチャイムが鳴り続ける	電源ポジションを OFF にしているか

チャイム	現象	確認してください
キー車外持ち出し警報（アドバンストキーレス機能非装備車）	すべてのドアを閉めたときに車内のチャイムが 6 回鳴り、メーター内の KEY 警告灯（赤）が点滅し続ける	電源ポジションを OFF にせずにキーを車外に持ち出していないか
キー車外持ち出し警報（アドバンストキーレス機能装備車）	すべてのドアを閉めたときに車外のチャイムが 6 回鳴ったあと、車内のチャイムが 6 回鳴り、メーター内の KEY 警告灯（赤）が点滅し続ける	
リクエストスイッチ不作動警報	キーを携帯してドアのリクエストスイッチを押すと、車外のチャイムが約 2 秒間鳴る	いずれかのドア、リヤゲートが開いていないか
		電源ポジションを OFF にしているか
リヤゲート内キー閉じ込み警報（アドバンストキーレス機能装備車）	フロントドアを施錠した状態でリヤゲートを閉めたときに、車外のチャイムが約 10 秒間鳴る	キーを荷室に置いていないか
キー車内閉じ込み警報（アドバンストキーレス機能装備車）	キーを携帯して施錠しようとしたときに、車外のチャイムが約 10 秒間鳴る	キーを車内に置いていないか
i-stop 警告	アイドリングストップ中にチャイムが鳴り、メーター内の i-stop 警告灯（橙）と他の警告灯も点灯した	シートベルトをはずして運転席ドアを開けていないか
	アイドリングストップ中にチャイムが鳴る	運転席ドアが開いていないか
電動ハンドルロック警告	プッシュボタンスタートを押した後、チャイムが鳴る	ハンドルがロックしていないか
衝突警報 / 接近警報 グレード/仕様別装備	前方車や後方の障害物と衝突する可能性がある場合、警報音が断続的に鳴る	前方車や後方の障害物に近づきすぎていないか

警報チャイム

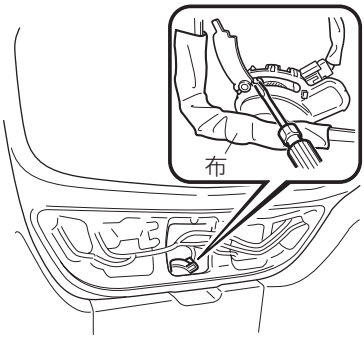
チャイム	現象	確認してください
AT 誤発進警報 (オートマチック車) グレード/仕様別装備	前方車や障害物と衝突する可能性がある場合、警報音が鳴る	アクセルペダルを踏み間違えていないか
電動パワーステアリング警告	チャイムが鳴ると同時に電動パワーステアリング警告灯が点灯 / 点滅した	安全な場所に停車し、エンジンを停止する。再始動後にも吹鳴するときはマツダ販売店で点検を受ける
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警報 グレード/仕様別装備	**前進時 (ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 作動)** ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯点灯側へ方向指示器のレバーを操作すると鳴る	車両後方の、移動する車両や二輪車などを確認する
	後退時 (リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) 作動) 車両後方の左右から接近してくる車両と衝突する可能性がある場合、鳴る	
リバースポジション (オートマチック車)	電源ポジションが ON のとき、セレクトレバーを R にすると鳴る	R 以外にすると鳴り止む 車外には聞こえないので注意する
車線逸脱警報 グレード/仕様別装備	車線から逸脱する可能性があると車線逸脱警報システム (LDWS) が判断したときに鳴る	車線から逸脱していないか

確認してもチャイムが鳴り止まないときは、マツダ販売店に連絡してください。

リヤゲートが開けられなくなったとき

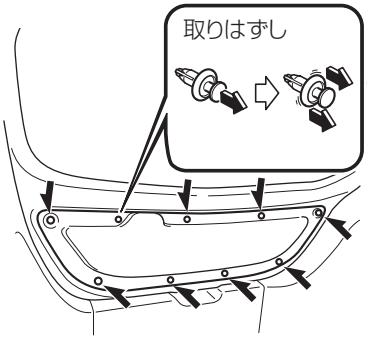
バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リヤゲートの解錠ができず開けられなくなったときは応急処置として次の方法で開けることができます。

⚠注意

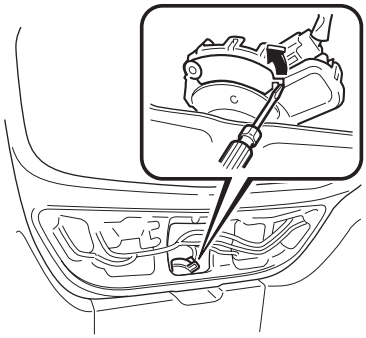


必ず守る **作業を行なうときは、エッジに布等をあてがってから行なってください。エッジで手を傷つけたり思わぬ事故につながるおそれがあります。**

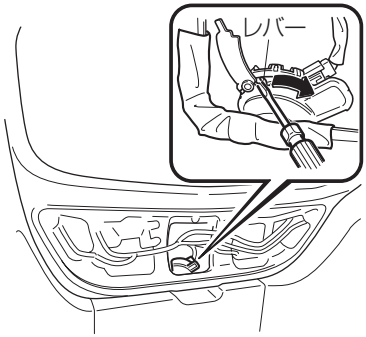
必ず守る **ドライバーでの作業時は慎重に行なってください。周辺を傷つけたり、部品を損傷するおそれがあります。**



1. リヤシートを倒します。
→ 42ページ「荷室を作るとき」
2. ファスナーを取りはずしてリヤゲートトリムをはずします。



3. ドライバーで内側のカバーを開きます。



4. ドライバーでレバーを右側に動かして解錠します。

応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき

アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないときは電源ポジションを OFF にして、再度エンジンを始動させてください。エンジンを始動させても作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料、オイル、液類

燃料

使用燃料については、71ページ「給油するとき」もあわせてお読みください。

項目			サービスデータ
使用燃料	SKYACTIV-G 1.3		無鉛レギュラーガソリン
	SKYACTIV-G 1.5		無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン
	SKYACTIV-D 1.5		低硫黄軽油
タンク容量（参考値）	SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5		44 L
	SKYACTIV-D 1.5	マニュアルトランスミッション	35 L
		オートマチックトランスミッション	44 L

ディーゼル車の使用燃料について

ディーゼル車の使用燃料（軽油）は、外気温が低くなると凍結し、燃料パイプが詰まってエンジンの始動ができなくなるなど故障の原因になります。
寒冷地域に移動するときは、現地に着くまでに燃料の残量が 1/2 以下になるようにしておき、到着後はできるだけ早く寒冷地用の燃料を補給してください。

知識

フェリーを利用して寒冷地域に移動するときは、到着後すぐに寒冷地用の燃料を補給できるよう、乗船前の燃料の残量を 1/2 以下にしておいてください。

軽油の種類	使用限界の目安温度 *1
JIS 特 1 号	+5 ° C
JIS1 号	− 2.5 ° C
JIS2 号	− 7.5 ° C
JIS3 号	− 20 ° C
JIS 特 3 号	− 30 ° C

*1 使用条件や環境により多少異なります。

フューエルフィルター (SKYACTIV-D 1.5)

項目	サービスデータ
交換時期	60,000 km 走行ごと
水抜き時期	20,000 km 走行ごと

⚠注意

必ず守る

水抜き作業についてはマツダ販売店にご相談ください。水抜きをせずに走行を続けると、エンジンを破損するおそれがあります。

エンジンオイル

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。
交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。
寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

項目		サービスデータ	
交換時期	SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5	標準	15,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション *1	7,500 km または 6 か月ごと
	SKYACTIV-D 1.5	標準	10,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション *1	5,000 km または 6 か月ごと

燃料、オイル、液類

項目			サービスデータ
オイル グレード	SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5	純正モーターオイルゴールデン ECO SN[*2]	API SN/ILSAC GF-5、SAE 0W-20
		純正モーターオイルゴールデン SN	API SN/ILSAC GF-5、SAE 5W-30
		純正モーターオイルゴールデン SM	API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-20
	SKYACTIV-D 1.5[*3]	純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D[*4]	SAE 0W-20
			SAE 0W-30
		純正ディーゼルオイルエクストラ DL-1	JASO DL-1、SAE 5W-30

項目			サービスデータ
交換量（参考値）	SKYACTIV-G 1.3	オイルのみ	3.50 L
		オイルとオイルフィルター	3.80 L
	SKYACTIV-G 1.5	オイルのみ	3.90 L
		オイルとオイルフィルター	4.20 L
	SKYACTIV-D 1.5	オイルのみ	4.7 L
		オイルとオイルフィルター	5.1 L

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

*2 純正モーターオイルゴールデン ECO SN は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5 には、純正モーターオイルゴールデン ECO SN の使用を推奨します。

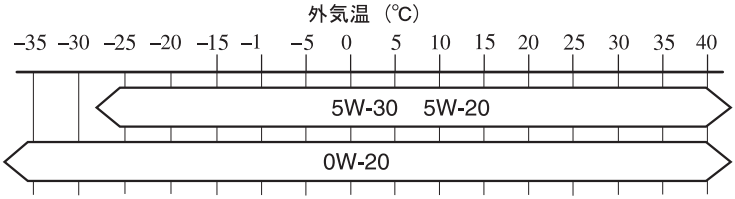
*3 表に記載されたエンジンオイルを使用してください。表に記載されていないエンジンオイルを使用すると、ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) の劣化が早くなります。
オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場、またはお客様自身で記憶値の初期化（オイルデータリセット）を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯が点灯したまま、または通常より早く点灯することがあります。
初期化（オイルデータリセット）手順については、次のページを参照してください。
→ 487ページ「エンジンオイルの点検、補充」

*4 純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D (0W-20) は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-D 1.5 には、純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D (0W-20) の使用を推奨します。

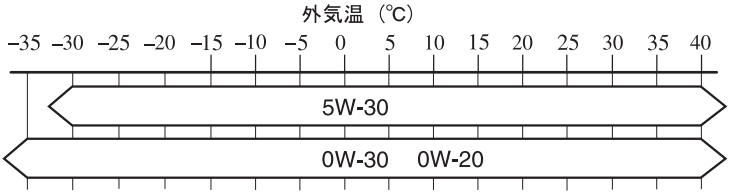
使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。

SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5



SKYACTIV-D 1.5



エンジンオイルフィルター

項目		サービスデータ	
交換時期	SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5	標準	15,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション *1	7,500 km または 6 か月ごと
	SKYACTIV-D 1.5	標準	10,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション *1	5,000 km または 6 か月ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

マニュアルトランスミッションオイル

項目		サービスデータ
推奨オイル		純正ロングライフギヤオイル SAE 75W-80 (GL-4)
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 1.3、 SKYACTIV-G 1.5	1.59 L
	SKYACTIV-D 1.5	1.64 L

オートマチックトランスミッションフルード

項目		サービスデータ
推奨フルード		純正 ATF FZ
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 1.3	7.2 L
	SKYACTIV-D 1.5	7.8 L

ディファレンシャルオイル (4WD 車)

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	無交換
	シビアコンディション *1	60,000 km 走行ごと
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1	
容量 (参考値)	0.35 L	

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

トランスファーオイル (4WD 車)

項目	サービスデータ
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1
容量 (参考値)	0.40 L

ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)

冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2 年ごと (初回は 3 年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)[*1]	100,000 km 走行 または 4 年ごと (初回は 180,000 km 走行 または 9 年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、 純正ロングライフクーラント (ゴールデン)[*1]

項目				サービスデータ
容量（参考値）	SKYACTIV-G 1.3	マニュアルトランスミッション		5.0 L
		オートマチックトランスミッション		5.2 L
	SKYACTIV-G 1.5	マニュアルトランスミッション		5.0 L
	SKYACTIV-D 1.5	エンジン	マニュアルトランスミッション	6.6 L
			オートマチックトランスミッション	6.8 L
		水冷式インタークーラー		2.0 L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント（ゴールデン）を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
タンク容量（参考値）	2WD 車	2.2 L
	4WD 車	3.5 L

ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	5.4 mm 以下
床板とのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})	106 mm 以上
フロアマットとのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})	86 mm 以上

パーキングブレーキ

項目	サービスデータ
引きしろ (操作力 98 N {10 kgf})	1 ～ 4 ノッチ

クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び (クラッチ油圧が立ちあがるまでのストローク)	8.2 mm 以下
床板とのすき間 (クラッチが切れたとき)	90 mm 以上
フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)	62 mm 以上

オルタネーターベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

エアクリーナーエレメント

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	50,000 km 走行ごと
	シビアコンディション *1	25,000 km 走行ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

スパークプラグ (SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5)

項目			サービスデータ
型式	SKYACTIV-G 1.3	CHAMPION	REA8WYPB4[*1]
	SKYACTIV-G 1.5	NGK	ILKAR7L11[*1]
		DENSO	ZC20HPR11[*1]

*1 SKYACTIV-G の最適な性能を発揮するためのスパークプラグです。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠注意

禁止

イリジウムプラグを使用しておりますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

バッテリー

項目			サービスデータ
型式	SKYACTIV-G 1.3、SKYACTIV-G 1.5		Q-85[*1]
	SKYACTIV-D 1.5	i-ELOOP 装備車	Q-85[*1]
		i-ELOOP 非装備車	S-95[*1]

*1 Q-85、S-95 はアイドリングストップ車用です。アイドリングストップシステムを正しく作動させるために、Q-85, S-95 を使用してください。

マツダ純正バッテリーの使用を推奨します。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

電球 (バルブ) の容量

電球 (バルブ)			W 数 (12 V 用)	規格 (UNECE[*1](SAE))
ヘッドランプ	ハロゲンヘッドランプ装備車	上向き (ハイビーム)/ 下向き (ロービーム)	60/55 W	H4 (H4)
	LED ヘッドランプ装備車	上向き (ハイビーム)	LED[*2]	— (—)
		下向き (ロービーム)	LED[*2]	— (—)
車幅灯	ハロゲンヘッドランプ装備車		5 W	W5W (—)
	LED ヘッドランプ装備車		LED[*2]	— (—)
フロントフォグランプ グレード/仕様別装備			LED[*2]	— (—)
リヤフォグランプ グレード/仕様別装備			21 W	W21W (7440)
前面方向指示灯 / 非常点滅灯			21 W	WY21W (7443NA)
側面方向指示灯 / 非常点滅灯			LED[*2]	— (—)
後面方向指示灯 / 非常点滅灯			21 W	WY21W (7443NA)
制動灯 / 尾灯			LED[*2]	— (—)
後退灯			16 W	W16W (921)
番号灯			5 W	W5W (—)
ハイマウントストップランプ			LED[*2]	— (—)
フロントルームランプ	マップランプ装備車		8 W	— (—)
	マップランプ非装備車		10 W	— (—)

電気部品 / 電球 (バルブ)

電球 (バルブ)	W 数 (12 V 用)	規格 (UNECE*1(SAE))
リヤルームランプ グレード/仕様別装備	10 W	— (—)
ラゲッジルームランプ	5 W	— (—)

*1 UNECE は United Nations Economic Commission for Europe (国連欧州経済委員会) の略です。

*2 LED は Light Emitting Diode の略で発光するダイオードです。

ヒューズ

→ 491ページ「ヒューズの受け持つ装置」

タイヤ / ホイールサイズ

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ		ホイール		
		サイズ	インセット（オフセット）	ピッチサークル直径
SKYACTIV-G 1.3	185/65R15 88S	15 × 5-1/2J	40 mm	100 mm
SKYACTIV-G 1.5	185/65R15 88S	15 × 5-1/2J		
	185/60R16 86H	16 × 5-1/2J		
	195/55R16 87V*1	16 × 5-1/2J		
SKYACTIV-D 1.5	185/65R15 88S	15 × 5-1/2J		
	185/60R16 86H	16 × 5-1/2J		

*1 車両に本来装着されている銘柄以外のタイヤは装着しないでください。タイヤがボディなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧

標準タイヤ

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
→ 484ページ「タイヤの点検」

タイヤサイズ		タイヤ空気圧	
		前輪	後輪
SKYACTIV-G 1.3	185/65R15 88S	260 kPa (2.6 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
SKYACTIV-G 1.5	185/65R15 88S		
	185/60R16 86H	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
	195/55R16 87V		
SKYACTIV-D 1.5	185/65R15 88S	260 kPa (2.6 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
	185/60R16 86H		

ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。

108N·m ～ 147N·m (12kgf·m ～ 14kgf·m)

ブレーキディスク、ブレーキドラムの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値、ブレーキドラムの摩耗限度値、およびそれぞれの測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

以下の機能の設定をお客様自身、またはマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
また、機能によっては、お客様自身で設定を変更できます。
変更できる機能および内容は、仕様によって異なります。

設定変更方法

①センターディスプレイの画面操作で設定を変更できます。
A:「マツダコネクトの設定」を参照してください (366ページ)。
B:「アクティブ・ドライビング・ディスプレイ グレード/仕様別装備 」を参照してください (139ページ)。
C:「燃費モニター グレード/仕様別装備 」を参照してください (126ページ)。
D:「インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示」を参照してください (144ページ)。

②車両のスイッチ操作などで設定を変更できます。
E:「キーによる施錠 / 解錠 (アドバンストキーレス機能装備車) 」を参照してください (27ページ)。

③マツダ販売店で設定を変更できます。

機能	内容	初期設定	変更内容	設定変更方法		
				①	②	③
安全装備						
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) (210ページ) グレード/仕様別装備	作動 / 非作動 *1	ON	ON/OFF	A	—	○
	警報チャイム音量 *2	大	大 / 小 / OFF	A	—	○
車間認知支援システム (DRSS) (215ページ) グレード/仕様別装備	作動 / 非作動 *1	ON	ON/OFF	A	—	○
	アクティブ・ドライビング・ディスプレイ内の前方車表示が橙色で点灯する距離	近い	近い / 中間 / 遠い	A	—	○
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) (218ページ) グレード/仕様別装備	作動 / 非作動 *1	ON	ON/OFF	A	—	○

設定変更 (カスタマイズ機能)

機能	内容		初期設定	変更内容	設定変更方法		
					①	②	③
車線逸脱警報システム (LDWS) (204ページ) グレード/仕様別装備	車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断する距離		標準	早い / 標準 / 遅い	A	—	○
	警報感度 (警報しやすさ)		標準	高い / 標準 / 低い	A	—	○
	警報チャイム音		ランブル	ランブル / ビープ	A	—	○
	車線逸脱警報の音量の変更	ビープ	小	大 / 小	A	—	○
		ランブル	小	大 / 小	A	—	○
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F) (236ページ) グレード/仕様別装備 スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) (245ページ) グレード/仕様別装備	作動 / 非作動 *1		ON	ON/ OFF	A	—	○
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) (245ページ) グレード/仕様別装備	作動 / 非作動 *1		ON	ON/ OFF	A	—	○
	衝突警報の作動距離		近い	近い / 遠い	A	—	○
	衝突警報音量		大	大 / 小 / OFF	A	—	○
電波式キーレスエントリーシステム (30ページ)	自動的に施錠される時間		30 秒	90 秒 / 60 秒 / 30 秒	A	—	○

機能	内容	初期設定	変更内容	設定変更方法		
				①	②	③
アドバンストキーレスエントリーシステム (27ページ)	自動的に施錠される時間	30 秒	90 秒 / 60 秒 / 30 秒	A	—	○
	オートロック機能の作動 / 非作動	OFF	ON/OFF	A	—	○
	施錠 / 解錠時のチャイム音量	中	大 / 中 / 小 / OFF	A	E	○
イルミネーテッドエントリーシステム (465ページ)	ドアを閉めてからルームランプが消灯するまでの時間	15 秒	60 秒 / 30 秒 / 15 秒 / 7.5 秒	A	—	○
	ドアが確実に閉まっていないとき、ルームランプが自動的に消灯するまでの時間	30 分	60 分 / 30 分 / 10 分	A	—	○
オートワイパー機能 (185ページ)	作動 / 非作動	ON	ON/OFF*3	A	—	○
オートライト機能 (174ページ)	ランプが点灯するタイミング	標準	早く / 少し早く / 標準 / 少し遅く / 遅く	A	—	○
アダプティブ·LED· ヘッドライト (ALH) (201ページ) グレード/仕様別装備	作動 / 非作動 *1	ON	ON/OFF	A	—	○
ランプ消し忘れ防止チャイム (176ページ)	警報チャイム音量	大	大 / 小 / OFF	A	—	○

設定変更 (カスタマイズ機能)

機能	内容	初期設定	変更内容	設定変更方法		
				①	②	③
カミングホームライト (178ページ)	ヘッドランプが消灯するまでの時間	30 秒	120 秒 / 90 秒 / 60 秒 / 30 秒 / OFF	A	—	○
リービングホームライト (178ページ)	作動 / 非作動	OFF	ON/OFF	A	—	○
方向指示器 (180ページ)	ブザー音量	大	大 / 小	A	—	○
スリーフラッシュターンシグナル (181ページ)	作動 / 非作動	ON	ON/OFF	A	—	○
リヤウインドーデフォッガー (189ページ)	作動時間	15 分	15 分 / 連続 *4	—	—	○
システム						
言語	センターディスプレイに表示される言語変更 *5	日本語	表示画面から言語を選択します	A	—	○

機能	内容	初期設定	変更内容	設定変更方法		
				①	②	③
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ（139ページ）						
表示	アクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示 / 非表示	ON	ON/OFF	B	—	○
	表示の高さ（上下位置）	0	初期設定から、上下13ステップ（計27ステップ）	B	—	○
	表示の明るさを調節する方法（自動 / 手動）	AUTO	AUTO/MANUAL	B	—	○
	明るさの調節で、自動調節を選択したときの、基準の明るさ	0	初期設定から、上下2ステップ（計5ステップ）	B	—	○
	明るさの調節で、手動調節を選択したときの、基準の明るさ	0	初期設定から、上下20ステップ（計41ステップ）	B	—	○
ナビゲーションガイダンス	表示する情報	レーン & ターンモード	レーン & ターンモード / OFF	B	—	○
燃費モニター（126ページ） グレード/仕様別装備						
エンディング	表示 / 非表示	OFF	ON/OFF	C	—	○
燃費リセット	燃費リセットとトリップメーター (TRIP A) のリセットの連動 / 非連動	OFF	ON/OFF	C	—	○

設定変更 (カスタマイズ機能)

機能	内容	初期設定	変更内容	設定変更方法		
				①	②	③
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) (142ページ)						
インテリジェント・ドライブ・マスター・ランプ	表示 / 非表示	ON	ON/OFF	D	—	○
エンディング	表示 / 非表示	OFF	ON/OFF	D	—	○

*1 特段の理由がない限り、初期設定での使用を推奨します。

*2 音量を変更できるのは、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 作動時の警報音のみです。リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) 作動時の警報音は音量を変更できません。

*3 オートワイパー機能を OFF に変更すると、ワイパーレバーのAUTO位置で間欠作動になります。

*4 リヤウインドーデフォッガーの作動時間を連続に変更しても、外気温の影響により 15 分で作動を停止する場合があります。

*5 センターディスプレイの言語表示のみ変更できます。

MEMO

A

AAS モード 161
ABS (アンチロックブレーキシステム) 191
AT 誤発進抑制制御 242
AT 誤発進抑制制御 [後退時] 251

D

DPF (ディーゼルパティキュレートフィルター) 275
DSC (ダイナミックスタビリティコントロール) 195

E

EDR
　イベントデータレコーダー 89

I

i-ACTIVSENSE 198
　AT 誤発進抑制制御 242
　AT 誤発進抑制制御 [後退時] ... 251
　アダプティブ ･LED･ ヘッドライト (ALH) 201
　車間認知支援システム (DRSS) 215
　車線逸脱警報システム (LDWS) 204
　スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) 245
　スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F) 236
　スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 254
　超音波センサー (リヤ) 268
　ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 218
　ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 210
　マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 224
　リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) 220
　レーザーセンサー (フロント) ... 261
　レーダーセンサー (フロント) ... 265
i-DM 142
i-ELOOP (アイイーループ) 123
i-stop (アイストップ) 113

S

SRS エアバッグシステム 77
　EDR 89
　エアバッグの種類 77
　エアバッグの注意点 79

T

TCS (トラクションコントロールシステム)..... 194

ア

アイドリングストップ..... 113
アクティブセーフティ技術..... 198
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ..... 139
　作動しないとき..... 569
アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH)..... 201
アルミホイール
　手入れ..... 511
アンチロックブレーキシステム (ABS)..... 191
アンテナ..... 309, 356

イ

イグニッション (エンジン)
　キー..... 19
イベントデータレコーダー
　EDR..... 89
イモビライザーシステム..... 75
イルミネーテッドエントリーシステム..... 465
インテリアライト (室内照明)..... 465
インテリジェント・ドライブ・マスター..... 142
インナーミラー
　ルームミラー..... 51

ウ

ウインカー (方向指示器)
　電球 (バルブ) 交換..... 497
　レバー..... 180
　W (ワット) 数..... 581
ウインドー
　曇ったとき (フルオートエアコン)..... 300
　曇ったとき (マニュアルエアコン)..... 298
　手入れ..... 511
　はさみ込み防止機構..... 70
　パワーウインドー..... 68
　リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ..... 189
ウォッシャー
　ウォッシャー液の補充..... 489
　ウォッシャースイッチ..... 184
　タンク容量..... 577
　冬にそなえて (濃度の調節)..... 517

エ

エアクリーナーエレメント
　交換時期..... 579
エアコン (空調)..... 292
　上手な使いかた..... 292
　吹き出し口 (空調)..... 294
　フルオートエアコン..... 298
　マニュアルエアコン..... 296
エアバッグシステム..... 77
　EDR..... 89
　エアバッグの種類..... 77
　エアバッグの注意点..... 79
エマージェンシーシグナルシステム (ESS)..... 193
エンジン
　かけかた..... 104
　キー..... 19
　きるとき..... 112
　始動しないとき..... 544
　スイッチ..... 102

エンジンオイル
交換時期、オイルグレード、交換量 571
点検 487
フィルター 574
冬にそなえて 517
エンジンフード (ボンネット)
開けかた 478
閉めかた 479
エンスト
故障したとき 524

オ

オーディオ
アンテナ 309
オーディオソースの使いかた 316
オーディオの操作方法 310
オーディオをご使用の前に 302
オートマチックトランスミッション 158
オートマチックトランスミッションフルード
推奨フルード、容量 575
オーバーヒートしたとき 545
お子さまの安全
お子さま専用シート選択の目安 62
お子さま専用シートについて 60
お子さま専用シートの種類 61
固定ロアアンカレッジ 65
チャイルドシートを固定するとき 65
チャイルドプルーフ 33
オドメーター
タコメーター装備車 132
タコメーター非装備車 133
オルタネーターベルト
点検基準値 578

カ

外気温表示 139
ガソリン (燃料)
使用燃料、容量 570
燃料補給口 71
カップホルダー 469
カミング・ホーム・ライト 178
ガラス
曇ったとき (フルオートエアコン) 300
曇ったとき (マニュアルエアコン) 298
手入れ 511
リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ 189

キ

ギア・シフト・インジケーター (GSI) 157
キー 19
キー車外持ち出し警報 564
キー車内閉じ込み警報 564
キーナンバープレート 19
キーの電池交換 506
作動しないとき 547
作動範囲 23, 25
ドアの施錠 / 解錠 27
リクエストスイッチ不作動警報 564
リヤゲート内キー閉じ込み警報 564
キー(アドバンストキーレス機能装備車)
ドアの施錠 / 解錠 27
キー (アドバンストキーレス機能非装備車)
ドアの施錠 / 解錠 30
緊急用具 525

ク

空気圧 (タイヤ) 584
空調 (エアコン) 292
　吹き出し口 (空調) 294
　フルオートエアコン 298
　マニュアルエアコン 296
曇り取り (デフォッガー)
スイッチ 189
クラクション (ホーン) 190
クラッチスタート 104
クラッチペダル
　点検基準値 578
クルーズコントロール 269
グローブボックス 471

ケ

警告灯 148
　4WD 警告灯 555
　ABS 警告灯 555
　i-ELOOP 警告灯 555
　i-stop 警告灯 118, 555
　KEY 警告灯 555, 560
　LED ヘッドランプ警告灯 555
　アダプティブ ·LED· ヘッドライト (ALH) 警告灯 555
　ウォッシャー液残量警告灯 560
　エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯 555
　エンジン警告灯 555
　オイル警告灯 553
　オートマチックトランスミッション警告灯 555
　高水温警告灯 553
　シートベルト警告灯 560
　車線逸脱警報システム (LDWS) 警告灯 555
　充電警告灯 553
　スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 警告灯 560
　スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 警告灯 560
　電動パワーステアリング警告灯 553
　燃料残量警告灯 560
　半ドア警告灯 560
　ブレーキ警告灯 553
　マスター警告灯 555
　マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告灯 555
警告灯 / 表示灯が点灯、点滅した 553

警報チャイム 564
AT 誤発進警報 564
i-stop 警告チャイム 120, 564
エアバッグ / プリテンショナー警告チャイム 564
キー車外持ち出し警報 564
キー車内閉じ込み警報 564
シートベルト着用忘れチャイム 564
車線逸脱警報 564
衝突警報 564
接近警報 564
電源オフ忘れ警報 564
電動パワーステアリング警告チャイム 564
電動ハンドルロック警告チャイム 564
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警報 564
ブレーキ警告チャイム 564
ランプ消し忘れ防止チャイム ... 564
リクエストスイッチ不作動警報 564
リバースポジションチャイム ... 564
リヤゲート内キー閉じ込み警報 564
化粧鏡
バニティミラー 465
けん引 548
減光解除機能 138
検知システム 199

コ

交換
タイヤの位置交換 (タイヤローテーション) 490
電球 (バルブ) 交換 497
電池交換 (キー) 506
ヒューズの交換 495
工具 526
後退灯 (バックランプ)
電球 (バルブ) 交換 497
W (ワット) 数 581
コンソールマルチトレイ 471

サ

サービスデータ
設定変更 (カスタマイズ機能) 585
サイドミラー
ドアミラー 49
サブトランクボックス 472
サンバイザー 465

シ

シート
正しい運転姿勢 39
フロントシート 40
ヘッドレスト 45
リヤシート 42
シートヒーター 41
シートベルト
ELR (緊急時固定) 機構 52
3 点式シートベルト 57
種類 52
高さ調節 59
正しい着用のしかた 53
着用忘れチャイム 57
手入れ 513
プリテンショナー機構 53
ロードリミッター機構 53

室内照明.....465
イルミネーテッドエントリーシステム.....465
ラゲッジルームランプ.....468
ルームランプ.....466
室内灯 (ルームランプ)
スイッチ.....466
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581
車間認知支援システム (DRSS).....215
車線逸脱警報システム (LDWS) 204
ジャッキ.....527
車幅灯 (スモールランプ)
スイッチ.....174
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581
収納.....470
グローブボックス.....471
コンソールマルチトレイ 471
サブトランクボックス.....472
リヤコートフック.....472

ス

スイッチ
DSC OFF スイッチ.....196
i-stop OFF スイッチ.....120
ウォッシャースイッチ.....184
クルーズコントロールスイッチ.....269
車線逸脱警報システム (LDWS) スイッチ.....207
ドライブセレクションスイッチ.....170
非常点滅灯スイッチ.....181
フロントフォグランプスイッチ.....182
ヘッドランプウォッシャースイッチ.....188
ヘッドランプスイッチ.....174
リヤフォグランプスイッチ.....183
ルームランプスイッチ.....466
ワイパースイッチ.....184
スタックしたとき.....523
ステアリング
ハンドル.....48
ロックされたとき.....102
ストップランプ (制動灯)
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581
スノータイヤ 518
スパークプラグ.....580
スピードメーター.....131
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) 245
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] (SCBS F).....236
スマート・ブレーキ・サポート (SBS).....254
スモールランプ (車幅灯)
スイッチ.....174
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581

スリーフラッシュターンシグナル...181

セ

制動灯 (ストップランプ)
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581
洗車.....509
前照灯 (ヘッドランプ)
スイッチ.....174
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581

タ

ターンシグナル (方向指示器)
電球 (バルブ) 交換.....497
レバー.....180
W (ワット) 数.....581
ダイナミックスタビリティコントロール (DSC).....195
タイヤ
空気圧.....584
サイズ.....583
チェーン.....518
点検.....484
パンク応急修理キット.....531
パンクしたとき.....531
冬にそなえて.....518
ローテーション (位置交換).....490
ダイレクトモード.....166
タコメーター.....131
脱輪などで動けなくなったとき.....524

チ

チェーン (タイヤチェーン).....518
チャイルドシート.....60
お子さま専用シート選択の目安...62
お子さま専用シートの種類.....61
固定ロアアンカレッジ.....65
チャイルドシートを固定するとき.....65
チャイルドプルーフ.....33
駐車支援システム.....276
パーキングセンサー.....277
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)
操作方法.....172
点検基準値.....578
超音波センサー (リヤ).....268
チルトステアリング.....48

テ

ディーゼル (燃料)
使用燃料、容量.....570
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF).....275
定期点検.....477
ディスプレイ
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....139
ディファレンシャルオイル
推奨オイル、容量.....575

手入れ
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 515
アルミホイール 511
インストルメントパネル上面 ... 515
外装 509
外装樹脂部品 512
ガラス 511
革張り部分 514
シートベルト 513
樹脂部品 515
洗車 509
内装 513
布張り部分 514
パネル 516
ビニール 514
フロントガラスの油膜をとるときは 511
ミラー 511
ワックスがけ 510
テールランプ (尾灯)
スイッチ 174
電球 (バルブ) 交換 497
W (ワット) 数 581
電球
電球 (バルブ) 交換 497
W (ワット) 数 581
点検整備について 476
電源ソケット 468
電源ポジション 102
電動格納ミラー
ドアミラー 49
電動ミラー
ドアミラー 49

ト

ドア 26
チャイルドプルーフ 33
ドアミラー 49
パワードアロック 31
リヤゲート 34
ドアミラー 49
角度調節 49
格納 49
曇り取り 190
盗難防止システム 75
トノカバー 38
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 218
ドライバ選択 147
ドライブセレクション 170
トラクションコントロールシステム (TCS) 194
トランスミッション
オートマチック 158
マニュアル 156
トリップコンピューター
タコメーター装備車 135
タコメーター非装備車 133
トリップメーター
タコメーター装備車 132
タコメーター非装備車 133

ナ

夏にそなえて 519
ナンバープレートランプ (番号灯)
スイッチ 174
電球 (バルブ) 交換 497
W (ワット) 数 581

ニ

荷室を作るとき 42
日常点検 478, 480

ネ

燃費モニター 126
燃料
　給油するとき 71
　使用燃料、容量 570
　燃料切れしたとき 544
燃料計 137

ハ

パーキングブレーキ
　操作方法 172
　点検基準値 578
ハイビーム（ヘッドランプ上向き）
　電球（バルブ）交換 497
　W（ワット）数 581
ハイマウントストップランプ
　W（ワット）数 581
ハザードランプ（非常点滅灯）
　スイッチ 181
　電球（バルブ）交換 497
　W（ワット）数 581
はさみ込み防止機構 70
発炎筒 525
バックミラー
　ルームミラー 51
発進補助装置 121
バッテリー
　あがったとき 540
　型式 580
　点検 489
　冬にそなえて 517
バニティミラー
　化粧鏡 465
パネルライトコントロール
スイッチ 138
バルブ（電球）
　電球（バルブ）交換 497
　W（ワット）数 581
パワーウインドー 68
パワードアロック 31
番号灯（ナンバープレートランプ）
　スイッチ 174
　電球（バルブ）交換 497
　W（ワット）数 581
ハンドル 48
　ロックされたとき 102

ヒ

非常点滅灯
　スイッチ 181
　電球（バルブ）交換 497
　W（ワット）数 581
尾灯（テールランプ）
　スイッチ 174
　電球（バルブ）交換 497
　W（ワット）数 581
ヒューズ
　エンジンルーム内ヒューズボックス 492
　ヒューズ点検、交換 491

表示灯 148
DSC OFF 表示灯 197
i-stop 表示灯 118
TCS/DSC 作動
表示灯 194, 196, 555
クルーズコントロール表示灯
(緑) 269
クルーズメイン表示灯 (橙) 269
車線逸脱警報システム (LDWS)
OFF 表示灯 208
スマート・シティ・ブレーキ・サ
ポート (SCBS) 表示灯 (赤) ... 240
スマート・ブレーキ・サポート
(SBS) OFF 表示灯 256
スマート・ブレーキ・サポート
(SBS) 表示灯 (赤) 256
低水温表示灯 (青) 154
ブラインド・スポット・モニタリ
ング (BSM) OFF 表示灯 555
マツダ・レーダー・クルーズ・
コントロール (MRCC) 表示灯
(緑) 228
レンチ表示灯 154
ヒルローンチアシスト
(坂道発進補助機能) 192

フ

ブースターケーブルのつなぎ方 541
フォグランプ
電球 (バルブ) 交換 497
フロント 182
リヤ 183
フォワードセンシングカメラ
(FSC) 257
吹き出し口 (空調) 294
フック
けん引 548
踏切内で動けなくなったとき 524
フューエルキャップ 74
フューエルリッド
燃料補給口 73
冬にそなえて 517
冬用タイヤ (スノータイヤ) 518
ブラインド・スポット・
モニタリング (BSM) 210
プリクラッシュセーフティ技術 199
ブレーキ液 (フルード)
交換時期、推奨液 576
ブレーキペダル
点検基準値 578
ブレーキランプ (制動灯)
電球 (バルブ) 交換 497
W (ワット) 数 581
フロントシート 40

ヘ

ヘッドランプウォッシャー 188
ヘッドランプ (前照灯)
スイッチ 174
電球 (バルブ) 交換 497
W (ワット) 数 581
ヘッドレスト 45

ホ

ホイール
サイズ 583
手入れ 511
方向指示器
電球 (バルブ) 交換 497
レバー 180
W (ワット) 数 581
ホーン 190
ボトルホルダー 470
ボンネット 478

マ

マツダコネクト.....334
Bluetooth® ハンズフリー.....440
Bluetooth® をご使用の前に.....427
アンテナ.....356
オーディオソースの使いかた...371
トラブルシューティング.....460
マツダコネクト 4 つの操作方法.....336
マツダコネクトでできること...334
マツダコネクトの設定.....366
マツダコネクトの操作方法.....357
マツダコネクトをご使用の前に.....338
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC).....224
マニュアルトランスミッション.....156
ギア・シフト・インジケーター (GSI).....157
マニュアルトランスミッションオイル
推奨オイル、容量.....575
マニュアルモード.....161

ミ

ミラー
手入れ.....511
ドアミラー.....49
バニティミラー.....465
ルームミラー.....51

メ

メーター.....130
メンテナンスモニター.....285

ヤ

ヨ

4WD.....173

ラ

ライセンスプレートランプ (番号灯)
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581
ラゲッジルームランプ.....468
ランプ
カミング・ホーム・ライト.....178
消し忘れ防止チャイム.....176, 564
スイッチ.....174
電球 (バルブ) 交換.....497
点灯しないとき.....495
リービング・ホーム・ライト...178
W (ワット) 数.....581

リ

リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA).....220
リービング・ホーム・ライト.....178
リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....189
リヤゲート
開けかた.....36
開けられなくなったとき.....567
閉めかた.....37
リヤコートフック.....472
リヤシート.....42

ル

ルームミラー.....51
ルームランプ.....466
スイッチ.....466
電球 (バルブ) 交換.....497
W (ワット) 数.....581

レ

冷却水
交換時期、推奨液、容量.....576
冬にそなえて (濃度の調節).....517
レーザーセンサー (フロント).....261
レーダーセンサー (フロント).....265
レーダーセンサー (リア).....263

ロ

路上で動けなくなったとき.....522

ワ

ワイパー
寒冷地用ワイパーブレード.....517
スイッチ.....184
ワックスがけ.....510

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ㈱コールセンター
全国共通フリーダイヤル
0120-386-919
受付時間
平日　　9:00～17:00
土・日・祝日　9:00～12:00 13:00～17:00
携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(http：//www.mazda.co.jp)

発行元 マツダ株式会社
〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地 3-1
発行　2016 年 10 月
印刷　2016 年 10 月
603 頁　初版